# 一里沢遺跡

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 16-

2017.3

厚真町教育委員会

## カラー図版1

1．一里沢遺跡（調査前）遠景　SW→

2．Ⅲ層検出　E→

## カラー図版2

1．Ⅲ層完掘状況　S→

2．Ⅴ層完掘状況　E→

# 序　文

厚真町は、胆振･日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成７年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈みゆく地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査された一里沢遺跡の調査報告書であります。本書は平成２６年度の発掘調査成果を記載するもので、約4,000年前の多数のシカの落とし穴などが見つかっています。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げる次第であります。

平成２９年３月

厚真町教育委員会
教育長　遠　藤　秀　明

# 例　言

1. 本書は、平成 26 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査された一里沢遺跡（登載番号：J-13-80）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

調査担当者：奈良智法・乾 哲也・宮塚義人（委託担当者）

調査補助員：松井 昭・服部一雄・山戸大知（平成 27 年 1 月～）

事務員：浅野愛子　脇田幹王　宮崎和幸

測量技能作業員：畑嶋朝江・渡辺博道・石山　容　整備技能作業員：佐伯憲吾・畑島雄樹・日野　修

写図工：海津孝之・禰木也寸志（平成 27 年 1 月～）

発掘作業員 34 名　　整理作業員 12 名

乾　：縄文土器復元・実測図作成・拓影図作成指導・渉外

宮塚：Ⅲ層・Ⅴ層図面作成指導・図版作成・編集

松井：剥片石器・礫石器遺物実測図指導・図版作成・編集

服部：調査遺構実測図作成指導、写真整理

山戸：礫石器実測

4. 本書の編集は乾、奈良の協力を得て宮塚が行い、各節の執筆は、文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。

・黒曜石原産地分析：株式会社　第四紀地質研究所　井上 巌

・出土木材の樹種同定：パレオ・ラボ　小林克也

・石器石材同定：アースサイエンス株式会社 加藤孝幸 米島真由子

6. 出土遺物の写真撮影：㈲写真事務所クリーク 佐藤雅彦に委託した。
7. 剥片石器・礫石器実測･写真、復元土器実測の一部を（株）シン技術コンサルに委託した。
8. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
9. 調査･報告にあたって下記の機関および個人より御指導・御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財･博物館課、北海道胆振総合振興局、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、東海大学人文学部、札幌学院大学人文学部、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、苫小牧駒澤大学、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、日高町教育委員会、伊達市噴火湾文化研究所、豊浦町教育委員会、寿都町教育委員会、厚真町幌内自治会、(有)講神組

赤石慎三、天方博章、阿部明義、臼杵 勲、右代啓視、大沼忠春、長田佳宏、小野哲也、川内谷 修、工藤研治、越田賢一郎、佐藤一夫、鈴木将太、鈴木琢也、田口 尚、田才雅彦、長沼 孝、長町章弘、西脇対名夫、福井淳一、藤原秀樹、三浦正人、蓑島栄紀、森岡健治、八重樫忠朗

# 凡　例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕　土坑：P　Ｔピット：TP　焼土：F

〔遺物〕　土器：P　擦文土器：SP　続縄文土器：ZP　縄文土器：JP　剥片石器：FT　礫石器：ST　礫：S
ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ（黒曜石･頁岩･メノウ製）：FC　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ（緑色泥岩･片岩）：SFC　石製品：SP
炭化種子：SD　鉄器：IP

〔遺物等集中〕　土器片集中：PB　礫集中：SB　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ集中：FCB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕樽前ａ砂質降下火山灰：Ta-a　駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2　樽前ｂ降下軽石：Ta-b
有珠ｂ降下火山灰：Us-b　白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm　樽前ｃ砂質降下軽石：Ta-c
樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1　樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2　恵庭岳ａ降下軽石：En-a
黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L　　撹乱：KR

〔色調〕　小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕　土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（　）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

Ａ ＋ Ｂ：ＡとＢが同量比混じる　　Ａ－Ｂ：Ａを主体にＢが多量に混じる

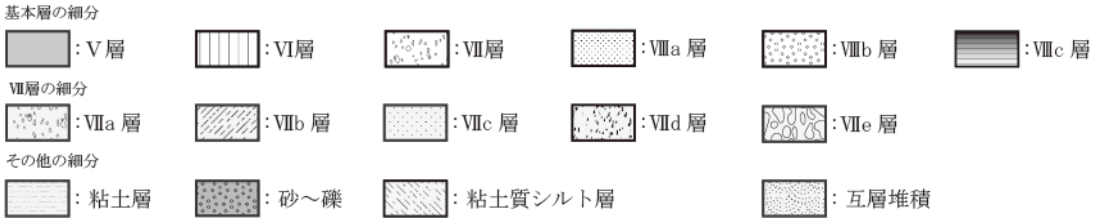
Ａ ＝ Ｂ：Ａを主体にＢが少量　　Ａ≡Ｂ：Ａを主体にＢが微量

φ：粒径（単位･mm）　　↓：以下　　（状態）：斑状に混じる・均一に混じる

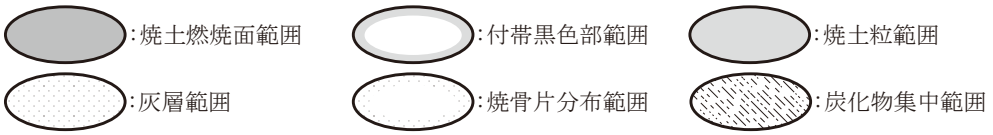
〔層位〕　標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木による撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。

Ｕ：上位　　Ｍ：中位　　Ｌ：下位

〔Ｔピット〕第Ⅱ章第２節のＴピット堆積図には以下のトーンを用いた。




〔焼土･獣骨集中〕　被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。



3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：１/40　遺構周辺図：1/100・1/40　土坑：1/40　Ｔピット：１/40　焼土･灰集中：1/20

集中遺物出土状態：1/10・1/20　土器実測図：１/3　土器拓影図：1/3

剥片石器・石製品実測図：1/2　礫石器実測図：1/3・1/4・1/5

4. 遺構実測図中に以下の線種を用いている。

〔線種〕－－－－－－－：オーバーハング　――――――：トレンチ(0.1mm)　――――――：撹乱（0.07ｍｍ）

━･━･━：撹乱･トレンチによる遺構推定

5. 土器･石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号・トーンを用いている。

〔断面〕　∨――――∨：たたき痕　｜――――――｜：剥片石器 微細剥離 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕　：滑沢面範囲　：被熱による赤色化/付着物範囲

7. 一覧表中の石材については、乾、松井が肉眼観察で分類した。下記の凡例は第Ⅲ章で報告された石材同定結果の凡例と過年度の報告石材を合わせたものである。

また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Aga.：メノウ　Aga-Sh.：メノウ質頁岩　Amp.：角閃岩　And.：安山岩　Bl-Sch.：青色片岩

Bs.：玄武岩　Cha.：チャート　Con.：礫岩　Dio.：閃緑岩　Gab.：斑れい岩　Gni.：片麻岩

Gr-Sch.：緑色片岩　Gra.：花崗岩　Gra-Dio.：花崗閃緑岩　Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩

Obs.：黒曜石　Qu.：石英　Qua.：珪岩　Sa.：砂岩　Sch.：片岩　Ser.：蛇紋岩　Sh.：頁岩

Si.：珪化岩　Tal.：滑石　Tu.：凝灰岩　Tu-Sa.：凝灰質砂岩　Sl.：粘板岩

Clay.：粘土　Irn.：鉄　Cu.：銅　Sn-Pb.：錫鉛合金　B.：獣骨　W.：木材

# 本 文 目 次

**カラー図版**

1-1　一里沢遺跡（調査前）遠景

1-2　Ⅲ層検出

2-1　Ⅲ層完掘状態

2-2　Ⅴ層完掘状態

序　文

例　言

凡　例

**第Ⅰ章　調査の概要**

第１節　調査要項と体制 …… 1

1. 調査要項 …… 1

2. 調査体制 …… 1

第２節　調査に至る経緯 …… 1

1. 厚幌ダム建設事業 …… 1

2. 発掘調査までの経緯 …… 2

第３節　調査の方法 …… 3

1. 発掘区の設定 …… 3

2. グリッド設定 …… 5

3. 包含層及び遺構調査の方法 …… 5

4. 整理作業 …… 7

第４節　遺物の分類 …… 8

1. 土器 …… 8

2. 剥片石器 …… 10

3. 礫石器 …… 11

第５節　調査結果の概要 …… 12

1. Ⅲ層の調査 …… 12

2. Ⅴ層の調査 …… 12

第６節　遺跡の位置 …… 13

1. 厚真町の概要 …… 13

2. 遺跡の位置と周辺の環境 …… 18

3. 調査区内の地形と地質 …… 19

**第Ⅱ章　Ⅲ層の調査**

第１節　焼土 …… 26

第２節　遺物集中 …… 29

１．土器集中 …… 29

２．礫集中 …… 31

３．杭穴 …… 33

第３節　Ⅲ層包含層出土遺物 …… 33

１．土器 …… 33

２．礫石器 …… 33

３．鉄製品 …… 33

４．石製品 …… 33

**第Ⅲ章　Ⅴ層の調査**

第１節　土坑 …… 39

第２節　焼土 …… 41

第３節　Ｔピット …… 43

第４節　遺物集中 …… 79

1.　土器集中 …… 79

2.　礫集中 …… 92

3.　剥片集中 …… 93

第５節　包含層出土遺物 …… 99

1. 土器 …… 99

2. 剥片石器 …… 103

3、礫石器 …… 104

**第Ⅳ章　自然科学分析**

第１節　一里沢遺跡出土黒曜石原産地分析 …… 117

第２節　出土木材の樹種同定 …… 125

第３節　石材同定 …… 129

引用･参考文献 …… 132

写真図版 …… 135

報告書抄録 …… 185

奥　付

# 挿 図 目 次

## Ⅰ章


図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図 ····· 4
図Ⅰ-2　グリッド設定網及び試掘坑・メインセクション位置図 ····· 6
図Ⅰ-3　グリッド区分図 ····· 7
図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図 ····· 14
図Ⅰ-5　周辺の遺跡と地形面区分 ····· 20
図Ⅰ-6　基本土層柱状図 ····· 22
図Ⅰ-7　20 ライン断面図(1) ····· 23
図Ⅰ-8　20 ライン断面図(2) ····· 24
図Ⅰ-9　AC ライン東西断面図 ····· 25


## Ⅱ章


図Ⅱ-1　一里沢遺跡Ⅲ層遺構配置図 ····· 27
図Ⅱ-2　ⅢF-01～07 平面及び断面図 ····· 28
図Ⅱ-3　ⅢPB-01・02・ⅢSB-01・ⅢKP-01 平面及び断面図 ····· 30
図Ⅱ-4　ⅢPB-01・02 出土土器 ····· 31
図Ⅱ-5　ⅢSB-01 出土礫 ····· 32
図Ⅱ-6　Ⅲ層包含層出土遺物 ····· 34


## Ⅲ章


図Ⅲ-1　一里沢遺跡Ⅴ層遺構配置図 ····· 37
図Ⅲ-2　VP-01・04・05 平面及び断面図 ····· 40
図Ⅲ-3　VF-01～03 平面及び断面図 ····· 42
図Ⅲ-4　TP-01・02 平面及び断面図 ····· 47
図Ⅲ-5　TP-03・05 平面及び断面図 ····· 48
図Ⅲ-6　TP-04・09 平面及び断面図 ····· 49
図Ⅲ-7　TP-06・12・16 平面及び断面図 ····· 50
図Ⅲ-8　TP-12・16 平面及び断面図 ····· 51
図Ⅲ-9　TP-07・14・22 平面及び断面図 ····· 52
図Ⅲ-10　TP-14・22 平面及び断面図 ····· 53
図Ⅲ-11　TP-08・10 平面及び断面図 ····· 54
図Ⅲ-12　TP-11・13 平面及び断面図 ····· 55
図Ⅲ-13　TP-15・19 平面及び断面図 ····· 56
図Ⅲ-14　TP-17・18 平面及び断面図 ····· 57
図Ⅲ-15　TP-20・21 平面及び断面図 ····· 58
図Ⅲ-16　TP-23～25 平面及び断面図 ····· 59
図Ⅲ-17　TP-26・28 平面及び断面図 ····· 60
図Ⅲ-18　TP-29・30 平面及び断面図 ····· 61
図Ⅲ-19　TP-31・33 平面及び断面図 ····· 62
図Ⅲ-20　TP-32・36 平面及び断面図 ····· 63
図Ⅲ-21　TP-34・35 平面及び断面図 ····· 64
図Ⅲ-22　TP-37・40・42・43 平面及び断面図 ····· 65
図Ⅲ-23　TP-42・43 平面及び断面図 ····· 66
図Ⅲ-24　TP-41・50 平面及び断面図 ····· 67
図Ⅲ-25　TP-44・46 平面及び断面図 ····· 68
図Ⅲ-26　TP-47・49 平面及び断面図 ····· 69
図Ⅲ-27　TP-51・52 平面及び断面図 ····· 70
図Ⅲ-28　TP-07・12・14 出土遺物 ····· 77
図Ⅲ-29　TP-18・37・47・VF-01 出土遺物 ····· 78
図Ⅲ-30　VPB-01・02 平面及び垂直分布図 ····· 81
図Ⅲ-31　VPB-03～07 平面及び垂直分布図 ····· 82
図Ⅲ-32　VPB-08～10 平面及び垂直分布図 ····· 83
図Ⅲ-33　VPB-11～17 平面図 ····· 84
図Ⅲ-34　VPB-01 出土遺物 ····· 85
図Ⅲ-35　VPB-02・03 出土遺物 ····· 86
図Ⅲ-36　VPB-04～10 出土遺物 ····· 87
図Ⅲ-37　VPB-12～16 出土遺物 ····· 88
図Ⅲ-38　VPB-17 出土遺物 ····· 89
図Ⅲ-39　VSB-01～04 平面及び垂直分布図 ····· 94
図Ⅲ-40　VSB-01・02・04 出土礫石器 ····· 95
図Ⅲ-41　VFCB-01 平面図・出土遺物 ····· 96
図Ⅲ-42　縄文時代包含層出土土器 ····· 100
図Ⅲ-43　縄文時代包含層出土石器(1) ····· 105
図Ⅲ-44　縄文時代包含層出土石器(2) ····· 106
図Ⅲ-45　縄文時代包含層出土石器(3) ····· 107
図Ⅲ-46　縄文時代包含層出土石器(4) ····· 108
図Ⅲ-47　縄文時代包含層出土石器(5) ····· 109
図Ⅲ-48　縄文時代包含層出土石器(6) ····· 110

図Ⅲ-49　縄文時代包含層出土石器(7) ····· 111
図Ⅲ-50　縄文時代包含層出土石器(8) ····· 112
図Ⅲ-51　縄文時代包含層出土石器(9) ····· 113
図Ⅲ-52　縄文時代包含層出土石器(10) ····· 114

# 挿 表 目 次

**Ⅰ章**

表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭座標一覧表····· 7
表Ⅰ-2　一里沢遺跡検出遺構一覧表····· 12
表Ⅰ-3　一里沢遺跡出土遺物一覧表····· 12
表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)·· 15
表Ⅰ-5　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)·· 16

**Ⅱ章**

表Ⅱ-1　Ⅲ層検出遺構群一覧表····· 26
表Ⅱ-2　ⅢF 属性表 ····· 29
表Ⅱ-3　ⅢPB 属性表 ····· 30
表Ⅱ-4　ⅢPB 出土土器属性表 ····· 31
表Ⅱ-5　ⅢSB 属性表 ····· 31
表Ⅱ-6　ⅢSB-01 出土礫属性表 ····· 32
表Ⅱ-7　杭穴属性表····· 33
表Ⅱ-8　Ⅲ層包含層出土土器属性表····· 35
表Ⅱ-9　Ⅲ層包含層出土石器・鉄製品他属性表·· 35

**Ⅲ章**

表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表 ····· 38
表Ⅲ-2　VP 属性表 ····· 41
表Ⅲ-3　VF 属性表 ····· 43
表Ⅲ-4　TP 属性表 ····· 71
表Ⅲ-5　TP 杭穴属性表 ····· 74
表Ⅲ-6　TP 出土土器属性表 ····· 79
表Ⅲ-7　VF・TP 出土遺物属性表 ····· 79
表Ⅲ-8　VPB・VSB・VFCB 属性表 ····· 90
表Ⅲ-9　VPB 出土土器属性表 ····· 97
表Ⅲ-10　VPB・VSB・VFCB 出土石器属性表 ····· 99
表Ⅲ-11　縄文時代包含層出土土器属性表····· 101
表Ⅲ-12　縄文時代包含層出土石器属性表····· 115

# 写 真 図 版 目 次

図版 1-1　Ⅲ層検出 ····· 135
図版 1-2　Ⅲ層完掘(南側)····· 135
図版 2-1　ⅢF-01 検出 ····· 136
図版 2-2　ⅢF-01 断面 ····· 136
図版 2-3　ⅢF-02 検出 ····· 136
図版 2-4　ⅢF-02 断面 ····· 136
図版 2-5　ⅢF-03 検出 ····· 136
図版 2-6　ⅢF-03 断面 ····· 136
図版 2-7　ⅢF-04 検出 ····· 136
図版 2-8　ⅢF-04 断面 ····· 136
図版 3-1　ⅢF-05 検出 ····· 137
図版 3-2　ⅢF-05 断面 ····· 137
図版 3-3　ⅢF-06 検出 ····· 137
図版 3-4　ⅢF-06 断面 ····· 137
図版 3-5　ⅢF-07 検出 ····· 137
図版 3-6　ⅢF-07 断面 ····· 137
図版 3-7　ⅢPB-01 検出 ····· 137
図版 3-8　ⅢPB-01 遺物出土状態 ····· 137
図版 4-1　ⅢPB-01 断面 ····· 138
図版 4-2　ⅢPB-02 検出 ····· 138

図版 4-3　ⅢPB-02 遺物出土状態 ‥‥ 138
図版 4-4　ⅢPB-02 断面 ‥‥‥‥‥‥ 138
図版 4-5　ⅢKP-01 断面 ‥‥‥‥‥‥ 138
図版 4-6　ⅢKP-01 完掘 ‥‥‥‥‥‥ 138
図版 4-7　ⅢSB-01 検出 ‥‥‥‥‥‥ 138
図版 4-8　ⅢSB-01 検出 ‥‥‥‥‥‥ 138
図版 5-1　Ⅴ層検出 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 139
図版 5-2　Ⅴ層完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 139
図版 6-1　TP-01 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-2　TP-01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-3　KP01 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-4　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-5　KP04 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-6　KP04 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-7　TP-02 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-8　TP-02 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-9　KP01 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-10　KP01 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-11　KP02 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 6-12　KP02 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 140
図版 7-1　TP-03 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-2　TP-03 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-3　KP03 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-4　KP03 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-5　TP-04 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-6　TP-04 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-7　TP-04 杭跡断面 ‥‥‥‥‥ 141
図版 7-8　KP01･02 断面 ‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-9　KP01･02 完掘 ‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-10　KP03･04 断面 ‥‥‥‥‥‥ 141
図版 7-11　KP03･04 完掘 ‥‥‥‥‥‥ 141
図版 8-1　TP-05 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-2　TP-05 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-3　TP-06 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-4　TP-06･12･16 完掘 ‥‥‥‥ 142
図版 8-5　TP-07 断面‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-6　TP-07 完掘‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-7　KP03 断面‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-8　KP03 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-9　KP09･10 断面 ‥‥‥‥‥‥ 142
図版 8-10　KP04･09･10 完掘 ‥‥‥‥‥ 142
図版 9-1　TP-08 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-2　TP-08 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-3　KP02 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-4　KP02 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-5　KP04 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-6　KP04 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-7　TP-09 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-8　TP-09 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-9　KP01 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-10　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-11　KP06 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 9-12　KP06 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 143
図版 10-1　TP-10 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-2　TP-10 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-3　KP01 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-4　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-5　KP02 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-6　KP02 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-7　TP-11 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-8　TP-11 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-9　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-10　KP02 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 10-11　KP02 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 144
図版 11-1　TP-12 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-2　TP-12 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-3　KP01 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-4　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-5　KP02 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-6　KP02 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-7　TP-13 断面 ‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-8　TP-13 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-9　KP01 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-10　KP01 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-11　KP02 断面 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145
図版 11-12　KP02 完掘 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 145

図版 12-1　TP-14 断面 …… 146
図版 12-2　TP-14 完掘 …… 146
図版 12-3　TP-14 遺物出土状態 …… 146
図版 12-4　KP09・10 断面 …… 146
図版 12-5　KP09・10 完掘・ …… 146
図版 12-6　KP06 断面 …… 146
図版 12-7　KP07 断面 …… 146
図版 12-8　KP06・07 完掘 …… 146
図版 12-9　KP14 断面 …… 146
図版 12-10 KP14 完掘 …… 146
図版 12-11 KP16・17 断面 …… 146
図版 12-12 KP16・17 完掘 …… 146
図版 13-1　TP-15 掘り上げ土断面 …… 147
図版 13-2　TP-15 完掘 …… 147
図版 13-3　TP-15・ＶF-01 遺物出土状態 147
図版 13-4　KP03 断面 …… 147
図版 13-5　KP03 完掘 …… 147
図版 13-6　TP-16・06 掘り上げ土断面 ・147
図版 13-7　TP-16 断面 …… 147
図版 13-8　TP-16 完掘 …… 147
図版 13-9　KP03・08 断面 …… 147
図版 13-10 KP03・08 完掘 …… 147
図版 14-1　KP01 断面 …… 148
図版 14-2　KP01 完掘 …… 148
図版 14-3　KP02 断面 …… 148
図版 14-4　KP02 完掘 …… 148
図版 14-5　KP04 断面 …… 148
図版 14-6　KP04 完掘 …… 148
図版 14-7　KP05 断面 …… 148
図版 14-8　KP05 完掘 …… 148
図版 14-9　KP06・09 断面 …… 148
図版 14-10 KP07 断面 …… 148
図版 14-11 KP06・09・07 完掘 …… 148
図版 14-12 TP-17 断面 …… 148
図版 14-13 TP-17 完掘 …… 148
図版 15-1　TP-18 断面 …… 149
図版 15-2　TP-18 完掘 …… 149
図版 15-3　KP01 断面 …… 149
図版 15-4　KP01 完掘 …… 149
図版 15-5　KP04 断面 …… 149
図版 15-6　KP04 完掘 …… 149
図版 15-7　TP-19 断面 …… 149
図版 15-8　TP-19 完掘 …… 149
図版 15-9　KP01 断面 …… 149
図版 15-10 KP01 完掘 …… 149
図版 15-11 KP02 断面 …… 149
図版 15-12 KP02 完掘 …… 149
図版 16-1　TP-20・21 完掘 …… 150
図版 16-2　TP-20 掘り上げ土断面 …… 150
図面 16-3　TP-20 断面 …… 150
図面 16-4　TP-20 完掘 …… 150
図面 16-5　KP03・04 断面 …… 150
図面 16-6　KP03・04 完掘 …… 150
図面 16-7　KP05・06 断面 …… 150
図面 16-8　KP05・06 完掘 …… 150
図面 16-9　TP-21 断面 …… 150
図面 16-10 TP-21 完掘 …… 150
図面 17-1　TP-22 断面 …… 151
図版 17-2　TP-22 完掘 …… 151
図版 17-3　TP-23 断面 …… 151
図版 17-4　TP-23 完掘 …… 151
図版 17-5　TP-24 断面 …… 151
図版 17-6　TP-24 完掘 …… 151
図版 17-7　KP01・02 完掘 …… 151
図版 17-8　Ｔピット調査状況 …… 151
図版 18-1　TP-25 断面 …… 152
図版 18-2　TP-25 完掘 …… 152
図版 18-3　KP04 断面 …… 152
図版 18-4　KP04 完掘 …… 152
図版 18-5　KP05・06 断面 …… 152
図版 18-6　KP05・06 完掘 …… 152
図版 18-7　TP-26 検出 …… 152
図版 18-8　TP-26 断面 …… 152
図版 18-9　TP-26 完掘 …… 152
図版 18-10 KP03・04 断面 …… 152

図版 18-11 KP03・04 完掘 …… 152
図版 19-1 TP-28 掘り上げ土断面 … 153
図版 19-2 TP-28 完掘 …… 153
図版 19-3 KP02・03 断面 …… 153
図版 19-4 KP02・03 完掘 …… 153
図版 19-5 KP04・05 断面 …… 153
図版 19-6 KP04・05 完掘 …… 153
図版 19-7 TP-29 断面 …… 153
図版 19-8 TP-29 完掘 …… 153
図版 19-9 KP02 断面 …… 153
図版 19-10 KP02 完掘 …… 153
図版 19-11 Ｔピット調査状況 …… 153
図版 20-1 TP-30 掘り上げ土断面 … 154
図版 20-2 TP-30 断面 …… 154
図版 20-3 TP-30 完掘 …… 154
図版 20-4 KP02 断面 …… 154
図版 20-5 KP02 完掘 …… 154
図版 20-6 TP-31 断面 …… 154
図版 20-7 TP-31 完掘 …… 154
図版 20-8 KP02 断面 …… 154
図版 20-9 KP02 完掘 …… 154
図版 20-10 KP03 断面 …… 154
図版 20-11 KP03 完掘 …… 154
図版 21-1 TP-32 断面 …… 155
図版 21-2 TP-32 完掘 …… 155
図版 21-3 KP01・02 断面 …… 155
図版 21-4 KP01・02 完掘 …… 155
図版 21-5 KP05・06 断面 …… 155
図版 21-6 KP05・06 完掘 …… 155
図版 21-7 TP-33 掘り上げ土断面 … 155
図版 21-8 TP-33 断面 …… 155
図版 21-9 TP-33 完掘 …… 155
図版 21-10 KP04 断面 …… 155
図版 21-11 KP04 完掘 …… 155
図版 22-1 TP-34 断面 …… 156
図版 22-2 TP-34・35(奥)完掘 …… 156
図版 22-3 KP06 断面 …… 156
図版 22-4 KP06 完掘 …… 156
図版 22-5 KP07・08・09・10 断面 …… 156
図版 22-6 KP07・08・09・10 完掘 …… 156
図版 22-7 TP-35 断面 …… 156
図版 22-8 TP-35 完掘 …… 156
図版 22-9 KP02・04 断面 …… 156
図版 22-10 KP02・04 完掘 …… 156
図版 22-11 KP03 断面 …… 156
図版 22-12 KP03 完掘 …… 156
図版 23-1 TP-36 断面 …… 157
図版 23-2 TP-36 完掘 …… 157
図版 23-3 KP01 断面 …… 157
図版 23-4 KP01 完掘 …… 157
図版 23-5 KP02 断面 …… 157
図版 23-6 KP02 完掘 …… 157
図版 23-7 KP03 断面 …… 157
図版 23-8 KP03 完掘 …… 157
図版 23-9 KP06 断面 …… 157
図版 23-10 KP06 完掘 …… 157
図版 24-1 TP-37 断面 …… 158
図版 24-2 TP-37 完掘 …… 158
図版 24-3 KP01・02 断面 …… 158
図版 24-4 KP01・02 完掘 …… 158
図版 24-5 KP05・06 断面 …… 158
図版 24-6 KP05・06 完掘 …… 158
図版 24-7 TP-40・41 掘り上げ土断面 · 158
図版 24-8 TP-40 断面 …… 158
図版 24-9 TP-40 完掘 …… 158
図版 24-10 KP04 断面 …… 158
図版 24-11 KP04 完掘 …… 158
図版 25-1 TP-41 断面 …… 159
図版 25-2 TP-41 完掘 …… 159
図版 25-3 KP02 断面 …… 159
図版 25-4 KP02 完掘 …… 159
図版 25-5 KP03 断面 …… 159
図版 25-6 KP03 完掘 …… 159
図版 25-7 TP-42 掘り上げ土断面 …… 159
図版 25-8 TP-42 断面 …… 159
図版 25-9 TP-42・43(奥)完掘 …… 159

図版 25-10 KP01 断面 159
図版 25-11 KP01 完掘 159
図版 26-1 TP-44 断面 160
図版 26-2 TP-44 完掘 160
図版 26-3 KP01 断面 160
図版 26-4 KP01 完掘 160
図版 26-5 KP02 断面 160
図版 26-6 KP02 完掘 160
図版 26-7 TP-46 断面 160
図版 26-8 TP-46 完掘 160
図版 26-9 KP02・03 断面 160
図版 26-10 KP02・03 完掘 160
図版 26-11 KP05 断面 160
図版 26-12 KP05 完掘 160
図版 27-1 TP-47 断面 161
図版 27-2 TP-47 完掘 161
図版 27-3 KP03 断面 161
図版 27-4 KP03 完掘 161
図版 27-5 KP04 断面 161
図版 27-6 KP04 完掘 161
図版 27-7 TP-49 掘り上げ土断面 161
図版 27-8 TP-49 断面 161
図版 27-9 TP-49 完掘 161
図版 28-1 TP-50 掘り上げ土断面 162
図版 28-2 TP-50 断面 162
図版 28-3 TP-50 完掘 162
図版 28-4 KP01 断面 162
図版 28-5 KP01 完掘 162
図版 28-6 KP02・03 断面 162
図版 28-7 KP02・03 完掘 162
図版 28-8 KP05 断面 162
図版 28-9 KP05 完掘 162
図版 28-10 TP-51 断面 162
図版 28-11 TP-51 完掘 162
図版 29-1 KP02 断面 163
図版 29-2 KP02 完掘 163
図版 29-3 KP03 断面 163
図版 29-4 KP03 完掘 163
図版 29-5 TP-52 検出 163
図版 29-6 TP-52 断面 163
図版 29-7 TP-52 完掘 163
図版 29-8 KP05・06 断面 163
図版 29-9 KP05・06 完掘 163
図版 30-1 ＶP-01 断面 164
図版 30-2 ＶP-01 完掘 164
図版 30-3 ＶP-01 杭跡断面 164
図版 30-4 ＶP-04 断面 164
図版 30-5 ＶP-04 完掘 164
図版 30-6 ＶP-05 断面 164
図版 30-7 ＶP-05 完掘 164
図版 30-8 ＶF-01 検出 164
図版 31-1 ＶF-02 検出 165
図版 31-2 ＶF-02 断面 165
図版 31-3 ＶF-03 検出 165
図版 31-4 ＶF-03 断面 165
図版 31-5 ＶPB-01・02 検出 165
図版 31-6 ＶPB-01 遺物出土状態(1) 165
図版 31-7 ＶPB-01 遺物出土状態(2) 165
図版 31-8 ＶPB-02 遺物出土状態 165
図版 32-1 ＶPB-03・04 検出 166
図版 32-2 ＶPB-03 遺物出土状態 166
図版 32-3 ＶPB-04 遺物出土状態 166
図版 32-4 ＶPB-05 検出 166
図版 32-5 ＶPB-05 遺物出土状態 166
図版 32-6 ＶPB-06・07 検出 166
図版 32-7 ＶPB-06 遺物出土状態 166
図版 32-8 ＶPB-07 遺物出土状態 166
図版 33-1 ＶPB-08 検出 167
図版 33-2 ＶPB-08 遺物出土状態(1) 167
図版 33-3 ＶPB-08 遺物出土状態(2) 167
図版 33-4 ＶPB-09 検出 167
図版 33-5 ＶPB-09 遺物出土状態(1) 167
図版 33-6 ＶPB-09 遺物出土状態(2) 167
図版 33-7 ＶPB-10 検出 167
図版 33-8 ＶPB-10 遺物出土状態 167
図版 34-1 ＶPB-11 検出 168

図版 34-2　ⅤPB-11 遺物出土状態 ‥‥ 168
図版 34-3　ⅤPB-12･13 検出(1) ‥‥‥ 168
図版 34-4　ⅤPB-12･13 検出(2) ‥‥‥ 168
図版 34-5　ⅤPB-12 遺物出土状態 ‥‥ 168
図版 34-6　ⅤPB-13 遺物出土状態(1) ･ 168
図版 34-7　ⅤPB-13 遺物出土状態(2) ･ 168
図版 34-8　ⅤPB-13 遺物出土状態(3) ･ 168
図版 35-1　ⅤPB-14 検出 ‥‥‥‥‥‥ 169
図版 35-2　ⅤPB-14 遺物出土状態(1) ･ 169
図版 35-3　ⅤPB-14 遺物出土状態(2) ･ 169
図版 35-4　ⅤPB-14 遺物出土状態(3) ･ 169
図版 35-5　ⅤPB-15 検出 ‥‥‥‥‥‥ 169
図版 35-6　ⅤPB-15 遺物出土状態 ‥‥ 169
図版 35-7　ⅤPB-16 検出 ‥‥‥‥‥‥ 169
図版 35-8　ⅤPB-16 遺物出土状態 ‥‥ 169
図版 36-1　ⅤPB-17 検出 ‥‥‥‥‥‥ 170
図版 36-2　ⅤPB-17 遺物出土状態 ‥‥ 170
図版 36-3　ⅤSB-01･04 検出 ‥‥‥‥ 170
図版 36-4　ⅤSB-01 遺物出土状態 ‥‥ 170
図版 36-5　ⅤSB-02 検出 ‥‥‥‥‥‥ 170
図版 36-6　ⅤSB-02 遺物出土状態 ‥‥ 170
図版 36-7　ⅤSB-03 検出 ‥‥‥‥‥‥ 170
図版 36-8　ⅤSB-03 遺物出土状態 ‥‥ 170
図版 37-1　ⅤSB-04 検出 ‥‥‥‥‥‥ 171
図版 37-2　ⅤSB-04 遺物出土状態 ‥‥‥ 171
図版 37-3　ⅤFCB-01 検出 ‥‥‥‥‥‥ 171
図版 37-4　ⅤFCB-01 遺物出土状態 ‥‥‥ 171
図版 37-5　旧石器調査トレンチ断面‥‥ 171
図版 37-6　旧石器調査状況(1)‥‥‥‥‥ 171
図版 37-7　旧石器調査状況(2)‥‥‥‥‥ 171
図版 38-1　ⅢPB-01･02 出土土器 ‥‥‥ 172
図版 38-2　Ⅲ層包含層出土遺物‥‥‥‥ 172
図版 39-1　ⅢSB-01 出土礫 ‥‥‥‥‥‥ 173
図版 39-2　TP 出土遺物(1) ‥‥‥‥‥‥ 173
図版 40-1　TP 出土遺物(2)･
　　ⅤF 出土遺物 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 174
図版 40-2　ⅤPB 出土遺物(1) ‥‥‥‥‥ 174
図版 41　ⅤPB 出土遺物(2) ‥‥‥‥‥ 175
図版 42　ⅤPB 出土遺物(3) ‥‥‥‥‥ 176
図版 43　ⅤPB 出土遺物(4) ‥‥‥‥‥ 177
図版 44　ⅤSB･ⅤFCB 出土遺物 ‥‥‥ 178
図版 45　縄文時代包含層出土土器 ‥‥ 179
図版 46　縄文時代包含層出土石器(1)‥180
図版 47　縄文時代包含層出土石器(2)‥181
図版 48　縄文時代包含層出土石器(3)‥182
図版 49　縄文時代包含層出土石器(4)‥183
図版 50　縄文時代包含層出土石器(5)‥184

# 第Ⅰ章　調査の概要

## 第１節　調査要項と体制

### １．調査要項

事 業 名：厚幌ダム建設事業　埋蔵文化財発掘調査　その２
委 託 者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部
受 託 者：厚真町教育委員会
遺 跡 名：一里沢遺跡（Ｊ－13－80）
調査面積：1,412 ㎡（内：遺構確認調査面積 85 ㎡）
所 在 地：北海道勇払郡厚真町字幌内 388-4 番地
受託期間：平成 26 年 4 月 10 日～平成 27 年 3 月 25 日
発掘期間：平成 26 年 5 月 13 日～平成 26 年 10 月 31 日
整理期間：平成 26 年 11 月 1 日～平成 29 年 3 月 24 日

### ２．調査体制

厚真町教育委員会　教育長　兵頭利彦（～平成 28 年 12 月）、遠藤秀明（平成 28 年 12 月～）
生涯学習課社会教育グループ
　参事　橋本欣也　主幹　斉藤雪美（平成 26 年度）、宮下　桂（平成 27 年度～）
　主査　乾 哲也（学芸員）　主査　奈良智法（学芸員）
　委託担当者　宮塚義人（宮塚文化財研究所）
　嘱託職員　調査補助員　服部一雄（～平成 26 年度）　松井 昭（～平成 27 年度）
　　山戸大知（平成 27 年 1 月～）
　　事務員　浅野愛子　脇田幹王　宮崎和幸（～平成 27 年度）
　臨時職員　測量技能作業員　畑嶋朝江　渡辺博道　石山　容
　　整備技能作業員　日野　修　佐伯憲吾　畑島雄樹
　　発掘作業員　34 名　　整理作業員 12 名　　（宮塚）

## 第２節　調査に至る経緯

### １．厚幌ダム建設事業（図Ⅰ-1）

町内を縦貫する厚真川中･下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 46（1971）年には、現河口より上流 38km 地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 45 年には洪水と渇水、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生した。近年においては平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成 18・21・23 年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成 26 年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業であ

る農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の切望として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和 52 年に北海道室蘭土木現業所（現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、以下、室建管）により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和 61 年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成 7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの着工として、平成 14 年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画で、平成 24 年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。

厚幌ダム本体は現河口より 31.4㎞の地点に堤体を建設する計画で、規模は堤体長 516m、高さ 47.2mのダムである。貯水は常時湛水面標高 85.4m、洪水時湛水面標高 88.1mであり、総貯水量は 47,400 千㎥、現在の厚真ダムのおおよそ 4.7 倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な波及効果がある。平成 22 年のダム事業検証作業を経て、平成 26 年 10 月にダム堤体敷きの掘削が始まり本体着工に至った。工事は急ピッチに進み、平成 29 年 1 月にはほぼ完成し、10 月から試験湛水、平成 30 年 4 月から共用開始となっている。

**２．発掘調査までの経緯**

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて平成 12 年 7 月 6 日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第 158 号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。事前協議区域は常時湛水面標高 85.4m 以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約 315,700 ㎡に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所（現室蘭建設管理部）で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。調査は平成 14 年度の厚幌 1 遺跡から始まり、平成 28 年 10 月をもって湛水区域内全ての埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を終え、整理業務も含めた事業完了は平成 29 年度となっている。

湛水地域内の埋蔵文化財包蔵地の記録保存については、道教委によって平成 13 年 10 月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡（オニキシベ 1 遺跡、上幌内 1 遺跡）を含め 16 ヵ所、面積 235,500 ㎡の要試掘調査の回答がなされた（平成 13 年 11 月 16 日付け教文第 4532 号）。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成 19 年度までに 8 回、18 地点の試掘調査が実施され、14 遺跡、約 143,000 ㎡の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。しかし、それまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、この地区における遺跡の立

地パターンが判明し、建設工事中の不時発見を避けるため、新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成 21 年 5 月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点 10 ヵ所を回答した（平成 21 年 6 月 11 日付け教文ス第 928 号）。

湛水地域内において 7・8 月に試掘踏査を実施し 6 ヵ所の包蔵地が発見された（平成 21 年 9 月 10 日付け教文ス第 1940 号）。更に平成 21 年 12 月にも試掘調査が実施され新たに 1 ヵ所が追加された（平成 22 年 1 月 5 日付け教文ス第 3145 号）。これらの結果、平成 26 年 1 月現在で要発掘調査地点は 21 ヵ所に及び要発掘面積 164,650 ㎡、要遺構確認調査 39,720 ㎡で合計 204,370 ㎡となった。その後、平成 24 年度からは公益財団法人北海道埋蔵文化財センター（以下、道埋文）も発掘調査に加わり、平成 29 年 1 月現在で発掘調査終了面積が 207,267 ㎡となり、厚幌ダム湛水区域内での発掘調査を完了した（図Ⅰ-1）。

一里沢遺跡は、平成 13 年 10 月に道教委によるＡ調査で協議地№3 として 3,300 ㎡の「要試掘調査」と回答された(平成 13 年 11 月 16 日付 教文第 4532 号)。試掘調査は平成 14 年 6 月に実施され、12 ヵ所のトレンチを人力掘開した。この結果、5 ヵ所のトレンチからたたき石などの礫石器 2 点、黒曜石やメノウのフレイク・チップ 2 点、メノウの石核 1 点など計 14 点の遺物と未被熱の獣骨 13 点が出土した。出土層位は全て樽前ｃ火山灰よりも上層のⅢ層黒色腐植土層であった。これにより厚真川と支流一里沢の合流点に面した河岸段丘面先端部側の範囲において、要発掘調査 1,400 ㎡と南側に隣接する 690 ㎡の範囲を要遺構確認調査範囲として回答された（平成 14 年 7 月 18 日付 教文第 4232 号）。合わせて一里沢遺跡（J-13-80）として新規登載され、時期は縄文時代晩期から続縄文文化期、中近世アイヌ文化期とされた。

登載されて間もなくの平成 14 年 11 月に急遽、切替道路の橋梁橋脚部分の施工工事計画があがり、道教委へ協議した結果、町教委が橋脚施工部分 204 ㎡の遺構確認調査を行った。調査対象のⅢ層黒色土からの出土遺物は無かったが、樽前ｃ火山灰より下層の黒色土層（Ⅴ層）に対しテストピット 2 ヵ所を掘開し、北海道式石冠 1 点と礫 3 点が出土した。これにより縄文時代の遺物包含層が存在することが判明した。

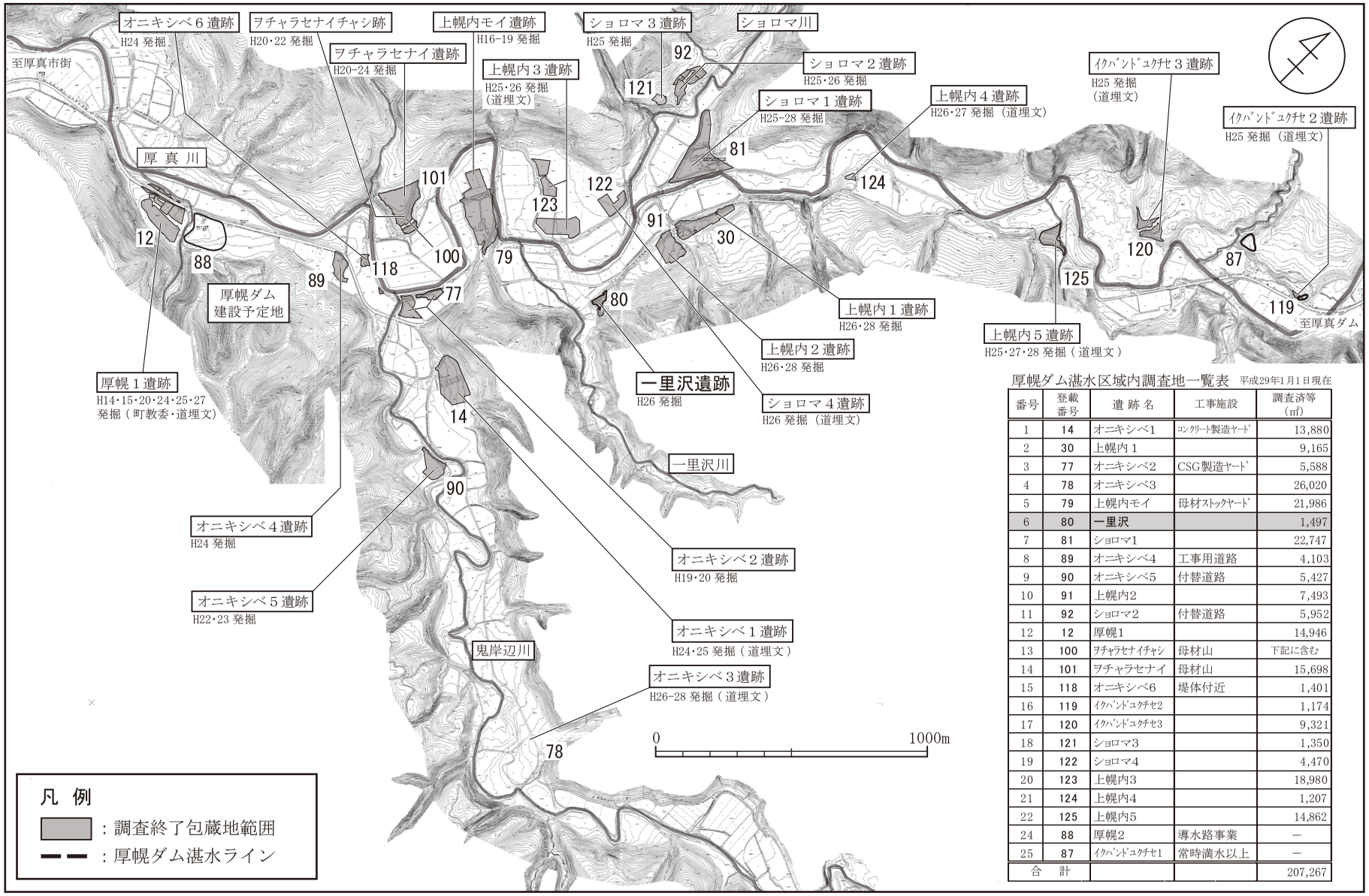
本調査は、北海道胆振総合振興局からの依頼により、ダム本体の本格着工直前の平成 26 年度に実施することとなった。（乾）

## 第3節　調査の方法

### １．発掘区の設定

一里沢遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの、平成 14 年 11 月の道教委の試掘調査回答の「要発掘調査範囲」の 2,090 ㎡に基づいている。現地での発掘調査は 5 月～10 月までの 6 ヶ月間であるが、同年度に実施した上幌内 1・２遺跡の発掘との兼ね合いから、8 月中旬から現地調査に入り 10 月末に現地調査を終了した。

一里沢遺跡は平成 14 年度の道道切替の橋梁工事の際の作業道建設のため、西側の平坦面の一部を掘削されており急峻な崖となっている。また、東側は橋脚部分の擁壁に覆われている。さらに擁壁の下は擁壁工事によって撹乱されており、擁壁保護、安全性の理由で、擁壁から 5m 離れた地点から発掘調査区とした。北側は、試掘調査の結果から、発掘調査範囲外であったが、




厚幌ダム湛水区域内調査地一覧表　平成29年1月1日現在

| 番号 | 登載番号 | 遺 跡 名 | 工事施設 | 調査済等（㎡） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 14 | オニキシベ1 | ｺﾝｸﾘｰﾄ製造ﾔｰﾄﾞ | 13,880 |
| 2 | 30 | 上幌内１ | | 9,165 |
| 3 | 77 | オニキシベ2 | CSG製造ﾔｰﾄﾞ | 5,588 |
| 4 | 78 | オニキシベ3 | | 26,020 |
| 5 | 79 | 上幌内モイ | 母材ｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞ | 21,986 |
| 6 | 80 | 一里沢 | | 1,497 |
| 7 | 81 | ｼｮﾛﾏ1 | | 22,747 |
| 8 | 89 | オニキシベ4 | 工事用道路 | 4,103 |
| 9 | 90 | オニキシベ5 | 付替道路 | 5,427 |
| 10 | 91 | 上幌内2 | | 7,493 |
| 11 | 92 | ｼｮﾛﾏ2 | 付替道路 | 5,952 |
| 12 | 12 | 厚幌1 | | 14,946 |
| 13 | 100 | ﾖﾁｬﾗｾﾅｲﾁｬｼ | 母材山 | 下記に含む |
| 14 | 101 | ﾖﾁｬﾗｾﾅｲ | 母材山 | 15,698 |
| 15 | 118 | オニキシベ6 | 堤体付近 | 1,401 |
| 16 | 119 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ2 | | 1,174 |
| 17 | 120 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ3 | | 9,321 |
| 18 | 121 | ｼｮﾛﾏ3 | | 1,350 |
| 19 | 122 | ｼｮﾛﾏ4 | | 4,470 |
| 20 | 123 | 上幌内3 | | 18,980 |
| 21 | 124 | 上幌内4 | | 1,207 |
| 22 | 125 | 上幌内5 | | 14,862 |
| 24 | 88 | 厚幌2 | 導水路事業 | － |
| 25 | 87 | ｲｸﾊﾞﾝﾄﾞｭｸﾁｾ1 | 常時満水以上 | － |
| 合　計 | | | | 207,267 |

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

境界にかかったＴピットについては全容を明らかにした（図Ⅰ－２）。

**２．グリッド設定**（図Ⅰ-3）

平成 26 年度の発掘調査計画は、本遺跡のほか上幌内１・２遺跡の予定があったため、当初のグリッド設定はこれら３遺跡全てを網羅する予定であった。しかし、本遺跡と最も近い上幌内２遺跡との距離が遺跡の中心点間で約 300m離れていることとから、本遺跡のみでのグリッド網を設定した。但し、いずれのグリッド網も公共座標を基準に設定した。

グリッド網は道教委回答の発掘調査区全域を網羅できる北東側に A-1 杭（日本平面直角座標系第ⅩⅡ系 X=－136,300.0　Y=－19,040.0）を設定し、南北 110m×東西 70mの範囲を 5m方眼で区分した。グリッド名称は北東角点を基準とし、南北のＸ軸を（北から）A・B…Y・Z・AA・AB…のアルファベット列で、東西のＹ軸ラインを（東から）1･2･3…のアラビア数字列とした。

なお、5m四方のグリッドをＶ層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、2.5m四方に 4 分割した中グリッドを設定した。また、報告書の遺構図中に位置関係を示すため、5mグリッドを 1m四方に 25 分割した小グリッドを設定した（図Ⅰ－３）。

現地での測量は、厚幌ダム建設事業の四級基準点を与点とするトータルステーション４級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド杭設置を㈲幅田測量設計が行った。現地におけるＺ座標の取得もグリッド杭設定や遺物取り上げ時の機械点設置杭に移設した。

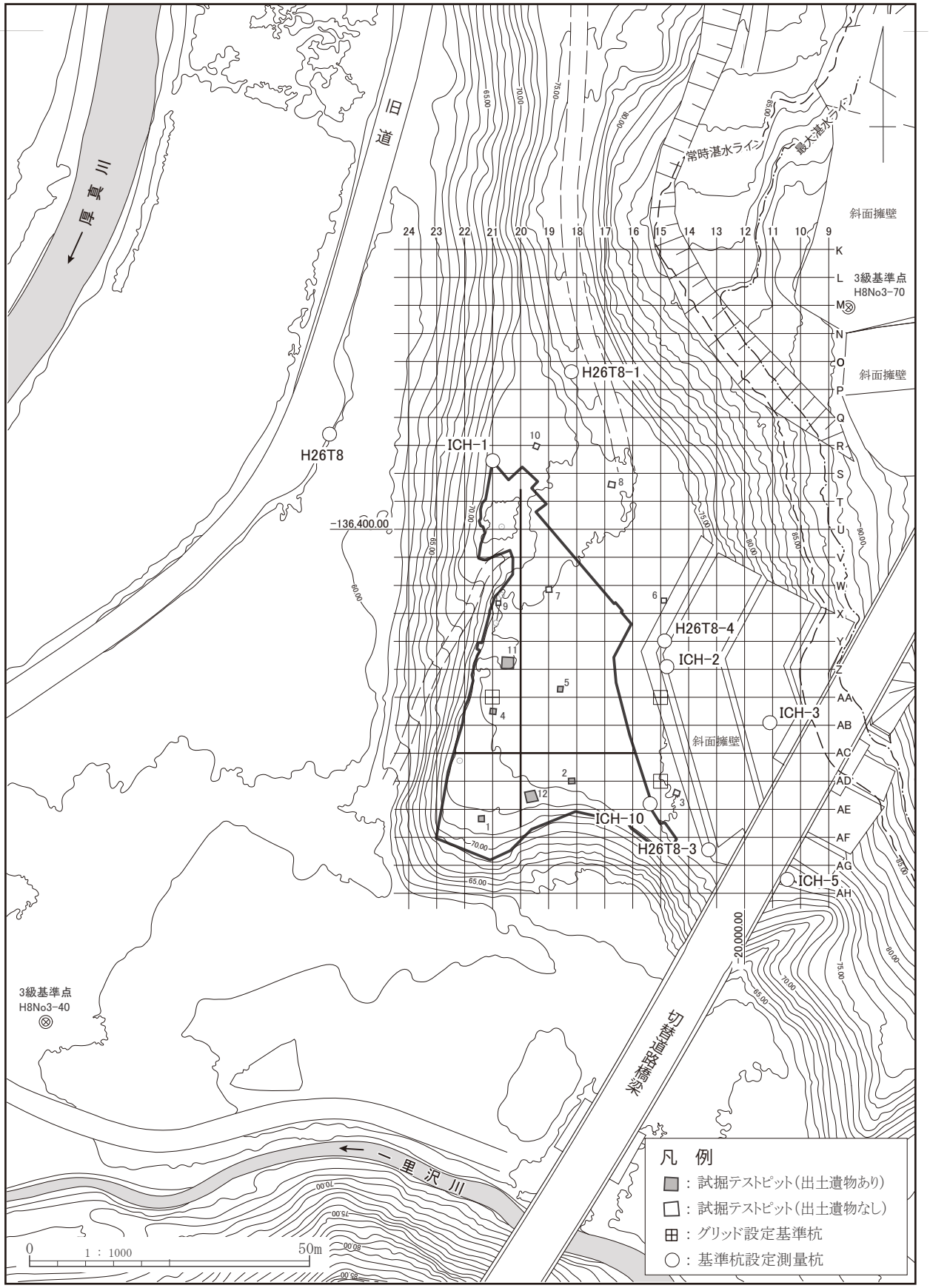
**３．包含層および遺構調査の方法**

調査の準備段階として、発掘調査前年度末に調査区内及び周辺の伐採作業を実施している。７月中旬から調査員立会のもと調査区の約８割の範囲を占める西側をバックホーにより樹根を残しながら表土層、撹乱層、樽前ｂテフラ層の除去を行った。７月下旬より作業員を投入し、残存した樹根の枝根の処理と撹乱層や火山灰の除去作業を行い、上層黒色土Ⅲ層上面などの調査着手面を検出し、同時にグリッド杭打設を測量技能作業員が中心となって行った。なお、この面において削平範囲の平面記録を行い、調査区内の地形図作成のため 50 ㎝ピッチで単点を記録し、等高線図作成ソフトで処理した地形図を作成した。

包含層調査は調査区を南北に縦断する 20 ライン、東西に横断する AA ラインに調査終了面のⅧ層まで達するトレンチを掘開し、遺跡内の堆積状態の確認・実測を行った。上層黒色土Ⅲa 層及びⅢb 層の残存範囲を移植ゴテで厚さ 1～2㎝ での掘削調査を行い。Ⅲb・Ⅲc 層は遺物が確認できない場合はジョレンで掘削し、樽前ｃテフラ（Ⅳ層）上面を検出し、遺構の確認に努めた。樽前ｃテフラの除去は、薄い部分を人力で除去し、プライマリーな状態で残存している範囲は重機と人力併用で除去作業を行った。調査区西側のＶ層包含層の掘開調査は、可能な限り分層した層位を考慮し、層位的・平面的に下げて行った。

Ⅲ層の遺構調査は、土坑や杭穴などの掘り込み等を伴う遺構については、Ⅲc 層～Ⅳ層（樽前ｃテフラ）上面を確認面とし、包含層の主体であるⅢｂ層調査終了後にこれらの遺構検出作業を行った。焼土については、確認層序を検討するため、検出時から土層観察用のベルトを残して調査した。

Ｖ層の遺構調査は、土坑やＴピットなどはⅥ層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行ったが、Ｔピットに伴うと考えられた掘り上げ土は土壌観察用のベルトを残して調査した。記録は、完掘後にトータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを




図Ⅰ-2　グリッド設定網及び試掘坑・メインセクション位置図

図化し、土壌堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し､1/5や1/10縮尺でのプリントを下地に測量技能作業員が作成した。各調査経過の写真記録は調査員が35mm一眼レフデジタルカメラで撮影した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点、Ⅴ層は土器と石器に遺物番号を付与した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる3次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿（日付･グリッド･層位･遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完に努めた。Ⅴ層の礫及びフレイク・チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら2.5m四方グリッド（中グリッド）による4分割、もしくは遺構単位で取り上げた。

Ⅲ層及びⅤ層の焼土他は、調査時に各担当者が土壌サンプルを採取し、発掘現場内に設置したビニールハウス内で乾燥した後にフローテーション作業を現地で行った。なお、フローテーションや遺物水洗、調査区内の散水等で用いる作業用の水は、井戸水を利用した。

**４．整理作業**

出土遺物の一次整理は、発掘調査段階から遺物水洗、調査区・遺構名・層位・種別等の台帳確認作業、注記作業を行った。11月からの整理業務は本郷地区と軽舞地区の整理事務所に分かれて行い、本郷事務所では、Ⅲ層出土遺物、Ⅴ層の礫石器、礫の整理、軽舞事務所では遺構図作成・写真図版作成とⅤ層出土土器、剥片石器、フローテーション試料選別を主に行った。

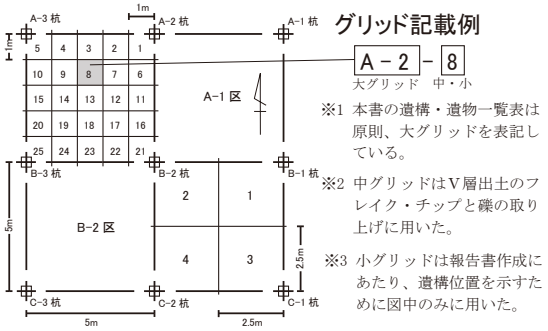
遺構図等の実測図編集やトレース図作成については、パソコンでのデジタル編集(Os Windows Adobe IllustratorCS6)で行った。出土遺物の写真撮影は㈲写真事務所クリークに委託し、パソコン(Os Windows Adobe PhotshopCS6)での背景の切抜き作業・編集を行った。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトウェアで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の収納保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは分類および調査区遺構毎にコンテナに収納し、軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）に収蔵した。　（宮塚）

**表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭座標一覧表**

| 杭名 | X座標 | Y座標 | Z座標 |
|---|---|---|---|
| 四級基準点 H26T8 | -136,883.081 | -20,074.001 | - |
| 四級基準点 H26T8-1 | -136,371.938 | -20,030.795 | - |
| 四級基準点 H26T8-2 | -136,447.773 | -20,024.708 | - |
| 四級基準点 H26T8-3 | -136,457.344 | -20,006.294 | 75.002 |
| 四級基準点 H26T8-4 | -136,420.018 | -20,014.168 | 74.988 |
| ICH-1 | -136,387.728 | -20,044.995 | - |
| ICH-2 | -136,424.529 | -20,013.894 | - |
| ICH-3 | -136,434.529 | 19,995.494 | - |
| ICH-5 | -136,462.529 | -19,992.394 | - |
| ICH-10 | -136,449.029 | -20,016.894 | - |
| AA-18 | -136,430.000 | -20,030.000 | 72.890 |
| AA-21 | -136,430.000 | -20,045.000 | 72.683 |
| AD-18 | -136,445.000 | -20,030.000 | 73.299 |

**【大・中・小グリッド区分】**




**図Ⅰ-3　グリッド区分図**

## 第４節　遺物の分類

### １．土 器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字で群別し、アルファベットとアラビア数字で類別した。

**第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器。**

Ａ類　貝殻文・条痕文土器。

Ｂ類　早期後半の東釧路式土器群。

B1 類　東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2 類　東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3 類　中茶路式に相当するもの。

B4 類　東釧路Ⅳ式に相当するもの。

**第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器。**

Ａ類　縄文尖底・丸底土器群。

A1 類　美沢３式、綱文式土器に相当するもの。

A2 類　トビノ式、静内中野式に相当するもの。

Ｂ類　円筒下層式系土器群。

B1 類　円筒下層ａ式ないしはｂ式に相当するもの。

B2類　円筒下層ｃ式ないしはｄ式に相当するもの。所謂フゴッペ貝塚式土器も含める。

B3 類　植苗式ないしは大麻Ｖ式に相当するもの。便宜的に宮本式の一群である横走沈線文上に刺突文を施す土器も含める。

B4 類　シュブノツナイ式に相当するもの。

B5 類　胎土に蛇紋岩を含む土器。

**第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器。**

Ａ類　中期前半の円筒上層式系土器群。

A1 類　円筒上層ａ式またはｂ式に相当するもの。

A2 類　円筒上層ｃ式またはｄ式、厚真１式に相当するもの。

Ｂ類　中期後半から末葉の土器群。

B1 類　萩ヶ岡 1･2 式、天神山式に相当するもの。

B2 類　柏木川式に相当するもの。

B3 類ａ種　北筒式に相当するもの。

B3 類ｂ種　煉瓦台式に相当するもの。

**第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器。**

Ａ類　後期初頭の土器群。

A1 類ａ種　古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1 類ｂ種　Ⅳ群Ａ１類ａ土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1 類ｃ種　天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群Ａ１類ａ種土器に併存する。非在地系。

A2 類　新しい段階の余市式。タプコプ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

Ｂ類　後期前葉の土器群。

B1 類　新手のタプコプ式。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。

B2 類　手稲砂山式に相当するもの。

B3 類　入江式、大津７群、白坂３式土器。

Ｃ類　後期中葉の土器群。

C1 類　ウサクマイＣ式に相当するもの。

C2 類　手稲式に相当するもの。

C3 類　ホッケマ式に相当するもの。

Ｄ類　後期後葉の土器群。

D1 類　堂林式、御殿山式に相当するもの。

**第Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。**

Ａ類　晩期前葉の土器群。

A1 類　爪形文や刺突文を施すもの。

A2 類　大洞 B･BC 式土器に相当するもの。

Ｂ類　晩期中葉の土器群。

B1 類　縄線文や円弧文を施すもの。美々３式、ママチⅠ・Ⅱ群に相当するもの。

B2 類　大洞 C1・C2 式土器に相当するもの。

C類　晩期後葉の土器群。

C1 類　ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。

C2 類　大洞 A・A´式土器に相当するもの。

**第Ⅵ群土器　続縄文文化期に属する土器群。**

A1 類　砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a：札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b：いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。

A2 類　砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a：砂沢式土器。　b：二枚橋式土器。

B1 類　アヨロ 2 類土器並行の土器。

a：アヨロ 2 類 a 相当の土器。

b：アヨロ 2 類 b 相当の土器。

B2 類　アヨロ 3 類相当の土器。

C1 類　江別太 1～3 式土器。

C2 類　後北 B 式土器。

C3 類　後北 $C_1$ 式土器。

C4 類　後北 $C_2$-D 式土器。

D1 類　宇津内Ⅱa 式土器。

D2 類　宇津内Ⅱb 式土器。

E1 類　北大Ⅰ式土器。

E2 類　北大Ⅱ式土器。

**第Ⅶ群土器　擦文文化期に属する土器群。**

A 北大Ⅲ式相当

B 擦文土器（甕形）

B1：擦文「前期」に相当するもの。
主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。

B1a：軽い段により頚部を形成した無文もしくは数条の横走沈線を廻らすもの。

B1b：多条の横走沈線を施すものもの。

B2：擦文「中期」に相当するもの。
主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。

B2a：横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。

B2b：刻文のみのもの。

B2c：無文のもの。

B3：擦文「後期」に相当するもの。
主として口縁部文様帯を形成した一群。

B3a：横走沈線を地文とするもの。

B3b：綾杉文主体のもの。

B3c：斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。

B3d：胴部文様帯を 3 段以上に区画した上でⅦ B3a～c の文様要素を施したもの。

B3e：無文のもの。

B3f：口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。

C 擦文土器（坏形）

C1：台部を有さないもの。

C2：平底の低い台部を有するもの。

C3：平底の高台部を有するもの。

C4：上げ底の高台部を有するもの。

C4a：口縁部に沈線を有するもの。

C4b：体部に刻文を施すもの。

D 擦文土器（鉢形・壷形）

E ロクロ成形土器

E1：甕形

E2：壷形

E3：鉢形

E4：坏形

E4a：軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4b：軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c：硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d：硬質で還元炎焼成のもの。

## ２．剥片石器

**ポイント類**

長軸４㎝を境に石鏃と石槍・石銛とに区分した。

A「石鏃」

１細身で薄手のもの。

２無茎のもの。

a 基部が平ら、もしくは凹型のもの。

b 基部が円形もしくは三角形のもの。

３明瞭な茎部をもつもの。

①　A3 のうち特に小型で基部が尖るもの。

②　基部が矩形をなすもの。

４不明瞭な茎部を持つもの。

B「石槍」・「石銛」

１明瞭な茎部をもつもの。

a 茎部端が平らなもの。

①　茎端部に突起がない。

②　茎端部に突起がある。

b 茎部端が平らでないもの。

２不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品

**石 錐**

A 剥片の一部に機能部を作出したもの。

B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。

C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

D 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広でないもの。

1 棒状のもの。

2 紡錘形のもの。

E 他石器からの転用品と思われるもの。

**ナイフ・スクレイパー類**

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の１辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A「つまみ付きナイフ」

1 つまみ部軸線と体部軸線の角度が 30°未満のもの「縦型」。

2 つまみ部軸線と体部軸線の角度が 30°～60°のもの「中間型」。

3 つまみ部軸線と体部軸線の角度が 60°以上のもの「横型」。

「縦型」「中間型」「横型」はそれぞれ以下の分類に分けられる。

a　２つの縁辺に刃部を備えるもの。

①左右の縁辺がほぼ均等。

②右側縁が長い。

③左側縁が長い

b　３つの縁辺に刃部を備えるもの。

①左右の縁辺がほぼ均等。

②右側縁が長い。

③左側縁が長い。

4　素材が剥片でつまみを有するもの。

B　素材端部に刃部が形成されているもの。

1 円形を呈し、周縁に刃部が形成されるもの。「ラウンド・スクレイパー」

2 主に縦長で下端部に刃部が形成されるもの。「エンド・スクレイパー」

C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

1 素材の長軸の側縁に刃部を形成する「サイド・スクレイパー」。

2 湾入する刃部を持つもの「コンケイブド・スクレイパー」。

3「抉入石器」

D 欠損品

**両面調整石器**

大型、ポイント状の形態をもち、刃部調整が見られないもの。

**ＲＦ･ＵＦ**

一縁辺の長さの半分以下の調整痕をもつものを RF、使用による細かな剥離が見られるものを UF。

**ピエス・エスキーユ**

黒曜石製で両極に載断面をもつもの。

**石核**

剥片を剥離した母核。

**火打石**

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

## ３．礫石器

**石 斧**

Ａ　磨製石斧

１　擦り切りにより素材が得られているもの。

２　剥離・敲打により整形されているもの。

Ｂ　未製品

１　擦り切り・剥離・敲打により完成品近くまで整形されているもの。

２　礫皮を残し、擦り切り・剥離・敲打により素材礫形状が不明瞭なもの。

３　剥離・敲打が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

**たたき石**

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

Ⅰ　平面形が縦長のもの。

Ａ　扁平のもの。

１　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

２　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

３　１・２が並存するもの。

Ｂ　棒状または角柱状のもの。

１　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの

２　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

３　１・２が並存するもの。

Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。

Ａ　扁平のもの。

１　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

２　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

３　１・２が並存するもの。

Ｂ　棒状または角柱状のもの。

１　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。

２　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。

３　１・２が並存するもの。

Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。

Ａ　扁平のもの。

Ｂ　球形または棒状のもの。

Ⅳ　破片で上記に分類不可のもの。

Ⅴ　すり石と複合するもの。

**すり石**

Ａ　断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。

Ｂ　断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

Ｃ　扁平な礫の側縁に擦り面があるもの。

Ｄ　北海道式石冠。

Ｅ　その他。

Ｆ　たたき石と併用するもの。

**砥 石**

研磨面を有するもの。

**滑沢面のある礫**

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線条痕はほとんど観察できない。

**線条痕のある礫**

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

**石皿・台石**

便宜的に素材礫の重量が 900ｇ以上で、礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

**滑沢面と敲打痕のある大型礫**

自然礫表面の形状を変えず、礫を構成する砂粒や鉱物の凹凸が平坦・滑らかになるもの。摩滅により光沢を有するものもある。砥石使用面よりも湾入、研ぎ減りがないすり面となる。。

Ⅰ　表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。

Ⅱ　一面に両方の痕跡が認められるもの。

**加工痕のある礫**

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

## 第5節　調査結果の概要

試掘調査では、礫石器、フレイク、石核、礫、磁器の他シカの骨片が発見されている。また、鉄鍋が祀られていることが松浦武四郎著『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985)に記載されており、Ⅰ・Ⅲ層からの遺構・遺物の発見が期待された。シカの骨片は調査区中央部西側から出土しているが当該地区周辺は撹乱が著しく、樽前ａ火山灰層の上から掘り込まれた３間×５間の建物跡や多くの植林孔によって、撹乱され、遺物が多く消失した可能雄性が高い。

### １．Ⅲ層の調査

Ⅲ層の遺構は黒色土が２〜3cm 被覆していた。検出層位は概ねⅢb 層中位である。調査区は植林等によって撹乱されている場所が多かった。AA ラインより南側は撹乱がⅤ層にまで及んでいる。特に 17 ラインから東側は撹乱が大きく、樽前ｄ火山灰層の下の更新世斜面堆積物層まで削平されていた。

Ⅲ層から発見された遺構は少なく、焼土７ヵ所と、土器集中２ヵ所・礫集中１ヵ所である。焼土は調査区中央より南側に６ヵ所、北側に１ヵ所、土器集中は調査区北側の厚真川浸食崖縁辺部、礫集中は調査区最北端から発見されており、遺構によって異なった立地条件が見られる。土器集中から発見された土器は擦文文化期後期に属するものと考えられる。

### ２．Ⅴ層の調査

樽前ｃ火山灰層を除去した段階で多くの掘り上げ土とくぼみを検出した。Ｔピットの存在が想定され、Ｔピット間の前後関係を把握するために隣接する掘り上げ土とくぼみを横断する土層観察用のベルトを設けて掘削した。

発見した遺構は、土坑３基、焼土３ヵ所、土器集中 17 ヵ所、礫集中４ヵ所、剥片集中１ヵ所である。

土坑は小型で、うち１基の坑底から３本の杭跡を検出したが、杭穴は浅く樽前ｄ火山灰層中で留まっており、Ｔピットと異なるものとして土坑に分類した。

Ｔピットは、２基の溝状のものを除いて、ほとんどの平面形が楕円形で、他の遺跡と比較すると大きく異なった構成比を看取できる。詳しくは、Ⅲ章で述べるが、時期・季節によって異なったタイプのＴピットが使われていた可能性がうかがえる。溝状のＴピットと楕円形のＴピットでは、直接の切り合い関係は見られないが、掘り上げ土の関係から楕円形のＴピットの掘り上げ土が、溝状のＴピットを覆っていた例が１例見られる。土器集中は調査区中央部から厚真川浸食崖に沿って多く検出された。時期は縄文時代早期末葉、中期前葉、後期初頭から前葉に限られる。

表Ⅰ-2　一里沢遺跡検出遺構一覧表

| 項　目 | Ⅲ層 | Ⅴ層 | 項　目 | Ⅲ層 | Ⅴ層 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 続縄・擦文・アイヌ文化期 | 縄文時代 | | 続縄・擦文・アイヌ文化期 | 縄文時代 |
| 人力発掘調査面積 | 1,412.0㎡ | | Tピット | 0 | 47 |
| 重機遺構確認調査面積 | 85.0㎡ | | 土器集中 | 2 | 17 |
| 土　坑 | 0 | 3 | 礫集中 | 1 | 4 |
| 焼　土 | 7 | 3 | 剥片集中 | 0 | 1 |

表Ⅰ-3　一里沢遺跡出土遺物一覧表

| 層位 | 種　別 | | | | | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 土器 | 剥片石器 | 礫石器 | 土製品 | 石製品 | 鉄製品 | 石斧石器群削片 | 剥片類 | 礫 | 木製品 | |
| | P | FT | ST | PP | SP | IP | SFC | FC | S | WP | |
| Ⅲ層 | 147 | 2 | 11 | − | − | 5 | − | 36 | 85 | − | 286 |
| Ⅴ層 | 2,111 | 101 | 372 | 57 | 5 | 0 | 95 | 938 | 1,265 | 5 | 4,949 |
| 表採 | 6 | − | − | − | − | − | − | 2 | − | − | 2 |
| 撹乱 | 6 | 1 | 4 | − | − | 1 | − | 10 | 12 | − | 34 |
| 合計 | 2,270 | 104 | 387 | 57 | 5 | 6 | 95 | 986 | 1,362 | 5 | 5,271 |

## 第6節　遺跡の位置

### １．厚真町の概要

#### Ａ　地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口 4,664 人（平成 29 年 2 月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.61 千㎡で、流路 52.3㎞の二級河川厚真川水系と入鹿別川右岸に広がり南北 32.5㎞、東西 17.3㎞と細長く、南部は約 6.5㎞にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200～600m の山地が続き、町域総面積の約 70％を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接する。厚真の語源は 3 説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」（at-to-mam・向こうの湿地帯）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

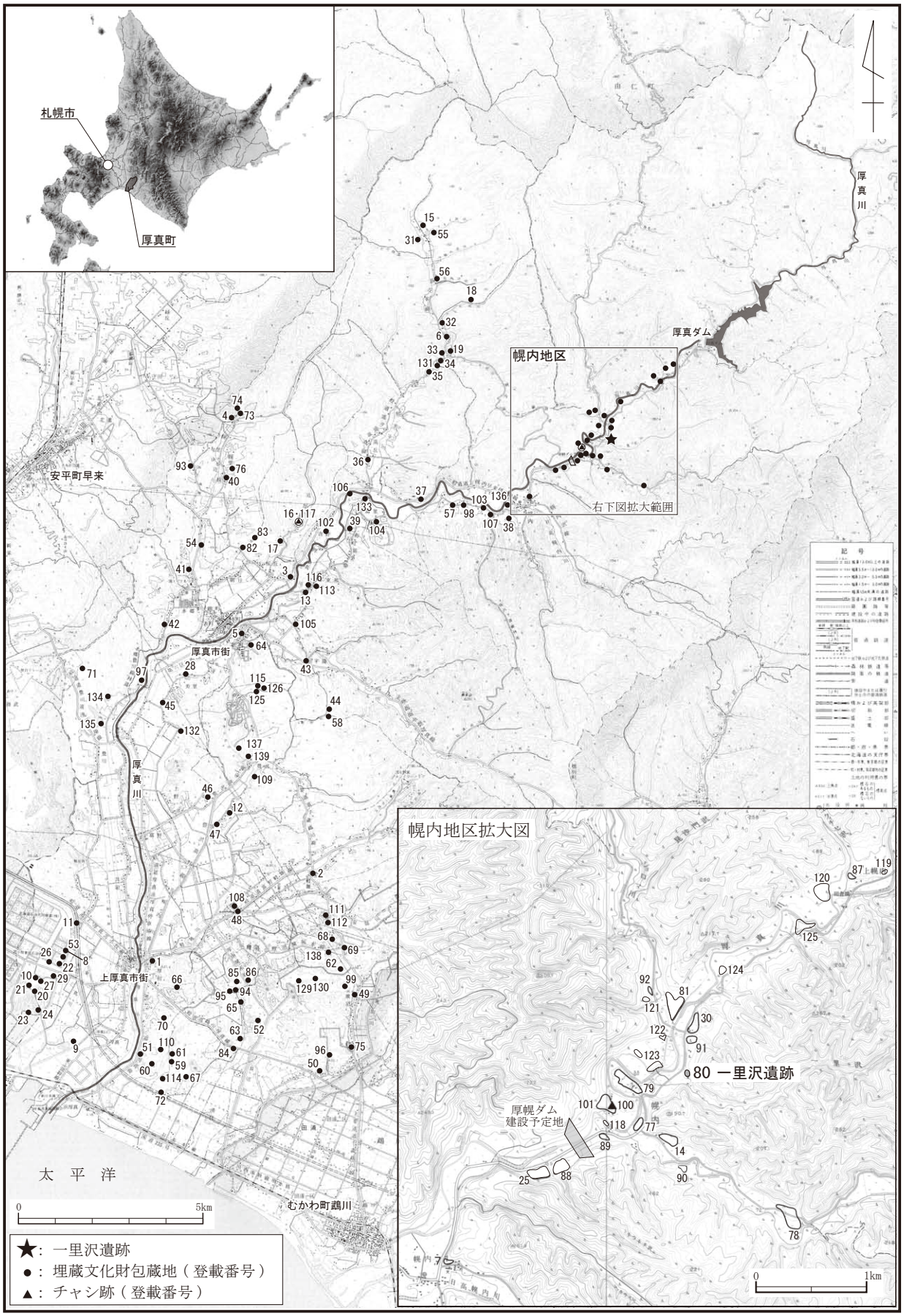
厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鵡川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成 3 年に日勝峠を含む「石勝樹海ロード」が全面開通する以前は札幌方面から厚真市街地を経由し、日高・十勝へ抜けるルートにもなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治 44 年から昭和 24 年まで早来駅とを結ぶ簡易軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。標高 400m以上の山地は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部が所在する。

#### Ｂ　歴史的環境

##### (1)先史時代

厚真町内には現在 139 ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなどの第二次世界大戦時の戦争遺跡までの時期幅がある（図Ⅰ-4）。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向が見られる。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器（札滑型細石刃核等）のブロックが調査されている。縄文時代では浜厚真 3 遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（道埋文 2003）。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的な極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、厚幌 2 遺跡（88）、オコッコ 1 遺跡（107）、幌内 5 遺跡（57）、ニタップナイ遺跡（104）、鹿沼 7 遺跡（99）などでは多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。鹿沼 7




**図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図**（平成 29 年 1 月 1 日現在）

## 表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

| 登載番号 | 種　別 | 名　称 | 時　代 | 発掘調査年度 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 遺物包含地 | 上厚真遺跡 | 縄文中期、続縄文期、擦文期 | |
| 2 | 遺物包含地 | 軽舞遺跡 | 縄文中期、続縄文期 | 2012 |
| 3 | 遺物包含地 | 朝日遺跡 | 縄文中～晩期、続縄文期、擦文期、近代 | |
| 4 | 遺物包含地 | 幌里1遺跡 | 縄文中・晩期、続縄文期 | |
| 5 | 遺物包含地 | 新町遺跡 | 縄文早・中期、続縄文期、アイヌ期 | |
| 6 | 遺物包含地 | 高丘1遺跡 | 縄文中期・続縄文期、擦文期、アイヌ期 | |
| 7 | 遺物包含地 | 幌内1遺跡 | 縄文中・後期 | |
| 8 | 集落跡 | 共和遺跡 | 縄文晩期、続縄文期、擦文期 | |
| 9 | 遺物包含地 | 浜厚真遺跡 | 詳細不明 | |
| 10 | 溝穴遺構 | 厚真10遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 11 | 遺物包含地 | 厚真11遺跡 | 縄文時代 | |
| 12 | 遺物包含地 | 豊沢1遺跡 | 続縄文期 | |
| 13 | 遺物包含地 | 東和遺跡 | 縄文後期 | |
| 14 | 集落跡 | オニキシベ1遺跡 | 縄文中・後期 | 2012,13 |
| 15 | 遺物包含地 | 高丘3遺跡 | 縄文中期 | |
| 16 | チャシ跡 | 桜丘チャシ跡 | 中世アイヌ期 | |
| 17 | 遺物包含地 | 桜丘1遺跡 | 縄文晩期 | |
| 18 | 遺物包含地 | 高丘2遺跡 | 詳細不明 | |
| 19 | 集落跡 | 高丘10遺跡 | 詳細不明 | |
| 20 | 集落跡 | 厚真1遺跡 | 縄文中期 | |
| 21 | 溝穴遺構 | 厚真2遺跡 | 縄文時代 | |
| 22 | 溝穴遺構 | 厚真3遺跡 | 縄文早～晩期、続縄文期、擦文期 | |
| 23 | 集落跡 | 厚真4遺跡 | 縄文中・後期、続縄文期、近代 | 2012,13 |
| 24 | 遺物包含地 | 厚真5遺跡 | 縄文時代、続縄文期 | |
| 25 | 集落跡 | 厚幌1遺跡 | 縄文早～晩期、続縄文期、中・近世アイヌ期 | 2002,03,12,13,15 |
| 26 | 集落跡 | 厚真7遺跡 | 縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期 | |
| 27 | 集落跡 | 厚真8遺跡 | 縄文早・中～晩期、続縄文期 | |
| 28 | 溝穴遺構 | 美里2遺跡 | 縄文早・中期 | |
| 29 | 墳墓 | 厚真12遺跡 | 縄文早・後・晩期、擦文期 | |
| 30 | 集落跡 | 上幌内1遺跡 | 縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期 | 2014,16 |
| 31 | 遺物包含地 | 高丘4遺跡 | 縄文時代 | |
| 32 | 遺物包含地 | 高丘5遺跡 | 縄文時代 | |
| 33 | 遺物包含地 | 高丘6遺跡 | 縄文時代 | |
| 34 | 遺物包含地 | 高丘7遺跡 | 縄文中期 | |
| 35 | 遺物包含地 | 高丘8遺跡 | 縄文時代 | |
| 36 | 遺物包含地 | 高丘9遺跡 | 続縄文期 | |
| 37 | 遺物包含地 | 富里1遺跡 | 縄文中・後・晩期、アイヌ期 | 2015,16 |
| 38 | 遺物包含地 | 幌内4遺跡 | 縄文中期? | |
| 39 | 遺物包含地 | チコマナイ遺跡 | 縄文時代 | |
| 40 | 遺物包含地 | 幌里2遺跡 | 縄文中期 | |
| 41 | 遺物包含地 | 本郷1遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 42 | 遺物包含地 | 本郷2遺跡 | 縄文後期 | |
| 43 | 遺物包含地 | 宇隆1遺跡 | 擦文期 | |
| 44 | 遺物包含地 | 宇隆2遺跡 | 縄文後期 | |
| 45 | 遺物包含地 | 美里1遺跡 | 縄文中期 | |
| 46 | 遺物包含地 | 豊沢2遺跡 | 擦文期 | |
| 47 | 遺物包含地 | 豊沢3遺跡 | 続縄文期 | |
| 48 | 遺物包含地 | 鯉沼1遺跡 | 詳細不明 | |
| 49 | 遺物包含地 | 鹿沼2遺跡 | 縄文中期 | |
| 50 | 遺物包含地 | 鹿沼1遺跡 | 縄文早期 | |
| 51 | 遺物包含地 | 厚和1遺跡 | 縄文中期、アイヌ期 | |
| 52 | 遺物包含地 | 鹿沼3遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 53 | 溝穴遺構 | 厚真13遺跡 | 縄文早期 | |
| 54 | 遺物包含地 | 本郷3遺跡 | 縄文時代 | |
| 55 | 遺物包含地 | 高丘11遺跡 | 縄文晩期 | |
| 56 | 遺物包含地 | 高丘12遺跡 | 縄文時代 | |
| 57 | 墳墓 | 幌内5遺跡 | 縄文前期、近世アイヌ期 | |
| 58 | 溝穴遺構 | 豊沢4遺跡 | 縄文早・後期 | |
| 59 | 遺物包含地 | 厚和2遺跡 | 縄文中期 | |
| 60 | 遺物包含地 | 厚和3遺跡 | 縄文後期 | |
| 61 | 遺物包含地 | 厚和4遺跡 | 縄文中期 | |
| 62 | 遺物包含地 | 鹿沼4遺跡 | 縄文時代 | |
| 63 | 遺物包含地 | 厚和5遺跡 | 縄文時代 | |
| 64 | 遺物包含地 | 新町2遺跡 | 縄文後期 | |
| 65 | 遺物包含地 | 鹿沼5遺跡 | 縄文後期 | |
| 66 | 遺物包含地 | 厚和6遺跡 | 縄文前期 | |
| 67 | 遺物包含地 | 浜厚真2遺跡 | 縄文早期 | |
| 68 | 溝穴遺構 | 鯉沼2遺跡 | 縄文時代 | |
| 69 | 遺物包含地 | 豊丘遺跡 | 縄文前期 | |
| 70 | 集落跡 | 厚和7遺跡 | 縄文後期 | |
| 71 | 集落跡 | 豊川1遺跡 | 縄文中・後期 | |
| 72 | 溝穴遺構 | 浜厚真3遺跡 | 縄文早期 | 2002 |
| 73 | 遺物包含地 | ニタッポロ沢遺跡 | 縄文後・晩期 | |
| 74 | 遺物包含地 | 幌里神社遺跡 | 縄文時代 | |
| 75 | 溝穴遺構 | 入鹿別沼遺跡 | 縄文中期 | |
| 76 | 溝穴遺構 | 幌里3遺跡 | 縄文時代 | |
| 77 | 遺物包含地 | オニキシベ2遺跡 | 縄文中・後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期 | 2007,08 |
| 78 | 遺物包含地 | オニキシベ3遺跡 | 縄文後期 | 2014-16 |
| 79 | 集落跡・墳墓 | 上幌内モイ遺跡 | 旧石器、縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期 | 2004-07 |
| 80 | 遺物包含地 | 一里沢遺跡 | 縄文時代、アイヌ期 | 2014 |
| 81 | 集落跡 | ショロマ1遺跡 | 縄文前・後期、アイヌ期 | 2013-16 |
| 82 | 遺物包含地 | 東ニタッポロ1遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 83 | 遺物包含地 | 東ニタッポロ2遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 84 | 遺物包含地 | 浜厚真4遺跡 | 縄文中期 | |
| 85 | 集落跡 | 鯉沼3遺跡 | 縄文前～後期 | |
| 86 | 遺物包含地 | 鯉沼4遺跡 | 縄文後期 | |
| 87 | 遺物包含地 | イクバンドユクチセ遺跡 | 縄文後期 | |
| 88 | 遺物包含地 | 厚幌2遺跡 | 縄文前期 | 2015,16 |
| 89 | 遺物包含地 | オニキシベ4遺跡 | 縄文早・中～晩期 | 2012 |
| 90 | 遺物包含地 | オニキシベ5遺跡 | 縄文中期・後期 | |
| 91 | 集落跡・墳墓 | 上幌内2遺跡 | 縄文時代、擦文期、アイヌ期 | 2014,16 |
| 92 | 遺物包含地 | ショロマ2遺跡 | 縄文前～後期 | 2013,14 |
| 93 | 溝穴遺構 | 幌里4遺跡 | 縄文時代 | |
| 94 | 集落跡 | 厚和8遺跡 | 縄文中・後期 | |
| 95 | 遺物包含地 | 厚和9遺跡 | 縄文中期 | |
| 96 | 遺物包含地 | 鹿沼6遺跡 | 縄文時代 | |
| 97 | 遺物包含地 | 豊川2遺跡 | 続縄文期、擦文期 | |

表Ⅰ-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

| 登載番号 | 種別 | 名称 | 時代 | 発掘調査年度 |
|---|---|---|---|---|
| 98 | 遺物包含地 | 幌内6遺跡 | 縄文後期 | 2015 |
| 99 | 集落跡 | 鹿沼7遺跡 | 縄文早～晩期 | |
| 100 | チャシ跡 | ヲチャラセナイチャシ跡 | 中世アイヌ期 | 2011,12 |
| 101 | 集落跡 | ヲチャラセナイ遺跡 | 縄文早～晩期、続縄文期、擦文、中世アイヌ期 | 2008-12 |
| 102 | 遺物包含地 | 吉野1遺跡 | 縄文中・晩期 | |
| 103 | 遺物包含地 | 幌内7遺跡 | 縄文晩期、擦文期 | 2008,15,17 |
| 104 | 集落跡 | ニタップナイ遺跡 | 縄文前～晩期、続縄文期、擦文期、近世アイヌ期 | 2007,08 |
| 105 | 遺物包含地 | 宇隆3遺跡 | 縄文中期 | |
| 106 | 遺物包蔵地 | 富里2遺跡 | 縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期 | 2009 |
| 107 | 遺物包蔵地 | オコッコ1遺跡 | 縄文前～後期、擦文期 | 2015,16 |
| 108 | 遺物包含地 | 軽舞2遺跡 | 縄文前期、続縄文期 | |
| 109 | 遺物包蔵地 | 豊沢5遺跡 | 縄文後期 | |
| 110 | 遺物包含地 | 厚和10遺跡 | 縄文早・中・後期 | |
| 111 | 遺物包含地 | 豊丘2遺跡 | 縄文早期 | |
| 112 | 遺物包蔵地 | 豊丘3遺跡 | 縄文中期 | |
| 113 | 遺物包蔵地 | 東和2遺跡 | 縄文晩期 | |
| 114 | 遺物包含地 | 浜厚真5遺跡 | 縄文後期 | |
| 115 | 遺物包蔵地 | 豊沢6遺跡 | 縄文早・中・後期 | |
| 116 | 遺物包蔵地 | 東和3遺跡 | 縄文早期 | |
| 117 | 遺物包含地 | 桜丘2遺跡 | 縄文中期 | |
| 118 | 遺物包含地 | オニキシベ6遺跡 | 縄文前～晩期、続縄文期、擦文期 | 2012 |
| 119 | 溝穴遺構 | イクバンドユクチセ2遺跡 | 縄文後期 | 2013 |
| 120 | 遺物包含地 | イクバンドユクチセ3遺跡 | 縄文中・後期、続縄文期 | 2013 |
| 121 | 遺物包含地 | ショロマ3遺跡 | 続縄文期 | 2013 |
| 122 | 遺物包含地 | ショロマ4遺跡 | 縄文時代 | 2014 |
| 123 | 遺物包含地 | 上幌内3遺跡 | 縄文中・後期、続縄文期？ | 2013,14 |
| 124 | 遺物包含地 | 上幌内4遺跡 | 縄文中期 | 2014-16 |
| 125 | 溝穴遺構 | 上幌内5遺跡 | 縄文時代 | 2009,2014-16 |
| 126 | 遺物包含地 | 豊沢7遺跡 | 縄文中・後期 | |
| 127 | 遺物包含地 | 豊沢8遺跡 | 縄文後期 | |
| 128 | 遺物包含地 | ヲイカルマイ遺跡 | 続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代 | 2011 |
| 129 | 遺物包含地 | 長沼1遺跡 | 縄文早期 | |
| 130 | 遺物包含地 | 長沼2遺跡 | 縄文中期 | |
| 131 | 遺物包含地 | 高丘13遺跡 | 縄文前期、擦文期 | |
| 132 | 遺物包含地 | 上野1遺跡 | 縄文中期 | |
| 133 | 遺物包含地 | 富里3遺跡 | 縄文中・晩期 | 2015 |
| 134 | 遺物包含地 | 豊川3遺跡 | 縄文晩期 | |
| 135 | 遺物包含地 | 三ヶ月沼遺跡 | 縄文晩期 | |
| 136 | 遺物包含地 | 幌内8遺跡 | 縄文前・中期 | |
| 137 | 遺物包含地 | 豊沢9遺跡 | 縄文時代 | |
| 138 | 溝穴遺構 | 鯉沼5遺跡 | 縄文時代 | |
| 139 | 遺物包含地 | 豊沢10遺跡 | 縄文晩期 | |

遺跡や幌内5遺跡、ニタップナイ遺跡、オコッコ1遺跡では発掘調査等で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークとなる。縄文時代後期中葉から後葉にかけては遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰降下（10世紀前葉）後の擦文中期後半以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で13世紀以降17世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の解明に期待が高まっている。

**(2)町内における埋蔵文化財調査の概要**

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正5年（1916年）に現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として学校に保管する許可書が発行されたことが最初である（厚真村郷土研究会1956）。これ以降、現在に至るまでを大きく3期に別けることが可能である。

**a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和20年代後半から40年代中頃）**

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を発刊した(厚真村郷土研究会1956)。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模発掘「苫東調査」（昭和 48 年から昭和 54 年）

昭和 48 年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59 年までの 12 年間で厚真町域では新規登載 14 遺跡、調査着手 11 遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和 51 年調査の厚真 1 遺跡（苫小牧市教育委員会 1986）では、この地域で初めてのＴピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真 1 式土器」（赤石 1999）の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡 8 軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した（苫小牧市教育委員会 1987）。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡 2 軒を調査している（苫小牧市教育委員会 1987）。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成 10 年以降）

道教委による豊川 1 遺跡、鯉沼 2 遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真 3 遺跡の調査では、187 基のＴピットが検出されている（道埋文 2003）。

平成 12 年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係る事前協議書が提出されＡ・Ｂ調が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委によって継続的に行われ、平成 24 年度からは道埋文も本事業の調査に加わり、本事業の発掘調査が完了した平成 28 年 10 月までの 15 年間における発掘調査面積は 205,951 ㎡となった。

平成 15 年には総延長 24.5㎞に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、Ｂ調等は未了箇所があるものの、現在 14 遺跡の要発掘・工事立会調査地点が確認されている。発掘調査は平成 19 年度から開始し、厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡、富里 2 遺跡、幌内地区の幌内 5・7 遺跡や厚幌 1 遺跡など 11 ヵ所で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成 30 年秋まで継続し、31 年度に整理業務を終え、ダム事業に係る一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

(3) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄 5)年に書かれた『続々類従本蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである（野澤 1692）。その後、寛政年間（18 世紀末）に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985）で、1857（安政 5）年 6 月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ（現富里）にて 2 泊している。この時、町内にはアツマ（厚真河口）、キムンコタン（現厚和・厚和 1 遺跡）、シナイ（現新町・新町遺跡）、チケツヘ（現本郷）、トンニカ（現富里）、ニタツナイ（現富里・ニタップナイ遺跡周辺）の 5 ヵ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落跡は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が分かりつつある。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、富里 2 遺跡、ニタップナイ遺跡などのほか、厚和 1 遺跡、幌内 5 遺跡では耕作により近世アイヌ土坑墓が単独で発見されている。

## ２．遺跡の位置と周辺の環境

### Ａ 地理的環境（図Ⅰ-5）

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲としたい。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸辺川、ショロマ川があり、分水嶺を介して鬼岸辺川は東方の鵡川水系むかわ町豊田地区へ、ショロマ川は石狩川水系夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約 4.8㎞ 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鵡川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150～250ｍの山頂に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で緩やかに傾斜する“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流～中流域まで発達し、上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識として $T_0$～$T_5$ 面に細分されている（出穂 2006）。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に把握することができる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約 34.8㎞ に位置し、厚真川と一里沢川の合流点より上流約 370ｍ の一里沢川右岸に所在する。厚真川と一里沢川の合流点に突き出した段丘面 $T_3$ に立地する。段丘面は先端部から北方向に約 100ｍ、東方向に約 60ｍの範囲の三角形状の地形であり、調査区の東側には、崩落再堆積物が段丘面を厚く覆っており、崖錐状の地形が発達している。なお、調査区域は現地表面で標高約 69～73ｍ で、一里沢川沿いの沖積低地との比高差は約 12ｍを測る。

周辺環境として本遺跡の西側に一里沢と厚真川との合流点があり、沖積低地が広がるため眺望が良く、正午近くからの時間からは良好な日照条件が得られている。遺跡からは厚真川対岸にショロマ４遺跡と上幌内３遺跡を見下ろすことができ、下流方向には上幌内モイ遺跡を望む。

### Ｂ 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡が所在する。最上流のイクバンドユクチセ２遺跡は厚真川の河口より約 37㎞ の地点にあるが、さらに約 1.5 ㎞上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。本地区の時期的な特徴として縄文時代の遺跡は中茶路式期以降であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路Ⅳ土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器（町教委 2004）が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路Ⅲ式、条痕文系土器群が確認されており、厚真川流域においては海岸部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定できる。継続する縄文前期前半期には遺跡や出土遺物が増加傾向にあり、縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層ａ式期には大型住居跡を伴う集落跡も出現する。ヲチャラセナイ遺跡やショロマ１遺跡も当該期の集落跡である（町教委 2013･2014･2015）。また縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も複数個体が出土しており、この特徴も見逃せない。また擦文文化期中期後半以降、中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。厚幌１、上幌内モイ、オニキシベ２・４遺跡などがあり、平成 20・22 年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面発掘調査されている。しかし、17 世紀中葉以降のアイヌ文化期の遺跡数は極端に減少し、平成 14 年度から継続している本地区での発掘調査において寛永通寶や煙管の出土例は皆無である。厚幌 1 遺跡や上幌内モイ遺跡では、1667 年降下の樽前ｂテフラを直接被覆する大木に伴うシカ送り場跡が３ヵ所確認されていることから、本地区は集落居住域から狩猟区域として位置づけを変えていった可能性ある。

### Ｃ 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。本地区にはヲチ

ャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡）、ヲニケレベ(現鬼岸辺)、シヨウロマ（現ショロマ）、メルクンナイなどの多数の地名が記載されている。特徴としては、「ル」（路）の付く地名が多く、複数の山越えルートが存在する地域でもある。厚真川から鵡川水系へは厚真ダム左岸のメルクンナイ～鵡川水系穂別川へのパンケオビラルカ川へ、鬼岸辺川～良樹ノ沢（ルーマキウシ）～鵡川～パンケルベシベ川～沙流川水系オサチナイ沢川へのルートが想定される。

シヨロマ（現ショロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治29年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定される。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で１本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と鵡川流域、沙流川流域の日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点に立地している。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定でき、考古学的にも縄文時代早期からの富良野盆地系土器や道東北地域の縄文土器、黒曜石原石、豊富な金属製品の出土がその証拠ともなろう。

ショロマ川流域に関する武四郎の記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」と記され、この流域について「マタヤツチセ　是冬分鷲、熊等を取に来りし時の小屋」、「ソウ　滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の椴木立に成り」、「ベンケヤツチセ　是も猟師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と３つの地名等を書き記している。この記述からも夕張へのルートの他、鷲鷹、熊猟の地域でもあることが記されている。なお、ユウハリのソウホコマナイには夕張市滝ノ上チャシ跡が所在している。

本遺跡の一里沢については「カニシュウ　東岸小沢にして少しの平地有。此処に昔しより鍋一舞有りしによつて号しと。此鍋は誰が昔し置しものやらん。中に三百年前のもののよしと申云ひしが、今は只其の此処にて朽しと云処のみ残り、其処に木幣を立て祭り有る也。～中略～両方に耳三ッづつ附いて、実に異形のものなり・・・。」と記されており、神聖な場所でもあったと思われる。

### ３. 調査区内の地形と地質

#### Ａ　地形

発掘調査区の標高は69.8～73.7ｍである。遺跡は河岸段丘面 $T_3$ に形成されⅧ層の樽前ｄテフラ降下以降に離水した段丘面であるが、イベント堆積物の洪水堆積層（Ⅶ層）は存在しない。なお調査区西側は厚真川によって大きく浸食された急峻な崖状の地形が直線的にみられる。

上述した厚真川浸食崖の一部に道路が付けられ、層理が発達した砂岩層までの露頭があったので、旧石器調査時のトレンチ断面と合わせて調査区の基本層序を表示した（図Ⅰ-6）。

調査区周辺の基盤層の標高は67ｍ前後でほぼ水平である、その上に段丘礫層（Ⅸ1～3層）が約70～100ｃｍ堆積している。下位は磨滅した礫が含まれ、上位は砂－シルトの互層で典型的な離水過程を示す堆積層である。この河岸段丘堆積物を被覆する堆積物が2.5ｍ堆積している。この層は角礫と砂、粘土により構成され、淘汰は極めて悪い。上幌内モイ遺跡やショロマ３遺跡の段丘面 $T_3$ で確認されており、背後により高位の段丘面や急傾斜地を伴う地点に堆積している。既に付替道路の橋脚があるため、東側の地形はよく看取できないが、橋脚工事施工前は背後の山地から張り出す微高地が突出しており、樽前ｄ火山灰降下以前のこの堆積層が本遺跡の地形の基層をなしていると思われる。斜面堆積物の形成は、最終氷期の断続的な凍結融解による斜面崩壊等の崖錐堆積物に近いものと思われる。上幌内モイ遺跡では、この斜面堆積物より下層から札滑型細石刃核が出土している。

図Ⅰ-5 周辺の遺跡と地形面区分

斜面堆積層の上位にローム質土、樽前ｄ軽石層(Ta-d2・Ⅷb)・スコリア（Ta-d1；Ⅷa）がのる。層厚は75～100cm。上述した尾根部分では薄く、斜面部には厚く堆積している。Ⅷb 層は部分的にクリオターベーションによるグライ化が進み、白色の色調を呈する部分もある。

本遺跡の堆積層序には恵庭ａテフラ及びその再堆積層を伴わないが、斜面堆積層は上幌内モイ遺跡の段丘面 $T_3$ と同じ状況であり、沖積低地との比高差とも合致している。

**Ｂ　地質**

既に遺跡形成以前の河岸段丘面の微地形について堆積状態も含め記述したことから、ここでは表土層から縄文時代早期後葉の遺物が出土するⅥ層漸移層までの堆積状態について記載する。

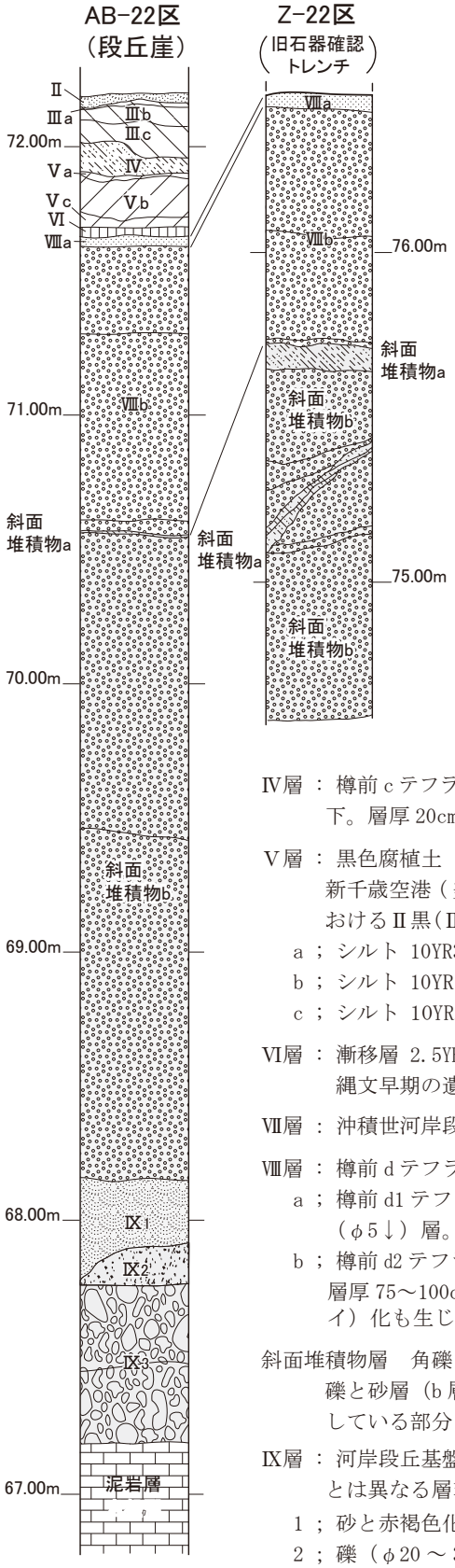
本遺跡は植林他による現代の撹乱を受けており、遺物包含層の残存状態は良好とは言えない。このため、近世アイヌ文化期に降下堆積した樽前山、駒ヶ岳のテフラや上層黒色土Ⅲ層は削平等によって遺失している範囲が広かった。通常は表土層直下にⅡａ層の樽前ａテフラ（Ta-a･1739 年降下）やⅡｄ層の樽前ｂテフラ（Ta-b･1667 年降下）が面的に堆積し、2 層の間にⅡｃ層の駒ヶ岳 c2 テフラ（Ko-c2・1694 年降下）が不連続に挟在している。また、樽前ｂテフラの直下には有珠ｂテフラが数ミリ程度の層厚で確認できるところもある。これらの近世アイヌ文化期の火山灰層は通常 30cm 前後の層厚で堆積している。近世火山噴出物の堆積層以下に遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層とⅤ層との間にⅣ層の樽前ｃテフラ（Ta-c･2500 B.P.年前後に降下）が堆積している。さらにⅤ層･Ⅵ層の下、もしくは再堆積層Ⅶ層の下に樽前ｄテフラⅧ層が堆積している。Ⅷ層は d1 と d2 の 2 層のユニットで堆積しており、樽前山起源の噴出物が計 4 層堆積している。このほかⅢ層中に白頭山苫小牧火山灰（B-Tm･10 世紀前半降下）が倒木痕の窪みなどに堆積している。

遺物包含層の調査は、南北 20 ラインと東西 AA ラインに幅 50cm のトレンチを掘開し、堆積状態の情報を参考として出土遺物取り上げ時の層位決定に留意した（図Ⅰ-2･9～15）。

縄文晩期後半以降の遺物包含層であるⅢ層黒色腐植土層は堆積が安定し色調や火山灰の混入比率により a～c までの 3 層に分層している。Ⅲb･Ⅲc 層はさらに上位･中位･下位に細分した発掘調査に留意ている。本層出土の遺物はⅡ層テフラに保護されていたことから、ほぼ原位置を保って出土することが多く、今回の調査でも中世アイヌ文化期の礫集中と擦文文化期前半の土器がⅢb 層下位の間層を挟んで出土している。この様な層位認識は千歳市教委でも詳細な土壌観察のうえでの発掘調査を行っており、厚真町における発掘調査では平成 14･15 年度に調査した厚幌 1 遺跡と平成 16 年度から調査を着手した上幌内モイ遺跡での調査成果によって確立した層位認識、調査方法である。なお本遺跡では調査区の大部分が削平を受けていたため、Ⅲ層は窪地などに残存していたに過ぎず、本来のⅢ層の成果とは言い難い状況であった。

Ⅳ層の樽前ｃテフラより下位の黒色腐植土Ⅴ層は、調査区内で面的に残っていたが、南東部尾根上は削平されていた。他の遺跡と比べて全体的に発達度合いが良く、20～40cm と厚く堆積していた。本層も上層の樽前ｃテフラの混入層で黒褐色のⅤａ層、中位の黒色土をⅤb 層、下層のローム質土やパミス等を漸移的に含み、黒褐色の下位層をⅤc 層として分層した。さらにⅤb 層は調査掘削回数を目安に上～下位にわけて遺物を取り上げており、概ね縄文時代後期の遺物はⅤb 層上位より出土し、Ⅴb 層下位からⅤc 層は中期から前期にかけての遺物が出土する傾向にある。

Ⅵ層は上層のⅤ層と下層の樽前ｄテフラ層との漸移層で、尾根上は層厚がやや薄い傾向にある。調査区の西端部周辺において本層より縄文時代早期後葉の中茶路式土器や末葉の東釧路Ⅳ式が出土している。他の遺跡においても同様の出土傾向があり、本地区における黒色腐植土層の発達開始時期が概ね縄文時代早期中葉から後葉にかけての可能性がある。（乾・宮塚）




Ⅰ層 ： 近現代表土　7.5YR3/1 黒褐色砂質土

Ⅱ層 ： 近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土

a ； 樽前ａテフラ（Ta-a）10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰 1739 年降下。部分的に堆積。層厚 5cm 前後。

b ； 黒色砂質腐植土層 10YR2/1 黒色 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）の調査における 0 黒層相当。

c ； 駒ケ岳 c2 テフラ（Ko-c2）10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰 1694 年降下。Ⅱb 層中において部分的に堆積。

d ； 樽前ｂテフラ（Ta-b）2.5YR7/3 浅黄色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20cm 前後。

e ；有珠ｂテフラ(Us-b) 2.5YR5/2 暗灰黄色 シルト質降下火山灰 1663年降下。層厚数ミリ。

Ⅲ層 ： 黒色腐植土

新千歳空港（美沢川流域の遺跡群)・苫小牧東部工業地の遺跡群の調査におけるⅠ黒(ⅠＢ)層相当。

a ； 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 Ⅱd 層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。

b ； シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 5cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。Ⅲb 層とⅢc 層との層境に白頭山苫小牧火山灰（ B-Tm シルト質降下火山灰 10c 前半降下）が部分的に堆積する。

c ； 砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 15cm 前後。続縄文～縄文晩期後半の包含層。

Ⅳ層 ： 樽前ｃテフラ（Ta-c）10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B.P.2,500 年前後降下。層厚 20cm 前後。一層のﾌｫｰﾙ･ﾕﾆｯﾄ。

Ⅴ層 ： 黒色腐植土

新千歳空港（美沢川流域の遺跡群)・苫小牧東部工業地帯の遺跡群の調査におけるⅡ黒(ⅡＢ)層相当。

a ； シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 2cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。

b ； シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 25cm 前後。縄文中･後期の遺物包含層。

c ； シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 15cm 前後。縄文前･中期の遺物包含層。

Ⅵ層 ： 漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚 10～20cm。縄文早期の遺物包含層。

Ⅶ層 ： 沖積世河岸段丘堆積物層（本遺跡では確認されなかった)。

Ⅷ層 ： 樽前ｄテフラ B.P.9,000 年前後降下。

a ； 樽前 d1 テフラ（Ta-d1）5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア（sfa *1）（φ5↓）層。層厚 10cm 前後。

b ； 樽前 d2 テフラ（Ta-d2）5YR4/8 赤褐色 中礫質降下パミス（pfa *2）層。層厚 75～100cm 前後。部分的にクリオターベーションによる粘土（グライ）化も生じている。(*1･2 町田･新井 1992)

斜面堆積物層　角礫と砂を主体とする再堆積層。粘土・シルト層（a 層）と角礫と砂層（b 層）に分けられる。a 層はｂ層上位を覆うが、b 層中に介入している部分も見られる。

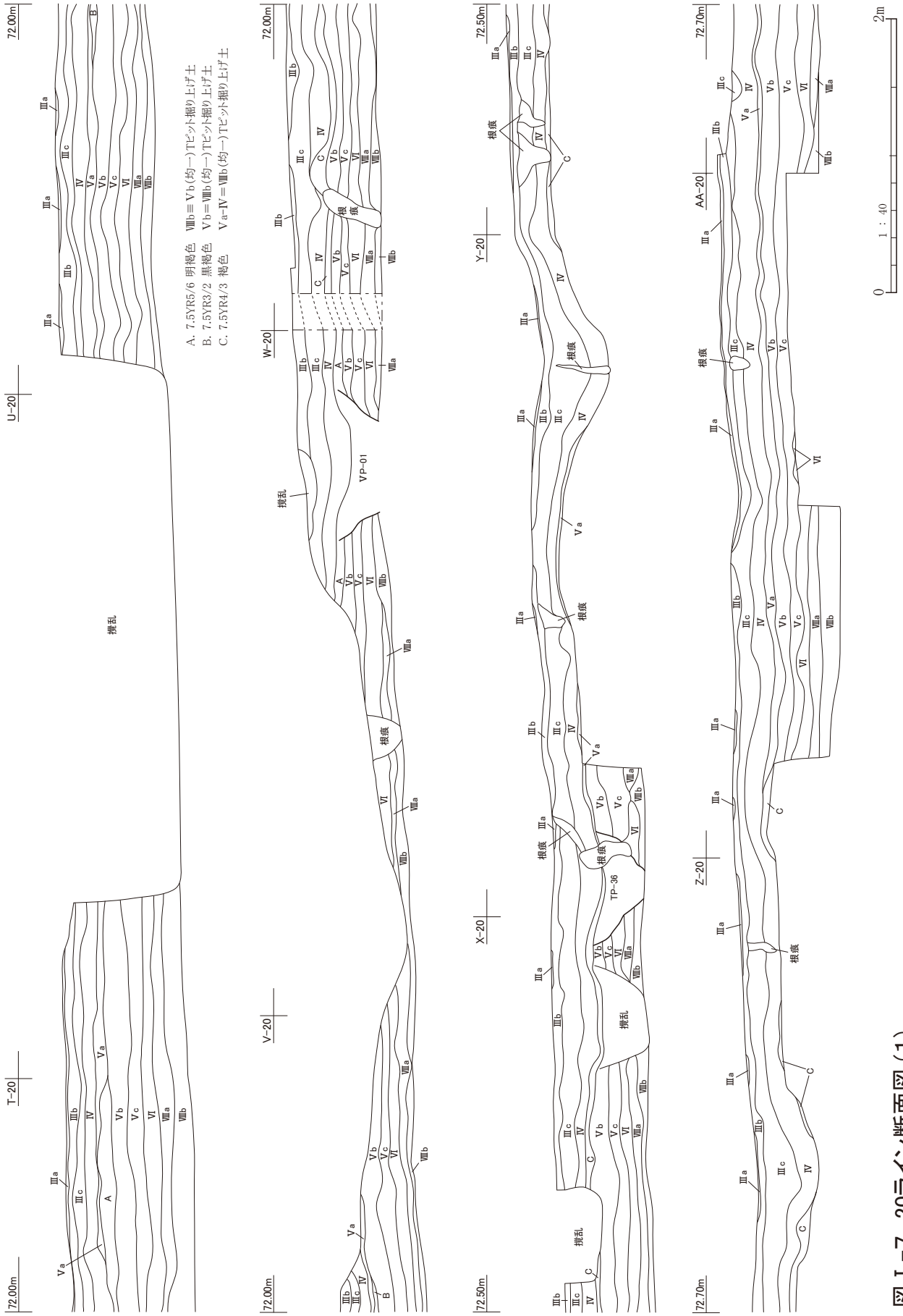
Ⅸ層 ： 河岸段丘基盤層　青灰色粘土質シルト層や砂・礫層。上幌内モイ遺跡とは異なる層準なので、a ～ c 層ではなく 1 ～ 3 層に分けた。

1 ； 砂と赤褐色化礫（鉄分沈着、φ5 ～ 10、転礫）の互層

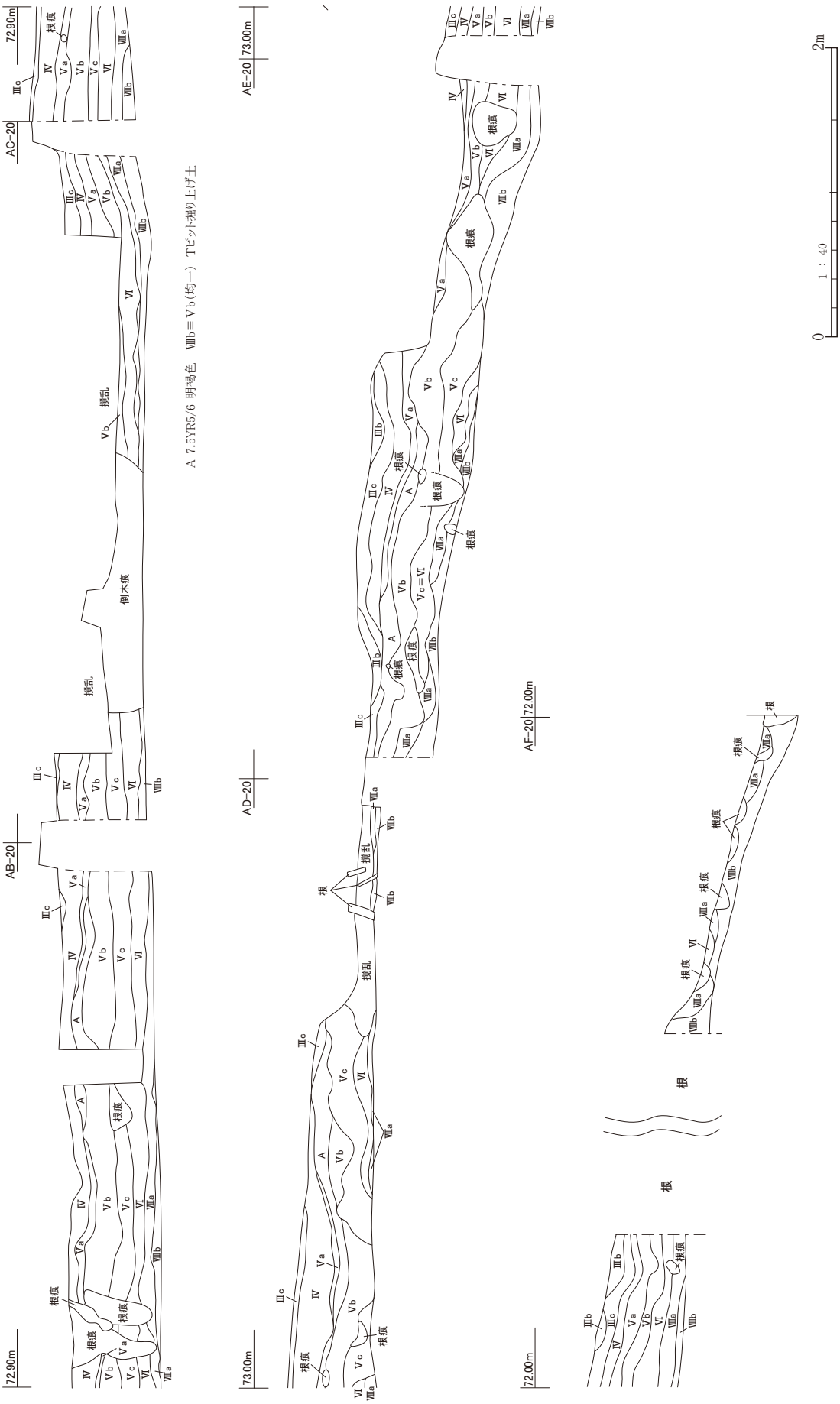
2 ； 礫（φ20 ～ 30 転礫）層

3 ； 礫（φ30 ～ 50 転礫）層

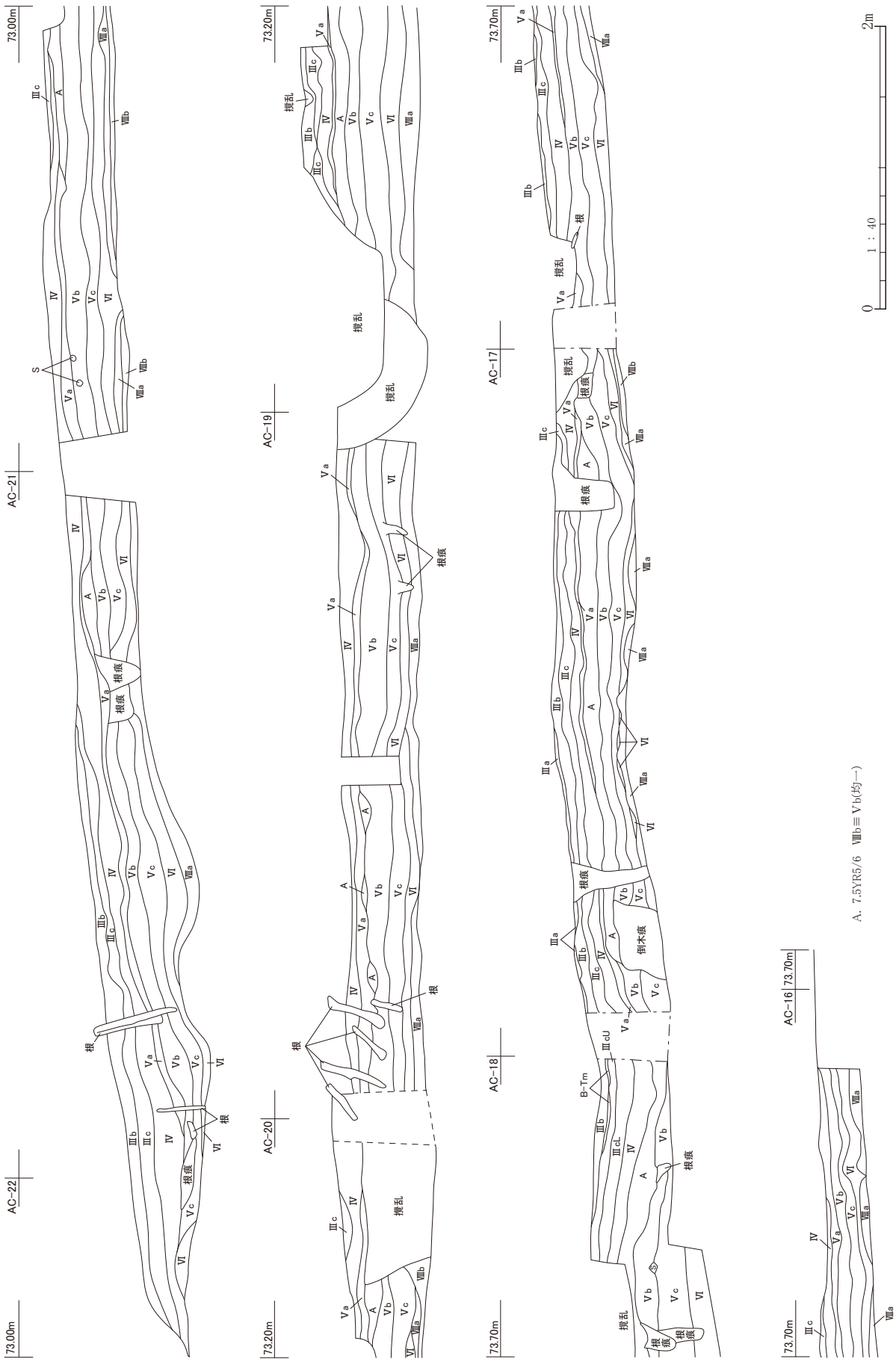
図Ⅰ－6 基本土層柱状図




図Ⅰ−7　20ライン断面図（1）




図Ⅰ-8　20ライン断面図(2)




図Ⅰ-9　ACライン東西断面図

# 第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

本章で取り扱う遺構及び遺物は、基本的にⅢb からⅢc 層中位より出土したものである。Ⅲ層については、植林他による撹乱・削平を受け、遺構及び遺物が希薄である。発見した遺構は焼土７ヵ所、土器集中２ヵ所、礫集中１ヵ所、杭穴１基である。

本章で掲載した遺構については、Ⅲ層黒色土が被覆する厚さからアイヌ文化期・擦文文化期に帰属すると考えられるが、土器集中を除いて明確な帰属時期は不明である。しかし、周辺の遺構・遺物の検出状態から当該期に帰属すると考えられ、本章で掲載している。

遺物については遺構から出土したものは遺構毎に、包含層から出土したものは一括して掲載している。

（宮塚）

**表Ⅱ-1　Ⅲ層検出遺構群一覧表**

| 遺構名 | 帰属時期 | 規　模(cm) | | グリッド | 検出確認層位 | 灰・骨片の有無 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長軸 | 短軸 | | | | |
| ⅢF-01 | アイヌ文化期 | 92 | 58 | AB-19 | Ⅲc | 灰層 | |
| ⅢF-02 | アイヌ文化期 | 45 | (37) | AB-18・19 | Ⅲc | － | |
| ⅢF-03 | アイヌ文化期 | 58 | 50 | AB-20 | Ⅲc | － | |
| ⅢF-04 | アイヌ文化期 | 18 | 14 | AB-20 | ⅢbL | － | |
| ⅢF-05 | アイヌ文化期 | 46 | (28) | AA-16 | ⅢbL | 灰層 | |
| ⅢF-06 | アイヌ文化期 | 32 | 21 | AC-17 | Ⅲc | － | |
| ⅢF-07 | アイヌ文化期 | 28 | 22 | X-17 | Ⅲc | － | |
| ⅢPB-01 | 擦文文化期 | 70 | 50 | W-19 | ⅢbM | － | |
| ⅢPB-02 | 擦文文化期 | 45 | 33 | U-20 | ⅢbM | － | |
| ⅢSB-01 | アイヌ文化期 | 75 | 50 | S-19 | ⅢbM | － | |
| ⅢKP-01 | アイヌ文化期 | 6 | 2 | Y-20 | Ⅳ | － | |

## 第１節　焼土

今回検出した焼土は７ヵ所である。調査区南側尾根上に６ヵ所（ⅢF-01～06）、調査区北側の尾根からやや下った位置に１ヵ所（ⅢF-07）の焼土を発見した（図Ⅱ－１）。共伴する遺物は出土していない。

**ⅢF-01**（図Ⅱ-２　図版 2-1・2）

位　置：AB-19 区　　規　模：92×58 ㎝　　検出層位：Ⅲc

一里沢遺跡の中では大型の焼土である。Ⅲc 層上面で検出した。植林他による撹乱を受けており、上部は削平されている。強い地山被熱層の上に一部撹乱を受けているが灰層を確認した。フローテーションサンプルを採取し、浮遊選別したが遺物等は検出できなかった。

**ⅢF-02**（図Ⅱ-２　図版 2-3・4）

位　置：AB-18・19 区　　規　模：45×（37）㎝　　検出層位：Ⅲc

Ⅲc 層精査中に発見した。上位は撹乱を受けており、現存する被熱層の厚さは６㎝である。

**ⅢF-03**（図Ⅱ-２　図版 2-5・6）

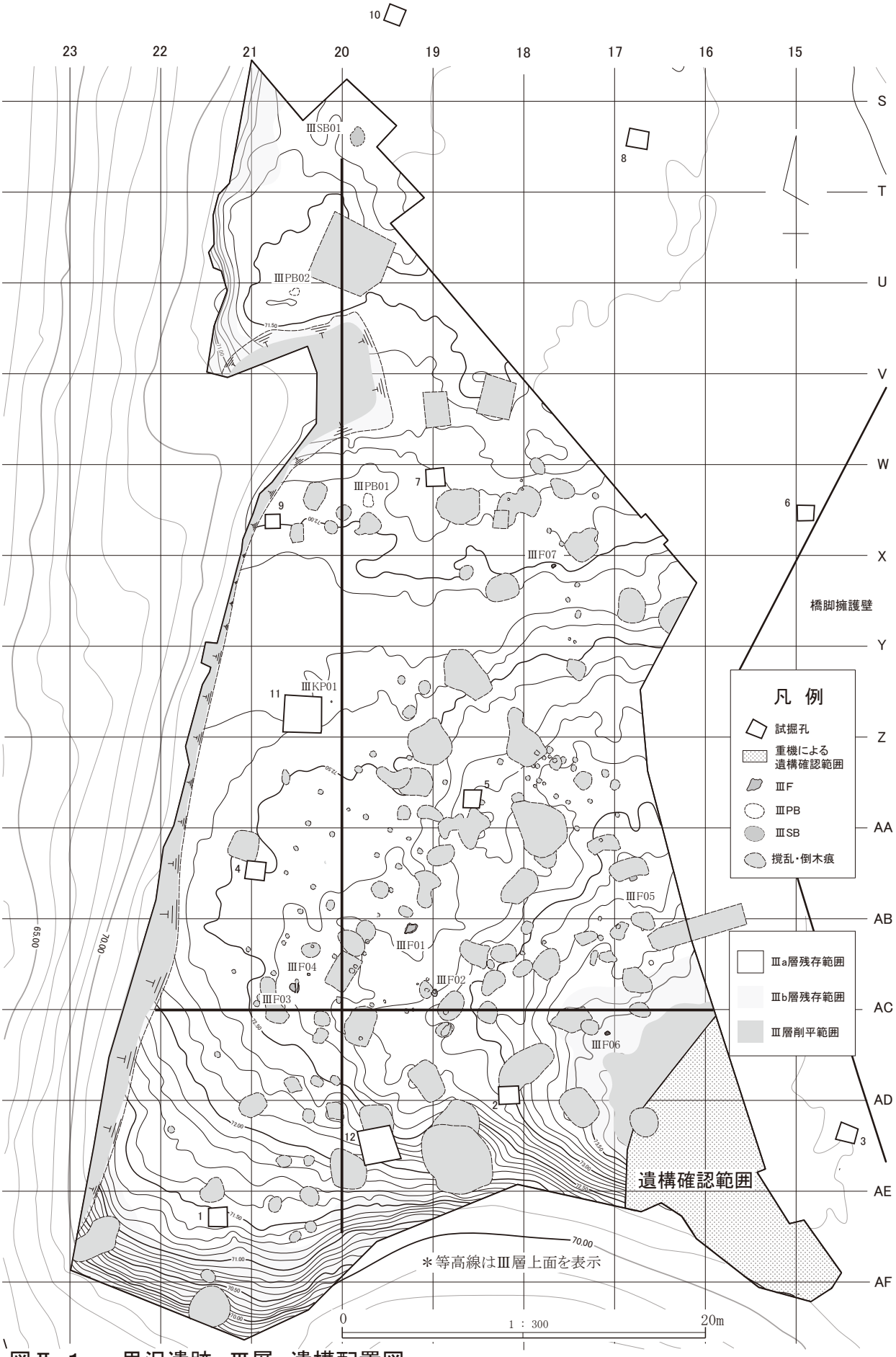
位　置：AB-20 区　　規　模：58×50 ㎝　　検出層位：Ⅲc

ⅢF-01・02 同様、上位は撹乱を受けており、現存する被熱層の厚さは８㎝である。被熱層は東側が根による、溝状に撹乱を受けている。

**ⅢF-04**（図Ⅱ-２　図版 2-7・8）

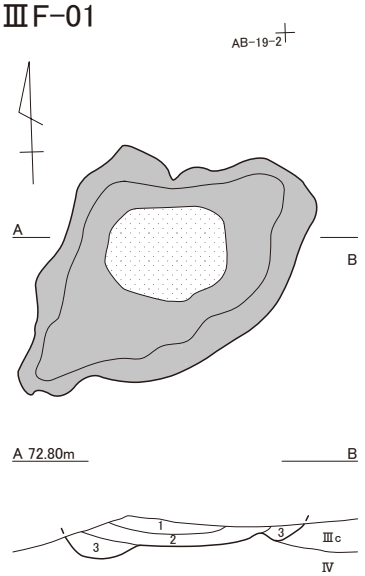
位　置：AB-20 区　　規　模：18×14 ㎝　　検出層位：ⅢbL

ⅢF-03 に近接して発見された。Ⅲb 層は東側には残っているが、西側には認められない。




図Ⅱ-1　一里沢遺跡　Ⅲ層　遺構配置図

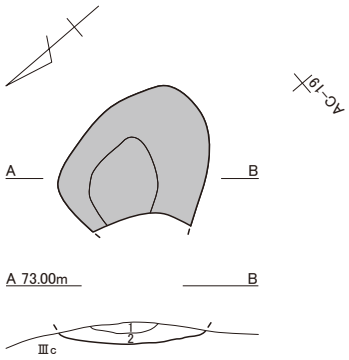
## ⅢF-01




### ⅢF-01

1. 7.5YR5/3 にぶい褐色　Ⅲc=灰(均一)
　一部撹拌を受けている
2. 2.5YR5/6 明赤褐色　Ⅲc地山被熱層(強い)
3. 2.5YR3/4 暗赤褐色　Ⅲc～Ⅳ層地山被熱層(弱い)

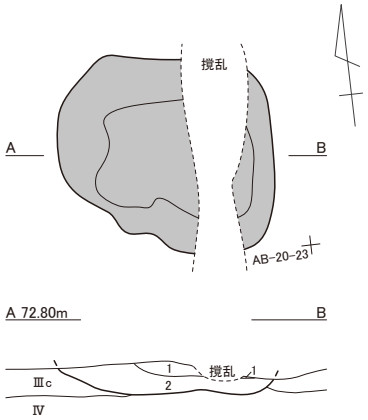
## ⅢF-02




### ⅢF-02

1. 5YR5/6 明赤褐色　Ⅲb地山被熱層(強い)
2. 5YR3/4 暗赤褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

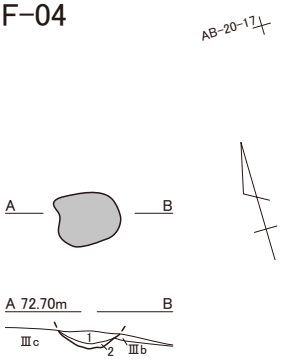
## ⅢF-03




### ⅢF-03

1. 5YR5/6 明赤褐色　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(強い)
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

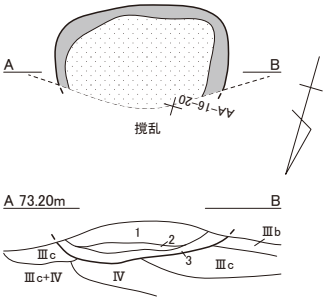
## ⅢF-04




### ⅢF-04

1. 5YR5/6 明赤褐色　Ⅲb～Ⅲc地山被熱層(強い)
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

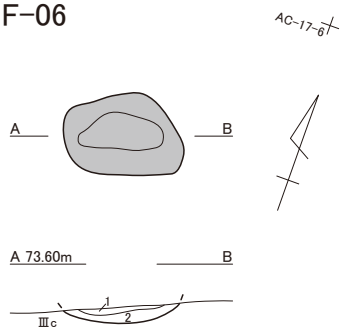
## ⅢF-05




### ⅢF-05

1. 5YR5/6　明赤褐色　灰層混じる　Ⅲb～Ⅲc地山被熱(強い)
2. 7.5YR5/3 にぶい褐色　灰層混じる　Ⅲc地山被熱層(弱い)
3. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅲc地山被熱層(弱い)

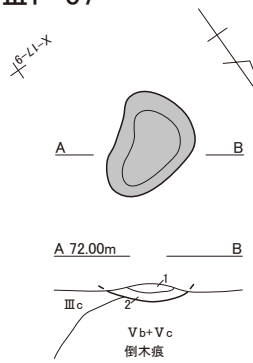
## ⅢF-06




### ⅢF-06

1. 5YR5/6　明赤褐色　Ⅲc地山被熱(強い)
2. 7.5YR3/4 暗褐色　地山被熱層(弱い)

## ⅢF-07




### ⅢF-07

1. 5YR5/6　明赤褐色　Ⅲc・Ⅴb・c(倒木痕揚土)被熱層(強い)
2. 7.5YR3/4 暗褐色　地山被熱層(弱い)

0　1：20　1m

図Ⅱ-2　ⅢF-01～07 平面及び断面図

**ⅢF-05**（図Ⅱ－２　図版 3-1・2）

位　置：AA-16 区　　規　模：46×(28)㎝　　検出層位：ⅢbL

尾根から北に下った調査区の東側に単独で占地する。灰層を検出し、周辺を精査したが、柱穴他の遺構は検出できなかった。上位のⅢ層上面は削平されている。フローテーションサンプルを採取し、浮遊選別したが遺物は検出できなかった。

**ⅢF-06**（図Ⅱ－２　図版 3-3・4）

位　置：AC-17 区　　規　模: 33×21 ㎝　　検出層位：Ⅲc

Ⅲc 層精査中に発見した。尾根上に位置する。周辺は撹乱・削平されており、現存する層厚は僅かに 4㎝ である。

**ⅢF-07**（図Ⅱ－２　図版 3-5・6）

位　置：X-17 区　　規　模：28×22 ㎝　　検出層位：Ⅲc

調査区南側の尾根から北に下った区域は、比較的撹乱が少ないが、本焼土は倒木痕の上に作られており倒木痕に接するⅢc 層精査中に検出された。現存する被熱層の厚さは 5㎝。

**表Ⅱ-2　ⅢF属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層 位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 灰・骨片の有無 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| Ⅱ-2 | 2-1・2 | ⅢF-01 | AB-19 | Ⅲc | 不整形 | 92 | 58 | 8 | 灰層 | |
| Ⅱ-2 | 2-3・4 | ⅢF-02 | AB-18・19 | Ⅲc | 楕円形 | 45 | (37) | 6 | － | |
| Ⅱ-2 | 2-5・6 | ⅢF-03 | AB-20 | Ⅲc | 隅丸方形 | 58 | 50 | 8 | － | 根による撹乱あり |
| Ⅱ-2 | 2-7・8 | ⅢF-04 | AB-20 | ⅢbL | 不整形 | 18 | 14 | 5 | － | |
| Ⅱ-2 | 3-1・2 | ⅢF-05 | AA-16 | ⅢbL | 不整形 | 46 | (28) | 10 | 灰層 | 撹乱により一部損壊 |
| Ⅱ-2 | 3-3・4 | ⅢF-06 | AC-17 | Ⅲc | 楕円形 | 33 | 21 | 4 | － | |
| Ⅱ-2 | 3-5・6 | ⅢF-07 | X-17 | Ⅲc | 楕円形 | 28 | 22 | 5 | － | |

## 第２節　遺物集中

### １. 土器集中

今回発見した土器集中は２ヵ所である。いずれも調査区北側、厚真川浸食崖縁辺部に位置する。２ヵ所の中間に、現代に開削された道路跡が存在するが、土器集中はこの道路からは離れており撹乱は受けていない。

**ⅢPB-01**（図Ⅱ－３・４-1　図版 3-7・8 4-1　38-1-1）

位　置：W-19 区　　規　模：70×50 ㎝　　検出層位：ⅢbM

Ⅲa 層を除去した段階で発見した。下位に苫小牧白頭山火山灰（B-Tm）が検出され、B-Tm より 3～4㎝ 上位から出土した。出土した土器は図Ⅱ－４に掲載した。27 片が接合したが胴下半部から下は現存しない。口縁部はナデのままで、頚部に刻み、胴部に縦走沈線、その間に斜行沈線を巡らせる。縦走沈線の上に横走沈線が見られる。内面は口縁部がヨコ、胴部はタテのヘラミガキ調整が施される。時期は擦文文化期後期と考えられる。

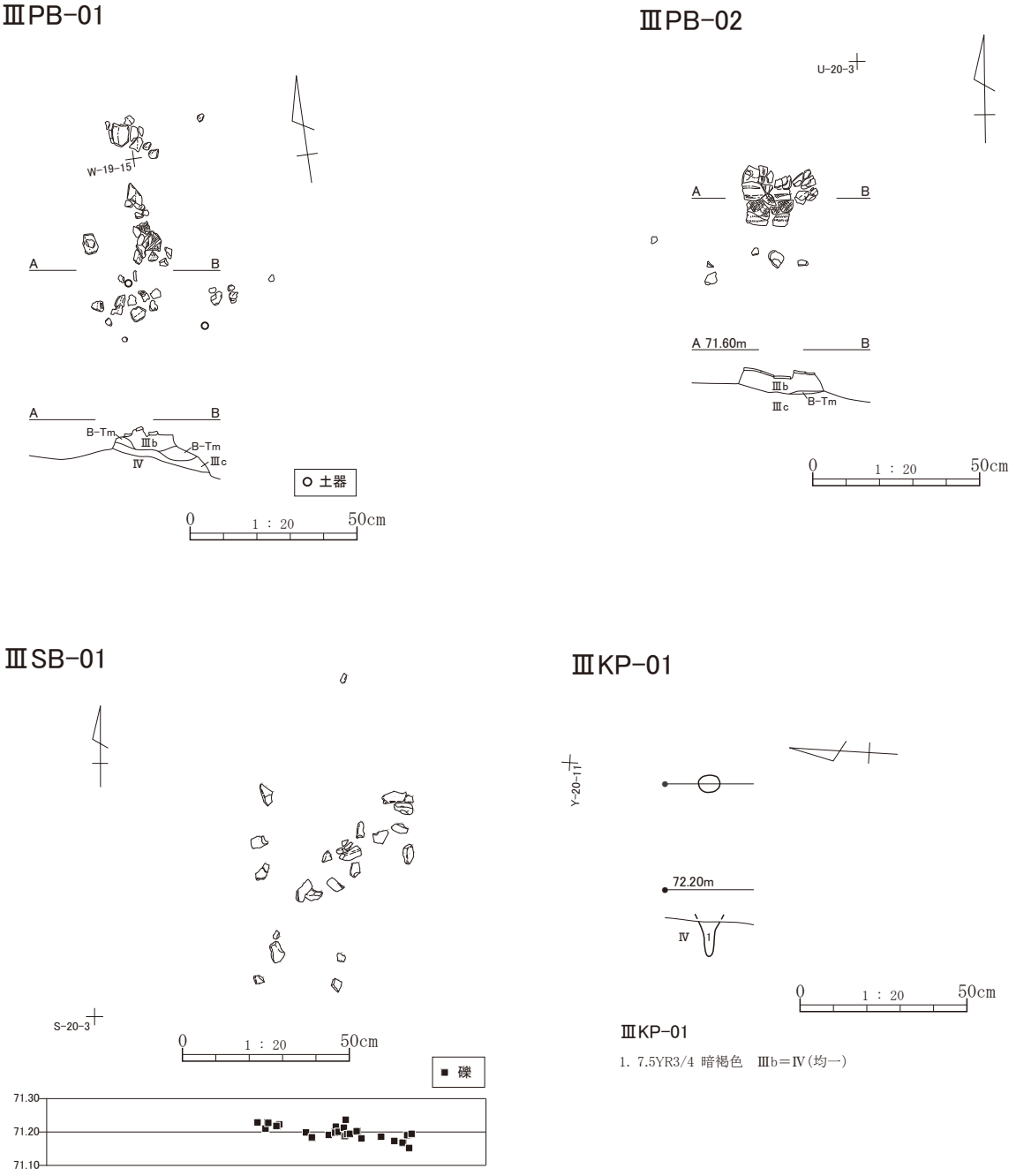
**ⅢPB-02**（図Ⅱ－３・４-2　図版 4-2・3・4　38-1-2）

位　置：U-20 区　　規　模：45×33 ㎝　　検出層位：ⅢbM

ⅢPB-01 同様、下位に苫小牧白頭山火山灰（B-Tm）が検出され、B-Tm より 2～4㎝ 上位から出土した。出土した土器（図Ⅱ－４-2）は 30 片が接合したが、口縁部から胴下半部までの３分の１周する破片である。口縁部はナデの上に横走沈線、頚部には刻みを施文している。胴部は斜行沈線による格子目文を巡らせる。胴下半部はタテのヘラミガキ。内面は口縁部がヨコ、胴部はタテのヘラミガキが施される。

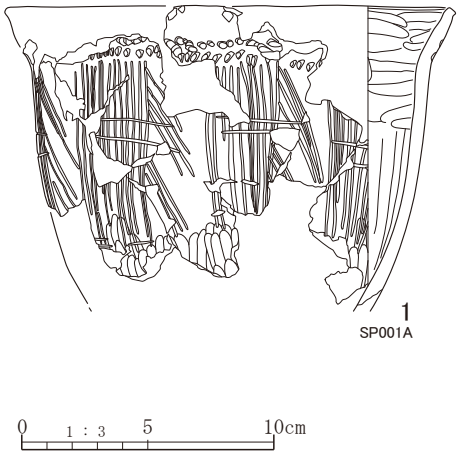
表Ⅱ-3　ⅢPB属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 被熱の有無 | 灰・骨片の有無 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-3 | 3-7・8<br>4-1 | ⅢPB-01 | W-19 | ⅢbM | 不整形 | 70 | 50 | - | - | - | |
| Ⅱ-3 | 4-2・3・4 | ⅢPB-02 | U-20 | ⅢbM | 不整形 | 45 | 33 | - | - | - | |




図Ⅱ-3　ⅢPB-01・02・ⅢSB-01・ⅢKP-01平面及び断面図

ⅢPB-01




ⅢPB-02

図Ⅱ-4　ⅢPB-01･02 出土土器

表Ⅱ-4　ⅢPB出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 調査区遺構名 | 層位 | 点数 | 部位 | 器面調整 | | | 文様 | 胎土(砂粒) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口唇 | 器表面(口縁部/胴部/底部) | 内面 | 口縁部等/文様帯 | | |
| Ⅱ-4-1 | 38-1-1 | SP001A | ⅦB3 | ⅢPB-01 | ⅢbM | 26 | 口縁部～胴部 | ミガキ | ナデ/ミガキ | ミガキ | 刻み/縦走・斜行・横走沈線 | 砂粒中量混入 | |
| | | | | | ⅢbL | 1 | | | | | | | |
| Ⅱ-4-2 | 38-1-2 | SP002A | ⅦB3 | ⅢPB-02 | ⅢbL | 30 | 口縁部～胴部 | ナデ | ナデ/ミガキ | ミガキ | 横走沈線＋刻み/斜行沈線・横走沈線 | 砂粒少量混入 | |

## 2．礫集中

調査した礫集中は１ヵ所で、調査区北端に位置する。Ⅴ層調査中に調査区外に延びるＴピットを発見し拡張したところ、Ⅲ層から礫集中を発見した。土器集中と同一層位である。

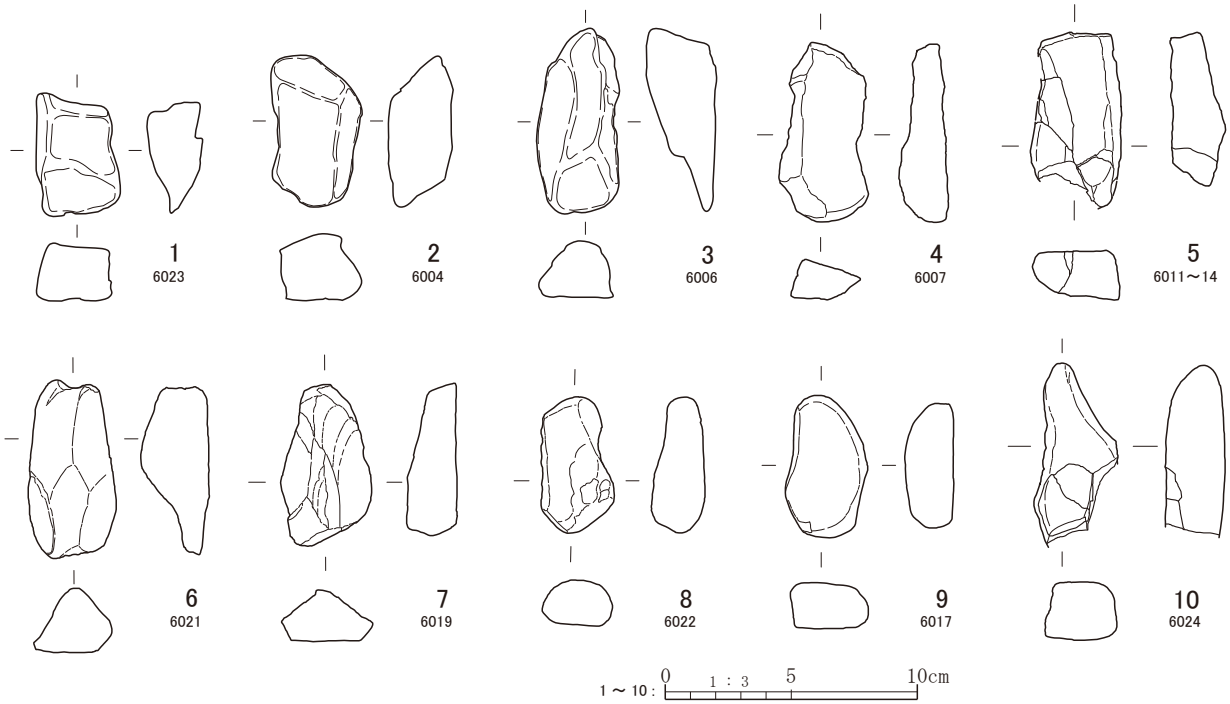
**ⅢSB-01**（図Ⅱ-３・５-1～10　図版 4-7･8　39-1）

位　置：S-19 区　　規　模：75×50 ㎝　　検出層位：ⅢbM

南西-北東にかけて厚真川浸食崖に沿うように発見された。垂直分布図で東側に傾斜しているのは、Ⅴ層のＴピットの窪みに沿っているためである。被熱礫は検出していない。

表Ⅱ-5　ⅢSB属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層 位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 被熱の有無 | 灰･骨片の有無 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-3 | 4-7･8 | ⅢSB-01 | S-19 | ⅢbM | 不整形 | 75 | 50 | － | － | － | |




図Ⅱ-5　ⅢSB-01出土礫

表Ⅱ-6　ⅢSB-01出土礫属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 層位 | 遺構グリッド | 計測値(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 39-1-1 | - | 6001 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (29.1) | 26.8 | (17.1) | (15.0) | Sa. | 欠 |
| | | - | 6002 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (30.0) | (22.5) | (10.7) | (6.5) | Mud. | 破片 |
| | | - | 6003 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (35.8) | 26.0 | 15.1 | (13.2) | Sa. | 欠 |
| Ⅱ-5-2 | | - | 6004 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 59.3 | 36.1 | 26.7 | 56.9 | Mud. | 完 |
| | | - | 6005 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (23.2) | (14.6) | (13.0) | (5.4) | Sa. | 破片 |
| Ⅱ-5-3 | | - | 6006 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 73.5 | 31.2 | 23.0 | 55.6 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-5-4 | | - | 6007 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 71.4 | 34.3 | 16.0 | 47.0 | Sa. | 完 |
| | | - | 6008 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 50.7 | 27.9 | 17.7 | 30.8 | Sa. | 完 |
| | | - | 6009 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (57.5) | 27.4 | 12.0 | (17.8) | Sa. | 欠 |
| | | - | 6010 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (35.2) | 25.9 | 8.3 | (8.1) | Mud. | 欠 |
| Ⅱ-5-5 | | - | 6011<br>6012<br>6013<br>6014 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (68.8) | 34.2 | 17.0 | (57.8) | Sa | 接合 |
| | | - | 6015 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (44.5) | (27.5) | (20.7) | (26.4) | Sa. | 欠 |
| | | - | 6016 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (50.9) | 36.5 | 12.2 | (19.9) | Sa. | 欠 |
| Ⅱ-5-9 | | - | 6017 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 56.8 | 31.6 | 18.0 | 43,8 | Sa. | 略完 |
| | | - | 6018<br>6020 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (45.7) | (42.5) | 30.0 | (28.3) | Mud. | 接合 |
| Ⅱ-5-7 | | - | 6019 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 61.0 | 35.3 | 20.2 | 42.1 | Mud. | 完 |
| Ⅱ-5-6 | | - | 6021 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 69.8 | 30.2 | 27.5 | 50.1 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-5-8 | | - | 6022 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 50.0 | 30.7 | 18.6 | 34.2 | Sa. | 略完 |
| Ⅱ-5-1 | | - | 6023 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | 49.3 | 33.0 | 22.1 | 36.7 | Mud. | 完 |
| Ⅱ-5-10 | | - | 6024 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (70.7) | 29.2 | 22.6 | 56.9 | Sa. | 欠 |
| | | - | 6025 | | S | ⅢbL | ⅢSB-01 | (26.5) | (18.6) | (14.3) | (5.9) | Sa. | 破片 |

### ３．杭穴

**ⅢKP-01**（図Ⅱ－３　図版 4-5･6）

位　置：Y-20 区　　規　模：上端 6cm×下端 2 ㎝　深さ 10 ㎝　検出層位：Ⅳ

Ⅲc 層調査中に、Ⅳ層上面で杭穴の落ち込みを確認した。周辺を精査したが杭列跡は検出できなかった。杭穴底はⅣ層中にあり、Ⅴ層には到達していない。

**表Ⅱ-7　杭穴属性表**

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 規模(㎝) | | | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 上端 | 下端 | 深さ | | | |
| Ⅱ-3 | 4-5･6 | ⅢKP-01 | Y-20 | Ⅳ | 6 | 2 | 10 | 3 | 打込み | |

## 第３節　Ⅲ層包含層出土遺物

### １．土器（図Ⅱ－６-1　図版 38-2-1）

Ⅲ層包含層から出土した土器の内、図示できるものは 1 点のみである。1 は横走縄文を施文した胴部破片である。続縄文時代前半汐見式に相当する。

### ２．礫石器（図Ⅱ－６-2～9　図版 38-2-2～9）

2～6 は砂岩製のたたき石。2･4･5 は棒状礫の先端部に近い腹面に敲打痕が残る。3 は稜を持つ棒状礫の側縁と腹部稜上に、6 は側縁に敲打痕が残る。7 は砂岩製の台石、平坦面稜近くに敲打痕が残る。8 は泥岩の滑沢面のある礫、9 は砂岩製の線条痕のある礫。

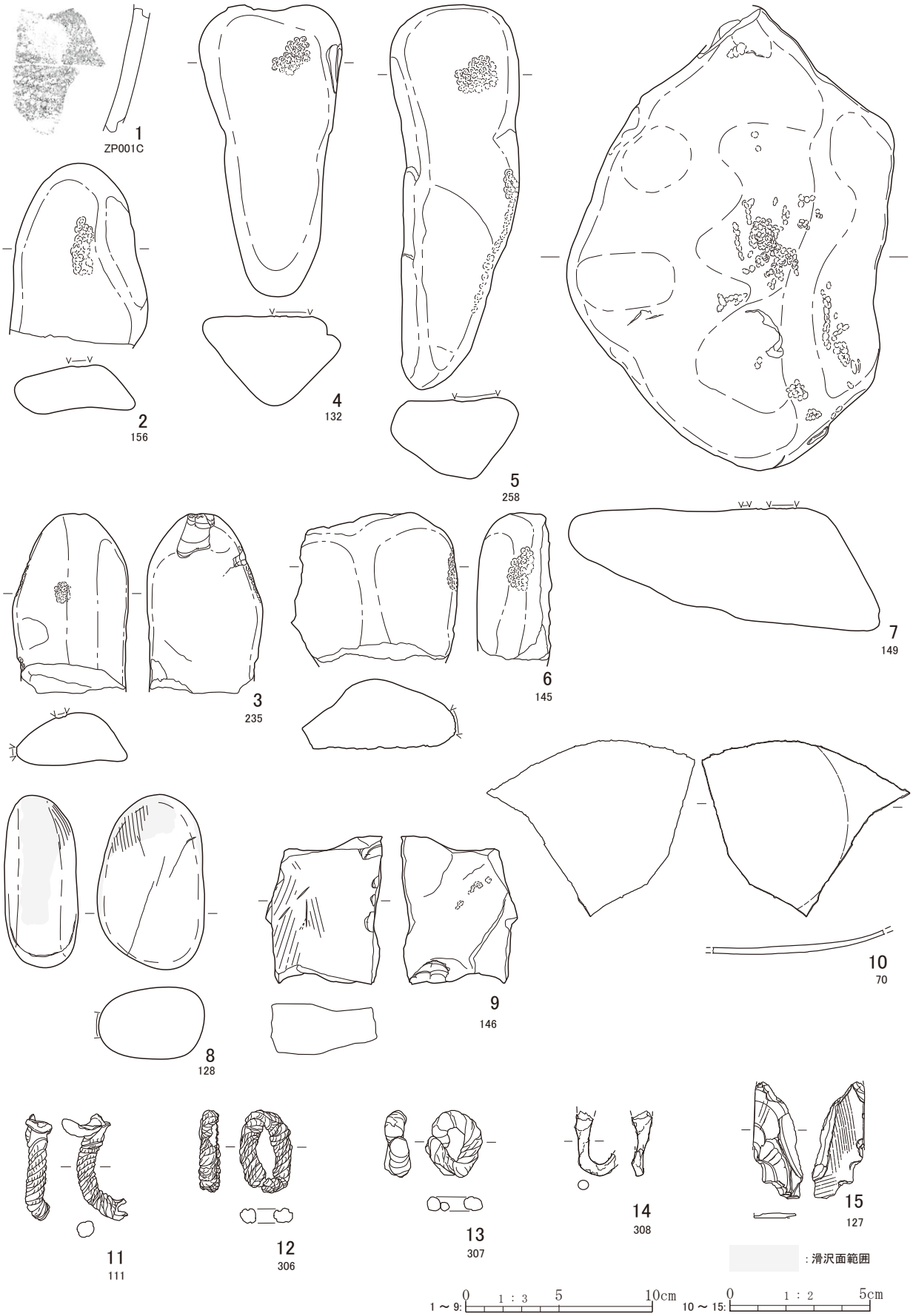
### ３．鉄製品（図Ⅱ－６-10～14　図版 38-2-10～14）

10 は鉄鍋片。調査区南側、尾根から南に向かって傾斜する斜面上部から出土した。

11～13 は鉄線を 2-3 本束ねてリング状に成形した鉄製品。11 は板状の鉄片が付着しているが錆が著しく全体の形状は不明。14 は鉤状の鉄製品、断面は円形をなす。形状・サイズより鉤針の可能性がある。11～14 は調査区南端部斜面下から出土している。

### ４．石製品（図Ⅱ－６-15　図版 38-2-15）

10 と同様、調査区南側、尾根から南に向かって傾斜する斜面上部から出土した。裏面に丁寧に研磨された面を残し、直角に近い角をもつ。硯片か、よく水をはじく。粘板岩製。　（宮塚）




図Ⅱ-6　Ⅲ層包含層出土遺物

## 表Ⅱ-8　Ⅲ層包含層出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 調査区遺構名 | 層位 | 点数 | 部位 | 器面調整 | | | 文様 | 胎土(砂粒) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口唇 | 器表面 | 内面 | 口縁部等/文様帯 | | |
| Ⅱ-5-1 | 38-2-1 | ZP001 C | ⅥA1b | V-18 | ⅢbL | 1 | 胴部 | - | ナデ | ナデ | LR横走縄文 | 砂粒少量混入 | |
| | | | | V-19 | ⅢbM | 1 | | | | | | | |

## 表Ⅱ-9　Ⅲ層包含層出土石器・鉄製品他属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 層位 | 遺構/グリッド | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| Ⅱ-6-2 | 38-2-2 | - | 156 | たたき石 | ⅠA1 | Ⅲc | S-20 | (94.0) | 72.6 | 23.8 | (230.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅱ-6-3 | 38-2-3 | - | 235 | たたき石 | ⅠA3 | ⅢbL | V-17 | (96.6) | 61.5 | 29.8 | (212.5) | Sa. | 欠 |
| Ⅱ-6-4 | 38-2-4 | - | 132 | たたき石 | ⅠB1 | ⅢbL | AA-18 | 157.0 | 76.7 | 51.8 | 525.0 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-6-5 | 38-2-5 | - | 258 | たたき石 | ⅠB3 | ⅢbL | Z-18 | 207.0 | 61.1 | 58.2 | 810.0 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-6-6 | 38-2-6 | - | 145 | たたき石 | ⅡA2 | ⅢbL | AB-20 | 28.0 | (78.7) | 36.6 | (339.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅱ-6-7 | 38-2-7 | - | 149 | 台石 | - | Ⅲc | AD-18 | 248.0 | 172.0 | 65.0 | 3,050.0 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-6-8 | 38-2-8 | - | 128 | 滑沢面のある礫 | - | ⅢbL | AA-19 | 93.3 | 57.0 | 38.5 | 336.0 | Mud. | 完 |
| Ⅱ-6-9 | 38-2-9 | - | 146 | 線条痕のある礫 | - | Ⅲc | AB-20 | 77.5 | 58.2 | 30.5 | 175.0 | Sa. | 完 |
| Ⅱ-6-10 | 38-2-10 | - | 70 | 鉄鍋片 | - | Ⅲc | AD-21 | (75.0) | (60.2) | 0.1 | (36.8) | Irn. | 破片 |
| Ⅱ-6-11 | 38-2-11 | - | 111 | ワイヤー状製品 | - | Ⅲc | AF-21 | (40.1) | (16.3) | 5.2 | (5.4) | Irn. | 破片 |
| Ⅱ-6-12 | 38-2-12 | - | 306 | ワイヤー状製品 | - | Ⅲc | AF-21 | 30.5 | 18,3 | 6.2 | 6.6 | Irn. | 完 |
| Ⅱ-6-13 | 38-2-13 | - | 307 | ワイヤー状製品 | - | Ⅲc | AF-21 | 25.4 | 18.4 | 6.4 | 6.1 | Irn. | 完 |
| Ⅱ-6-14 | 38-2-14 | - | 308 | 鉤状鉄製品 | - | Ⅲc | AF-21 | (25,3) | (15.2) | 5.5 | (1.5) | Irn. | 破片 |
| Ⅱ-6-15 | 38-2-15 | - | 127 | 石製品 | - | Ⅲc | AD-21 | (44.1) | (16.2) | 2.7 | (2.6) | Sl. | 破片、硯? |

# 第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

一里沢遺跡における平成26年度の調査では、縄文時代の土坑（VP）3基、焼土（VF）3ヵ所、Tピット（TP）47基、土器集中（VPB）17ヵ所、礫集中（VSB）4ヵ所、剥片集中（VFCB）1ヵ所を検出した。

遺跡の段丘礫集中層・岩盤層は斜面堆積物に覆われており、調査区中央部東側から南西部に向かって伸びる尾根上から南北に傾斜した斜面上にも遺構が占地する（図Ⅲ-1）。

樽前 c 火山灰（Ta-c；Ⅳ）層を除去後、Va 層上面を精査し、コンター測量を行った。Va 層検出時点で、Tピットの掘り上げ土と思われる再堆積の樽前 d 火山灰（Ta-d）層が検出されたので、Tピットの切り合い関係を明らかにすべく、ベルトを残して調査を進めた。層位的に数cmづつ包含層を掘削し、遺構・遺物の確認に努めた。厚真川浸食崖に沿う調査区は、Ⅴ層が流出している部分が多く、Ta-c（Ⅳ）層の直下にⅥ層が存在した。また、上述した尾根上の高まりから南側は斜面をなし、Ⅳ層・Ⅴ層の流出が著しく、両層が混在して堆積していた。

土坑は厚真川浸食崖に沿って、調査区の中央より北側に占地する。坑底に杭と思われるピットを検出した。

焼土は3ヵ所検出したが、内1ヵ所はTピットの覆土に流れ込んだもので、明瞭な燃焼面・地山被熱層等が見られないことから、位置のみを計測し、検出写真を撮るのみに留めた。

Tピットは47基検出した。溝状の2基を除いて、楕円形の平面形をもち、坑底に杭穴を残すものが多い。杭穴は多いもので16本確認したTピットも存在する。

土器集中は17ヵ所の多くを検出した。17ヵ所の内、11ヵ所が厚真川浸食崖、1ヵ所が一里沢川浸食崖に沿って、5ヵ所が調査区中央部、尾根から北に下がった斜面に存在する。

礫集中は調査区南西端に3ヵ所、調査区中央部東端に1ヵ所検出された。

遺物は縄文時代早期から晩期のものが出土しているが、土器は後期のものが最も多く、次いで早期、中期のものが見つかっている。早期のものは後半期のもの、中期は前半期、後期は初頭から前半期のものに限られる。石器の中で、北海道式石冠を含む包含層を切ってTピットが掘削されている例が特徴的である。

縄文時代の遺物は、Ⅴ・Ⅵ層から出土しており、土器2,111点、土製品57点、剥片石器101点、礫石器372点、石斧石器群剥片95点、石製品5点、フレイク・チップ類938点、礫1,265点、杭（逆茂木）5点、総計4,949点である。（宮塚）

図Ⅲ-1　一里沢遺跡　Ⅴ層　遺構配置図

## 表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表

| 遺構名 | 帰属時期 | 規模(cm) | | グリッド | 層位 | 付属・関連遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長軸 | 短軸 | | | | |
| VP-01 | 縄文時代 | 143 | 107 | V-19・20 | Ⅵ | - | KP、掘り上げ土あり |
| VP-04 | 縄文時代 | 140 | 111 | Z-19 | Vc | - | 掘り上げ土あり、旧TP-27 |
| VP-05 | 縄文時代 | 151 | 113 | T・U-20 | Ⅵ | - | KPあり、旧TP-45 |
| VF-01 | 縄文時代 | 43 | 32 | AE-20 | VbU | - | |
| VF-02 | 縄文時代 | 84 | 56 | AE-20・21 | Ⅵ | - | |
| VF-03 | 縄文時代 | 25 | 18 | V-18 | VbU | - | |
| TP-01 | 縄文時代 | 180 | 176 | AC-19・20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-02 | 縄文時代 | 171 | 164 | T-21 | Vc | - | KP2 |
| TP-03 | 縄文時代 | (150) | (164) | W-20・21 | Vb | - | 道路により半壊、KP1 |
| TP-04 | 縄文時代 | 230 | 160 | AC-18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP6 |
| TP-05 | 縄文時代 | 304 | 88 | AC-20・21 | Vc | - | |
| TP-06 | 縄文時代 | (230) | 120 | AD・AE-21 | Vb | - | 掘り上げ土あり |
| TP-07 | 縄文時代 | 225 | 211 | AB-20・21 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP6 |
| TP-08 | 縄文時代 | 200 | 161 | AC-16・17 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP4 |
| TP-09 | 縄文時代 | 219 | 153 | AB・AC-17・18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP5 |
| TP-10 | 縄文時代 | 130 | 120 | AC-17 | Vc | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-11 | 縄文時代 | (164) | 91 | AC-18・19 | Vc | - | 掘り上げ土あり |
| TP-12 | 縄文時代 | 193 | 170 | AD-22 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-13 | 縄文時代 | 180 | 170 | AB-20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-14 | 縄文時代 | 302 | 279 | AA-20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP16 |
| TP-15 | 縄文時代 | 224 | 154 | AE-20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-16 | 縄文時代 | 270 | 225 | AD・AE-21・22 | Vc | - | 掘り上げ土あり、KP9 |
| TP-17 | 縄文時代 | 170 | 130 | AB-16 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP1 |
| TP-18 | 縄文時代 | 160 | 119 | AA・AB-16 | Vc | - | 掘り上げ土あり、KP6 |
| TP-19 | 縄文時代 | 158 | (125) | AC・AD-19 | Ⅵ | - | KP2 |
| TP-20 | 縄文時代 | 220 | 139 | AA・AB-18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP5 |
| TP-21 | 縄文時代 | 204 | 157 | AA-18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP1 |
| TP-22 | 縄文時代 | 165 | 115 | AA・AB-20・21 | Vb | - | |
| TP-23 | 縄文時代 | (161) | (100) | Z・AA-16 | Vb | - | 掘り上げ土あり |
| TP-24 | 縄文時代 | 120 | (115) | AC・AP-19 | Ⅷa | - | KP2 |
| TP-25 | 縄文時代 | (160) | 130 | Y・Z-18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-26 | 縄文時代 | 180 | 150 | AA-19 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-28 | 縄文時代 | 250 | 160 | X・Y-19・20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP5 |
| TP-29 | 縄文時代 | 158 | 140 | Y-19・20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP1 |
| TP-30 | 縄文時代 | 190 | 165 | Z-16・17 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP1 |
| TP-31 | 縄文時代 | 210 | 158 | Y-17 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP7 |
| TP-32 | 縄文時代 | (155) | (140) | Y-18 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP8 |
| TP-33 | 縄文時代 | 197 | 160 | X・Y-17 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP4 |
| TP-34 | 縄文時代 | 260 | 220 | W・X-18・19 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP8 |
| TP-35 | 縄文時代 | 143 | 118 | W-18・19 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-36 | 縄文時代 | 180 | (134) | X-19・20 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP4 |
| TP-37 | 縄文時代 | 205 | 180 | W・X-17・18 | Ⅵ | - | 掘り上げ土あり、KP6 |
| TP-40 | 縄文時代 | 195 | 155 | W-17・18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-41 | 縄文時代 | 200 | 155 | V・W-17・18 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-42 | 縄文時代 | (104) | 130 | W-17 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP1 |
| TP-43 | 縄文時代 | (160) | 98 | W・X-17 | Vb | - | KP1 |
| TP-44 | 縄文時代 | 150 | 120 | U-19 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP2 |
| TP-46 | 縄文時代 | (110) | 170 | X・Y-21 | Ⅵ | - | KP5 |
| TP-47 | 縄文時代 | 260 | 185 | W・X-16 | Ⅵ | - | KP2 |
| TP-49 | 縄文時代 | 194 | 155 | S・T-19 | Vb | - | 北半分は調査範囲外<br>掘り上げ土あり |
| TP-50 | 縄文時代 | 230 | 220 | V・W-17 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-51 | 縄文時代 | 230 | 165 | S-19 | Vb | - | 掘り上げ土あり、KP3 |
| TP-52 | 縄文時代 | 172 | 145 | R・S-19・20 | Vb | - | KP6 |

表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表(続き)

| 遺構名 | 帰属時期 | 規模(cm) | | グリッド | 層位 | 付属遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長軸 | 短軸 | | | | |
| VPB-01 | 円筒上層a・b | 346 | 155 | AA・AB-21 | VbU | | |
| VPB-02 | 東釧路Ⅳ | 213 | 157 | AA-21・22 | Vc | | |
| VPB-03 | タプコプ | 195 | 107 | Z-20・21 | VbU | | VPB-04近接 |
| VPB-04 | タプコプ | 186 | 108 | Z-21 | Vc | | VPB-03近接 |
| VPB-05 | タプコプ | 72 | 47 | AA-18・19/Z-21 | VbU | | |
| VPB-06 | 余市 | 87 | 49 | X-20・21 | VbU | | 富良野盆地系VPB-07と同一個体 |
| VPB-07 | 余市 | 80 | 49 | Y-20・21 | VbM | | 富良野盆地系VPB-06と同一個体 |
| VPB-08 | 余市 | 155 | (85) | AE-22 | VbU | | |
| VPB-09 | 円筒上層a | 53 | 44 | AA-20 | VbM | | |
| VPB-10 | サイベ沢Ⅶ | 67 | 48 | S・T-20・21 | VbM | | |
| VPB-11 | 余市 | 132 | 63 | Y-20 | VbM | | 細片により遺物未掲載 |
| VPB-12 | タプコプ | 80 | 33 | Z-19 | VbM | | |
| VPB-13 | タプコプ | 95 | 50 | Z-19 | VbM | | |
| VPB-14 | 余市 | 77 | 37 | V-18 | VbU | | |
| VPB-15 | 余市 | 80 | 43 | AE-19 | VbU | | |
| VPB-16 | タプコプ | 70 | 25 | AA-20 | VbL | | |
| VPB-17 | 東釧路Ⅳ | 65 | 57 | U-19 | Vc | | |
| VSB-01 | 縄文時代 | 162 | 130 | AC・AD-22 | VbU | | 片岩製剥片出土 |
| VSB-02 | 縄文時代 | (170) | 125 | AE-21 | VbM | | 被熱礫出土 |
| VSB-03 | 縄文時代 | 128 | 105 | AA-16 | VbM | | 被熱礫出土 |
| VSB-04 | 縄文時代 | 205 | 113 | AC・AD-22 | VbL | | VSB-01の下層 |
| VFCB-01 | 縄文時代 | 46 | 27 | AA-18 | VbU | | 赤井川黒曜石 |

## 第１節　土坑

土坑は３基検出した。調査面で長軸 143～151 ㎝、短軸 107～113 ㎝、深さ 40～65 ㎝の規模で斉一性が取れている。ここに掲載した土坑はＴピットに比べ、小形であること、杭跡がⅨ層に到達していないことから、Ｔピットではなく土坑として取り扱うこととした。他に同様な２基の窪みを確認し、付番（VP-02・03）して調査したが、浅く坑底面と考えられる硬化面が確認できなかったので遺構としては取り上げず、ここには掲載していない。

**VP-01**（図Ⅲ-２　図版 30-1・2・3）＊図版は版組の関係から、Ｔピットの後に入れた。

位置：V-19・20 区　規模：143×107×40cm　検出層位：Ⅵ　平面形：隅丸長方形

**確認・調査**　重機による樽前ｃ火山灰除去中に、調査区北東側の調査開始面のⅤ層上面において楕円形のやや浅い窪みと掘り上げ土を確認した。トレンチを入れ掘り込みを確認した後、セクションと掘り上げ土の範囲を記録し、完掘写真を撮影、実測して調査を終了した。

**形態・特徴**　平面形は隅丸長方形をなし、すり鉢状の坑底から壁面は緩やかに立ち上がる。坑底の東端に２本の杭跡が見られる。杭跡の下端はⅧb 層に留まっており、下層のⅨ層には到達していない。西側からは杭跡は検出されなかった。

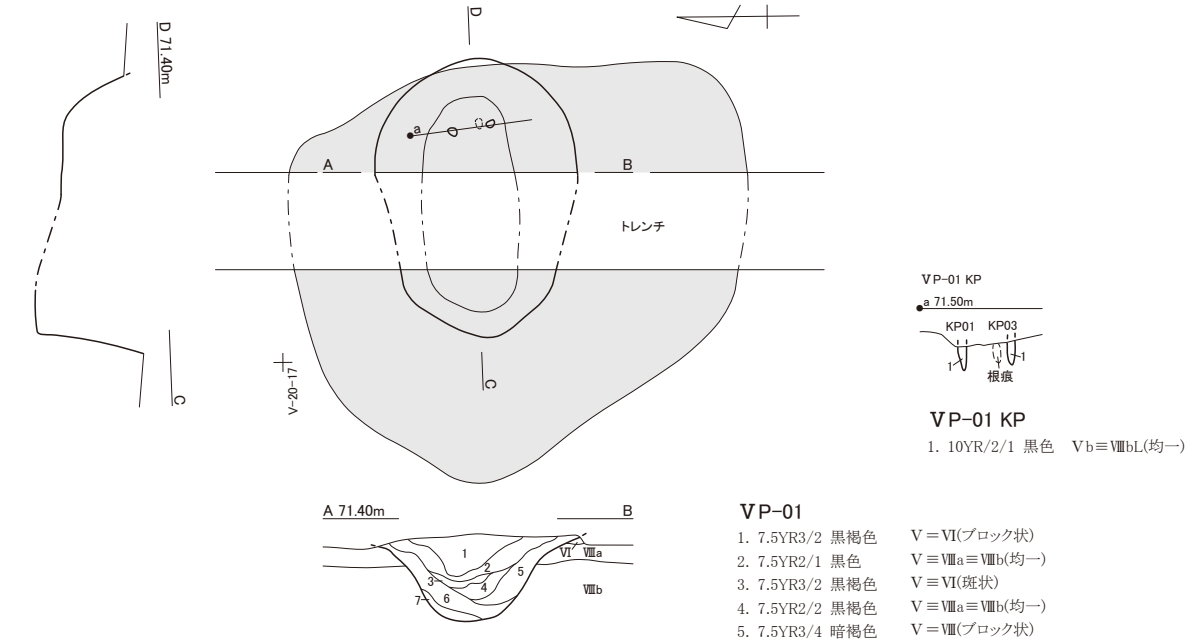
**掘り上げ土**　図示した断面は確認面からのものであり、1・2 層が掘り上げ土の流れ込みと考えられる。掘り上げ土は土坑の周辺 2.4×2.0m の範囲に広がっていた。

**VP-04**（図Ⅲ-２　図版 30-5）

位置：Z-19 区　規模：149×111×65cm　検出層位：Ⅴc　平面形：隅丸長方形

**確認・調査**　樽前ｃ火山灰除去中に、浅い窪みと掘り上げ土を検出した。トレンチを入れ掘り込みを確認した後、セクションと掘り込み土範囲を記録し、完掘写真を撮影、実測して調査を終了した。

## ⅤP-01



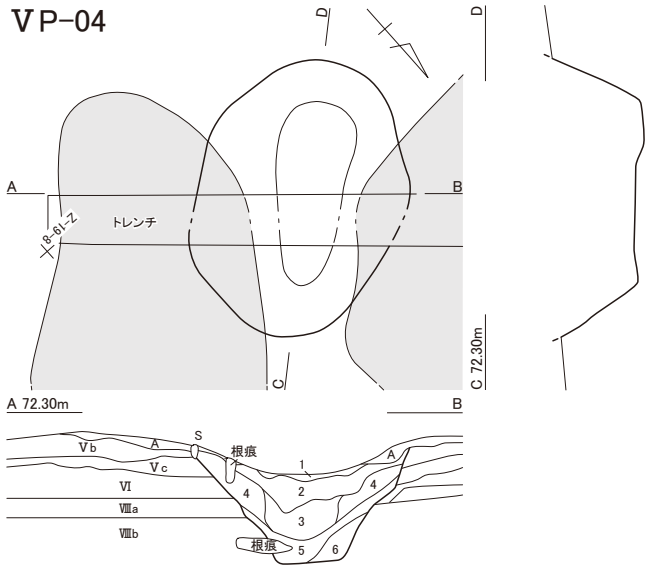

### ⅤP-01 KP

1. 10YR/2/1 黒色　Vb≡ⅧbL(均一)

### ⅤP-01

1. 7.5YR3/2 黒褐色　V＝Ⅵ(ブロック状)
2. 7.5YR2/1 黒色　V≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/2 黒褐色　V≡Ⅵ(斑状)
4. 7.5YR2/2 黒褐色　V≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR3/4 暗褐色　V＝Ⅷ(ブロック状)
6. 7.5YR2/3 極暗褐色　V＝Ⅷa≡Ⅷb(均一)
7. 7.5YR4/3 褐色　V＝Ⅷb(斑状)

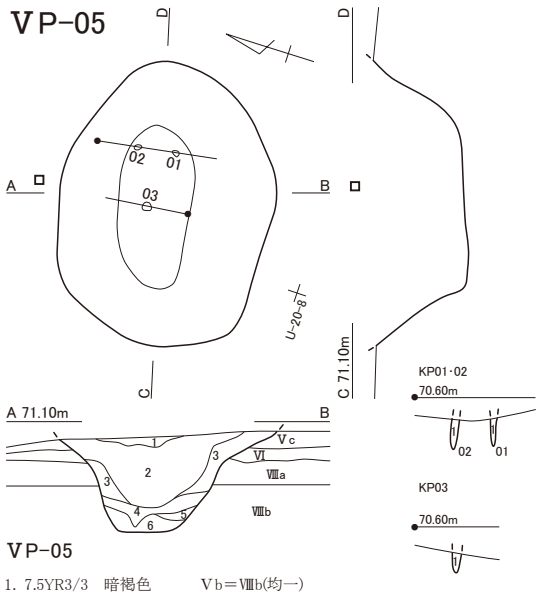
## ⅤP-04




### ⅤP-04

A. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Vb(均一)掘り上げ土
1. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb＋Vb(均一)
2. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷb(均一)パミスの粒明瞭
4. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷa･b(均一)
6. 7.5YR4/4　褐色　Vb＋Ⅷa･b(均一)

## ⅤP-05




### ⅤP-05

1. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷb(均一)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Vb＝Ⅷb＝Ⅵ(均一)
4. 7.5YR3/3　暗褐色　Vb＝Ⅷb(斑状)
5. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb＝Vb(均一)
6. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)

### KP01～03

1. 7.5YR3/4　暗褐色　V≡Ⅷb≡Ⅷa(均一)

□ 礫石器

0　1：40　1m

図Ⅲ-2　ⅤP-01･04･05 平面及び断面図

表Ⅲ-2　VP属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 調査層位 | 平面形 | 調査面規模(cm) | | 坑底面規模(cm) | | 深さ(cm) | 長軸方向 | 調査面長短比 | 坑底面長短比 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 調査面/坑底面 | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | |
| Ⅲ-2 | 30-1・2 | VP-01 | V-19・20 | Ⅵ | 隅丸長方形/隅丸長方形 | 143 | 107 | 113 | (49) | 40 | N-89° W | 1.3 | (2.3) | KP2、堀り上げ土あり |
| Ⅲ-2 | - | VP-04 | Z-19 | Vc | 隅丸長方形/隅丸長方形 | 149 | 111 | 98 | 41 | 65 | N-52° E | 1.3 | 2.4 | 堀り上げ土あり 旧TP-27 |
| Ⅲ-2 | - | VP-05 | T・U-20 | Ⅵ | 隅丸長方形/隅丸長方形 | 151 | 113 | 94 | 40 | 51 | N-74° E | 1.3 | 2.4 | KP3、旧TP-45 |

**形態・特徴**　平面形はやや胴の張った隅丸長方形をなし、平坦な坑底から緩やかに開く壁面に移行する。坑底に杭跡は検出されなかった。

**掘り上げ土**　本遺構の南東と北西に掘り上げ土が認められたが、北西部の掘り上げ土は、TP-29 と隣接しており、本遺構に伴うと思われる掘り上げ土の範囲は確定できなかった。南東に拡がる掘り上げ土の規模は 2.2×0.7m である。図示した断面の A 層は掘り上げ土、1・2 は掘り上げ土の流入土と考えられる。

**VP-05**（図Ⅲ-２　図版 30-6・7）

位置：T・U-20 区　規模：151×113×51cm　検出層位：Ⅵ　平面形：隅丸長方形

**確認・調査**　Vc 層調査中に黒い落ち込みの中に樽前 d 層の再堆積と思われる掘り上げ土層を発見した。トレンチを入れ、掘り込みを確認した。断面図を作成し、完掘後、写真撮影・実測して調査を終了した。

**形態・特徴**　平面形は楕円形に近い隅丸長方形をなし、平坦な坑底から緩やかに立ち上がる壁面に移行する。壁は上半で大きく開く。坑底の東端に 2 本、中央に 1 本の杭跡が見られる。杭跡の下端はⅧb 層に留まっており、下層のⅨ層には到達していない。西側からは杭跡は検出できなかった。

**掘り上げ土**　掘り上げ土は確認できなかったが、上述した覆土上位に、掘り上げ土の流入土と考えられる樽前 d パミスを少量含む暗褐色土（１層）が見られる。　（服部・宮塚）

## 第２節　焼土

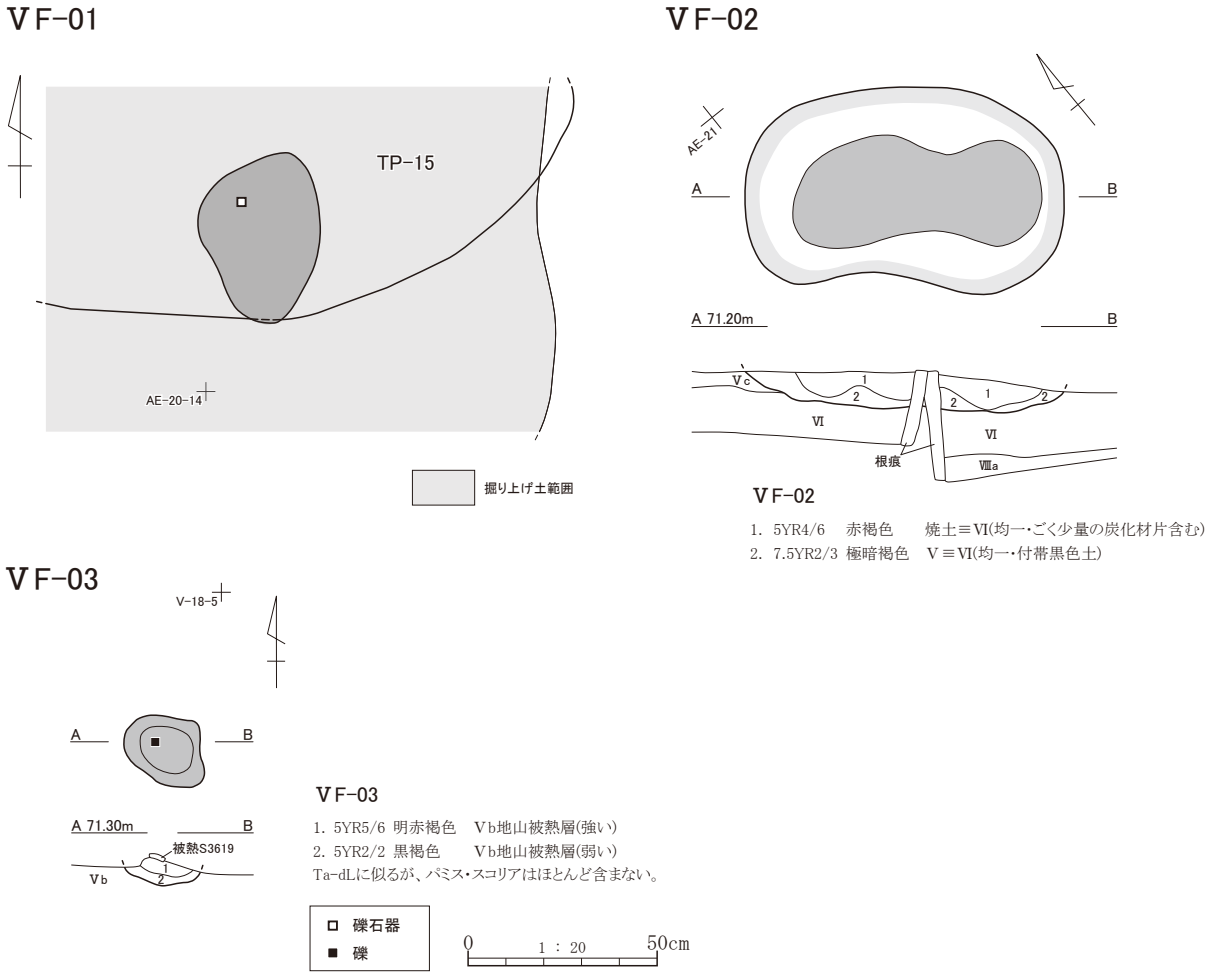
確認した焼土は 3 ヵ所であるが、前述したように、VF-01 は掘り上げ土に流れ込んだと思われる焼土であり、被熱層を持つ焼土は 2 ヵ所である。調査区の北端と南端から 1 ヵ所づつ検出された。

**VF-01**（図Ⅲ-３　29-16　図版 30-8　40-1-16）

位置：AE-20 区　規模：43×32×-cm　検出層位：VbU　平面形：不整形

TP-15 の掘り上げ土を除去中に発見した。当初掘り上げ土上に築かれた焼土と考え付番して調査したが、上述したように明瞭な地山被熱層が認められなかったため、位置の記録と検出状況の写真撮影に留めた。TP-15 の西にVF-02 があり、その一部が流れ込んだとも考えられる。

焼土中から石皿の破片（図Ⅲ-29-16）が出土していることからも、本焼土が流れ込みである可能性が高い。




図Ⅲ-3 ⅤF-01～03平面及び断面図

ⅤF-02（図Ⅲ-３ 図版 31-1･2）

位置：AE-20･21 区 規模：84×56×9cm 検出層位：Ⅵ 平面形：楕円形

調査区の南端、尾根から南東に傾斜する斜面に位置する。TP-15 との前後関係は明らかにできなかった。規模は 84×56 cmであり、焼土層（1 層）中に少量の炭化材片を含む。付帯黒色土を含め 9cm の厚さを測る。

ⅤF-03（図Ⅲ-３ 図版 31-3･4）

位置：V-18 区 規模：25×18×6cm 検出層位：ⅤbL 平面形：不整形

調査区の北端、尾根から北に傾斜する斜面が平坦になる谷部に位置する。Ⅴ層調査中に被熱礫を発見し、下から焼土層を検出した。6 cmの厚さを測る。

（服部・宮塚）

表Ⅲ-3　VF属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層位 | 平面形 | 規模(cm) | | | 灰・骨片の有無 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | |
| Ⅲ-3 | 30-3・4 | VF-01 | AE-20 | VbU | 不整形 | 43 | 32 | - | - | 掘り上げ流入土に混在 |
| Ⅲ-3 | 30-5・6 | VF-04 | AE-20・21 | Ⅵ | 楕円形 | 84 | 56 | 9 | 炭化材片 | |
| Ⅲ-3 | 30-7・8 | VF-05 | V-18 | VbL | 不整形 | 25 | 18 | 6 | - | |

## 第３節　Ｔピット

一里沢遺跡から検出したＴピットは 47 基であり、一里沢浸食崖に沿った斜面を除いて、調査区ほぼ全域に分布する。特筆すべき事項については個別に後述する。

**確認・調査**　掘り上げ土が確認されたものは、掘り上げ土とＴピットの関係・Ｔピット相互の前後関係を把握するため、堆積状態観察用のベルトを残して掘り進めた。平面形が確認できる層位まで掘り下げた。さらに、Ｔピット堆積状態の断面は基本的に短軸方向とし、半截し覆土の堆積状態を撮影・実測した。調査区北側の谷部では、底面近くで伏流水が湧き出すＴピットが多かったので、伏流水の水脈上流側に「貫井」状のトレンチを掘削し、伏流水の遮断に努めた。トレンチでも伏流水の流入が止められない場合には、底面の杭跡を確認し、杭跡のない部分に「釜」状のピットを掘り、排水ポンプ、スポンジ等を使い排水に努めた。完掘写真撮影後、トータルステーションを用いて平面形、エレベーションを測量した。杭跡があるものは半截し、断面撮影、実測後、完掘し、写真撮影・下端部の実測を行った。

**形態分類**　Ｔピットの形態分類は坑底面の長短比（長軸長／短軸長）及び杭穴の有無を基準とした。厚幌１遺跡（厚真町教育委員会　2004）他では、長短比８以上、8～4、４未満で分類したが、本遺跡に適用すると、長短比４以上のものがわずかに２例しか認められないので、新たな分類基準を設け、以下の６タイプに分類した。

A 型：長短比が１以上２未満

A1 型　杭穴のないもの　　A2 型　杭穴のあるもの

B 型：長短比が２以上４未満

B1 型　杭穴のないもの　　B2 型　杭穴のあるもの

C 型：長短比が４以上

C1 型　杭穴のないもの　　C2 型　杭穴のあるもの

分類毎の検出数は、A1 型１基、A2 型 19 基、B1 型なし、B2 型 21 基、C1 型２基、C2 型なし、であり、撹乱等によって長短比の計測ができないＴピットが４基である。

**形状の特徴**　Ｔピットの上部が崩落によって大きく開くものが多い。Ⅵ、Ⅷ層が軟弱であり、冬期の凍結に起因するものと思われる。坑底面はⅨ層に到達しているものがほとんどである。このことを考慮しても、Ｔピットの坑底面長軸と短軸をプロットすると、A 型は 1：0.6、B 型は 1：0.4 のライン上に集中し、混在することはなかった。明らかに異なったタイプのものとして構築されたものと思われる。

Ｔピットの調査面からの深さの平均は、A1 型 105 ㎝、A2 型 111.9 ㎝、B2 型 116.8 ㎝、C1 型 124.0 ㎝であり大差がない。壁の立ち上がりは C 型を除いてオーバーハングするものは皆無である。

**杭穴・逆茂木**　杭穴のあるＴピットは 47 基中、41 基であり、大半のＴピットから杭穴を検出した。杭穴は合計 161 本確認した。Ｔピット１基に 1 本のものから、最高 16 本が発見されているものまで多種多様である。4 本以上が一つのＴピットに存在するものは複数列の配置や打ち直したことが考えられる。最も深いものは 50 ㎝である。深さに斉一性はなく、同一のＴピットにある杭穴でもその傾向が見られる。

逆茂木が残っていたのは TP-37 のみであった（図Ⅲ-22）。TP-37 の杭穴は 2 列 6 本が確認され、内 5 本に逆茂木が残っていた。上部先端は腐食しているが、基部には明瞭な切削痕を残す（図Ⅲ-29-10～14）。

**堆積状態**　Ｔピットの土壌堆積状態は、上部にＶ層を起源とする黒色土、下部に壁の崩落土と考えられるⅥ、Ⅷ層が斑状に堆積していた。崩落土と黒色土とは互層をなして堆積しているものも見られ、崩落が数回あったことが伺える。過年度に発掘調査されたＴピットでは、深さの半分くらい埋まっている状況を目にすることが出来るので、壁の崩落は廃棄後一冬でほぼ半分近く埋まってしまうようである。上部の黒色土の上に再堆積したⅧ層等をを斑状に含む黒色土の堆積が見られるものもあり、それらはＴピットが埋没してから他の遺構の掘り上げ土が遺棄されたものと思われる。それらの堆積状況からＴピット相互の前後関係が伺えるものもある。

**新旧関係**　上述した掘り上げ土の堆積状況から新旧関係が把握できたものは以下の通りである。

TP-09（B2 型）古　→　新　TP-04（B2 型）　TP-06（C1 型）古　→　新　TP-16（A2 型）
TP-16（A2 型）古　→　新　TP-12（B2 型）　TP-07（A2 型）古　→　新　TP-14（A2 型）
TP-10（A2 型）古　→　新　TP-08（A2 型）　TP-18（B2 型）古　→　新　TP-17（B2 型）
TP-20（B2 型）古　→　新　TP-21（A2 型）　TP-33（A2 型）古　→　新　TP-31（B2 型）
TP-40（A2 型）古　→　新　TP-37（B2 型）　TP-40（A2 型）古　→　新　TP-42（A2 型）
TP-42（A2 型）古　→　新　TP-43（B2 型）　TP-50（B2 型）古　→　新　TP-41（B2 型）
TP-52（B2 型）古　→　新　TP-51（B2 型）

上記の新旧関係から 1 例ではあるが、C１型は A2 型より古いことがわかる。また、A2 型と B2 型の比較では、A2 型の方が古い例が 4 例、B2 型の方が古い例が 1 例確認できる。B2 型の方が古い例も坑底部の最大幅で計測しており、坑底の形状では B2 型に含まれる可能性が高いが、最大幅で A2 型に入れた。全体では B2 型に近い形態をそなえている。A2 型の方が古い例が多いが、これだけの理由から、両型の新旧関係を一概に断定することはできないが、本遺跡では C1 型→A2 型→B2 型の推移が伺える。

C1 型は 2 基発見された。長軸方向が並行であり、一連の関係が伺えるが、A 型、B 型のＴピットは、A2 型が大型の（南東から）TP-16・07・14 の長軸方向が並行で直線状に並んでいるのみで、他は長軸方向が並行しないものが多い。厚幌 1 遺跡（厚真町教育委員会　2004）でも楕円形のＴピットが集中はするが並行しないことから、溝状のＴピットと、楕円形のＴピットでは捕獲方法が異なることを想起させる。

次に各タイプの代表的な例について詳述する。

A1 型

TP-22（図Ⅲ-10　図版 17-1･2）Ⅴa 層調査中に、土器集中ⅤPB-16 を検出した。土器片の一部が南東方向に傾斜して発見され、下にＴピットが存在することが予想された。Ⅴc 層上面で、Ｔピットのプランを確認し、ⅤPB-16 はＴピットの窪みに落ち込むように検出された。TP-22 の窪みに遺棄され、さらに沈下したと判断される。

ⅤPB-16 の調査終了後、全体のプランを確認し半截した。断面の写真撮影・実測を行った後、完掘し、写真撮影、測量を行った。本遺跡の中では、杭穴が見られないＴピットは稀であるので、坑底面を数㎝下げ杭穴の確認に努めたが、杭穴は検出できなかった。

覆土中に Ta-d（Ⅷa･b）を斑状に少量含む土層は見られたが、掘り上げ土の流入は見られなかった。5 層以下が壁の崩落土である。Ta-d を多く含む層と黒色土主体の層が互層をなしている。下位の崩落は南側から、上位の崩落は主として北側からのものであることが読み取れる。最下層は崩落した Ta-d2 にⅨ層の粘土が均一に混じる。腐植黒色土層が見られないことから、廃棄後早い時期に埋没したと思われる。

A2 型

TP-07（図Ⅲ-９　Ⅲ-28-1　図版 8-5･6、39-2-1）Ⅳ層除去中に、大きな窪みと、広範囲の掘り上げ土を発見した。大型のＴピットの存在を想定し、南側の窪みに TP-07、北側に TP-14 と付番した。窪みを連結するベルトを残し、掘り上げ土を除去した。掘り上げ土は TP-07 の窪みには落ち込んで存在したが、TP-14 では、TP-07 の窪みに入っている掘り上げ土が覆土上部に僅かに流れ込みが見られるのみであり、TP-07 に TP-14 の掘り上げ土が遺棄されたと思われる。13 層以下が壁の崩落土である。

平坦な底から緩やかに立ち上がる壁に続く。南東側の壁がやや急角度に立ちあがる。平面形は円形に近い楕円形である。坑底に 6 本の杭跡が検出された。また、断面に KP-02 の杭痕が見られる。KP-02・03・04・09 は覆土が近似し、同一時期に打ち込まれたものと思われる。KP-06・10 は上記と覆土が異なり、打ち込まれた時間差を想定させる。

覆土中から土器 1 点と礫 3 点が出土した。土器は東釧路Ⅳ式に比定される。北東に同時期のⅤPB-02 が位置するので、土器集中の一部を破壊して構築されたものと思われる。

TP-14（図Ⅲ-10　Ⅲ-28-5～8　図版 12-1～3　39-2-5～8）TP-07 の北北東約 5ｍの位置に占地する。本遺跡最大の規模を持つＴピットである。平面形や形態は TP-07 に類似する。TP-07 の覆土上層に堆積していた B 層の一部が本遺構の上部にもわずかに見られる。また、Ta-d は多く含まないが掘り上げ土の流入土と思われる二次層が覆土最上位に堆積している。崩落土は 2 層あり、中間に Ta-d 等を極僅かに含む黒色土が堆積している。

杭穴は、本遺跡で最多の 16 本確認された。深さは 8～42 ㎝で、列状に並ぶ様子も見られない。KP-10 と KP-11 は極端に傾斜している。

覆土中から土器片 11 点、礫石器 9 点、礫 5 点が出土した。土器（図Ⅲ-28-5）は覆土上位からまとまって出土した。口唇部・口縁部・胴部貼付帯上に押引文（内）を施文し、貼付帯の下位に同様の施文具で引いたと思われる押引状の沈線文を 2 条巡らせる。貼付帯より下位は LR 斜行縄文が施されている。口縁部内面にも LR 斜行縄文が施文されている。時期は縄文時代中期後半に属する。

図Ⅲ-28-6～8 はすり石 D に分類される「北海道式石冠」である。擦り面は敲打、剥離によって、把握部を含む全体の整形は敲打によって仕上げられている。7 は把握部のみ敲打で整形され表裏に礫面を大きく残す。

**TP-16**（図Ⅲ-８　図版 13-6～10　14-1～11）TP-12 の掘り上げ土が覆土上位に流入しており、TP-12 より古い時期に構築されたことが明らかになった。前述した TP-07･14 同様、形状の似た大型のＴピットである。

杭穴が列状に検出されたことが特記される。杭穴断面 a ラインでは 6 本の杭穴が並んでいる。深さは南から北に向かって浅くなっている。a ラインに直交するように c ラインが（KP-09 を共有して）計 4 本の杭穴で構成されている。遺物が覆土から出土したがいずれも小破片で図示できるものは無い。斜面下部に位置するので、流れ込みと思われる。

**B2 型**

**TP-12**（図Ⅲ-８　Ⅲ-28-2～4　図版 11-1･2　39-2-2～4）前述した TP-16 に掘り上げ土を供給し、C1 型の TP-06 にも掘り上げ土を供給している。TP-12 の覆土上部にも掘り上げ土の流入土と思われる層（A´層）が見られるが、TP-06、TP-16 の掘り上げ土のように、Ta-d を多量には含んでいない。平坦な坑底から緩やかに立ち上がる壁面に続く。坑底には 2 本の杭穴が長軸に沿って検出された。完掘後坑底を若干掘り下げ、杭穴の検出に努めたが、北西側の坑底には杭穴は検出されなかった。2 本の杭穴の覆土は異なり、KP-02 はⅤ層が混じる。

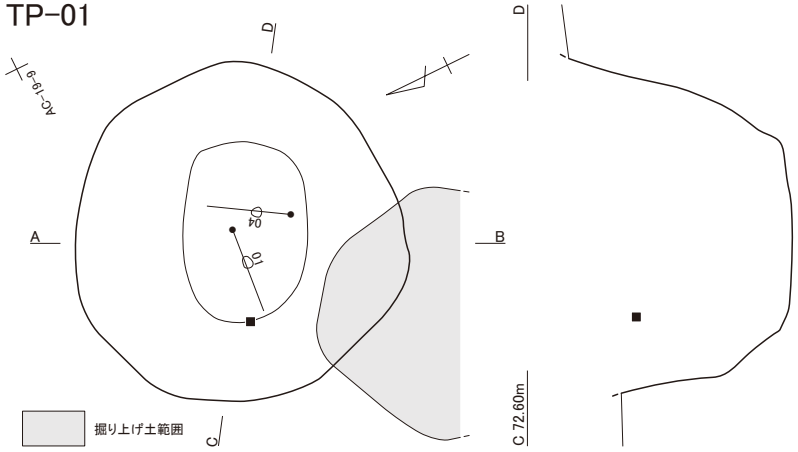
覆土上位から土器片 2 点、剥片 1 点、礫石器 1 点、礫 3 点が出土した（図Ⅲ-28-2～4）。2･3 は同一個体で、高い突起をもち、貼付帯口唇部まで縄文が施される。縄文時代中期後半に属する。4 は滑石製の石製品未成品。松前町産と思われる。粗く剥離された後研磨されている。

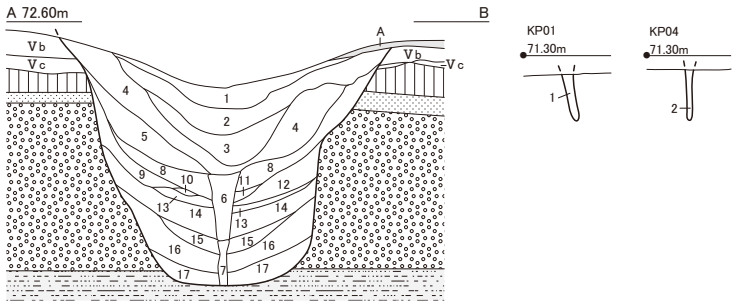
**TP-37**（図Ⅲ-22　Ⅲ-29-10-14　図版 24-1･2　40-1-10～14）北東側に掘り上げ土が見られ、一部が TP-40 に流れ込んでいる。このことから TP-40（A2 型）より新しく構築されたことが分かった。平坦な坑底から角張って垂直に近く立ち上がる壁面に続く。壁面上半は大きく崩落しており、朝顔形に開く。垂直に近く立ち上がる壁面を上方に延長すると、規模は調査面レベルで 140 ㎝×50 ㎝であり、後述する TP-51・52 同様の規模である。

2 列 6 本の杭穴を検出した。杭穴の深さは、14～45 ㎝で、斉一性は見られない。南側の列の KP-03・06 は深いが、東端の KP-02 は KP-01 より浅い。北側の列は中央の KP-04 が浅い。

TP-37 の杭穴 6 本（KP-01～06）の内、KP-04 を除いて 5 本から逆茂木を発見した（図 29-10～14）。最大長 22.6 ㎝を測るが、上部は全て腐食している。エゴノキ属エゴノキ科の樹木が使われている（第Ⅳ章第 2 節参照）。樹皮が見られるものは無く、5 本とも同一種であることから、1 本のエゴノキ属を分割し使用した可能性を指摘している。上幌内 1 遺跡からはトネリコ属の逆茂木が出土しており（厚真町教育委員会　2016）、いずれも堅硬で加工がしやすい樹木を利用している。

## TP-01



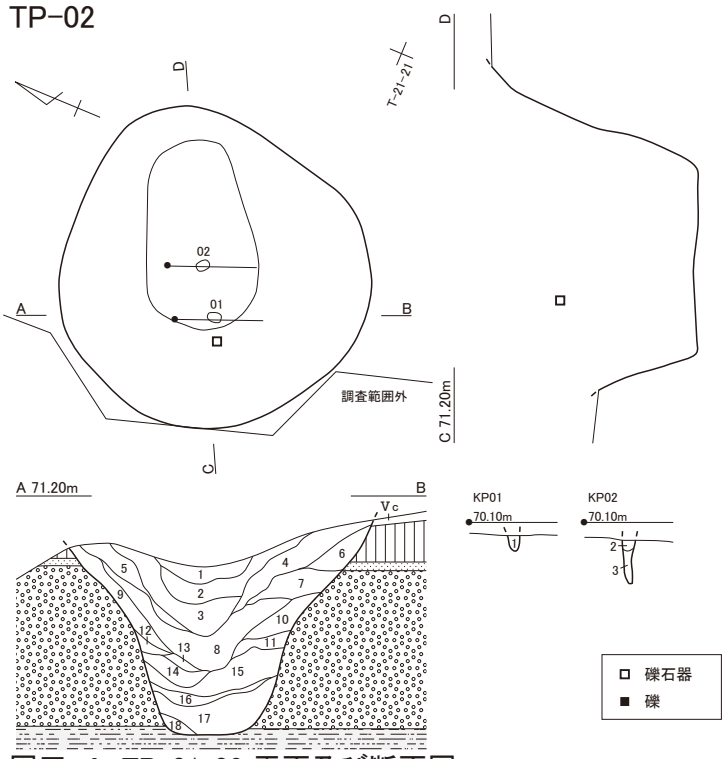

### TP-01

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Ⅴb(均一)掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(均一) |
| 2. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(斑状) |
| 4. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷa・b(均一) |
| 5. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb=Ⅷb(均一) |
| 6. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(斑状)KP覆土 |
| 7. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一)KP覆土 |
| 8. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴb+Ⅷb(均一) |
| 9. | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 10. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb=Ⅷb(均一) |
| 11. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅴb-Ⅷb(均一) |
| 12. | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 13. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴb+Ⅷb(均一) |
| 14. | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 15. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅷa・b |
| 16. | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 17. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |

### KP01・04

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb=Ⅴ |
| 2. | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ⅷb≡Ⅴ |

## TP-02




### TP-02

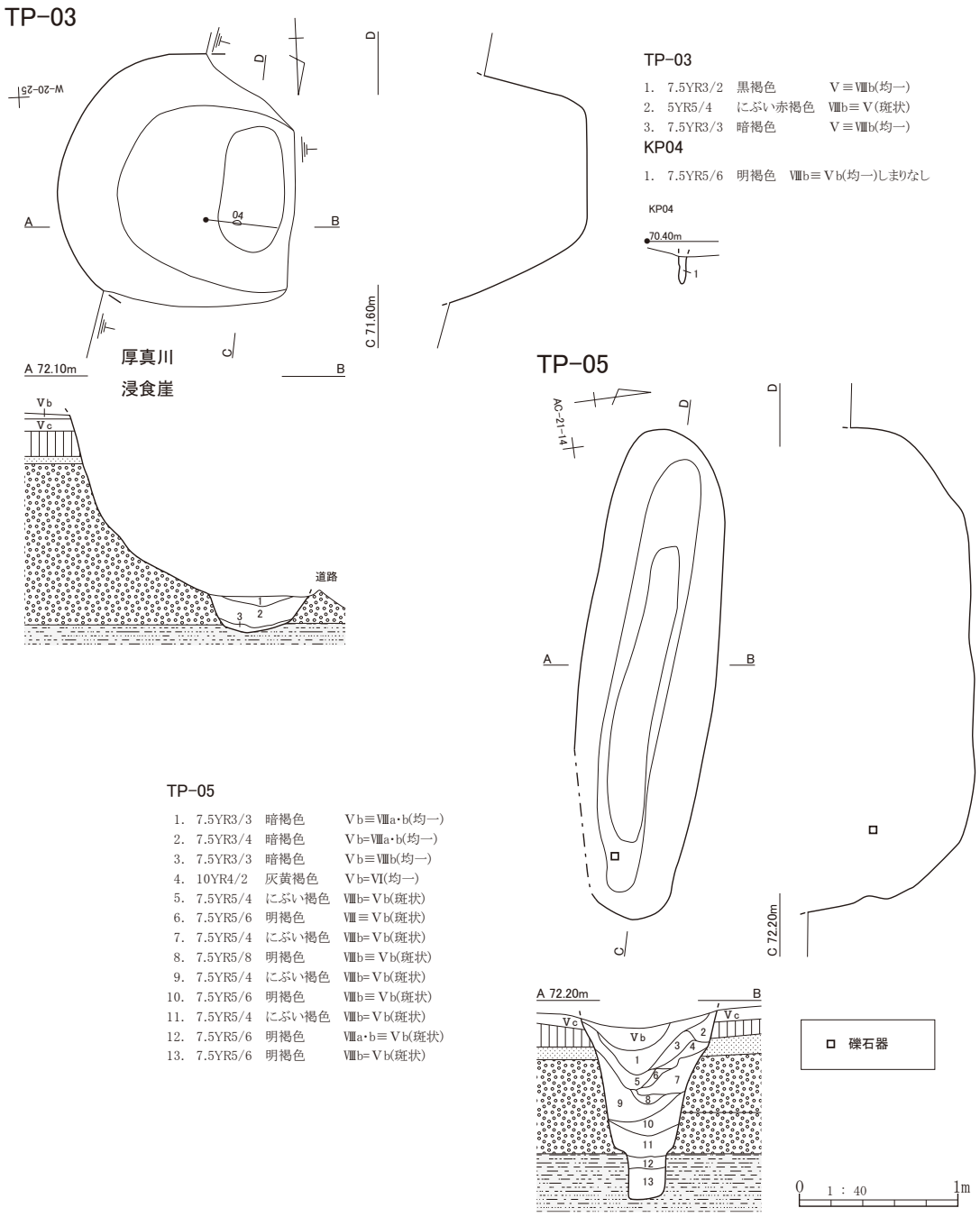
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴa≡Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ⅴb≡Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅴb=Ⅷb(斑状) |
| 4. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴb=Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 6. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴc=Ⅵ≡Ⅷa(均一) |
| 7. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴc=Ⅵ≡Ⅷa≡Ⅷb(均一) |
| 8. | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Ⅴb=Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 9. | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ⅴc-Ⅵ=Ⅷb≡Ⅴa(均一) |
| 10. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅵ=Ⅷb=Ⅴc≡Ⅷa(均一) |
| 11. | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | Ⅵ=Ⅴc=Ⅷb≡Ⅷa(均一) |
| 12. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅵ-Ⅷb≡Ⅴc≡Ⅷa(均一) |
| 13. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴc=Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 14. | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ⅴc=Ⅵ=Ⅷb(均一) |
| 15. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅵ=Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 16. | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ⅷb-Ⅵ≡Ⅷa(斑状) |
| 17. | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 18. | 5YR3/1 | 黒褐色 | Ⅴ=Ⅷb≡Ⅷa(均一) |

### KP01・02

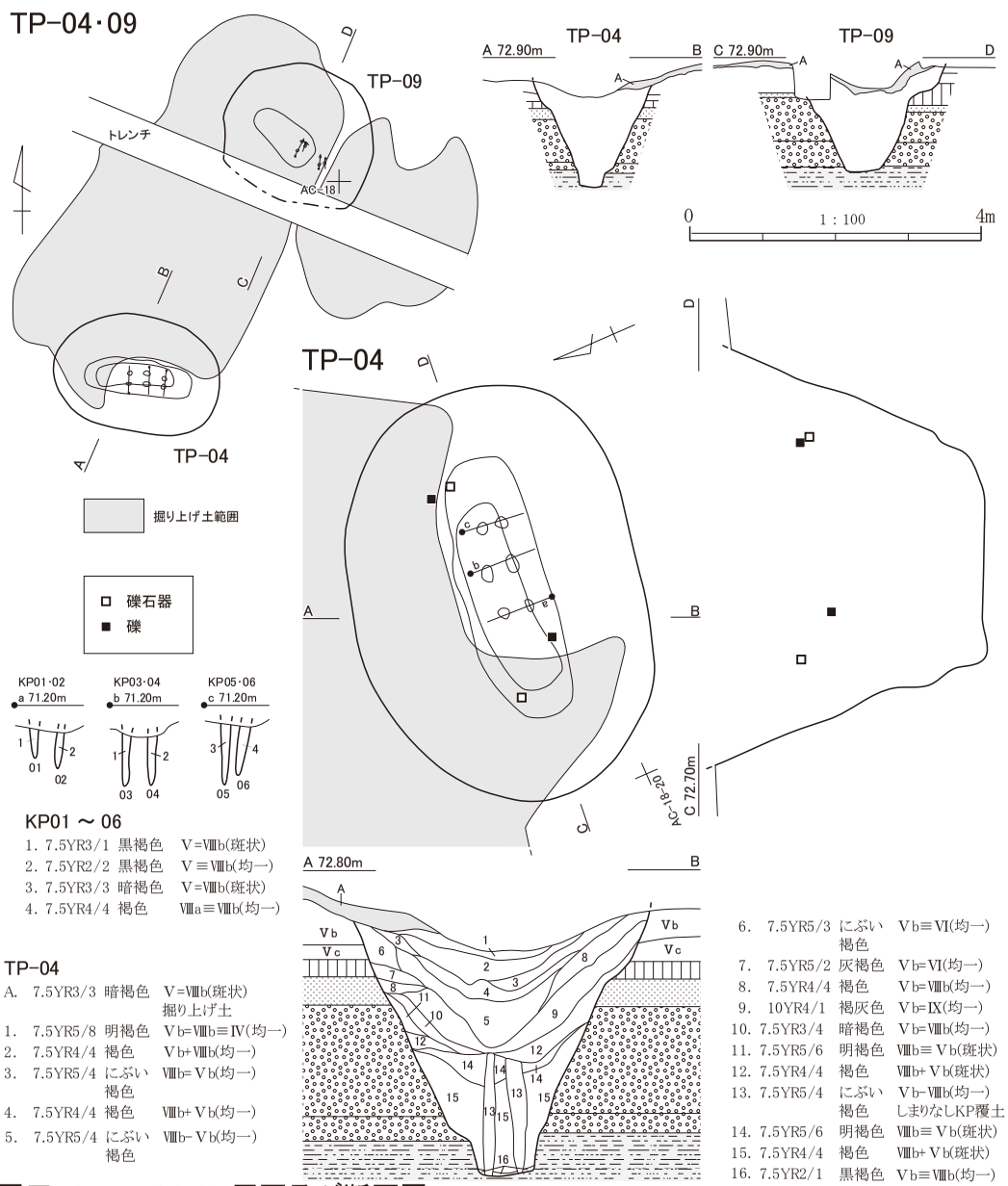
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ=Ⅷb(⌀5↓ 斑状) |
| 2. | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ⅸ-Ⅷb(均一) |
| 3. | 10YR6/6 | 明黄褐色 | Ⅸ≡Ⅷb(均一) |

0　1：40　1m

図Ⅲ-4　TP-01・02 平面及び断面図




図Ⅲ−5 TP−03・05 平面及び断面図



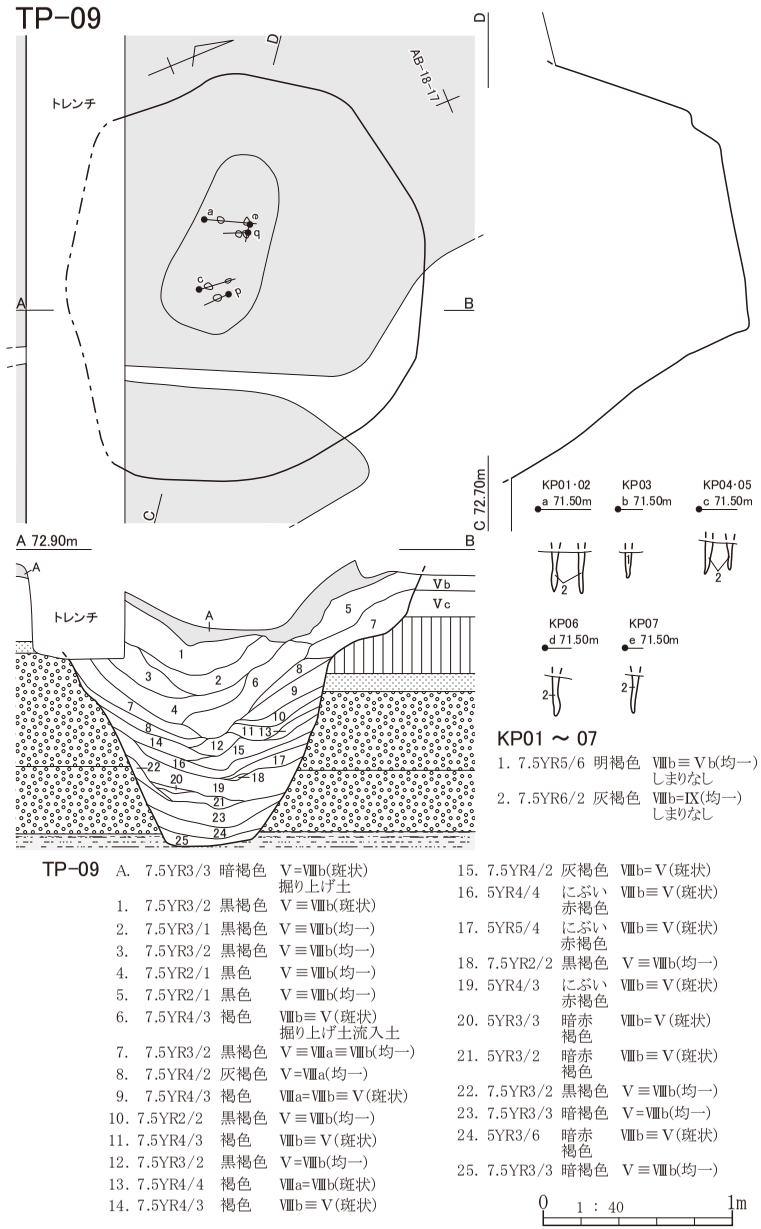

KP01 ～ 06

1. 7.5YR3/1 黒褐色　V=Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR2/2 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/3 暗褐色　V=Ⅷb(斑状)
4. 7.5YR4/4 褐色　Ⅷa≡Ⅷb(均一)

TP-04

A. 7.5YR3/3 暗褐色　V=Ⅷb(斑状) 掘り上げ土
1. 7.5YR5/8 明褐色　Vb=Ⅷb≡Ⅳ(均一)
2. 7.5YR4/4 褐色　Vb+Ⅷb(均一)
3. 7.5YR5/4 にぶい褐色　Ⅷb=Vb(均一)
4. 7.5YR4/4 褐色　Ⅷb+Vb(均一)
5. 7.5YR5/4 にぶい褐色　Ⅷb-Vb(均一)
6. 7.5YR5/3 にぶい褐色　Vb≡Ⅵ(均一)
7. 7.5YR5/2 灰褐色　Vb=Ⅵ(均一)
8. 7.5YR4/4 褐色　Vb=Ⅷb(均一)
9. 10YR4/1 褐灰色　Vb=Ⅸ(均一)
10. 7.5YR3/4 暗褐色　Vb=Ⅷb(均一)
11. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
12. 7.5YR4/4 褐色　Ⅷb+Vb(斑状)
13. 7.5YR5/4 にぶい褐色　Vb-Ⅷb(均一) しまりなしKP覆土
14. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
15. 7.5YR4/4 褐色　Ⅷb+Vb(斑状)
16. 7.5YR2/1 黒褐色　Vb≡Ⅷb(均一)

図Ⅲ-6　TP-04・09 平面及び断面図



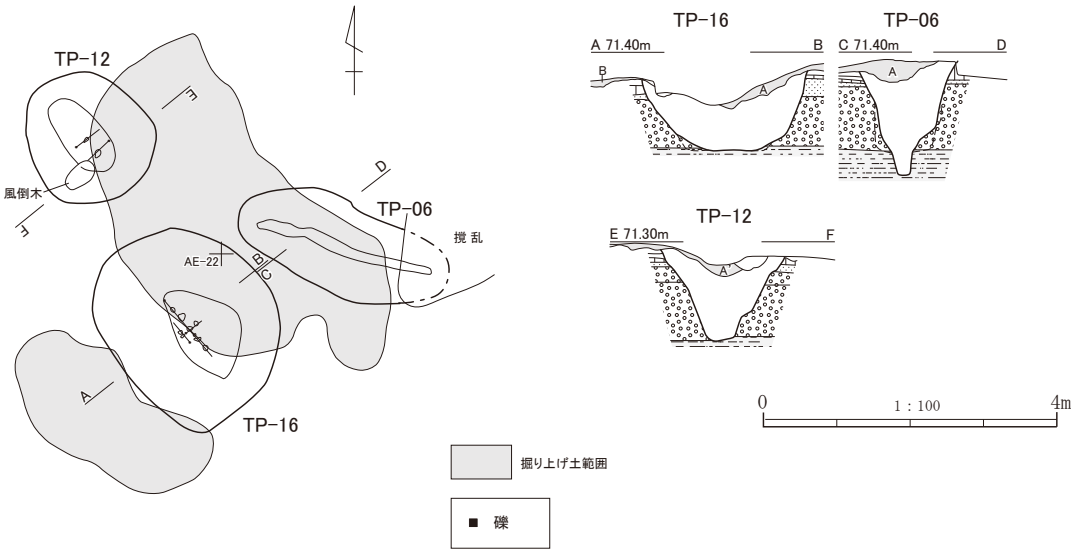

KP01 ～ 07

1. 7.5YR5/6 明褐色　Ⅷb≡Vb(均一) しまりなし
2. 7.5YR6/2 灰褐色　Ⅷb=Ⅸ(均一) しまりなし

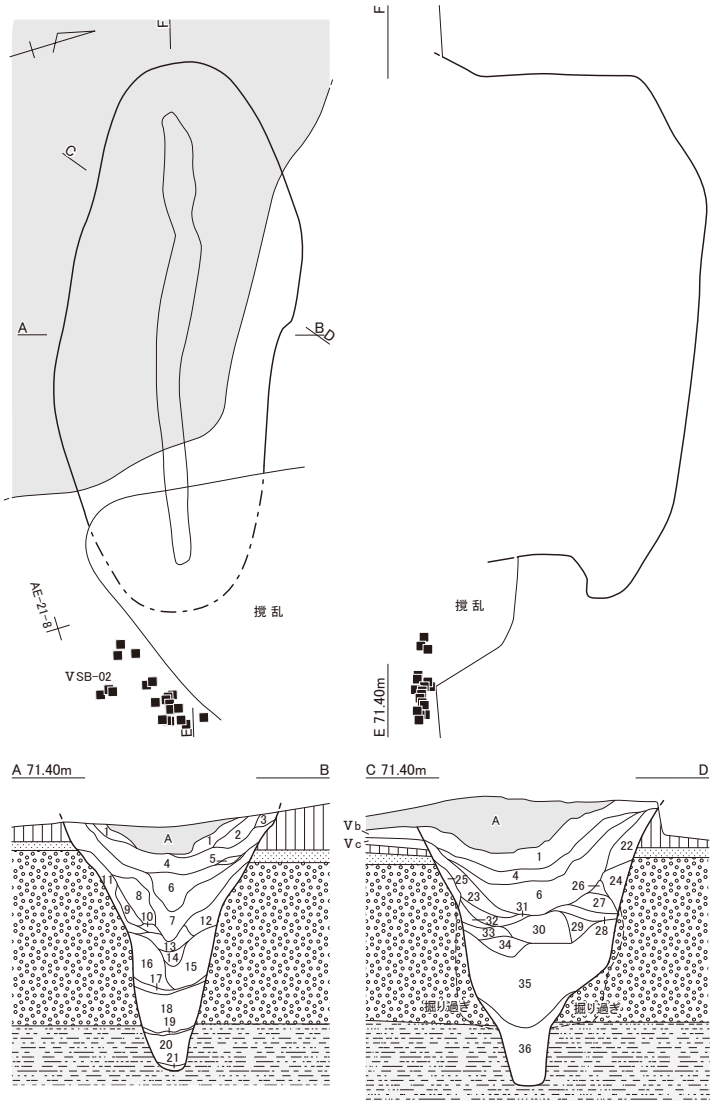
TP-09

A. 7.5YR3/3 暗褐色　V=Ⅷb(斑状) 掘り上げ土
1. 7.5YR3/2 黒褐色　V≡Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR3/1 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/2 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
4. 7.5YR2/1 黒色　V≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR2/1 黒色　V≡Ⅷb(均一)
6. 7.5YR4/3 褐色　Ⅷb≡V(斑状) 掘り上げ土流入土
7. 7.5YR3/2 黒褐色　V≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
8. 7.5YR4/2 灰褐色　V=Ⅷa(均一)
9. 7.5YR4/3 褐色　Ⅷa=Ⅷb≡V(斑状)
10. 7.5YR2/2 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
11. 7.5YR4/3 褐色　Ⅷb≡V(斑状)
12. 7.5YR3/2 黒褐色　V=Ⅷb(均一)
13. 7.5YR4/4 褐色　Ⅷa=Ⅷb(斑状)
14. 7.5YR4/3 褐色　Ⅷb≡V(斑状)
15. 7.5YR4/2 灰褐色　Ⅷb=V(斑状)
16. 5YR4/4 にぶい赤褐色　Ⅷb≡V(斑状)
17. 5YR5/4 にぶい赤褐色　Ⅷb≡V(斑状)
18. 7.5YR2/2 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
19. 5YR4/3 にぶい赤褐色　Ⅷb≡V(斑状)
20. 5YR3/3 暗赤褐色　Ⅷb=V(斑状)
21. 5YR3/2 暗赤褐色　Ⅷb≡V(斑状)
22. 7.5YR3/2 黒褐色　V≡Ⅷb(均一)
23. 7.5YR3/3 暗褐色　V=Ⅷb(均一)
24. 5YR3/6 暗赤褐色　Ⅷb≡V(斑状)
25. 7.5YR3/3 暗褐色　V≡Ⅷb(均一)

## TP-06・12・16




## TP-06



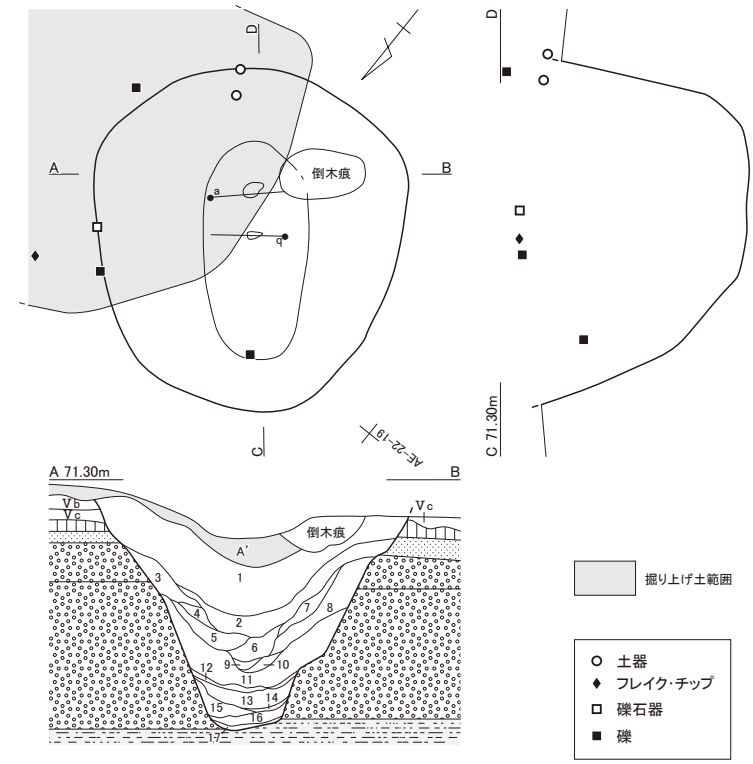

TP-06

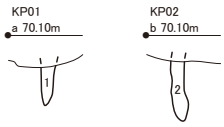
| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 5YR6/8 | 橙色 | Ⅷb≡Ⅵ≡Ⅴ(斑状)<br>掘り上げ土 |
| A'. | 5YR6/6 | 橙色 | Ⅷb=Ⅵ=Ⅴ(斑状)<br>掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb=Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 4. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Ⅴb=Ⅴc≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷa=Ⅷb=Ⅴ(斑状) |
| 6. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴc=Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 7. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴc=Ⅵ=Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 8. | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅴc=Ⅵ=Ⅷ(斑状) |
| 9. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 10. | 5YR4/3 | にぶい<br>赤褐色 | Ⅴc=Ⅴb=Ⅷa(斑状) |
| 11. | 5YR4/4 | にぶい<br>赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 12. | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ⅷa=Ⅷb=Ⅴ(斑状) |
| 13. | 5YR2/4 | 極暗<br>赤褐色 | Ⅴc=Ⅷb≡Ⅴb(均一) |
| 14. | 5YR2/3 | 極暗<br>赤褐色 | Ⅴc=Ⅷb=Ⅷa(均一) |
| 15. | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 16. | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 17. | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ⅷa-Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 18. | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅴ(斑状) |
| 19. | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 20. | 5YR5/4 | にぶい<br>赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 21. | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ⅴ=Ⅷb≡Ⅷa(斑状) |
| 22. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅴc=Ⅵ=Ⅷa(斑状) |
| 23. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴc=Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| 24. | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 25. | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 26. | 5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅷa≡Ⅷb≡Ⅵ(斑状) |
| 27. | 5YR4/4 | にぶい<br>赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa≡Ⅵ(斑状) |
| 28. | 5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅷa=Ⅷb≡Ⅵ(斑状) |
| 29. | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ⅷa≡Ⅷb≡Ⅵ≡Ⅴ(斑状) |
| 30. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa≡Ⅵ(斑状) |
| 31. | 5YR2/3 | 極暗<br>赤褐色 | Ⅴ=Ⅵ≡Ⅷa≡Ⅷb(斑状) |
| 32. | 5YR2/4 | 極暗<br>赤褐色 | Ⅷa-Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 33. | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ⅴ=Ⅷb=Ⅷa(斑状) |
| 34. | 5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴ=Ⅷa=Ⅷb(斑状) |
| 35. | 5YR5/4 | にぶい<br>赤褐色 | Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 36. | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |

0　1：40　1m

図Ⅲ-7　TP-06・12・16 平面及び断面図

## TP−12



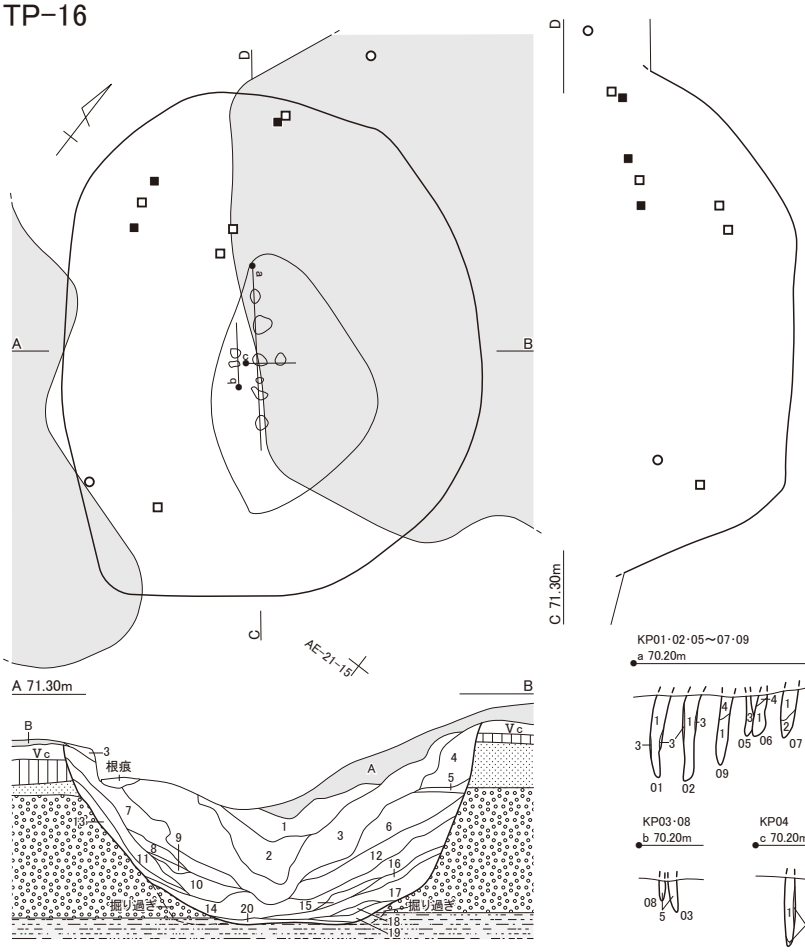

### KP01･02

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅷb≡Ⅵ(斑状) |
| 2. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅵ(斑状) |

### TP−12

| | | | |
|---|---|---|---|
| A’. | 5YR6/6 | 橙色 | Ⅷb=Ⅵ=Ⅴ(斑状)<br>掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷa･b+Ⅴb(斑状) |
| 3. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷa･b≡Ⅴb(斑状) |
| 4. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Ⅴb(斑状) |
| 5. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 6. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb=Ⅷa≡Ⅷb(均一) |
| 7. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅷa=Ⅷb=Ⅴc(斑状) |
| 8. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 9. | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ⅷb−Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 10. | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ⅴc≡Ⅷb≡Ⅷa(斑状) |
| 11. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状 ) |
| 12. | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ⅷb≡Ⅷa(斑状) |
| 13. | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 14. | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 15. | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状) |
| 16. | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa=Ⅴ(斑状) |
| 17. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷa−Ⅷb=Ⅴ(斑状) |

## TP−16




### TP−16

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 5YR6/8 | 橙色 | Ⅷb≡Ⅵ≡Ⅴ(斑状)掘り上げ土 |
| B. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb=Ⅵ≡Ⅴ(斑状)掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅴc−Ⅵ=Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ⅴc−Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状) |
| 4. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅴc≡Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴc≡Ⅷb≡Ⅵ(均一) |
| 6. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴc≡Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 7. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 8. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ=Ⅴ≡Ⅷb(均 一) |
| 9. | 5YR4/8 | 赤褐色 | Ⅷb=Ⅵ(斑状) |
| 10. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅵ−Ⅷa≡Ⅷb(均一) |
| 11. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴc−Ⅵ=Ⅷb(均一) |
| 12. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅵ=Ⅴc=Ⅷb(均一) |
| 13. | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | Ⅷb=Ⅵ(斑状) |
| 14. | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | Ⅵ−Ⅷb(斑状) |
| 15. | 5YR2/1 | 黒褐色 | Ⅴb=Ⅷb(斑状) |
| 16. | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | Ⅴc=Ⅷb(斑状) |
| 17. | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ⅷb=Ⅴ(斑状) |
| 18. | 5YR3/1 | 黒褐色 | Ⅴc≡Ⅷb≡Ⅷa(均一) |
| 19. | 5YR2/4 | 極暗赤褐色 | Ⅷa≡Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 20. | 5YR2/3 | 極暗赤褐色 | Ⅷa=Ⅴ≡Ⅷb(斑状) |

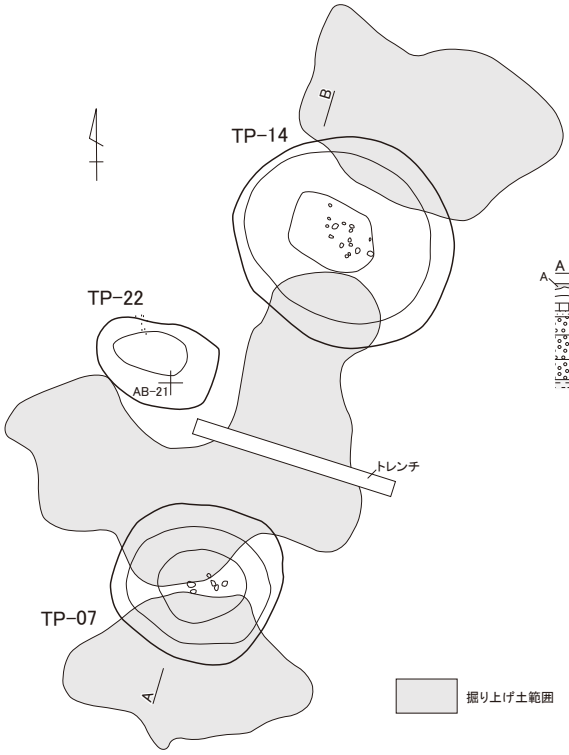
### KP01 〜 09

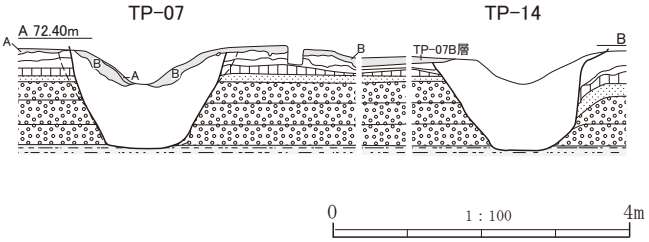
| | | |
|---|---|---|
| 1. | 7.5YR4/3 | 褐色<br>Ⅸ=Ⅷb≡Ⅴ(ブロック状)しまりなし |
| 2. | 7.5YR3/3 | 暗褐色<br>Ⅸ≡Ⅷb ごく少量 しまりなし |
| 3. | 10YR5/3 | にぶい黄褐色<br>Ⅸ≡Ⅷb≡Ⅴしまりあり |
| 4. | 7.5YR4/3 | 褐色<br>Ⅸ=Ⅴ |
| 5. | 7.5YR4/4 | 褐色<br>Ⅷb≡Ⅸ(ブロック状) |

0　1 : 40　1m

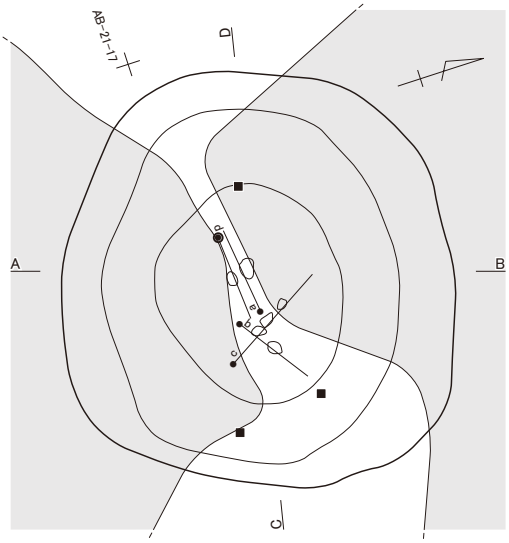
図Ⅲ−8　TP−12･16 平面及び断面図

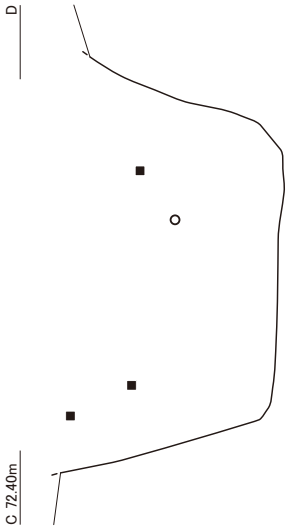
## TP−07・14・22

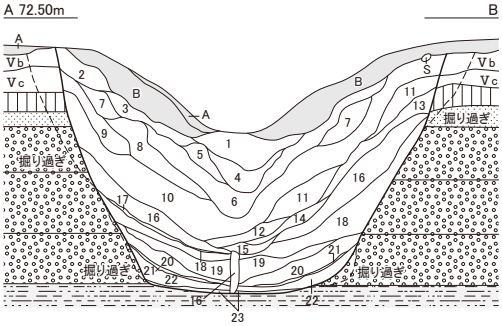



## TP−07



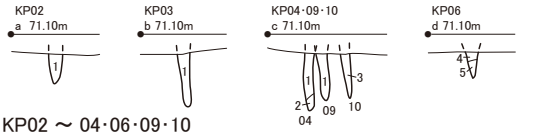




○ 土器
■ 礫

TP−07

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Vb(均一)<br>掘り上げ土 |
| B. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(均一)<br>掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Vb(均一)<br>炭化物を僅かに含む。 |
| 2. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅷb(均一) |
| 4. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Vb＋Ⅷb(斑状) |
| 6. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Vb－Ⅷb(斑状) |
| 7. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Vb(斑状) |
| 8. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅷb(均一) |
| 9. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Vb＋Ⅷb(斑状) |
| 10. | 7.5YR2/3 | 極黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 11. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb＝Ⅷb(斑状) |
| 12. | 7.5YR2/3 | 極黒褐色 | Vb≡Ⅷa(均一) |
| 13. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷa＋Vb(斑状) |
| 14. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷa・b＝Vb(斑状) |
| 15. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷa・b＝Vb(斑状) |
| 16. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷa・b≡Vb(斑状) |
| 17. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷa≡Vb(斑状) |
| 18. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷa・b≡Vb(斑状) |
| 19. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Vb(斑状) |
| 20. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb＝Vb(斑状) |
| 21. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷa・b＋Vb(斑状) |
| 22. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 23. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |



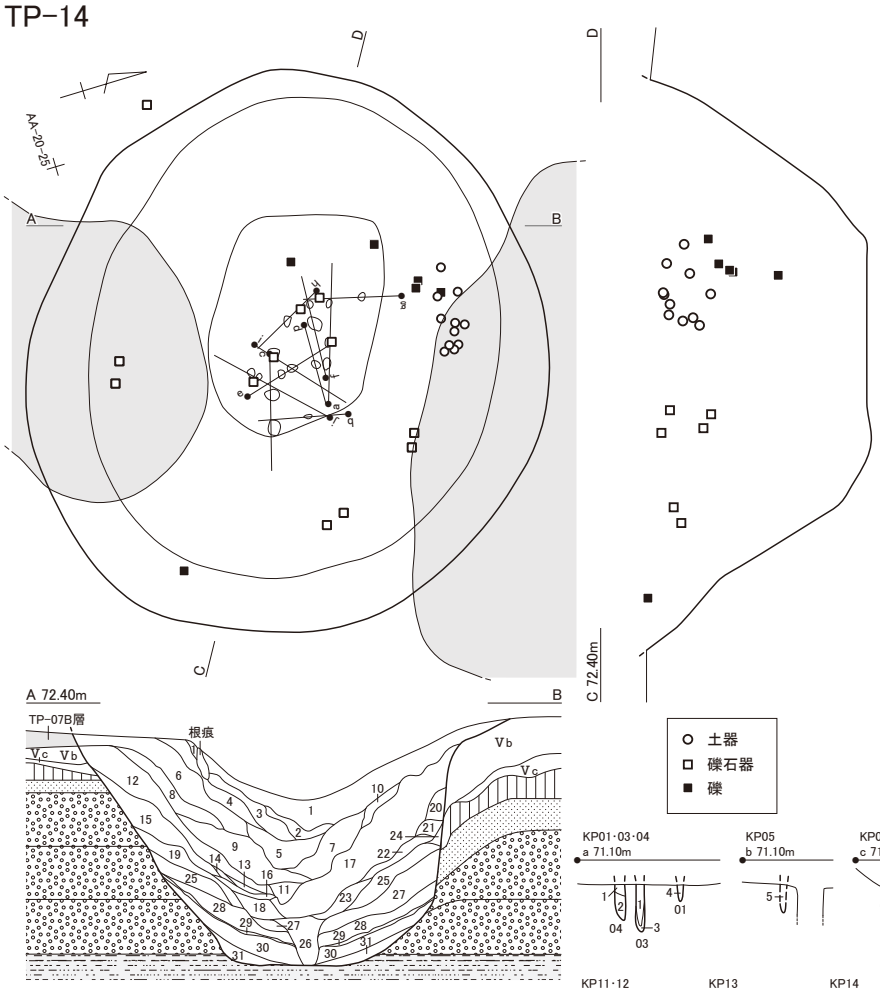

KP02 ～ 04・06・09・10

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ⅸ＝Ⅷb(斑状) |
| 2. | 10YR5/8 | 黄褐色 | Ⅷb－Ⅸ(斑状) |
| 3. | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ⅸ≡Ⅷb(斑状) |
| 4. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb＝Ⅸ(斑状) |
| 5. | 10YR5/8 | 黄褐色 | Ⅸ＝Ⅷb(斑状) |

0　1：40　1m

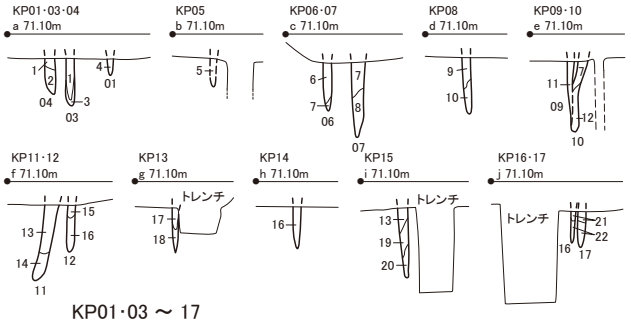
図Ⅲ−9　TP−07・14・22 平面及び断面図

## TP−14




### TP−14

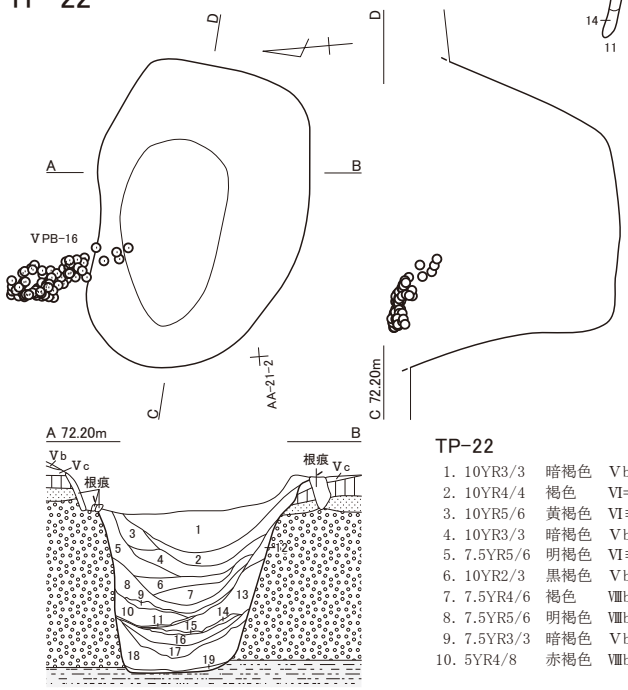
| | | |
|---|---|---|
| B. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状)<br>掘り上げ土 |
| 1. 7.5YR4/4 | 褐色 | V=Ⅷa≡Ⅷb(斑状)<br>掘り上げ土の流入層 |
| 2. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 3. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 4. 7.5YR4/3 | 褐色 | V≡Ⅷa≡Ⅷb(均一) |
| 5. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V≡ⅧbL(均一) |
| 6. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅵ=Ⅷb(斑状) |
| 7. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 8. 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | V=Ⅵ=Ⅷa(均一) |
| 9. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡V(斑状) |
| 10. 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb=V(斑状) |
| 11. 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | V=Ⅷb(斑状) |
| 12. 7.5YR2/1 | 黒色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 13. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ=Ⅷa(斑状) |
| 14. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V≡Ⅷa(均一) |
| 15. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | Ⅵ=Ⅷa=Ⅷb(斑状) |
| 16. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V≡Ⅷa(斑状) |
| 17. 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡V(斑状) |
| 18. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V=Ⅷb(斑状) |
| 19. 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅵ=Ⅷa≡Ⅷb(斑状) |
| 20. 7.5YR2/1 | 黒色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 21. 7.5YR4/3 | 褐色 | V=Ⅷb(均一) |
| 22. 7.5YR2/2 | 黒褐色 | V≡Ⅷb(斑状) |
| 23. 7.5YR3/2 | 黒褐色 | V≡Ⅷb(均一) |
| 24. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | V=Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| 25. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V=Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 26. 7.5YR3/4 | 暗褐色 | V=Ⅷb(斑状) |
| 27. 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ⅷb≡V(斑状) |
| 28. 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡V(斑状) |
| 29. 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷa≡V(均一) |
| 30. 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡V(斑状) |
| 31. 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅸ(斑状) |




### KP01·03 ～ 17

| | | |
|---|---|---|
| 1. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ=Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 2. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Ⅷbp<br>(φ2↓・均一) |
| 3. 10YR5/8 | 黄褐色 | VbL≡Ⅵ(均一) |
| 4. 10YR5/6 | 黄褐色 | VbL=Ⅵ(均一) |
| 5. 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ=VbL(均一) |
| 6. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ=VbL(均一) |
| 7. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷbp<br>(φ2↓・斑状) |
| 8. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡VbL(均一) |
| 9. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡VbL(均一) |
| 10. 10YR4/6 | 褐色 | Vb=Ⅷbp(均一) |
| 11. 10YR5/6 | 黄褐色 | VbL≡Vb |
| 12. 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | Vb=Ⅸ≡Ⅷbp<br>(φ2↓・斑状) |
| 13. 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 14. 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | Ⅸ=VbL(均一) |
| 15. 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | Ⅸ≡VbL(均一) |
| 16. 7.5YR6/6 | 橙色 | VbL=Ⅸ(均一) |
| 17. 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷbp<br>(φ10↓・斑状) |
| 18. 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Vb≡Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 19. 10YR5/4 | にぶい黄橙色 | Ⅸ=Vb≡Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 20. 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ⅸ≡Vb≡Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 21. 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb=Ⅷbp<br>(φ5↓・斑状) |
| 22. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅵ=Vb≡VbL<br>(斑状) |

## TP−22

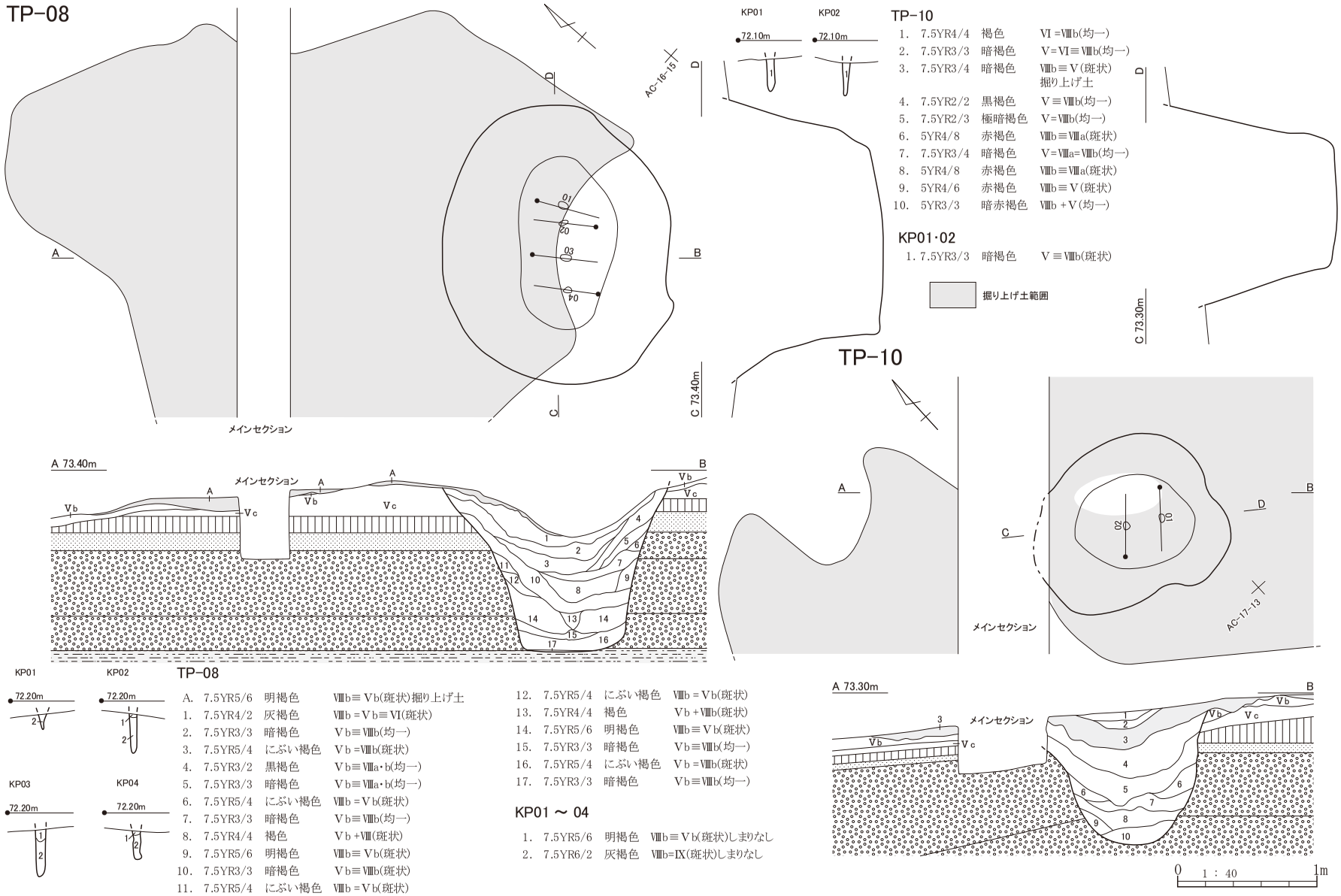



### TP−22

| | | |
|---|---|---|
| 1. 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 2. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ=Vb(均一) |
| 3. 10YR5/6 | 黄褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 4. 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Vc(均一 ) |
| 5. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅵ≡Vc=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 6. 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb=Ⅵ(均一) |
| 7. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb=Vb(斑状) |
| 8. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb=Vc(斑状) |
| 9. 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Ⅷb(斑状) |
| 10. 5YR4/8 | 赤褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 11. 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(斑状) |
| 12. 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 13. 10YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb= Vb(斑状) |
| 14. 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 15. 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 16. 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb- Ⅷb(φ2↓・均一) |
| 17. 10YR4/4 | 褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 18. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 19. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅷb≡Ⅸ(斑状) |

0　1 : 40　1m

図Ⅲ−10　TP−14·22 平面及び断面図




**TP−10**

1. 7.5YR4/4 褐色 Ⅵ＝Ⅷb(均一)
2. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ＝Ⅵ≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状) 掘り上げ土
4. 7.5YR2/2 黒褐色 Ⅴ≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR2/3 極暗褐色 Ⅴ＝Ⅷb(均一)
6. 5YR4/8 赤褐色 Ⅷb≡Ⅷa(斑状)
7. 7.5YR3/4 暗褐色 Ⅴ＝Ⅷa＝Ⅷb(均一)
8. 5YR4/8 赤褐色 Ⅷb≡Ⅷa(斑状)
9. 5YR4/6 赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
10. 5YR3/3 暗赤褐色 Ⅷb＋Ⅴ(均一)

**KP01・02**

1. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴ≡Ⅷb(斑状)

**TP−08**

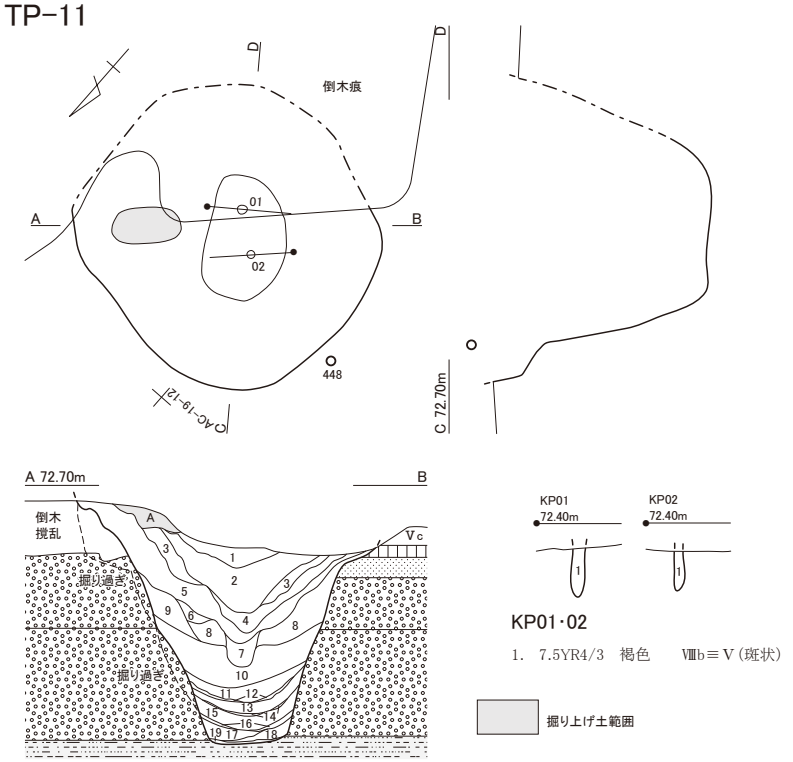
A. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅴb(斑状)掘り上げ土
1. 7.5YR4/2 灰褐色 Ⅷb＝Ⅴb≡Ⅵ(斑状)
2. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅴb＝Ⅷb(斑状)
4. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴb≡Ⅷa・b(均一)
5. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷa・b(均一)
6. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅷb＝Ⅴb(斑状)
7. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷb(均一)
8. 7.5YR4/4 褐色 Ⅴb＋Ⅷ(斑状)
9. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
10. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷb(斑状)
11. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅷb＝Ⅴb(斑状)
12. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅷb＝Ⅴb(斑状)
13. 7.5YR4/4 褐色 Ⅴb＋Ⅷb(斑状)
14. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
15. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷb(均一)
16. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅴb＝Ⅷb(斑状)
17. 7.5YR3/3 暗褐色 Ⅴb≡Ⅷb(均一)

**KP01 ～ 04**

1. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅴb(斑状)しまりなし
2. 7.5YR6/2 灰褐色 Ⅷb＝Ⅸ(斑状)しまりなし

図Ⅲ−11 TP−08・10 平面及び断面図

## TP-11

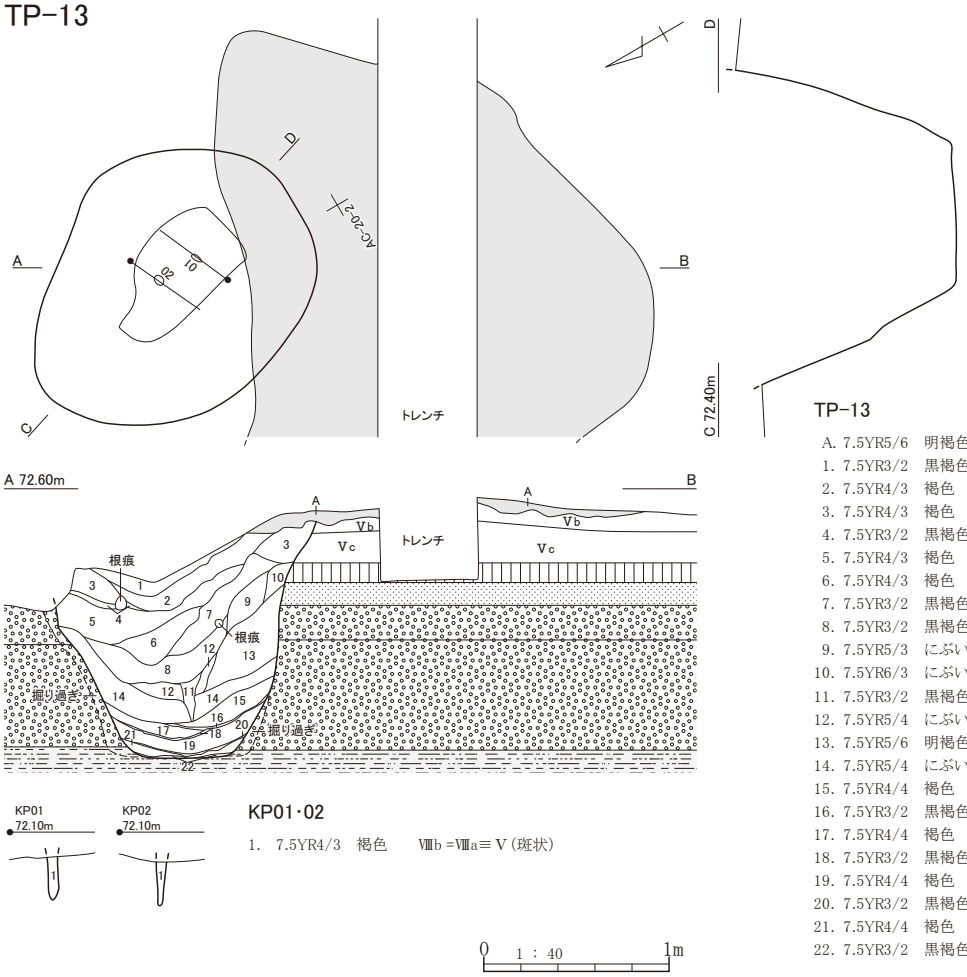



### TP-11

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状)掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | Ⅷb＋Ⅴb=Ⅵ(斑状) |
| 2. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅴb－Ⅷb(斑状) |
| 3. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 4. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb＝Ⅷb(斑状) |
| 5. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb＝Ⅷa･b(斑状) |
| 6. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅴb＝Ⅷb(斑状) |
| 7. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅴb＋Ⅷb(斑状) |
| 8. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb(斑状) |
| 9. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状) |
| 10. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅴb－Ⅷb(斑状) |
| 11. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷa･b＋Ⅴb(斑状) |
| 12. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 13. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状) |
| 14. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 15. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状) |
| 16. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 17. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状) |
| 18. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb(斑状) |
| 19. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |

○ 土器

## TP-13

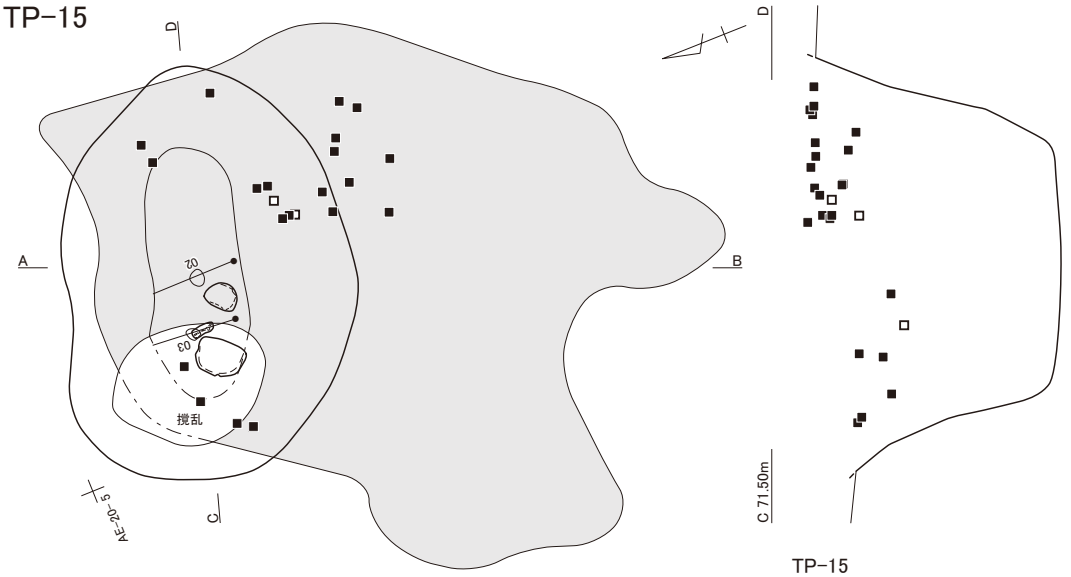


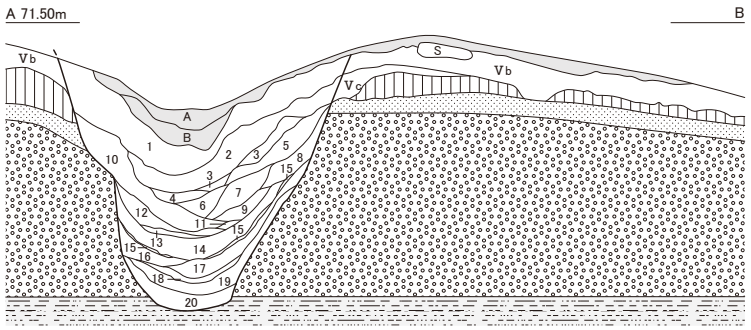

### TP-13

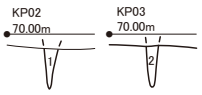
| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状)掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb＝Ⅷb(斑状) |
| 3. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb＝Ⅷb(斑状) |
| 4. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb＝Ⅷb(斑状) |
| 6. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴb＋Ⅷb(斑状) |
| 7. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 8. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(斑状) |
| 9. | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb=Ⅵ(斑状) |
| 10. | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb+Ⅵ(斑状) |
| 11. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) しまりなし |
| 12. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb(斑状) |
| 13. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴb(斑状) |
| 14. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb＝Ⅴb(斑状) |
| 15. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 16. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 17. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 18. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 19. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 20. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb≡Ⅷb(均一) |
| 21. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb＋Ⅴb(斑状) |
| 22. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴb＋Ⅷb(均一) |

図Ⅲ-12　TP-11･13 平面及び断面図

## TP−15



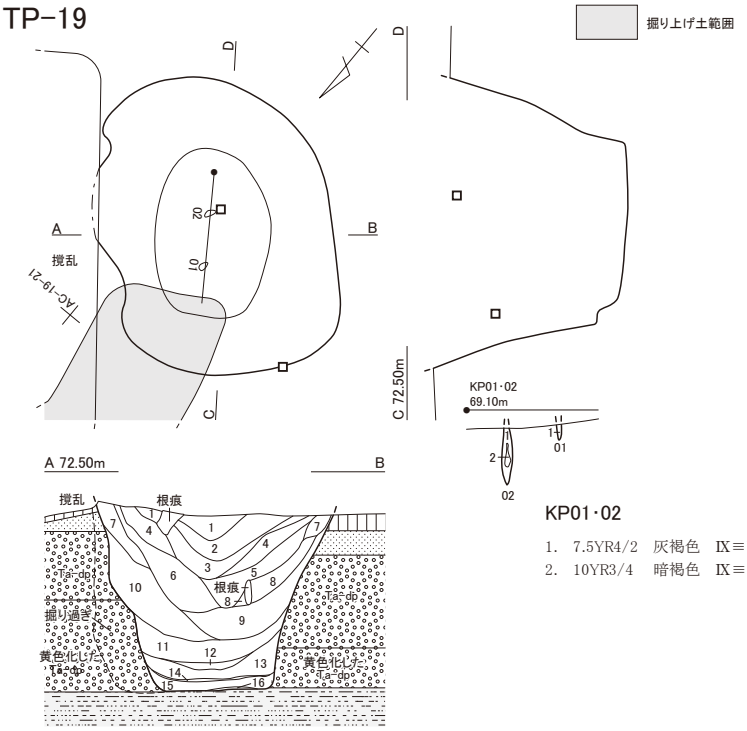

### KP02・03

1. 7.5YR4/3　褐色　Ⅸ≡Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
2. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅴ=Ⅷb(斑状)

### TP−15

A. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴ≡Ⅷb(斑状)掘り上げ土
B. 7.5YR4/3　褐色　Ⅴ =Ⅷb(斑状)掘り上げ土
1. 7.5YR2/1　黒色　Ⅴ≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
2. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅴ≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR2/3　極暗褐色　Ⅴ≡Ⅷb(均一)
4. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅴ≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR4/3　褐色　Ⅵ≡Ⅷb(均一)
6. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb =Ⅴ(斑状)
7. 5YR4/6　赤褐色　Ⅷb≡Ⅷa(斑状)
8. 5YR4/8　赤褐色　Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅵ(斑状)
9. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
10. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
11. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷb =Ⅷa(斑状)
12. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
13. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴ=Ⅷb=Ⅷa(均一)
14. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
15. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
16. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
17. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷb =Ⅷa(斑状)
18. 7.5YR2/3　極暗褐色　Ⅴ≡Ⅷb(均一)
19. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
20. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴ≡Ⅷb(均一)

## TP−19




### KP01・02

1. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
2. 10YR3/4　暗褐色　Ⅸ≡Ⅴ(斑状)

### TP−19

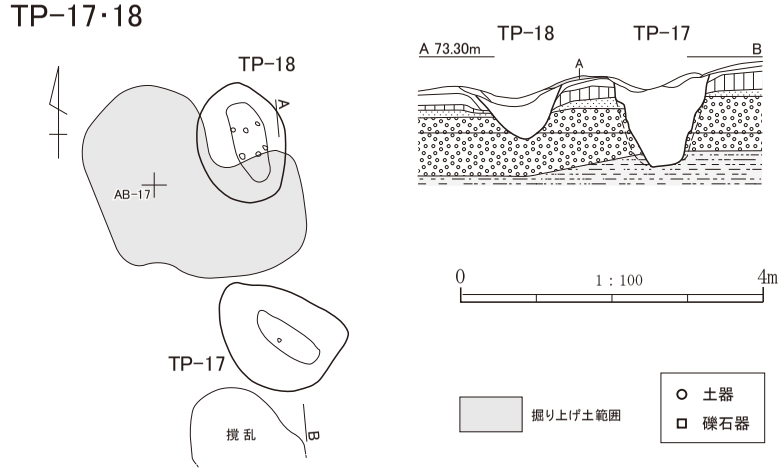
1. 7.5YR4/3　褐色　Ⅴb =Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅴb≡Ⅵ(均一)
4. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb +Ⅴb(斑状)
5. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
6. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Ⅴb −Ⅷb(斑状)
7. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅴb≡Ⅵ(均一)
8. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅴb≡Ⅵ(斑状)
9. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
10. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷa･b≡Ⅴb(斑状)
11. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
12. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb +Ⅴb(斑状)
13. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
14. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb +Ⅴb(斑状)
15. 7.5YR5/3　にぶい褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
16. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)

□ 礫石器
■ 礫

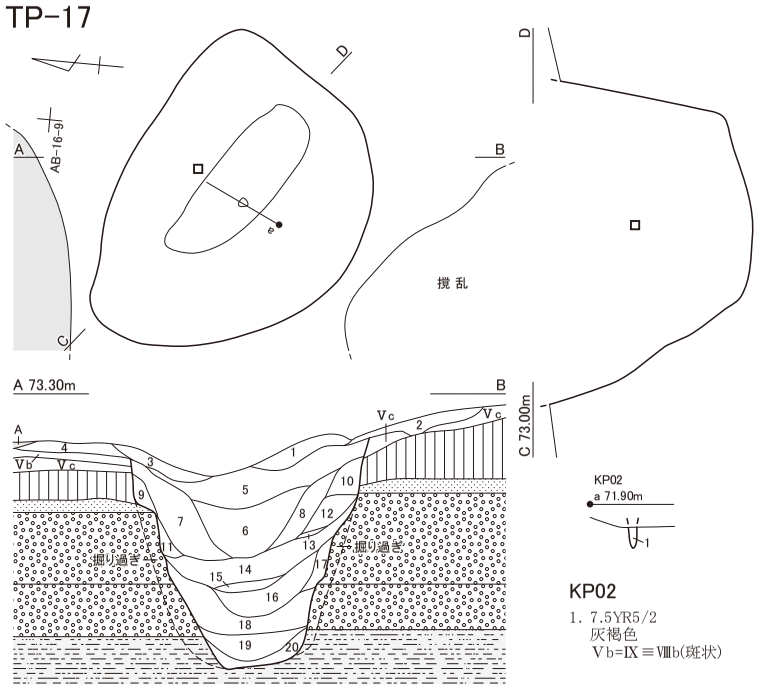
0　1 : 40　1m

図Ⅲ−13　TP−15・19 平面及び断面図

## TP-17・18




## TP-17




KP02

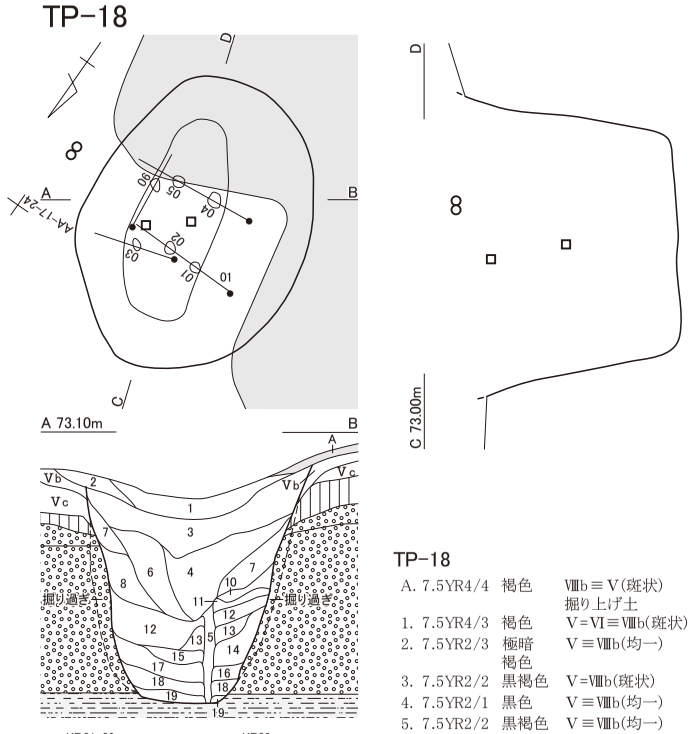
1. 7.5YR5/2 灰褐色 Vb=Ⅸ≡Ⅷb(斑状)

図Ⅲ-14　TP-17・18 平面及び断面図

### TP-17

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ=Vb≡Ⅷb(斑状) 掘り上げ土 |
| 1. | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ≡Vb≡Ⅷb (φ2↓・斑状) |
| 2. | 10YR4/4 | 褐色 | Vb=Ⅵ=Ⅷb (φ2↓・斑状) |
| 3. | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb=Ⅵ=Ⅷb (φ1↓・斑状) |
| 4. | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅷb (φ2↓・斑状) 掘り上げ土流入土 |
| 5. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vc≡Ⅷb (φ2↓・斑状) |
| 6. | 10YR4/4 | 褐色 | Vb≡Vc=Ⅷb (φ2↓・均一) |
| 7. | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Ⅷb (φ5↓・均一) |
| 8. | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb (φ2↓・均一) |
| 9. | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb (φ1↓・均一) |
| 10. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ=Vb(均一) |
| 11. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Vb(均一) |
| 12. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vc(均一) |
| 13. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb-Ⅵ(均一) |
| 14. | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 15. | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Vc(斑状) |
| 16. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 17. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Vb-Ⅷb(斑状) |
| 18. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb=Vc(斑状) |
| 19. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vc(斑状) |
| 20. | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb=Ⅷb(φ2↓斑状) |

## TP-18



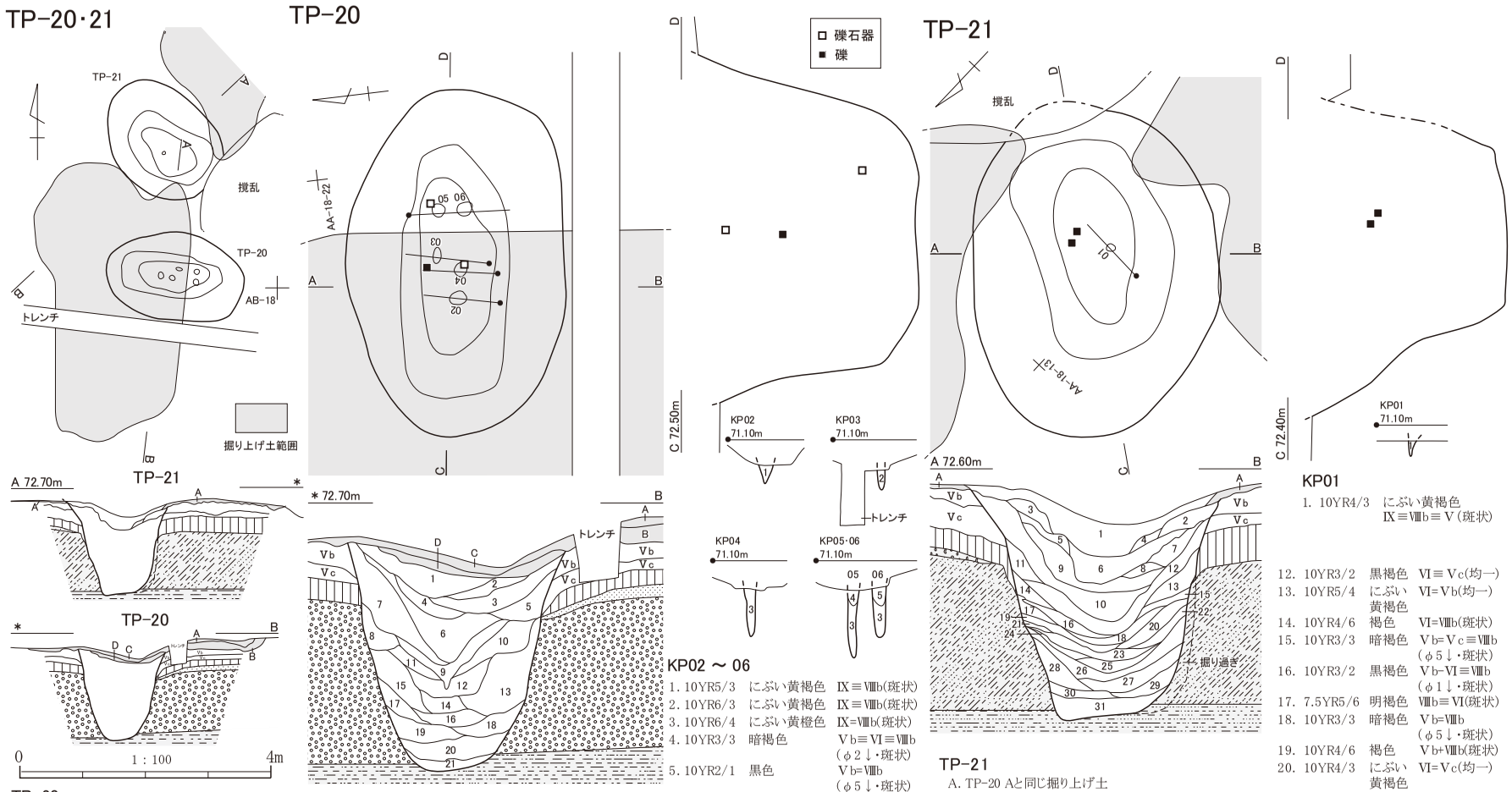

### KP01 ～ 06

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 2. | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一) |
| 3. | 10YR6/4 | にぶい黄橙色 | Ⅸ=Vb(均一) |
| 4. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb=Vb(均一) |
| 5. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅸ≡Vb(均一) |
| 6. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb≡Vb(均一) |
| 7. | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 8. | 10YR4/4 | 褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 9. | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | Ⅸ≡Vb(均一) |

### TP-18

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) 掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴ=Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| 2. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴ=Ⅷb(斑状) |
| 4. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 5. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 6. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴ≡Ⅷb(斑状) |
| 7. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 8. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 9. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅵ-Ⅷa(互層、斑状) |
| 10. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ-Ⅷb(斑状) |
| 11. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | Ⅴ≡Ⅷb(均一) |
| 12. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa(斑状) |
| 13. | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ⅷb=Ⅷa(斑状) |
| 14. | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 15. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅴ=Ⅷb(斑状) |
| 16. | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 17. | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | Ⅷb≡Ⅴ(斑状) |
| 18. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅴ=Ⅷb(斑状) |
| 19. | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅴ≡Ⅷb≡Ⅸ(均一) |

0　1：40　1m




**TP-20**

A. 10YR4/6 褐色 Vc≡Ⅷbp(φ5↓・均一) 掘り上げ土
B. 10YR3/1 黒褐色 Vb≡Ⅷbp(φ2↓・斑状) 掘り上げ土
C. 10YR5/6 黄褐色 Ⅵ≡Ⅷbp(φ1↓・斑状) 掘り上げ土
D. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷbp(φ2↓・斑状) 掘り上げ土
1. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vc(均一)
2. 10YR3/4 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ3↓・均一)
3. 10YR3/3 暗褐色 Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
4. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vc=Vb(均一)
6. 10YR2/3 黒褐色 Vb-Ⅷb(φ10↓・斑状)
7. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
8. 10YR3/2 黒褐色 Vb=Vc=Ⅷb(φ10↓・斑状)
9. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vc=Vb(均一)
11. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb≡Ⅵ(均一)
12. 7.5YR4/4 褐色 Ⅵ-Ⅷb(斑状)
13. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(均一)
14. 10YR4/4 褐色 Vb=Vc(均一)
15. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷ≡Ⅵ(均一)
16. 10YR4/6 褐色 Vb-Vc(均一)
17. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
18. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Ⅷa(斑状)
19. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb=Ⅷa(斑状)
20. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅷa(斑状)
21. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb=Vb(斑状)

**KP02 ～ 06**

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色 Ⅸ=Ⅷb(斑状)
4. 10YR3/3 暗褐色 Vb≡Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR2/1 黒色 Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)

0 1 : 40 1m

**TP-21**

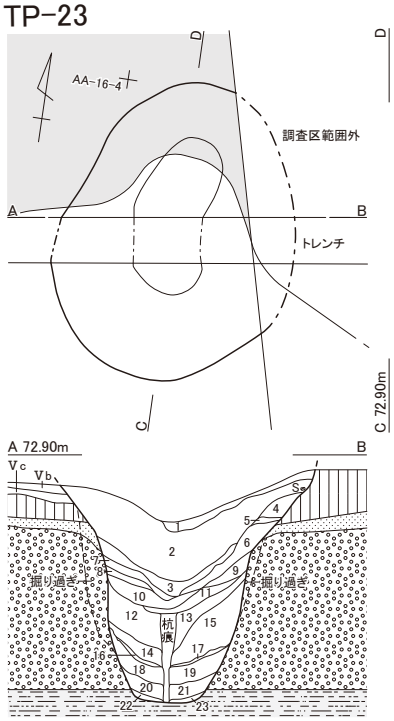
A. TP-20 Aと同じ掘り上げ土
1. 10YR5/6 黄褐色 Ⅵ-Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡(φ1↓均一)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ=Ⅷb(φ5↓・斑状)
4. 10YR3/2 黒褐色 Vb=Ⅵ(均一)
5. 10YR2/2 黒褐色 Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状)
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ-Ⅷb(φ10↓・斑状)
7. 10YR3/1 黒褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
8. 10YR3/2 黒褐色 Vc=Ⅵ(均一)
9. 10YR4/6 褐色 Ⅵ-Ⅷb(φ5↓・斑状)
10. 10YR3/2 黒褐色 Vb=Vc-Ⅷb(φ10↓・斑状)
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Vc(均一)
12. 10YR3/2 黒褐色 Ⅵ≡Vc(均一)
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ=Vb(均一)
14. 10YR4/6 褐色 Ⅵ=Ⅷb(斑状)
15. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Vc≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
16. 10YR3/2 黒褐色 Vb-Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
17. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
18. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
19. 10YR4/6 褐色 Vb+Ⅷb(斑状)
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ=Vc(均一)
21. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb=Ⅵ(斑状)
22. 7.5YR4/3 褐色 Ⅷb=Ⅵ(斑状)
23. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
24. 10YR4/6 褐色 Ⅵ=Ⅷb(斑状)
25. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ=Vb≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
27. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
28. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
29. 10YR3/1 黒褐色 Vb=Ⅷb(斑状)
30. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)
31. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb=Vb(斑状)

**KP01**

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅸ≡Ⅷb≡Ⅴ(斑状)

図Ⅲ-15 TP-20・21 平面及び断面図

## TP-23



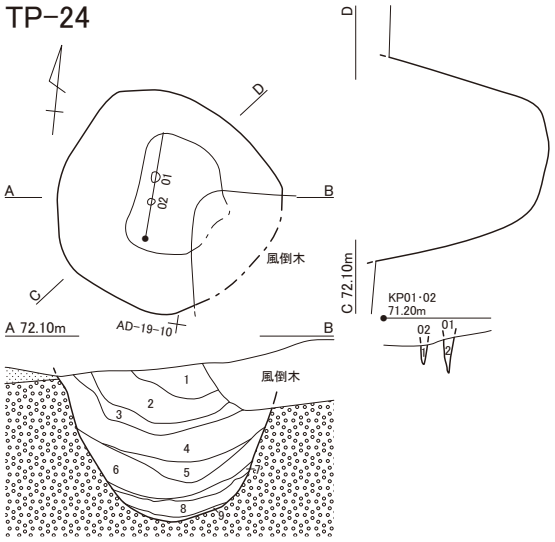

TP-23

1. 10YR3/3　暗褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
2. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb=Ⅴc≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
3. 10YR3/2　黒褐色　Ⅴb=Ⅴc(均一)
4. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Ⅴc(均一)
5. 10YR4/4　黒褐色　Ⅴb≡Ⅵ(均一)
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ=Ⅴb≡Ⅷb(斑状)
7. 10YR4/6　褐色　Ⅵ=Ⅷb(均一)
8. 10YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ1↓・均一)
9. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb≡Ⅵ(均一)
10. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ1↓・均一)
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅴc=Ⅷb(斑状)
12. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
13. 7.5YR4/3　褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
14. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
15. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
16. 10YR3/4　暗褐色　Ⅴb≡Ⅷb(斑状)
17. 10YR2/3　暗褐色　Ⅴb≡Ⅷb(斑状)
18. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb=Ⅵ(斑状)
19. 7.5YR4/3　褐色　Ⅷb=Ⅵ(斑状)
20. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
21. 7.5YR4/3　褐色　Ⅷb=Ⅵ(斑状)
22. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅷb=Ⅸ(斑状)
23. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅷb=Ⅸ(斑状)

TP-25

A. 10YR4/4　褐色　Ⅴc≡Ⅴb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
B. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
1. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅵ=Ⅴ=Ⅷb(φ2↓・斑状)
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ≡Ⅴ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
3. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅴ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅵ-Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅴc≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
7. 10YR3/1　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
8. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ≡Ⅷb(斑状)
9. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
10. 10YR2/1　黒色　Ⅴb≡Ⅷb(φ1↓・均一)
11. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb≡Ⅴb(φ1↓・斑状)
12. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb=Ⅴc(斑状)
13. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅸ(斑状)
14. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb=Ⅴc(斑状)
15. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
16. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅷb=Ⅴb(斑状)
17. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb=Ⅵ(斑状)
18. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅸ(斑状)

## TP-24



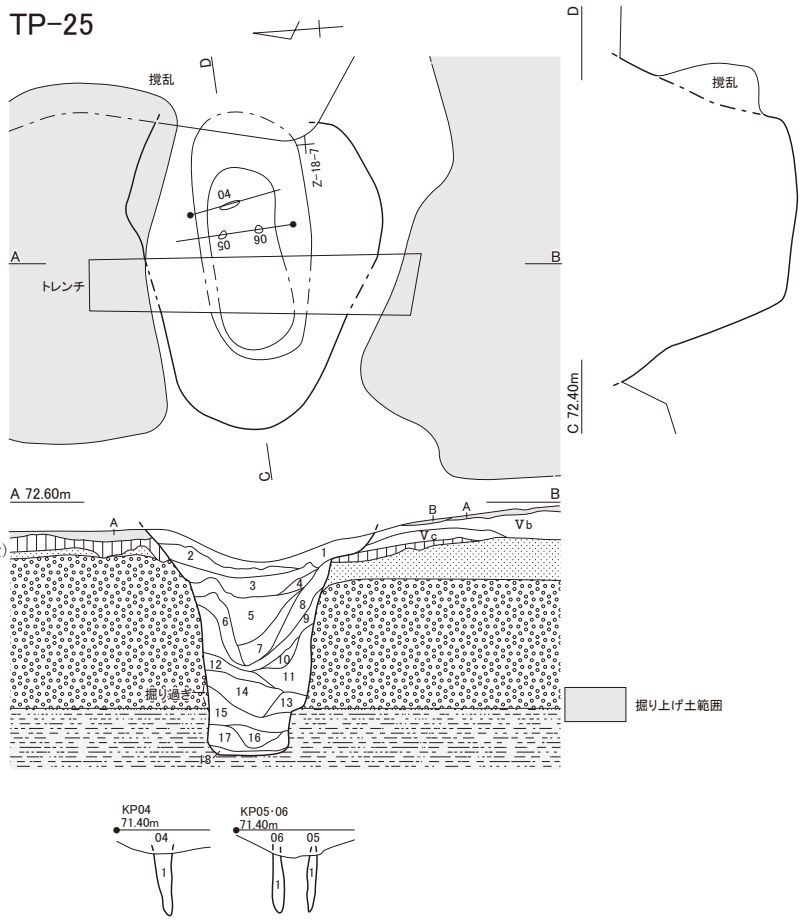

TP-24

1. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅵ≡Ⅷb(均一)
2. 7.5YR2/3　極暗褐色　Ⅴb=Ⅴc≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb-Ⅴc≡Ⅷb(均一)
4. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
5. 5YR3/2　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅷa(斑状)
6. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
7. 5YR2/4　極暗赤褐色　Ⅷb=Ⅴ=Ⅷa(斑状)
8. 5YR4/6　赤褐色　Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
9. 5YR2/3　極暗赤褐色　Ⅴ-Ⅷa=Ⅷb(均一)

KP01・02

1. 10YR6/3　にぶい黄橙色　Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
2. 10YR5/6　黄褐色　Ⅷb-Ⅴb(斑状)

## TP-25



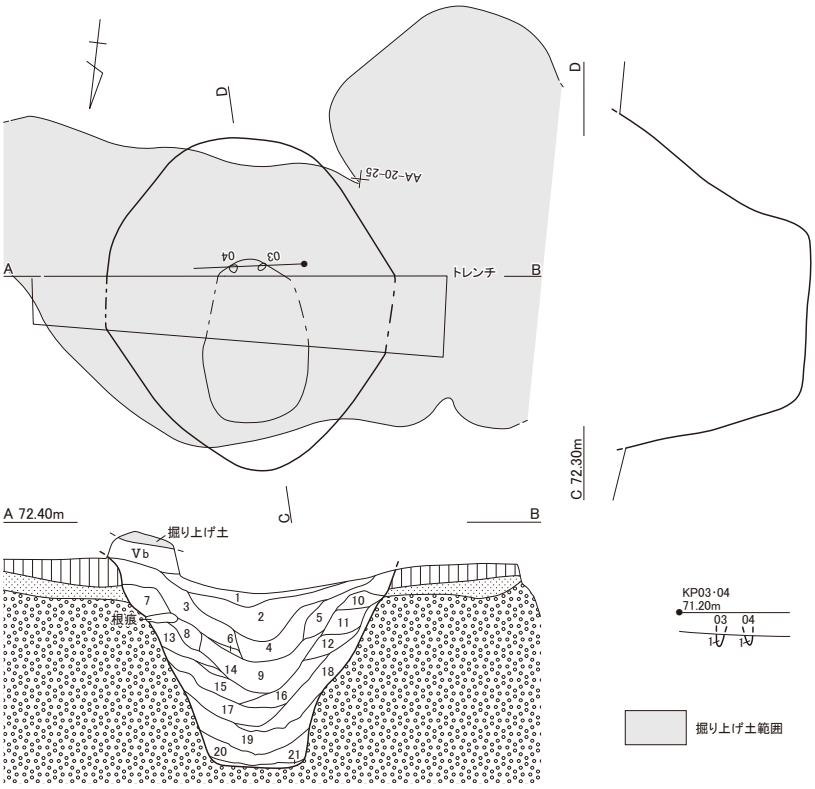

KP04～06

1. 10YR4/2　灰褐色　Ⅴb=Ⅷb(斑状)しまりなし

0　1：40　1m

図Ⅲ-16　TP-23 ～ 25 平面及び断面図

## TP−26



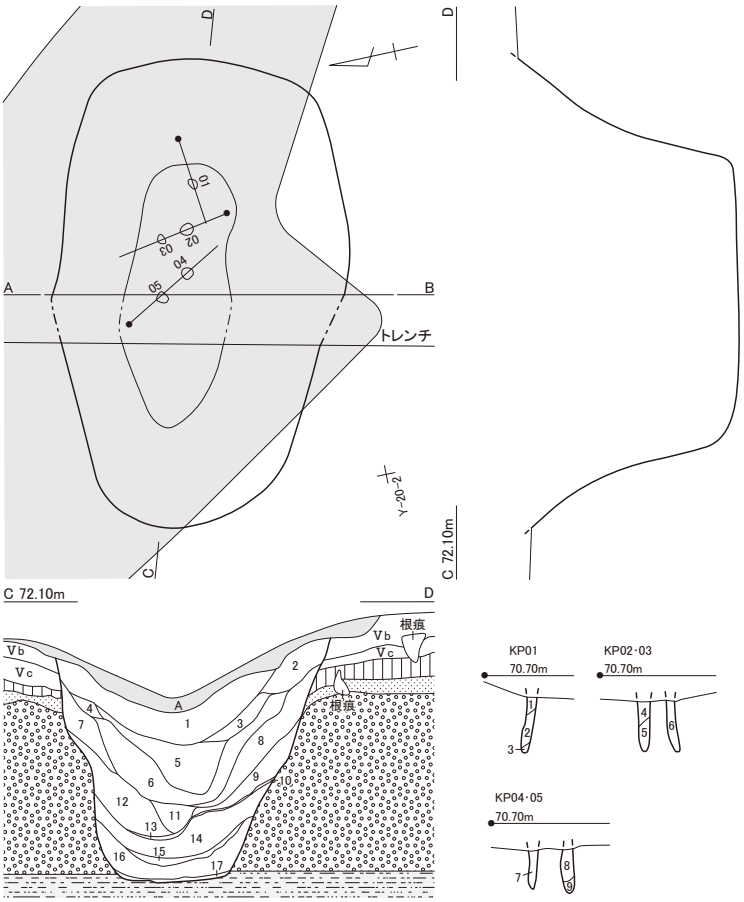

### TP−26

1. 7.5YR3/1　黒褐色　Vc≡Ⅷb(均一)
2. 7.5YR3/4　暗褐色　Vc=Ⅷb(均一)
3. 7.5YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
4. 7.5YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR3/2　黒褐色　Va-Ⅷa≡Ⅷb(均一)
6. 7.5YR2/3　極暗褐色　Vc-Ⅷb(均一)
7. 7.5YR4/1　褐灰色　Vc-Ⅷa≡Ⅵ(均一)
8. 7.5YR4/3　褐色　Vc=Ⅷb=Ⅷa(均一)
9. 7.5YR3/3　暗褐色　Vc≡Ⅷb(均一)
10. 5YR5/8　明赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
11. 5YR4/8　赤褐色　Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状)
12. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
13. 5YR4/3　にぶい赤褐色　Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状)
14. 5YR2/4　極暗赤褐色　Ⅷa=Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
15. 5YR4/6　赤褐色　Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
16. 5YR2/2　黒褐色　Ⅴ=Ⅷb(均一)
17. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅴ(斑状)
18. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅷa=Ⅴ(斑状)
19. 5YR3/2　暗赤褐色　Ⅷa-Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
20. 5YR3/3　暗赤褐色　Ⅷb-Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
21. 5YR2/2　黒褐色　Ⅷa-Ⅴ≡Ⅷb(斑状)

### KP03·04

1. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅸ≡Ⅷb≡Ⅴ(斑状)

## TP−28




### TP−28

A. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Vb≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
掘り上げ土
1. 10YR3/3　暗褐色　Vb=Vc=Ⅷb(φ5↓・均一)
2. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR3/2　黒褐色　Vb=Ⅵ≡Ⅷb(斑状)
4. 10YR3/1　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ1↓・均一)
5. 7.5YR4/4　褐色　Vb-Ⅷb(φ10↓・斑状)
6. 10YR2/2　黒褐色　Vb-Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 10YR5/6　黄褐色　Vc≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
8. 10YR4/4　褐色　Vc=Ⅷb(斑状)
9. 7.5YR4/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
10. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅷb≡Vc(斑状)
11. 10YR4/6　褐色　Vb-Ⅷb(φ5↓・均一)
12. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
13. 10YR4/6　褐色　Vb=Ⅷb(均一)
14. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb≡Vc(斑状)
15. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Vc=Ⅷb(φ2↓・斑状)
16. 7.5YR4/4　褐色　Ⅷb=Ⅵ(斑状)
17. 10YR3/3　暗褐色　Vb=Ⅷb(φ5↓・均一)

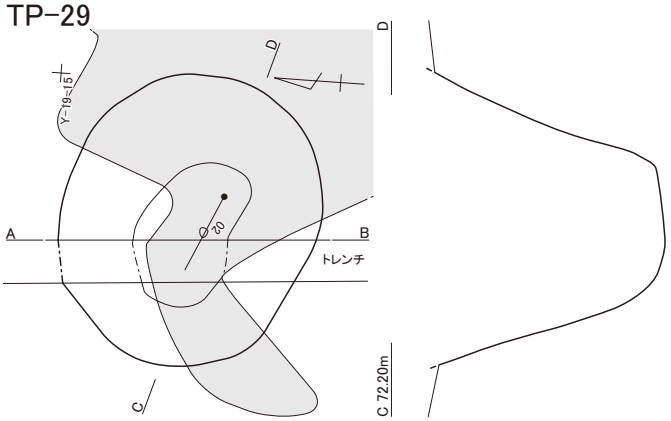
### KP01〜05

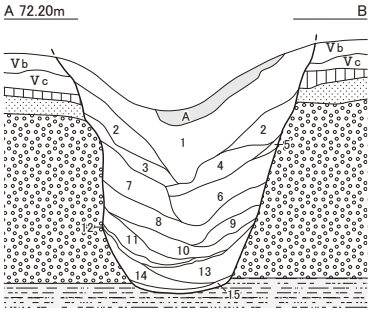
1. 10YR5/6　黄褐色　Ⅷb=Ⅸ(斑状)
2. 10YR6/3　にぶい黄橙色　Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
3. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅸ=Ⅷb(斑状)
4. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅳ=Ⅷb(均一)
5. 10YR4/2　灰褐色　Ⅸ=Ⅵ(斑状)
6. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅸ≡Ⅵ(斑状)
7. 10YR3/4　暗褐色　Ⅵ≡Ⅷb(均一)
8. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
9. 10YR4/6　褐色　Ⅸ=Ⅷb(斑状)

0　1：40　1m

図Ⅲ−17　TP−26·28 平面及び断面図

## TP−29



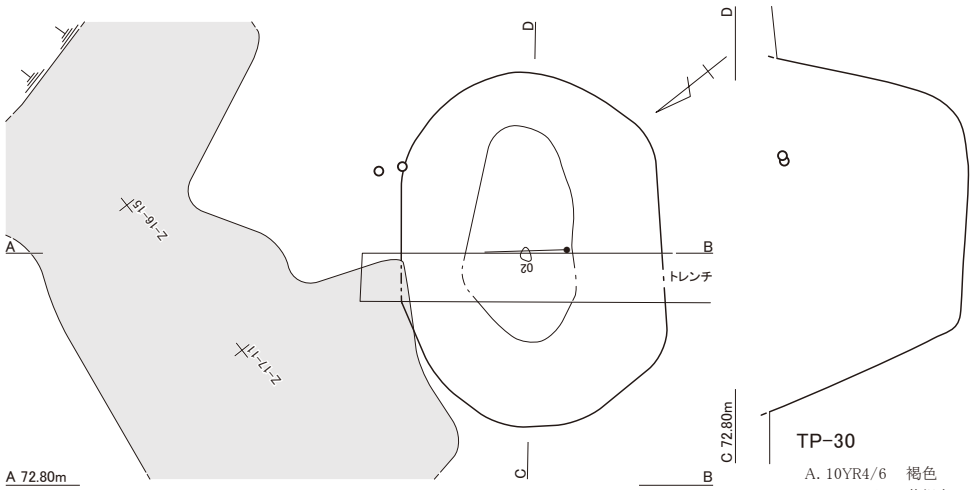
### TP−29

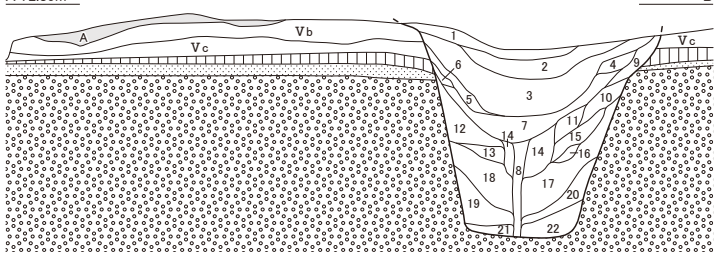
| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb+Vb(斑状)掘り上げ土 |
| 1. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Ⅷb=Vb(斑状) |
| 2. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb+Ⅵ(斑状) |
| 3. | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | Vb+Ⅵ=Ⅷa(均一) |
| 4. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅷa・b+Vb=Ⅵ(斑状) |
| 5. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷa・b=Vb(斑状) |
| 6. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 7. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb+Vb(斑状) |
| 8. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Vb(斑状) |
| 9. | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | Vb=Ⅷb(均一) |
| 10. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Vb(斑状) |
| 11. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb+Vb(斑状) |
| 12. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Vb(斑状)しまりなし |
| 13. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状)しまりなし |
| 14. | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ⅷb=Vb(斑状)しまりなし |
| 15. | 7.5YR4/4 | 褐色 | Ⅷb+Vb(均一) |

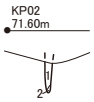
### KP02

1. 10YR3/3　暗褐色　Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状)

## TP−30




### KP02

1. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅸ=Ⅷb(斑状)
2. 10YR6/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅸ(均一)

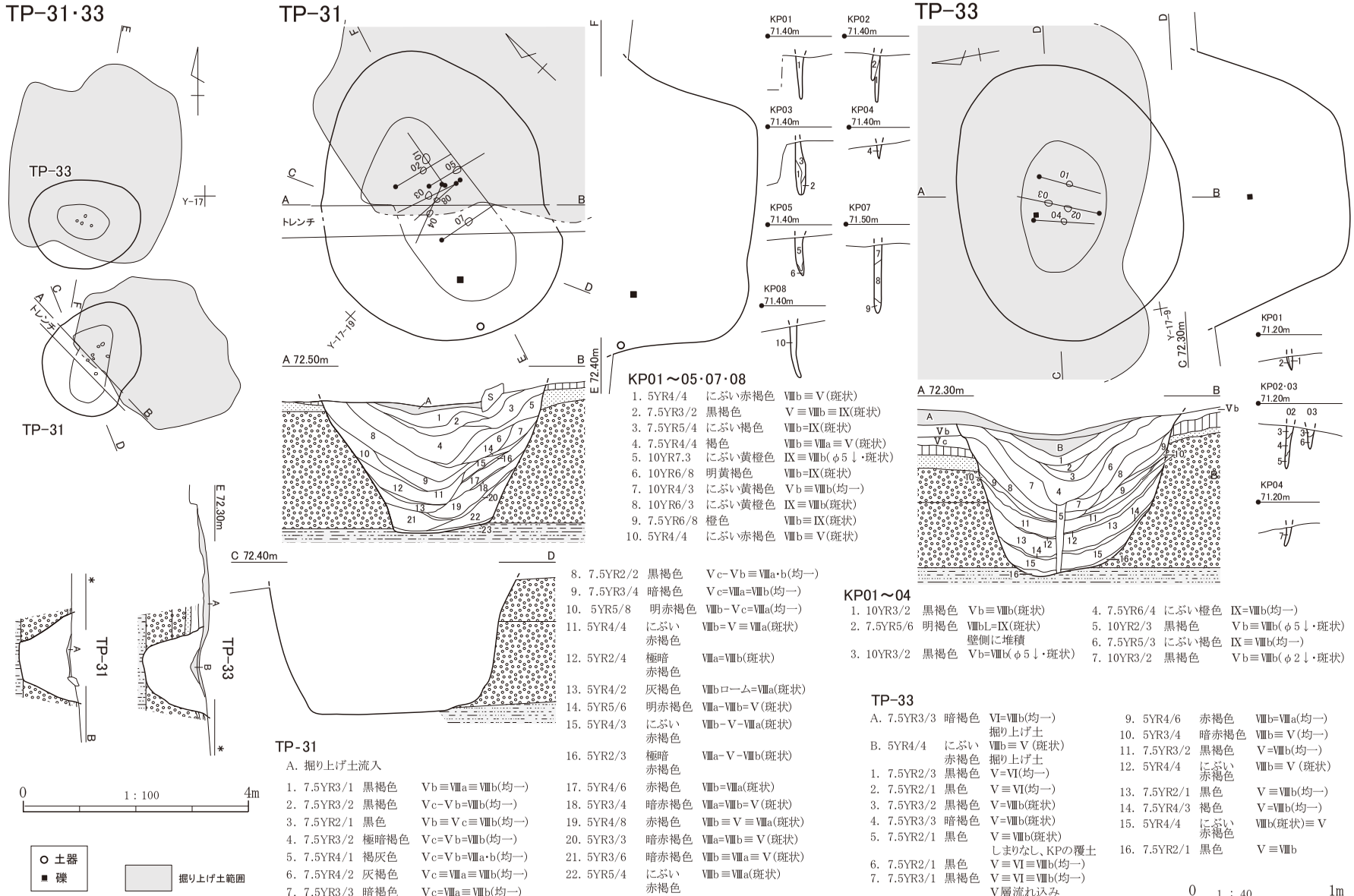
○ 土器

0　1：40　1m

### TP−30

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ≡Vc≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 1. | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 2. | 10YR4/4 | 褐色 | Vc=Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 3. | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ1↓・均一) |
| 4. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅵ−Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 5. | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vc≡Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 6. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vc≡Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 7. | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 8. | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 9. | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 10. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vc≡Ⅷb(φ1↓・斑状) |
| 11. | 10YR3/4 | 暗褐色 | Vb≡Vc(均一) |
| 12. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vc(斑状) |
| 13. | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Vc=Vb≡Ⅷb(均一) |
| 14. | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 15. | 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 16. | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(斑状) |
| 17. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 18. | 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Vc(斑状) |
| 19. | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 20. | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(均一) |
| 21. | 7.5YR3/2 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 22. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |

図Ⅲ−18　TP−29・30 平面及び断面図




## KP01～05・07・08

1. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ≡Ⅷb≡Ⅸ(斑状)
3. 7.5YR5/4 にぶい褐色 Ⅷb=Ⅸ(斑状)
4. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
5. 10YR7.3 にぶい黄橙色 Ⅸ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 10YR6/8 明黄褐色 Ⅷb=Ⅸ(斑状)
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅴb≡Ⅷb(均一)
8. 10YR6/3 にぶい黄橙色 Ⅸ≡Ⅷb(斑状)
9. 7.5YR6/8 橙色 Ⅷb≡Ⅸ(斑状)
10. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)

## KP01～04

1. 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR5/6 明褐色 ⅧbL=Ⅸ(斑状) 壁側に堆積
3. 10YR3/2 黒褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
4. 7.5YR6/4 にぶい橙色 Ⅸ=Ⅷb(均一)
5. 10YR2/3 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 7.5YR5/3 にぶい褐色 Ⅸ≡Ⅷb(均一)
7. 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)

## TP-31

A. 掘り上げ土流入

1. 7.5YR3/1 黒褐色 Vb≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
2. 7.5YR3/2 黒褐色 Vc-Vb=Ⅷb(均一)
3. 7.5YR2/1 黒色 Vb≡Vc≡Ⅷb(均一)
4. 7.5YR3/2 極暗褐色 Vc=Vb=Ⅷb(均一)
5. 7.5YR4/1 褐灰色 Vc=Vb=Ⅷa・b(均一)
6. 7.5YR4/2 灰褐色 Vc≡Ⅷa≡Ⅷb(均一)
7. 7.5YR3/3 暗褐色 Vc=Ⅷa≡Ⅷb(均一)
8. 7.5YR2/2 黒褐色 Vc-Vb≡Ⅷa・b(均一)
9. 7.5YR3/4 暗褐色 Vc=Ⅷa=Ⅷb(均一)
10. 5YR5/8 明赤褐色 Ⅷb-Vc=Ⅷa(均一)
11. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb=Ⅴ≡Ⅷa(斑状)
12. 5YR2/4 極暗赤褐色 Ⅷa=Ⅷb(斑状)
13. 5YR4/2 灰褐色 Ⅷbローム=Ⅷa(斑状)
14. 5YR5/6 明赤褐色 Ⅷa-Ⅷb=Ⅴ(斑状)
15. 5YR4/3 にぶい赤褐色 Ⅷb-Ⅴ-Ⅷa(斑状)
16. 5YR2/3 極暗赤褐色 Ⅷa-Ⅴ-Ⅷb(斑状)
17. 5YR4/6 赤褐色 Ⅷb=Ⅷa(斑状)
18. 5YR3/4 暗赤褐色 Ⅷa=Ⅷb=Ⅴ(斑状)
19. 5YR4/8 赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ≡Ⅷa(斑状)
20. 5YR3/3 暗赤褐色 Ⅷa=Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
21. 5YR3/6 暗赤褐色 Ⅷb≡Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
22. 5YR5/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅷa(斑状)
23. 5YR3/2 暗赤褐色 V=Ⅷb=Ⅷa(均一)

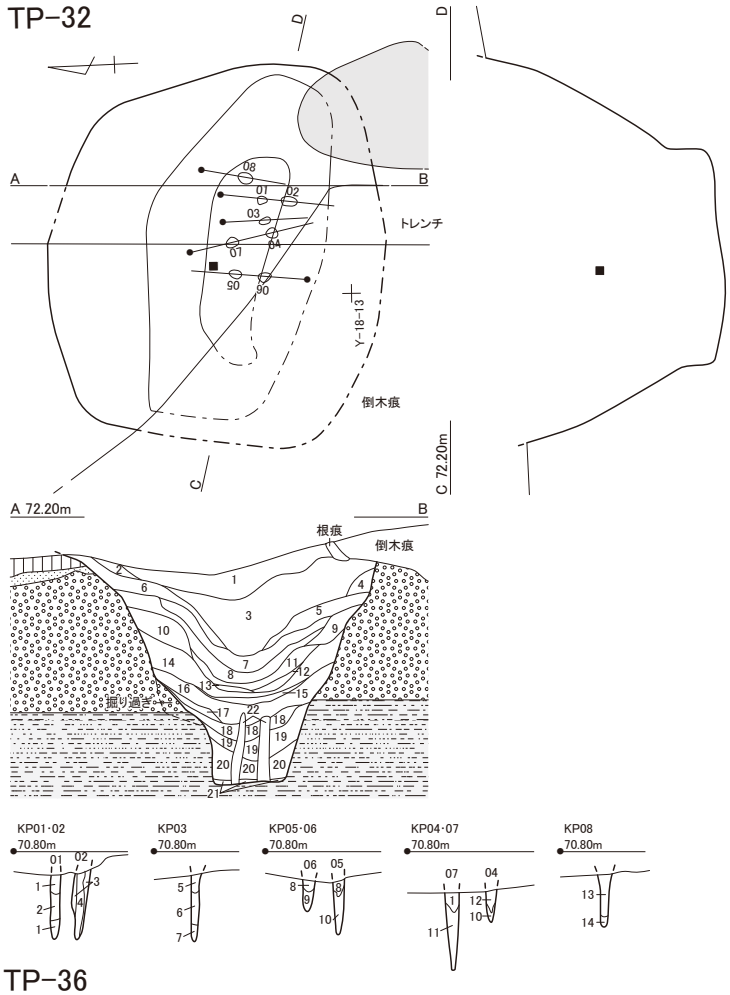
## TP-33

A. 7.5YR3/3 暗褐色 VI=Ⅷb(均一) 掘り上げ土
B. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状) 掘り上げ土
1. 7.5YR2/3 黒褐色 V=VI(均一)
2. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ≡VI(均一)
3. 7.5YR3/2 黒褐色 V=Ⅷb(斑状)
4. 7.5YR3/3 暗褐色 V=Ⅷb(斑状)
5. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ≡Ⅷb(斑状) しまりなし、KPの覆土
6. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ≡VI≡Ⅷb(均一)
7. 7.5YR3/1 黒褐色 Ⅴ≡VI≡Ⅷb(均一) Ⅴ層流れ込み
8. 7.5YR2/3 黒褐色 V=VI(均一)
9. 5YR4/6 赤褐色 Ⅷb=Ⅷa(均一)
10. 5YR3/4 暗赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(均一)
11. 7.5YR3/2 黒褐色 Ⅴ=Ⅷb(均一)
12. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
13. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ≡Ⅷb(均一)
14. 7.5YR4/3 褐色 Ⅴ=Ⅷb(均一)
15. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb(斑状)≡Ⅴ
16. 7.5YR2/1 黒色 Ⅴ≡Ⅷb

0 1：40 1m

図Ⅲ-19 TP-31・33 平面及び断面図

## TP-32



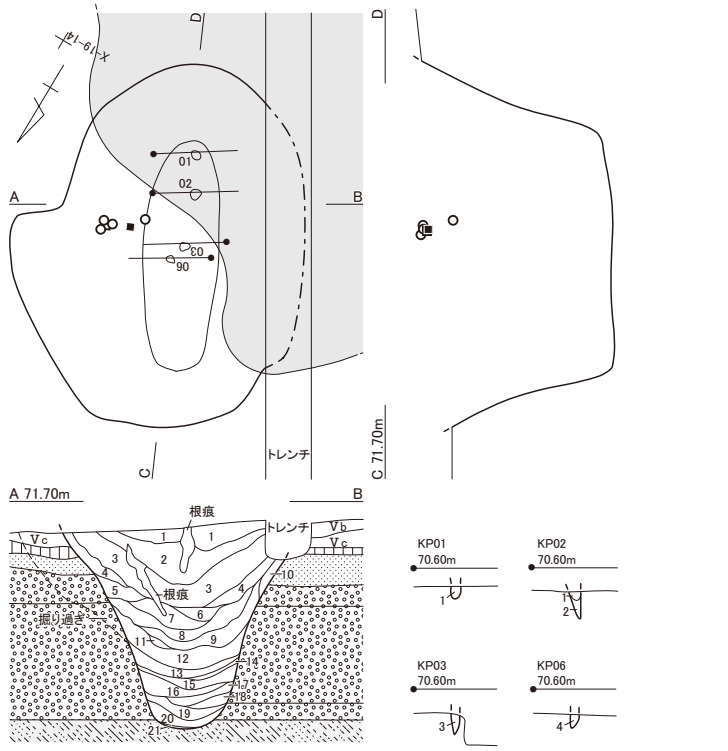

### TP-32

1. 7.5YR1.7/1　黒色　Ⅴb≡Ⅷb≡Ⅷa(均一)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅷa=Ⅴc≡Ⅷb(斑状)
3. 7.5YR2/1　黒色　Ⅴb≡Ⅷb≡Ⅷa(均一)
4. 5YR5/8　明褐色　Ⅷb=Ⅴc=Ⅷa(斑状)
5. 7.5YR3/1　黒褐色　Ⅴb=Ⅷa=Ⅷb(斑状)
6. 7.5YR3/3　極暗褐色　Ⅴc≡Ⅴb≡Ⅷa≡Ⅷb(斑状)
7. 7.5YR2/2　黒褐色　Ⅴc=Ⅷa≡Ⅷb(均一)
8. 5YR3/2　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅴ(斑状)
9. 5YR4/8　赤褐色　Ⅷa-Ⅷb(斑状)
10. 5YR4/6　赤褐色　Ⅷa=Ⅷb=Ⅴ(斑状)
11. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴc-Ⅴb≡Ⅷb(均一)
12. 7.5YR3/4　暗褐色　Ⅴc≡Ⅷa・b(均一)
13. 5YR3/1　黒褐色　Ⅴ-Ⅷb=Ⅷa(斑状)
14. 5YR3/4　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅷa=Ⅴ(均一)
15. 5YR3/3　暗赤褐色　Ⅴ=Ⅷb=Ⅷa(均一)
16. 5YR4/3　にぶい赤褐色　Ⅷb-Ⅷa=Ⅴ(斑状)
17. 5YR2/2　黒褐色　Ⅴ=Ⅷa=Ⅷb(斑状)
18. 5YR3/6　暗赤褐色　Ⅷb=Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
19. 5YR4/2　灰褐色　Ⅷa≡Ⅷb≡Ⅴ(斑状)
20. 5YR4/4　にぶい赤褐色　Ⅷb-Ⅷa≡Ⅴ(斑状)
21. 5YR2/1　黒褐色　Ⅴ≡Ⅷb≡Ⅷa(均一)
22. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅴ≡Ⅷa≡Ⅷb(斑状)

### KP01～08

1. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅸ≡Ⅴb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb=Ⅴb(φ10↓・斑状)
4. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅸ≡Ⅴb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
5. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅸ(φ10↓・斑状)
6. 10YR6/4　にぶい黄橙色　Ⅸ≡Ⅴb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 7.5YR6/6　橙色　Ⅸ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
8. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb=Ⅷb(φ2↓・斑状)
9. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb=Ⅸ(斑状)
10. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅴb=Ⅸ(斑状)
11. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb=Ⅸ(斑状)
12. 10YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
13. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb=Ⅸ(φ5↓・斑状)
14. 7.5YR6/6　橙色　Ⅷb=Ⅸ≡Ⅷa(φ5↓・斑状)

## TP-36




### TP-36

1. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴb =Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
3. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷa・b(均一)
4. 7.5YR4/2　灰褐色　Ⅴb =Ⅷa・b≡Ⅵ(均一)
5. 7.5YR4/6　明褐色　Ⅷa・b =Ⅴb(斑状)
6. 7.5YR3/3　暗褐色　Ⅴb =Ⅷa・b(均一)
7. 7.5YR3/3　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷa・b(均一)
8. 7.5YR4/4　褐色　Ⅴb -Ⅷb(斑状)
9. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
10. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
11. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
12. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Ⅴb(斑状)
13. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
14. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Ⅴb(斑状)
15. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
16. 7.5YR4/6　褐色　Ⅴb +Ⅷb(均一)
17. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷa・b(均一)
18. 7.5YR4/6　褐色　Ⅴb +Ⅷb(均一)
19. 7.5YR3/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(均一)
20. 7.5YR4/6　褐色　Ⅷb +Ⅴb(斑状)
21. 7.5YR6/6　橙色　Ⅸ≡Ⅷb(斑状)

### KP01～03・06

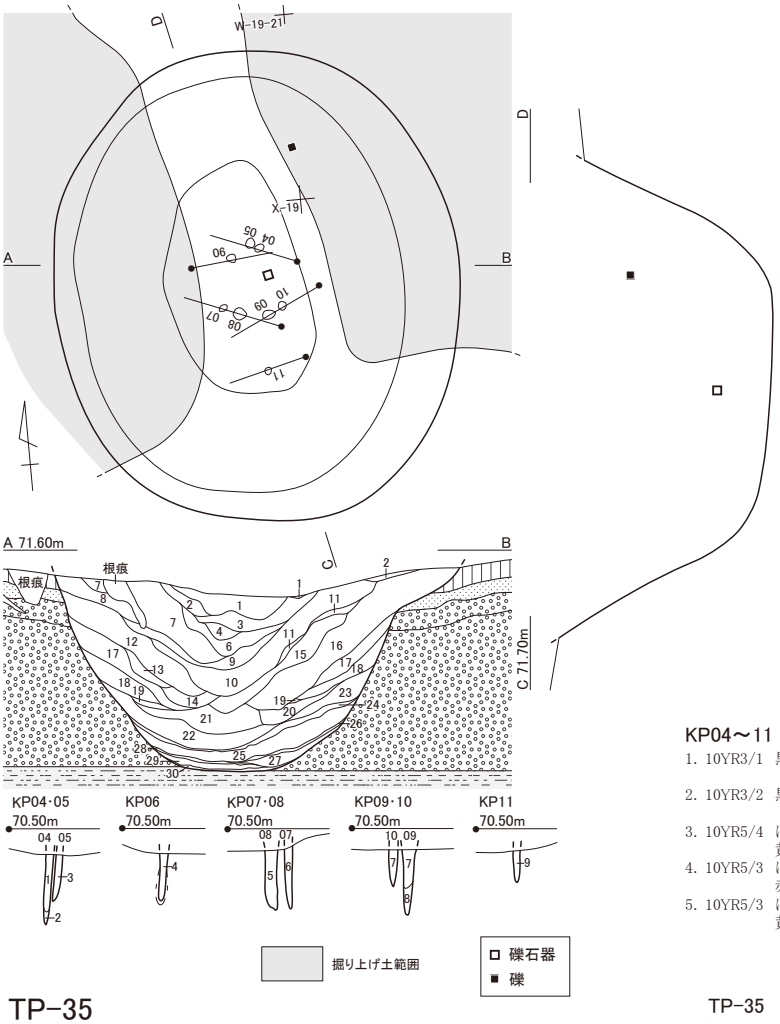
1. 10YR3/2　黒褐色　Ⅴb =Ⅷb(φ2↓・斑状)
2. 10YR2/2　黒褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
3. 10YR3/3　暗褐色　Ⅴb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
4. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅳ(均一)

○ 土器
□ 礫石器
■ 礫

0　1：40　1m

図Ⅲ-20　TP-32・36 平面及び断面図

## TP-34



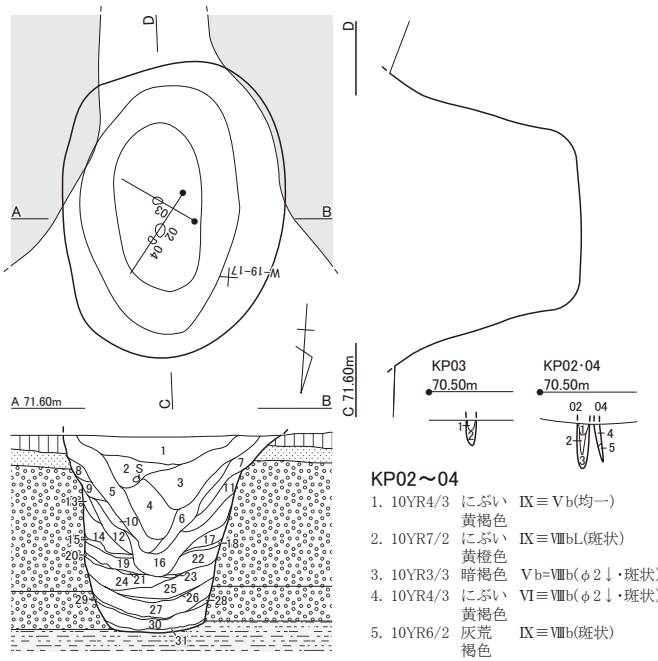

### TP-34

1. 7.5YR4/4 褐色 Vb+Ⅷb(斑状)
2. 7.5YR6/3 にぶい褐色 Vb=Ⅷb(斑状)
3. 7.5YR4/3 褐色 Vb-Ⅷb(斑状)
4. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
5. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
6. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
7. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)掘り上げ土
8. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
9. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(斑状)
10. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)掘り上げ土
11. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
12. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)
13. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(斑状)
14. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(斑状)
15. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb-Vb(斑状)掘り上げ土
16. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
17. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷa・b-Vb(斑状)
18. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷa・b=Vb(斑状)
19. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
20. 7.5YR5/6 褐色 Ⅷa・b-Vb(斑状)
21. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb+Vb(斑状)
22. 7.5YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(均一)
23. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
24. 7.5YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
25. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)
26. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb-Vb(斑状)
27. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb+Vb(斑状)
28. 7.5YR4/3 褐色 Vb-Ⅷb(均一)
29. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb-Vb(斑状)
30. 7.5YR4/4 褐色 Vb+Ⅷb(均一)

### KP04～11

1. 10YR3/1 黒褐色 Vb≡Ⅷb (φ2↓・斑状)
2. 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb (φ2↓・均一)
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Ⅷb (斑状)
4. 10YR5/3 にぶい赤褐色 Ⅸ≡Vb≡Ⅷb (φ2↓・斑状)
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色 Ⅵ=Ⅷb (斑状)
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Vb≡Ⅷb (斑状)
7. 10YR4/4 褐色 Ⅵ≡Vb=Ⅷb (φ5↓・斑状)
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色 Ⅸ=Ⅵ=Ⅷb (斑状)
9. 10YR7/6 黄橙色 Ⅷb=Ⅸ(均一)

## TP-35




### KP02～04

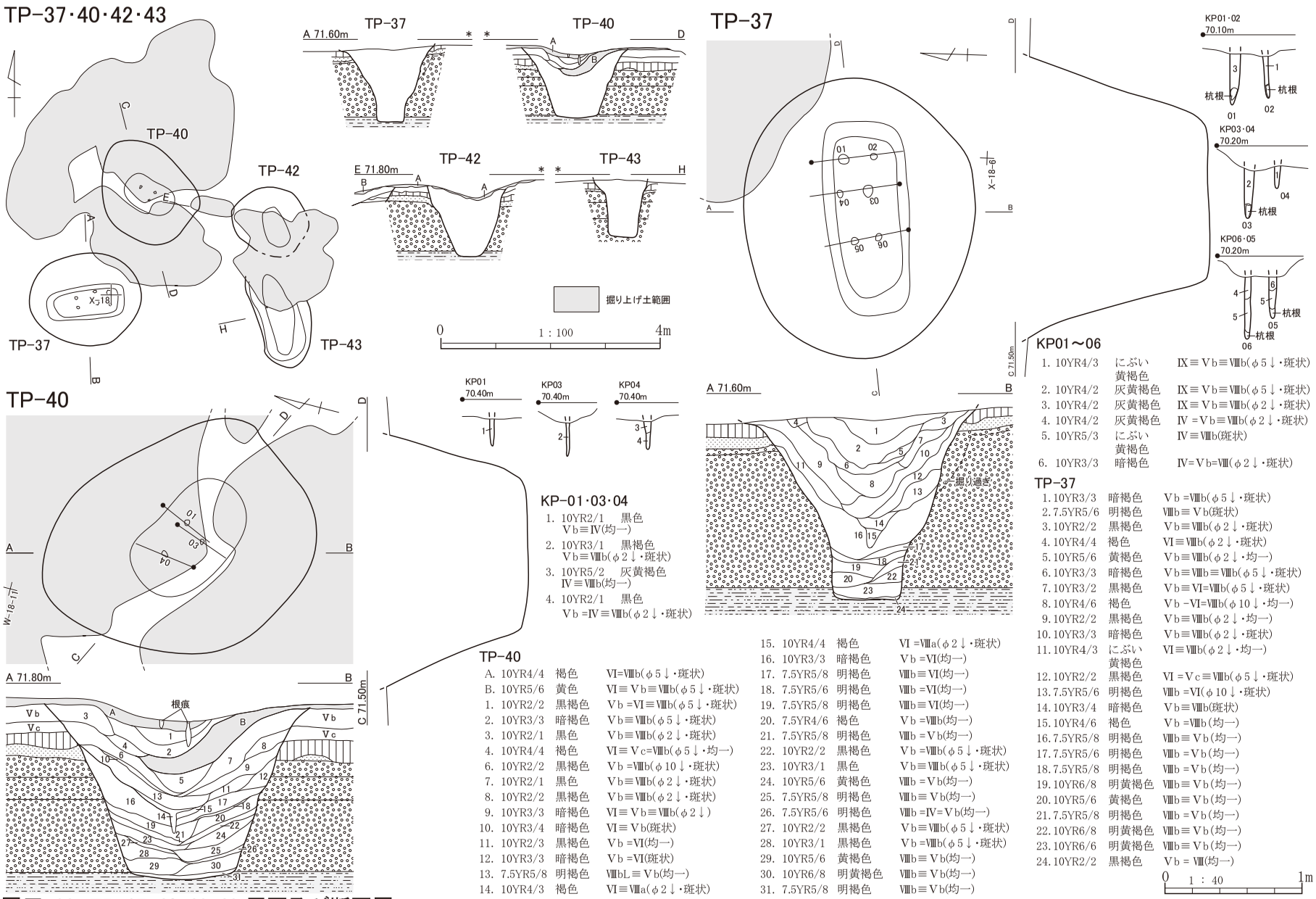
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅸ≡Vb(均一)
2. 10YR7/2 にぶい黄橙色 Ⅸ≡ⅧbL(斑状)
3. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR6/2 灰荒褐色 Ⅸ≡Ⅷb(斑状)

### TP-35

1. 10YR3/3 暗褐色 Ⅷb(φ5↓・均一)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vc-Ⅷb(φ10↓・斑状)
3. 10YR2/3 黒褐色 Vc=Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
4. 10YR4/4 褐色 Ⅵ=Vb+Ⅷb(φ10↓・斑状)
5. 10YR2/1 黒色 Vb≡Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
6. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Ⅷb(φ1↓・斑状)
9. 10YR3/3 にぶい黄褐色 Ⅵ≡Vb(斑状)
10. 10YR3/4 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ2↓・均一)
11. 10YR5/6 黄褐色 Ⅵ=Ⅷb(斑状)
12. 10YR4/6 褐色 Vc=Ⅷb(斑状)
13. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb-Ⅵ(斑状)
14. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
15. 10YR3/4 暗褐色 Ⅵ=Ⅷb(斑状)
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb=Ⅷb(φ10↓・斑状)
17. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
18. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb=Ⅵ(斑状)
19. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(φ5↓・斑状)
20. 7.5YR4/6 褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
21. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
22. 7.5YR6/8 橙色 Ⅷb≡Ⅵ(φ2↓・斑状)
23. 7.5YR4/4 褐色 Vb≡Ⅷb(均一)
24. 7.5YR4/6 褐色 Vc-Ⅷb(均一)
25. 7.5YR5/6 明褐色 Vc+Ⅷb(均一)
26. 7.5YR4/6 褐色 Vb-Ⅷb(φ5↓・斑状)
27. 5YR4/4 にぶい赤褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
28. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
29. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vb(斑状)
30. 7.5YR5/8 明褐色 Vb+Ⅷb(φ5↓・均一)
31. 7.5YR6/8 橙色 Vb+Ⅷb(φ2↓・均一)

0 1：40 1m

図Ⅲ-21 TP-34・35 平面及び断面図




図Ⅲ-22　TP-37・40・42・43 平面及び断面図

**KP-01・03・04**

1. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅳ(均一)
2. 10YR3/1　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
3. 10YR5/2　灰黄褐色　Ⅳ≡Ⅷb(均一)
4. 10YR2/1　黒色　Vb =Ⅳ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)

**TP-40**

A. 10YR4/4　褐色　Ⅵ=Ⅷb(φ5↓・斑状)
B. 10YR5/6　黄色　Ⅵ≡Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
1. 10YR2/2　黒褐色　Vb =Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR3/3　暗褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Vc=Ⅷb(φ5↓・均一)
6. 10YR2/2　黒褐色　Vb =Ⅷb(φ10↓・斑状)
7. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
8. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
9. 10YR3/3　暗褐色　Ⅵ≡Vb≡Ⅷb(φ2↓)
10. 10YR3/4　暗褐色　Ⅵ≡Vb(斑状)
11. 10YR2/3　黒褐色　Vb =Ⅵ(均一)
12. 10YR3/3　暗褐色　Vb =Ⅵ(斑状)
13. 7.5YR5/8　明褐色　ⅧbL≡Vb(均一)
14. 10YR4/3　褐色　Ⅵ≡Ⅷa(φ2↓・斑状)
15. 10YR4/4　褐色　Ⅵ =Ⅷa(φ2↓・斑状)
16. 10YR3/3　暗褐色　Vb =Ⅵ(均一)
17. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Ⅵ(均一)
18. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Ⅵ(均一)
19. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Ⅵ(均一)
20. 7.5YR4/6　褐色　Vb =Ⅷb(均一)
21. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb =Vb(均一)
22. 10YR2/2　黒褐色　Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状)
23. 10YR3/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
24. 10YR5/6　黄褐色　Ⅷb =Vb(均一)
25. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
26. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Ⅳ=Vb(均一)
27. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
28. 10YR3/1　黒褐色　Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状)
29. 10YR5/6　黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
30. 10YR6/8　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
31. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(均一)

**KP01～06**

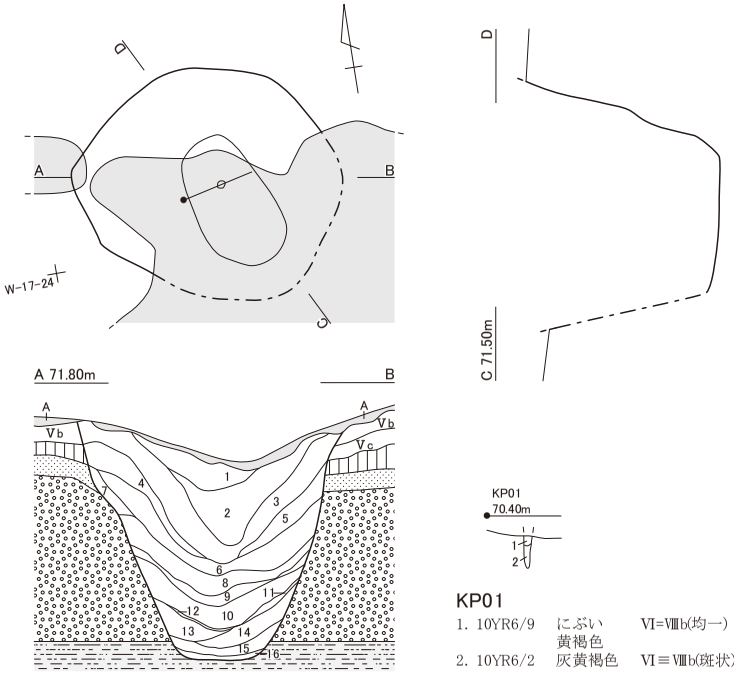
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅸ≡Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR4/2　灰黄褐色　Ⅸ≡Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR4/2　灰黄褐色　Ⅸ≡Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR4/2　灰黄褐色　Ⅳ =Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅳ≡Ⅷb(斑状)
6. 10YR3/3　暗褐色　Ⅳ=Vb=Ⅷ(φ2↓・斑状)

**TP-37**

1. 10YR3/3　暗褐色　Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
3. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR5/6　黄褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
6. 10YR3/3　暗褐色　Vb≡Ⅷb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 10YR3/2　黒褐色　Vb≡Ⅵ=Ⅷb(φ5↓・斑状)
8. 10YR4/6　褐色　Vb -Ⅵ=Ⅷb(φ10↓・均一)
9. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
10. 10YR3/3　暗褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
11. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・均一)
12. 10YR2/2　黒褐色　Ⅵ =Vc≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
13. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Ⅵ(φ10↓・斑状)
14. 10YR3/4　暗褐色　Vb≡Ⅷb(斑状)
15. 10YR4/6　褐色　Vb =Ⅷb(均一)
16. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
17. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb =Vb(均一)
18. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb =Vb(均一)
19. 10YR6/8　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
20. 10YR5/6　黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
21. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb =Vb(均一)
22. 10YR6/8　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
23. 10YR6/6　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
24. 10YR2/2　黒褐色　Vb = Ⅷ(均一)

0　1：40　1m

## TP-42



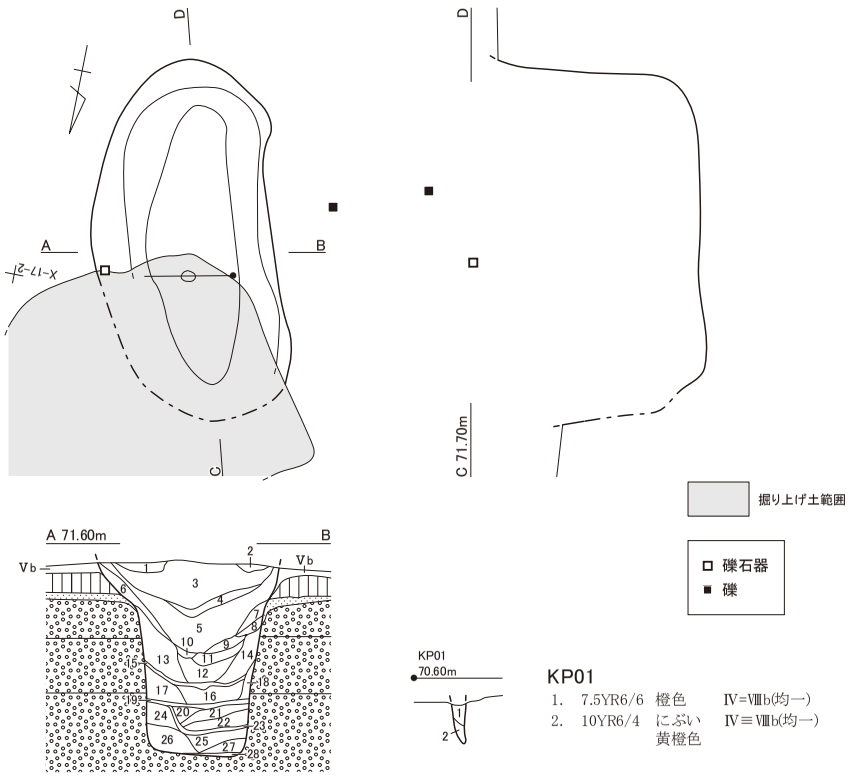

KP01

1. 10YR6/9　にぶい黄褐色　Ⅵ=Ⅷb(均一)
2. 10YR6/2　灰黄褐色　Ⅵ≡Ⅷb(斑状)

TP-42

| | | |
|---|---|---|
| A. 10YR4/4 | 褐色 | Vc=Ⅵ=Ⅷb(φ2↓・斑状)堀り上げ土 |
| 1. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vc≡Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 2. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ＋Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 3. 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 4. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ=Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 5. 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| 6. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb≡Ⅵ-Ⅷb(φ5↓・均一) |
| 7. 7.5YR6/8 | 橙色 | Ⅷa≡Ⅵ(均一) |
| 8. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 9. 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 10. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb=Vb=Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 11. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・均一) |
| 12. 10YR5/8 | 黄褐色 | Ⅷb=Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 13. 10YR5/8 | 黄褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 14. 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb=Ⅳ=Vb(均一) |
| 15. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 16. 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |

## TP-43




KP01

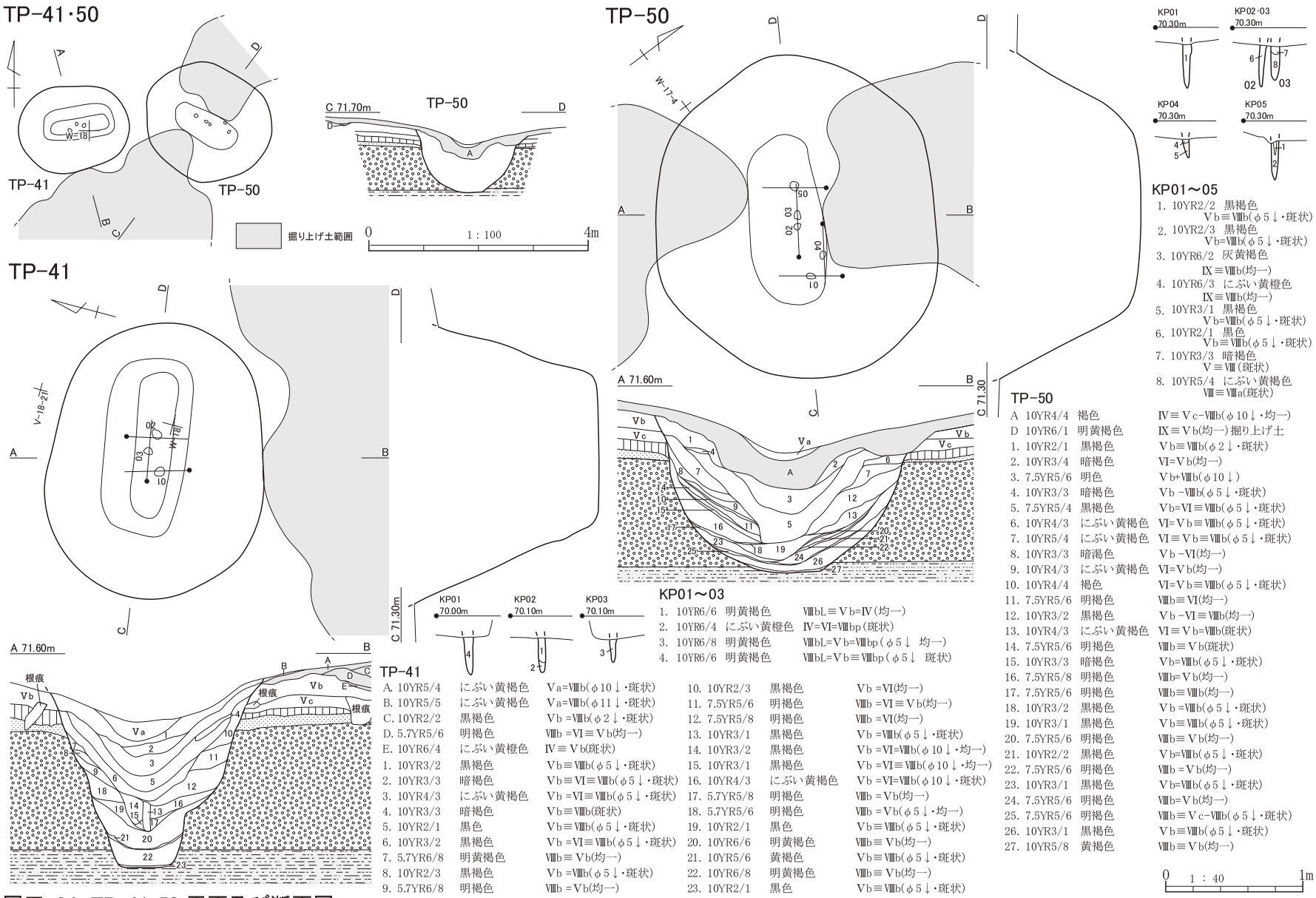
1. 7.5YR6/6　橙色　Ⅳ=Ⅷb(均一)
2. 10YR6/4　にぶい黄橙色　Ⅳ≡Ⅷb(均一)

TP-43

| | | |
|---|---|---|
| 1. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(ブロック状) |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(ブロック状) |
| 3. 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb-Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 4. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 5. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 6. 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | Vc≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 7. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 8. 7.5YR5/6 | 明褐色 | ⅧbL≡Vb(斑状) |
| 9. 10YR5/6 | 黄褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 10. 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・均一) |
| 11. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅵ＋Ⅷb(均一) |
| 12. 7.5YR4/4 | 褐色 | ⅧbL=Vb(均一) |
| 13. 10YR4/6 | 褐色 | Ⅵ－ⅧbL(斑状) |
| 14. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷbp≡Vb(均一) |
| 15. 10YR4/4 | 褐色 | Vb-Ⅷb(均一) |
| 16. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb=Ⅵ(均一) |
| 17. 10YR6/8 | 明黄褐色 | Ⅷb=Ⅵ(均一) |
| 18. 7.5YR6/8 | 明褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 19. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅵ(均一) |
| 20. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 21. 7.5YR5/6 | 明褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 22. 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 23. 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 24. 10YR5/6 | 黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 25. 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 26. 10YR6/8 | 明黄褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 27. 10YR5/6 | 黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 28. 10YR5/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状) |

0　1：40　1m

図Ⅲ-23　TP-42・43 平面及び断面図




## KP01～05

1. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR2/3　黒褐色　Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR6/2　灰黄褐色　Ⅸ≡Ⅷb(均一)
4. 10YR6/3　にぶい黄橙色　Ⅸ≡Ⅷb(均一)
5. 10YR3/1　黒褐色　Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 10YR3/3　暗褐色　V≡Ⅷ(斑状)
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅷ≡Ⅷa(斑状)

## TP-50

| | | |
|---|---|---|
| A | 10YR4/4　褐色 | Ⅳ≡Vc-Ⅷb(φ10↓・均一) |
| D | 10YR6/1　明黄褐色 | Ⅸ≡Vb(均一)掘り上げ土 |
| 1. | 10YR2/1　黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| 2. | 10YR3/4　暗褐色 | Ⅵ=Vb(均一) |
| 3. | 7.5YR5/6　明色 | Vb+Ⅷb(φ10↓) |
| 4. | 10YR3/3　暗褐色 | Vb -Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 5. | 7.5YR5/4　黒褐色 | Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 6. | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | Ⅵ=Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 7. | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 8. | 10YR3/3　暗渇色 | Vb -Ⅵ(均一) |
| 9. | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | Ⅵ=Vb(均一) |
| 10. | 10YR4/4　褐色 | Ⅵ=Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 11. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb≡Ⅵ(均一) |
| 12. | 10YR3/2　黒褐色 | Vb -Ⅵ≡Ⅷb(均一) |
| 13. | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | Ⅵ≡Vb=Ⅷb(斑状) |
| 14. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状) |
| 15. | 10YR3/3　暗褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 16. | 7.5YR5/8　明褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 17. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb≡Ⅷb(均一) |
| 18. | 10YR3/2　黒褐色 | Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 19. | 10YR3/1　黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 20. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 21. | 10YR2/2　黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 22. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb =Vb(均一) |
| 23. | 10YR3/1　黒褐色 | Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 24. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb=Vb(均一) |
| 25. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb≡Vc-Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 26. | 10YR3/1　黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 27. | 10YR5/8　黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |

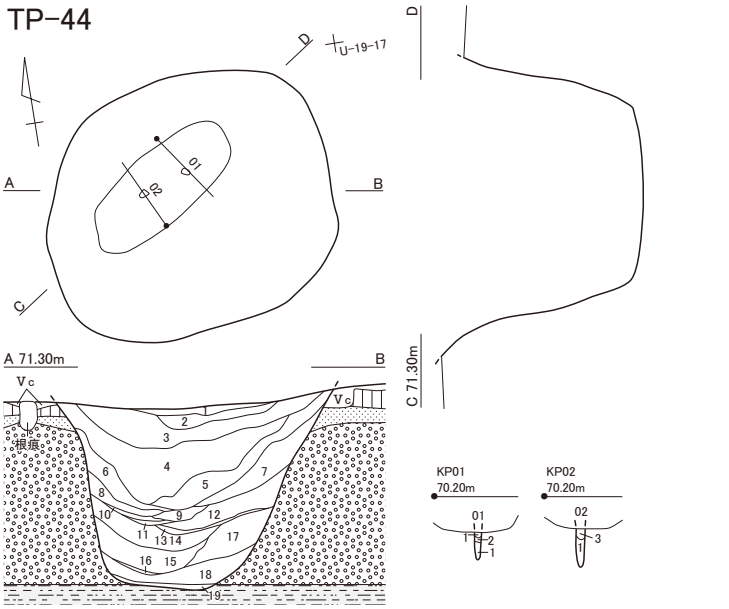
## KP01～03

1. 10YR6/6　明黄褐色　ⅧbL≡Vb=Ⅳ(均一)
2. 10YR6/4　にぶい黄橙色　Ⅳ=Ⅵ=Ⅷbp(斑状)
3. 10YR6/8　明黄褐色　ⅧbL=Vb=Ⅷbp(φ5↓　均一)
4. 10YR6/6　明黄褐色　ⅧbL=Vb≡Ⅷbp(φ5↓　斑状)

## TP-41

| | | |
|---|---|---|
| A. | 10YR5/4　にぶい黄褐色 | Va=Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| B. | 10YR5/5　にぶい黄褐色 | Va=Ⅷb(φ11↓・斑状) |
| C. | 10YR2/2　黒褐色 | Vb =Ⅷb(φ2↓・斑状) |
| D. | 5.7YR5/6　明褐色 | Ⅷb =Ⅵ≡Vb(均一) |
| E. | 10YR6/4　にぶい黄橙色 | Ⅳ≡Vb(斑状) |
| 1. | 10YR3/2　黒褐色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 2. | 10YR3/3　暗褐色 | Vb≡Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 3. | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | Vb =Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 4. | 10YR3/3　暗褐色 | Vb≡Ⅷb(斑状) |
| 5. | 10YR2/1　黒色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 6. | 10YR3/2　黒褐色 | Vb =Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 7. | 5.7YR6/8　明黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 8. | 10YR2/3　黒褐色 | Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 9. | 5.7YR6/8　明褐色 | Ⅷb =Vb(均一) |
| 10. | 10YR2/3　黒褐色 | Vb =Ⅵ(均一) |
| 11. | 7.5YR5/6　明褐色 | Ⅷb =Ⅵ≡Vb(均一) |
| 12. | 7.5YR5/8　明褐色 | Ⅷb =Ⅵ(均一) |
| 13. | 10YR3/1　黒褐色 | Vb =Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 14. | 10YR3/2　黒褐色 | Vb =Ⅵ=Ⅷb(φ10↓・均一) |
| 15. | 10YR3/1　黒褐色 | Vb =Ⅵ≡Ⅷb(φ10↓・均一) |
| 16. | 10YR4/3　にぶい黄褐色 | Vb =Ⅵ=Ⅷb(φ10↓・斑状) |
| 17. | 5.7YR5/8　明褐色 | Ⅷb =Vb(均一) |
| 18. | 5.7YR5/6　明褐色 | Ⅷb =Vb(φ5↓・均一) |
| 19. | 10YR2/1　黒色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 20. | 10YR6/6　明黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 21. | 10YR5/6　黄褐色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |
| 22. | 10YR6/8　明黄褐色 | Ⅷb≡Vb(均一) |
| 23. | 10YR2/1　黒色 | Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状) |

図Ⅲ-24　TP-41・50 平面及び断面図

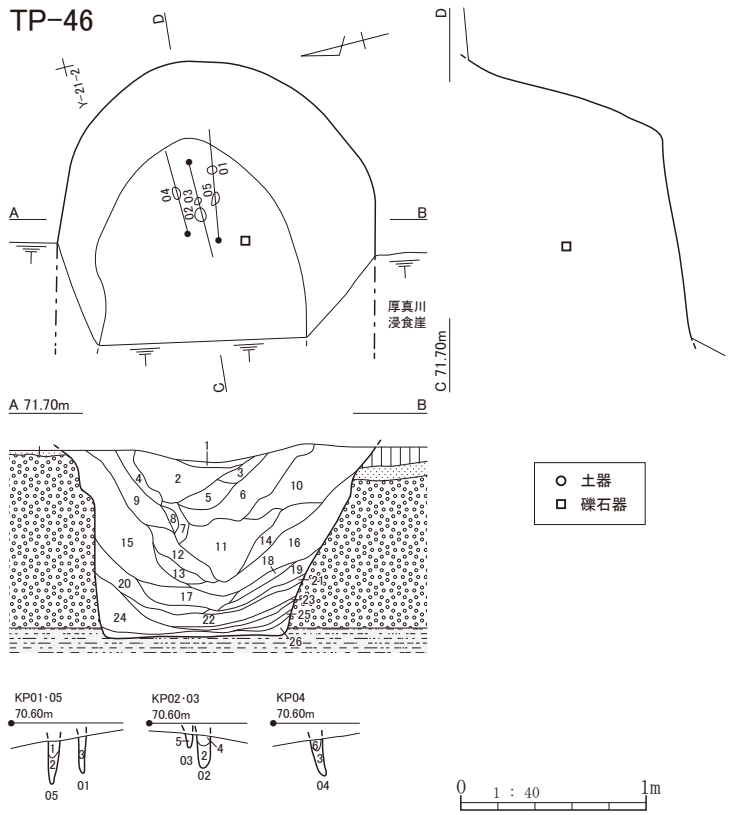



TP−44

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
2. 10YR3/2 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・均一)
3. 10YR2/2 黒褐色 Vb −Ⅷb(φ10↓・斑状)
4. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・均一)
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・均一)
6. 10YR4/4 褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅵ≡Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
8. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb=V(φ5↓・斑状)
9. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(斑状)
10. 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状)
12. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Vb(φ5↓・斑状)
13. 7.5YR4/4 褐色 Vb=ⅧbL(均一)
14. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(φ5↓・斑状)
15. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Vb(φ5↓・斑状)
16. 10YR4/6 褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・均一)
17. 5YR4/6 赤褐色 Ⅷb≡V(φ5↓・斑状)
18. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb=V(φ2↓・斑状)
19. 10YR3/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ5↓・均一)

KP01・02

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅳ=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR2/2 黒褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR3/1 黒褐色 Vb≡Ⅵ=Ⅷb(φ10↓・斑状)



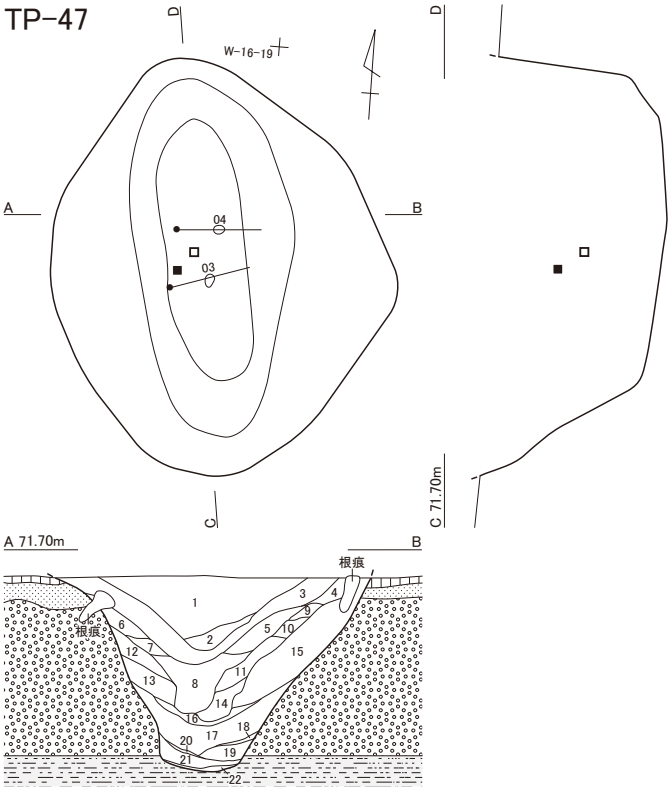

TP−46

1. 10YR5/6 黄褐色 Ⅳ≡Ⅵ(均一)
2. 10YR4/6 褐色 Ⅳ=Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR4/4 褐色 Ⅳ=Ⅷb(φ2↓・均一)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Ⅳ≡Ⅵ=Vb(斑状)
5. 10YR3/4 暗褐色 Vc≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
6. 10YR5/6 黄褐色 Ⅵ −Ⅷb(均一)
7. 10YR5/8 黄褐色 Ⅵ −Ⅷb(φ5↓・斑状)
8. 10YR3/3 暗褐色 Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb −Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
10. 10YR5/8 黄褐色 Ⅵ −Ⅷb(均一)
11. 10YR4/4 褐色 Vb=Ⅷb(均一)
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb=Ⅵ=Ⅷb(φ5↓・斑状)
13. 7.5YR4/6 褐色 Ⅵ −Ⅷb(φ2↓・均一)
14. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
15. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=Ⅵ(斑状)
16. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅵ +Ⅷb(φ10↓・斑状)
17. 7.5YR4/4 褐色 Ⅵ −Ⅷb(φ10↓・均一)
18. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
19. 7.5YR5/8 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(均一)
20. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb=V(φ5↓・斑状)
21. 10YR2/1 黒色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
22. 7.5YR5/6 明褐色 Ⅷb≡Ⅵ(均一)
23. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・均一)
24. 7.5YR4/4 褐色 Ⅷb=Vb(均一)
25. 10YR2/2 黒褐色 Vb≡Ⅷb(φ5↓・均一)
26. 10YR5/8 黄褐色 Ⅷb≡Vb(均一)

KP01〜05

1. 7.5YR3/8 明褐色 Ⅷb≡Vb(均一)
2. 7.5YR6/4 にぶい橙色 Ⅵ=Ⅷb(均一)
3. 10YR2/1 黒色 Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR2/2 黒褐色 Vb=Ⅷb(φ2↓・斑状)
5. 10YR3/2 黒褐色 Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 7.5YR6/8 橙色 Ⅷb=Ⅳ(斑状)

図Ⅲ−25 TP−44・46 平面及び断面図

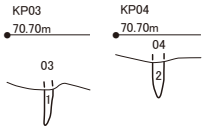


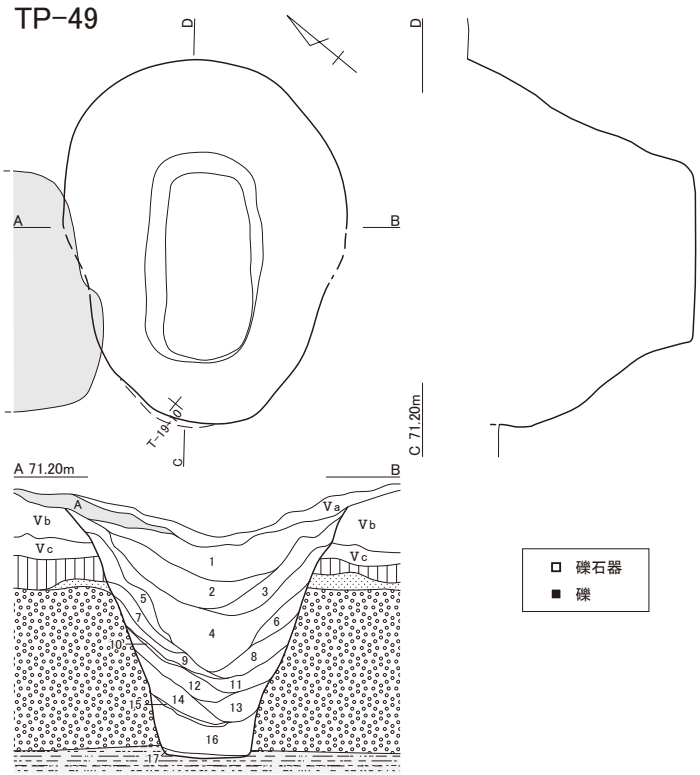

TP-47

1. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR4/4　褐色　Ⅵ=Vc≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR3/1　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ=Vb(斑状)
5. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
6. 10YR3/3　暗褐色　Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
7. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅵ(均一)
8. 10YR2/1　黒色　Vb=Ⅵ≡Ⅷb(φ10↓・斑状)
9. 10YR4/3　にぶい黄褐色　Ⅵ≡Ⅷb(φ10↓・斑状)
10. 10YR3/4　暗褐色　Vb=Ⅵ(均一)
11. 10YR3/1　黒褐色　Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
12. 10YR4/6　褐色　Vb=Ⅷb(均一)
13. 10YR5/6　明褐色　Ⅷb=Vb(均一)
14. 10YR3/1　黒褐色　Vb≡Ⅷb(斑状)
15. 7.5YR5/8　明褐色　Vb=Ⅵ+Ⅷb(φ10↓・斑状)
16. 10YR3/1　黒褐色　Vb-Ⅷb(φ5↓・斑状)
17. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb=Vb(均一)
18. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
19. 10YR6/6　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
20. 10YR3/2　黒褐色　Vb=Ⅷb(φ5↓・斑状)
21. 10YR6/6　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
22. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)

KP03・04

1. 10YR5/4　にぶい黄褐色　Ⅵ=Vb(斑状)
2. 10YR7/3　にぶい黄橙色　Ⅳ=Ⅵ≡Ⅷb(均一)



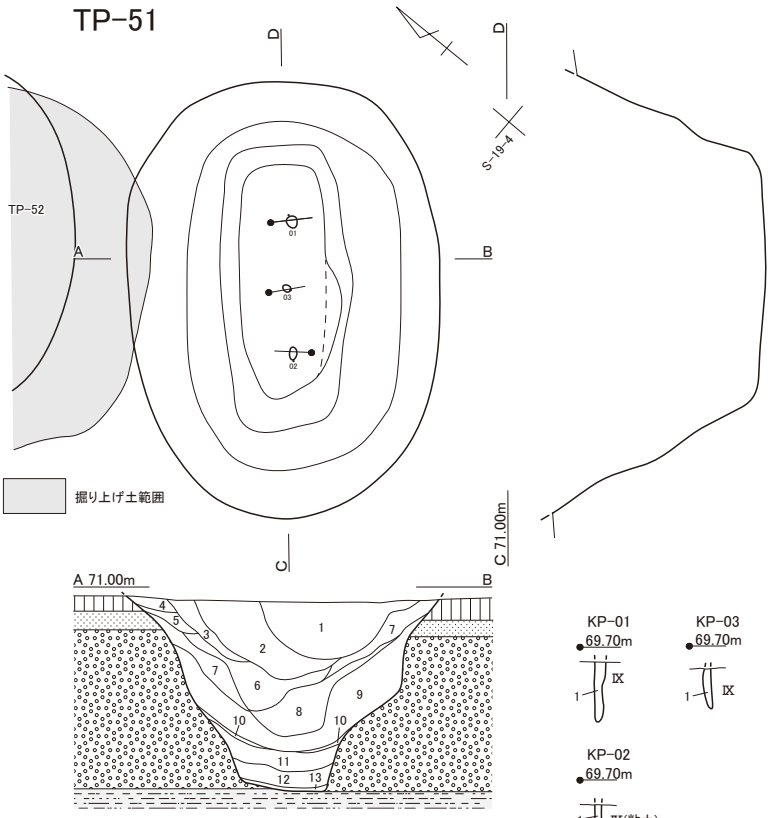

TP-49

A. 7.5YR5/4　にぶい褐色　Ⅷb=Vb(斑状)掘り上げ土
1. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
2. 10YR4/4　褐色　Vc=Ⅵ≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
3. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅵ(均一)
4. 10YR3/1　黒褐色　Vb=Ⅵ=Ⅷb(φ10↓・斑状)
5. 10YR3/2　黒褐色　Ⅵ≡Vb(斑状)
6. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Ⅵ(斑状)
7. 10YR4/4　褐色　Ⅵ≡Vc=Ⅷb(斑状)
8. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb=Vb(φ10↓・斑状)
9. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(均一)
10. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・斑状)
11. 10YR3/3　暗褐色　Vb=Ⅷb(φ10↓)
12. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
13. 10YR6/6　明黄褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
14. 7.5YR5/6　明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
15. 10YR2/2　黒褐色　Vb≡Ⅷb(φ5↓・均一)
16. 7.5YR5/8　明褐色　Ⅷb≡Vb(斑状)
17. 10YR2/1　黒色　Vb≡Ⅷb(φ2↓・斑状)

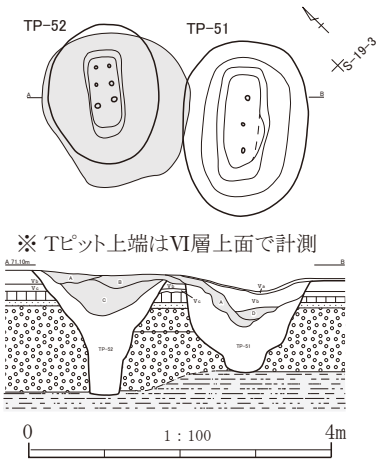
0　1：40　1m

図Ⅲ-26　TP-47・49 平面及び断面図

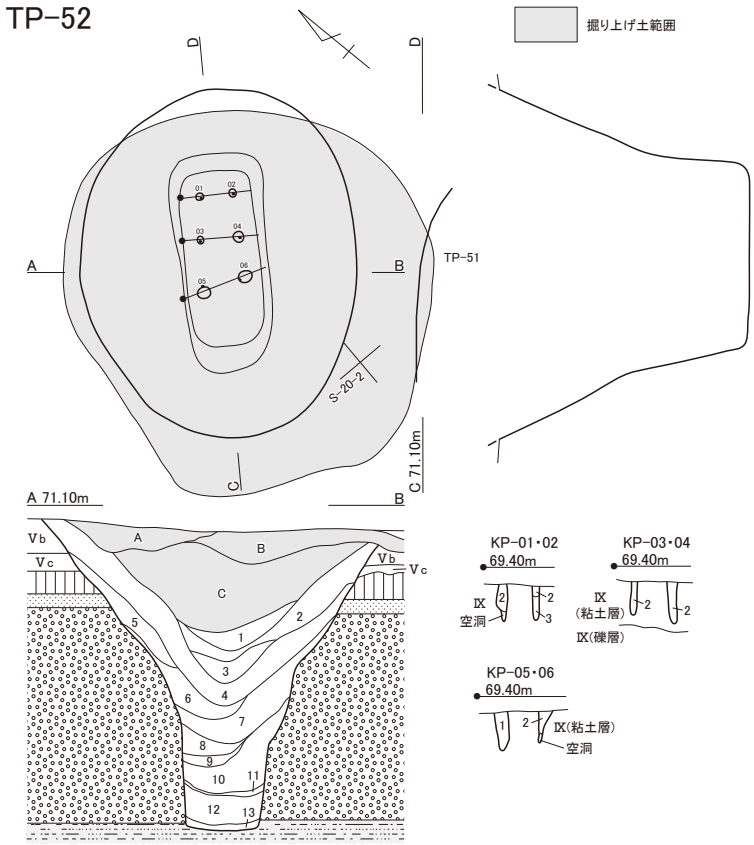
## TP−51




## TP−51・52




## TP−52




### TP−51

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(均一) |
| 2. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅵ=Ⅷb(斑状) |
| 3. | 10YR2/1 | 黒色 | Vb再堆積層(崩落層) |
| 4. | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Ⅵ再堆積層(崩落層) |
| 5. | 10YR4/1 | 灰褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| 6. | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 7. | 7.5YR3/2 | 黒色 | Ⅵ=Ⅷa(斑状) |
| 8. | 10YR2/4 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb≡Ⅵ(均一) |
| 9. | 5YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅷb崩落層(斑状) |
| 10. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Vb再堆積層(均一) |
| 11. | 5YR3/2 | 暗黄褐色 | Ⅷb崩落層(斑状) |
| 12. | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅷb崩落層(斑状) |
| 13. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Vb再堆積層(均一) |

### KP01〜03

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 7.5YR4/4 | 褐色 | V=Ⅷb(均一) しまりなし |
| 2. | 10YR3/4 | 暗褐色 | V≡Ⅷb(均一) しまりなし |
| 3. | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅷb(斑状、再堆積土) しまりなし |

### TP−52

| | | | |
|---|---|---|---|
| A. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅵ≡Ⅷb(斑状) |
| B. | 10YR4/4 | 褐色 | Ⅵ=Ⅷbp(斑状) |
| C. | 5YR4/4 | にぶい黄褐色 | Ⅷb≡Ⅵ(斑状) |
| 1. | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | Ⅵ=Ⅷa(斑状) |
| 2. | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(均一) |
| 3. | 7.5YR4/3 | 褐色 | Ⅷa再堆積層 |
| 4. | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Ⅵ=Ⅷa(斑状) |
| 6. | 5YR4/3 | にぶい黄褐色 | Ⅷb崩落層(斑状) |
| 7. | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | Vb=Ⅷb(均一) |
| 8. | 5YR3/2 | 暗黄褐色 | Ⅷb崩落層(斑状) |
| 9. | 5YR2/2 | 黒褐色 | Vb≡Ⅷb(均一) |
| 10. | 5YR2/3 | 極暗黄褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状)崩落層 |
| 11. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Vb再堆積層 |
| 12. | 5YR2/3 | 極暗褐色 | Ⅷb≡Vb(斑状)崩落層 |
| 13. | 7.5YR2/1 | 黒色 | Vb再堆積層 |

### KP01〜06

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 7.5YR4/4 | 褐色 | V=Ⅷb(均一) しまりなし |
| 2. | 10YR3/4 | 暗褐色 | V≡Ⅷb(均一) しまりなし |
| 3. | 7.5YR4/6 | 褐色 | V=Ⅷb(斑状) しまりなし |

0　1：40　1m

図Ⅲ−27　TP−51・52 平面及び断面図

## 表Ⅲ-4　TP属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | 分類 | グリッド | 平面形 調査面/坑底面 | 調査面層位 | 調査面規模(cm) 長軸 | 調査面規模(cm) 短軸 | 坑底面規模(cm) 長軸 | 坑底面規模(cm) 短軸 | 深さ(cm) | 長軸方向 | 杭跡 | 調査面長短比 | 坑底面長短比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-4 | 6-1・2 | TP-01 | A2 | AC-19・20 | 円形/楕円形 | Vb | 180 | 176 | 96 | 66 | 126 | N-64° W | 2 | 1.0 | 1.5 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 120 | 110 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-4 | 6-7・8 | TP-02 | A2 | T-21 | 円形/楕円形 | Vc | 171 | 164 | 100 | 58 | 106 | N-63° E | 2 | 1.0 | 1.7 |
| Ⅲ-5 | 7-1・2 | TP-03 | A2 | W-20・21 | 楕円形/楕円形 | Vb | (150) | (164) | 73 | 38 | 128 | N-74° W | 1 | - | 1.9 |
| Ⅲ-6 | 7-6・7 | TP-04 | B2 | AC-18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 230 | 160 | 107 | 30 | 143 | N-85° W | 6 | 1.4 | 3.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 楕円形 | VbU | 550 | 280 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-5 | 8-1 | TP-05 | C1 | AC-20・21 | 楕円形/長楕円形 | Vc | 288 | 80 | 176 | 28 | 108 | N-75° W | - | 3.6 | 6.3 |
| Ⅲ-7 | 8-2・3・4 | TP-06 | C1 | AD・AE-21 | (楕円形)/溝状 | Vb | (294) | 120 | 245 | 18 | 140 | N-75° W | - | - | 13.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 210 | 120 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-9 | 8-5・6 | TP-07 | A2 | AB-20・21 | 円形/楕円形 | Vb | 225 | 211 | 116 | 100 | 110 | N-89° W | 6 | 1.1 | 1.2 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 340 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-11 | 9-1・2 | TP-08 | A2 | AC-16・17 | 楕円形/楕円形 | Vb | 200 | 161 | 122 | 70 | 108 | N-35° E | 4 | 1.3 | 1.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 400 | 320 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-6 | 9-7・8 | TP-09 | B2 | AB・AC-17・18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 219 | 153 | 98 | 46 | 112 | N-57° W | 5 | 1.4 | 2.1 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 101 | 102 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-11 | 10-1・2 | TP-10 | A2 | AC-17 | 円形/楕円形 | Vc | 130 | 120 | 82 | 68 | 110 | N-53° W | 2 | 1.1 | 1.2 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 500 | 320 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-12 | 10-7・8 | TP-11 | A1 | AC-18・19 | (楕円形)/(楕円形) | Vc | (164) | 91 | (66) | 45 | 111 | N-83° E | - | - | 1.5 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 205 | 155 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-8 | 11-1・2 | TP-12 | B2 | AD-22 | 楕円形/楕円形 | Vc | 193 | 170 | 118 | 46 | 104 | N-40° W | 2 | 1.1 | 2.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 300 | 180 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-12 | 11-7・8 | TP-13 | A2 | AB-20 | 円形/楕円形 | Vb | 180 | 170 | 80 | 46 | 115 | N-19° W | 2 | 1.1 | 1.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 290 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-10 | 12-1・2 | TP-14 | A2 | AA-20 | 円形/円形 | Vb | 302 | 279 | 120 | 84 | 118 | N-66° W | 16 | 1.1 | 1.4 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 230 | 110 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-13 | 13-1・2・3 | TP-15 | B2 | AE-20 | 楕円形/楕円形 | Vb | 224 | 154 | (100) | 48 | 122 | N-72° W | 2 | 1.5 | 2.0 |
| | 13-1 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 380 | 235 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-8 | 13-7・8 | TP-16 | A2 | AD・AE-21・22 | 楕円形/楕円形 | Vc | 270 | 225 | 140 | 90 | 100 | N-37° W | 9 | 1.2 | 1.5 |
| | 13-6 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | Vb | 220 | 150 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-14 | 14-12・13 | TP-17 | B2 | AB-16 | 楕円形/楕円形 | Vb | 170 | 130 | 100 | 34 | 108 | N-56° W | 1 | 1.3 | 2.9 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 210 | 160 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-14 | 15-1・2 | TP-18 | B2 | AA・AB-16 | 楕円形/楕円形 | Vb | 160 | 119 | 112 | 42 | 107 | N-18° W | 6 | 1.4 | 2.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 230 | 165 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-13 | 15-7・8 | TP-19 | A2 | AC・AD-19 | (楕円形)/楕円形 | Ⅵ | 158 | (125) | 88 | (57) | 100 | N-36° W | 2 | - | (1.5) |
| Ⅲ-15 | 16-1・3・4 | TP-20 | B2 | AA・AB-18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 220 | 139 | 110 | 48 | 132 | N-83° W | 5 | 1.6 | 2.3 |
| | 16-2 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 445 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |

## 表Ⅲ-4 TP属性表（続き）

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | 分類 | グリッド | 平面形 調査面/坑底面 | 調査面層位 | 調査面規模(cm) 長軸 | 調査面規模(cm) 短軸 | 坑底面規模(cm) 長軸 | 坑底面規模(cm) 短軸 | 深さ(cm) | 長軸方向 | 杭跡 | 調査面長短比 | 坑底面長短比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-15 | 16-9・10 | TP-21 | B2 | AA-18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 204 | 157 | 100 | 48 | 120 | N-33° W | 1 | 1.3 | 2.1 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 280 | 130 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-10 | 17-1・2 | TP-22 | A1 | AA・AB-20・21 | 楕円形/楕円形 | Vb | 165 | 115 | 100 | 58 | 105 | N-61° W | - | 1.4 | 1.7 |
| Ⅲ-16 | 17-3・4 | TP-23 | B1 | Z・AA-16 | (楕円形)/楕円形 | Vb | (161) | (100) | 85 | 35 | 119 | N-21° E | - | - | 2.4 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 240 | 180 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-16 | 17-5・6 | TP-24 | A2 | AC・AD-19 | (円形)/(楕円形) | Ⅷa | 120 | (115) | 62 | 42 | 90 | N-82° E | 2 | (1.0) | 1.5 |
| Ⅲ-16 | 18-1・2 | TP-25 | B2 | Y・Z-18 | (楕円形)/楕円形 | Vb | (160) | 130 | 94 | 36 | 120 | N-81° E | 3 | (1.2) | 2.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 500 | 260 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-17 | 18-7・8・9 | TP-26 | A2 | AA-19 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 180 | 150 | 90 | 58 | 108 | N-12° W | 2 | 1.2 | 1.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 120 | 100 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-17 | 19-1・2 | TP-28 | B2 | X・Y-19・20 | 楕円形/楕円形 | Vb | 250 | 160 | 145 | 58 | 122 | N-71° W | 5 | 1.6 | 2.5 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 480 | 400 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-18 | 19-7・8 | TP-29 | A2 | Y-19・20 | 楕円形/楕円形 | Vb | 158 | 140 | 84 | 52 | 120 | N-65° W | 1 | 1.1 | 1.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 390 | 310 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-18 | 20-2・3 | TP-30 | B2 | Z-16・17 | 楕円形/楕円形 | VbU | 190 | 165 | 117 | 57 | 105 | N-50° W | 1 | 1.2 | 2.1 |
| | 20-1 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 360 | 180 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-19 | 20-6・7 | TP-31 | B2 | Y-17 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 210 | 158 | 165 | 63 | 96 | N-17° E | 7 | 1.3 | 2.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 300 | 250 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-20 | 21-1・2 | TP-32 | - | Y-18 | (楕円形)/(楕円形) | Ⅵ | (155) | (140) | (110) | (35) | 113 | N-75° W | 8 | - | - |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 320 | 180 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-19 | 21-8・9 | TP-33 | A2 | X・Y-17 | 楕円形/楕円形 | Vb | 197 | 160 | 92 | 60 | 108 | N-82° W | 4 | 1.2 | 1.5 |
| | 21-7 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 380 | 300 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-21 | 22-1・2 | TP-34 | A2 | W・X-18・19 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 260 | 220 | 128 | 74 | 108 | N-12° W | 8 | 1.2 | 1.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 380 | 180 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-21 | 22-7・8 | TP-35 | B2 | W-18・19 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 143 | 118 | 90 | 45 | 120 | N-6° W | 3 | 1.2 | 2.0 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 390 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-20 | 23-1・2 | TP-36 | B2 | X-19・20 | 楕円形/楕円形 | Vb | 180 | (134) | 125 | 40 | 106 | N-24° W | 4 | (1.3) | 3.1 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 300 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-22 | 24-1・2 | TP-37 | B2 | W・X-17・18 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 205 | 180 | 118 | 45 | 130 | N-82° E | 6 | 1.1 | 2.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 240 | 100 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-22 | 24-8・9 | TP-40 | A2 | W-17・18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 195 | 155 | 98 | 57 | 126 | N-63° W | 3 | 1.3 | 1.7 |
| | 24-7 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 350 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-24 | 25-1・2 | TP-41 | B2 | V・W-17・18 | 楕円形/楕円形 | Vb | 200 | 155 | 108 | 30 | 128 | N-83° E | 3 | 1.3 | 3.6 |
| | 24-7 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 320 | 140 | - | - | - | - | - | - | - |

**表Ⅲ-4　TP属性表（続き）**

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | 分類 | グリッド | 平面形 調査面/坑底面 | 調査面層位 | 調査面規模(cm) 長軸 | 調査面規模(cm) 短軸 | 坑底面規模(cm) 長軸 | 坑底面規模(cm) 短軸 | 深さ(cm) | 長軸方向 | 杭跡 | 調査面長短比 | 坑底面長短比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-23 | 25-7・8・9 | TP-42 | A2 | W-17 | (楕円形)/楕円形 | Vb | (104) | 130 | 72 | 43 | 128 | N-47° W | 1 | - | 1.7 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 30 | 20 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-23 | 25-9 | TP-43 | B2 | W・X-17 | (楕円形)/楕円形 | Vb | (160) | 98 | 150 | 50 | 103 | N-16° W | 1 | (1.6) | 3.0 |
| Ⅲ-25 | 26-1・2 | TP-44 | A2 | U-19 | (楕円形)/楕円形 | Vb | 150 | 120 | 62 | 40 | 100 | N-55° E | 2 | 1.3 | 1.6 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 250 | 100 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-25 | 26-7・8 | TP-46 | - | X・Y-21 | (楕円形)/(楕円形) | Ⅵ | (148) | 170 | (108) | 110 | 110 | N-87° W | 5 | - | - |
| Ⅲ-26 | 27-1・2 | TP-47 | B2 | W・X-16 | 楕円形/楕円形 | Ⅵ | 260 | 185 | 140 | 42 | 104 | N-8° W | 2 | 1.4 | 3.3 |
| Ⅲ-26 | 27-8・9 | TP-49 | A1 | S・T-19 | 楕円形/楕円形 | Vb | 194 | 155 | 100 | 52 | 116 | N-52° E | - | 1.3 | 1.9 |
| | 27-7 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 300 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-24 | 28-2・3 | TP-50 | B2 | V・W-17 | 円形/楕円形 | Vb | 230 | 220 | 125 | 54 | 108 | N-60° W | 3 | 1.0 | 2.3 |
| | 28-1 | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 100 | 23 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-27 | 28-10・11 | TP-51 | B2 | S-19 | 楕円形/楕円形 | VbU | 230 | 165 | 121 | 44 | 105 | N-50° E | 3 | 1.4 | 2.8 |
| | - | | 掘り上げ土 | - | 不整形 | VbU | 200 | 150 | - | - | - | - | - | - | - |
| Ⅲ-27 | 29-6・7 | TP-52 | B2 | R・S-19・20 | 楕円形/隅丸長方形 | VbU | 172 | 145 | 90 | 40 | 158 | N-45° E | 6 | 1.2 | 2.3 |

**TP-51・52**（図Ⅲ-27　図版 28-10・11　29-6・7）TP-49 と掘り上げ土が調査区外に伸びていたので、その部分を拡張したところ、Ⅲ層から礫集中 1 ヵ所（ⅢSB-01）を検出した。礫集中は東側に傾斜しており、下のⅣ層も窪んで堆積していたので、調査したところ新たなＴピット（TP-51）と掘り上げ土を発見した。TP-51 の掘り上げ土を除去した段階で、リング状の黒色土と中央部に楕円形の掘り上げ土の落ち込みを検出したのでさらに TP-52 を付番し、2 つのＴピットを繋ぐベルトを設定し、調査を進めた。

TP-51 の掘り上げ土が TP-52 を覆っており、明らかに TP-52 が古い。

TP-51 の壁面を観察すると、Ⅷb 層上部のローム質部分は固く締まっているが、その直下のパミス質を残す部位の崩落が著しく、抉れている。そのため上方に大きく開く形状をもつ。坑底中央に、長軸に沿って 3 本の杭穴を検出した。北東端に位置する杭穴が最も深く、30 ㎝を測る。

TP-52 は上述した壁面の崩落が Ta-d ローム質部分から上のみで、壁面下部はほぼ垂直に近く立ち上がる。壁面が垂直に立ち上がっている部分の内側に崩落土が多く、上位の覆土は黒色土主体である。堆積に時間を要したことが伺える。ほぼ垂直に立ち上げる壁面を上方に延長すると、構築当時の大きさは長軸長 140 ㎝（172 ㎝：調査時）、短軸長 50 ㎝（145 ㎝：同）と推定され、短軸方向が大きく崩落していることがわかる。平坦な坑底面に 2 列 6 本の杭穴を発見した。2 本の杭穴に空洞部が見られた。

## 表Ⅲ-5 TP杭穴属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | | 規模(cm) 上端 | 下端 | 深さ | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-4 | 6-3・4 | TP01 | KP01 | 4 | 2 | 23 | 11 | 打込み | |
| | 6-5・6 | | KP04 | 2 | 1 | 23 | 2 | 打込み | |
| | 6-9・10 | TP02 | KP01 | 3 | 2 | 10 | 10 | 打込み | |
| | 6-11・12 | | KP02 | 4 | 1 | 22 | 6 | 打込み | |
| Ⅲ-5 | 7-3・4 | TP03 | KP04 | 3 | 2 | 16 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-6 | 7-8・9 | TP04 | KP01 | 5 | 1 | 16 | 3 | 打込み | |
| | | | KP02 | 5 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| | 7-10・11 | | KP03 | 4 | 2 | 29 | 0 | 打込み | |
| | | | KP04 | 6 | 1 | 26 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP05 | 5 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP06 | 6 | 2 | 26 | 10 | 打込み | |
| Ⅲ-9 | － | TP07 | KP02 | 8 | 1 | 16 | 2 | 打込み | |
| | 8-7・8 | | KP03 | 6 | 2 | 29 | 6 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 6 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP06 | 8 | 1 | 12 | 4 | 打込み | |
| | 8-9・10 | | KP09 | 6 | 2 | 26 | 6 | 打込み | |
| | | | KP10 | 5 | 1 | 24 | 13 | 打込み | |
| Ⅲ-11 | － | TP08 | KP01 | 6 | 1 | 10 | 14 | 打込み | |
| | 9-3・4 | | KP02 | 6 | 2 | 30 | 3 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 8 | 2 | 34 | 0 | 打込み | |
| | 9-5・6 | | KP04 | 6 | 2 | 20 | 2 | 打込み | |
| Ⅲ-6 | 9-9・10 | TP09 | KP01 | 4 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP02 | 4 | 1 | 21 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 4 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 4 | 1 | 18 | 2 | 打込み | |
| | － | | KP05 | 3 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 9-11・12 | | KP06 | 4 | 1 | 20 | 2 | 打込み | |
| | － | | KP07 | 4 | 1 | 21 | 11 | 打込み | |
| Ⅲ-11 | 10-3・4 | TP10 | KP01 | 6 | 2 | 22 | 3 | 打込み | |
| | 10-5・6 | | KP02 | 5 | 1 | 22 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-8 | 11-3・4 | TP12 | KP01 | 8 | 2 | 22 | 2 | 打込み | |
| | 11-5・6 | | KP02 | 8 | 2 | 34 | 6 | 打込み | |
| Ⅲ-12 | 11-9・10 | TP13 | KP01 | 6 | 1 | 24 | 5 | 打込み | |
| | 11-11・12 | | KP02 | 6 | 1 | 25 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-10 | － | TP14 | KP01 | 3 | 1 | 8 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 4 | 1 | 25 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 6 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP05 | 4 | 1 | 18 | 0 | 打込み | |
| | 12-6・8 | | KP06 | 4 | 1 | 28 | 0 | 打込み | |
| | 12-7・8 | | KP07 | 8 | 1 | 42 | 3 | 打込み | |
| | － | | KP08 | 5 | 1 | 30 | 5 | 打込み | |
| | 12-4・5 | | KP09 | 4 | 2 | 27 | 28 | 打込み | |
| | | | KP10 | 8 | 1 | 40 | 5 | 打込み | |
| | － | | KP11 | 8 | 2 | 40 | 8 | 打込み | |
| | － | | KP12 | 6 | 1 | 26 | 4 | 打込み | |
| | － | | KP13 | 4 | 1 | 24 | 0 | 打込み | |
| | 12-9・10 | | KP14 | 4 | 1 | 21 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP15 | 6 | 1 | 39 | 2 | 打込み | |
| | 12-11・12 | | KP16 | 4 | 1 | 18 | 0 | 打込み | |
| | | | KP17 | 6 | 2 | 20 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-13 | － | TP15 | KP02 | 8 | 1 | 22 | 0 | 打込み | |
| | 13-4・5 | | KP03 | 6 | 1 | 22 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-8 | 14-1・2 | TP16 | KP01 | 8 | 2 | 44 | 3 | 打込み | |
| | 14-3・4 | | KP02 | 8 | 2 | 45 | 8 | 打込み | |
| | 13-9・10 | | KP03 | 5 | 1 | 18 | 10 | 打込み | |
| | 14-5・6 | | KP04 | 6 | 1 | 37 | 0 | 打込み | |
| | 14-7・8 | | KP05 | 3 | 2 | 20 | 0 | 打込み | |
| | 14-9・10・11 | | KP06 | 6 | 2 | 22 | 17 | 打込み | |
| | 14-10・11 | | KP07 | 9 | 2 | 26 | 10 | 打込み | |
| | 13-9・10 | | KP08 | 4 | 1 | 10 | 0 | 打込み | |
| | 14-9・10・11 | | KP09 | 6 | 1 | 38 | 6 | 打込み | |
| Ⅲ-14 | － | TP17 | KP02 | 5 | 1 | 10 | 0 | 打込み | |

## 表Ⅲ-5　TP杭穴属性表(続き)

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | | 規模(cm) 上端 | 下端 | 深さ | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-14 | 15-3・4 | TP18 | KP01 | 6 | 1 | 16 | 3 | 打込み | |
| | - | | KP02 | 6 | 2 | 16 | 1 | 打込み | |
| | - | | KP03 | 4 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 15-5・6 | | KP04 | 4 | 1 | 24 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP05 | 4 | 1 | 22 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP06 | 4 | 1 | 16 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-13 | 15-9・10 | TP19 | KP01 | 3 | 1 | 8 | 3 | 打込み | |
| | 15-11・12 | | KP02 | 4 | 2 | 30 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-15 | - | TP20 | KP02 | 9 | 1 | 10 | 4 | 打込み | |
| | 16-5・6 | | KP03 | 4 | 1 | 8 | 0 | 打込み | |
| | | | KP04 | 8 | 1 | 30 | 0 | 打込み | |
| | 16-7・8 | | KP05 | 6 | 1 | 45 | 3 | 打込み | |
| | | | KP06 | 8 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| | - | TP21 | KP01 | 4 | 1 | 10 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-16 | 17-7 | TP24 | KP01 | 6 | 1 | 18 | 2 | 打込み | |
| | | | KP02 | 4 | 1 | 10 | 2 | 打込み | |
| | 18-3・4 | TP25 | KP04 | 10 | 2 | 34 | 10 | 打込み | |
| | 18-5・6 | | KP05 | 4 | 1 | 30 | 2 | 打込み | |
| | | | KP06 | 4 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-17 | 18-10・11 | TP26 | KP03 | 4 | 1 | 6 | 4 | 打込み | |
| | - | | KP04 | 4 | 1 | 4 | 15 | 打込み | |
| | - | TP28 | KP01 | 6 | 2 | 30 | 6 | 打込み | |
| | 19-3・4 | | KP02 | 8 | 2 | 28 | 0 | 打込み | |
| | | | KP03 | 4 | 1 | 29 | 8 | 打込み | |
| | 19-5・6 | | KP04 | 6 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| | | | KP05 | 6 | 2 | 24 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-18 | 19-9・10 | TP29 | KP02 | 6 | 1 | 19 | 2 | 打込み | |
| | 20-4・5 | TP30 | KP02 | 4 | 1 | 17 | 4 | 打込み | |

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | | 規模(cm) 上端 | 下端 | 深さ | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-19 | - | TP31 | KP01 | 5 | 1 | 31 | 0 | 打込み | |
| | 20-8・9 | | KP02 | 6 | 1 | 34 | 0 | 打込み | |
| | 20-10・11 | | KP03 | 4 | 3 | 39 | 2 | 打込み | |
| | - | | KP04 | 4 | 1 | 10 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP05 | 6 | 1 | 29 | 2 | 打込み | |
| | - | | KP07 | 5 | 1 | 50 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP08 | 4 | 1 | 38 | 9 | 打込み | |
| Ⅲ-20 | 21-3・4 | TP32 | KP01 | 6 | 1 | 36 | 0 | 打込み | |
| | | | KP02 | 10 | 1 | 37 | 5 | 打込み | |
| | - | | KP03 | 5 | 1 | 38 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP04 | 6 | 1 | 16 | 0 | 打込み | |
| | 21-5・6 | | KP05 | 6 | 1 | 30 | 0 | 打込み | |
| | | | KP06 | 6 | 2 | 19 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP07 | 8 | 1 | 41 | 2 | 打込み | |
| | - | | KP08 | 7 | 2 | 30 | 4 | 打込み | |
| Ⅲ-19 | - | TP33 | KP01 | 4 | 1 | 9 | 16 | 打込み | |
| | - | | KP02 | 4 | 1 | 30 | 7 | 打込み | |
| | - | | KP03 | 5 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 21-10・11 | | KP04 | 4 | 1 | 12 | 6 | 打込み | |
| Ⅲ-21 | - | TP34 | KP04 | 4 | 1 | 40 | 6 | 打込み | |
| | - | | KP05 | 4 | 1 | 25 | 5 | 打込み | |
| | 22-3・4 | | KP06 | 4 | 1 | 28 | 5 | 打込み | |
| | 22-5・6 | | KP07 | 6 | 1 | 30 | 0 | 打込み | |
| | | | KP08 | 4 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| | | | KP09 | 6 | 1 | 37 | 0 | 打込み | |
| | | | KP10 | 4 | 1 | 21 | 0 | 打込み | |
| | - | | KP11 | 4 | 1 | 18 | 0 | 打込み | |
| | - | TP35 | KP01 | 6 | 2 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 22-11・12 | | KP03 | 8 | 2 | 25 | 2 | 打込み | |
| | 22-9・10 | | KP04 | 4 | 1 | 20 | 16 | 打込み | |

表Ⅲ-5　TP杭穴属性表(続き)

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | | 規模(cm) 上端 | 下端 | 深さ | 傾き(度) | タイプ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-20 | 23-3・4 | TP 36 | KP01 | 5 | 2 | 6 | 0 | 打込み | |
| | 23-5・6 | | KP02 | 6 | 1 | 12 | 16 | 打込み | |
| | 23-7・8 | | KP03 | 4 | 1 | 10 | 0 | 打込み | |
| | 23-9・10 | | KP06 | 4 | 1 | 5 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-22 | 24-3・4 | TP 37 | KP01 | 8 | 1 | 38 | 3 | 打込み | |
| | | | KP02 | 4 | 1 | 30 | 4 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 8 | 1 | 36 | 2 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 4 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 24-5・6 | | KP05 | 6 | 2 | 31 | 0 | 打込み | |
| | | | KP06 | 4 | 1 | 45 | 0 | 打込み | |
| | － | TP 40 | KP01 | 5 | 1 | 20 | 5 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 3 | 1 | 26 | 2 | 打込み | |
| | 24-10・11 | | KP04 | 6 | 2 | 20 | 5 | 打込み | |
| Ⅲ-24 | － | TP 41 | KP01 | 8 | 2 | 28 | 12 | 打込み | |
| | 25-3・4 | | KP02 | 6 | 2 | 25 | 2 | 打込み | |
| | 25-5・6 | | KP03 | 5 | 1 | 18 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-23 | 25-10・11 | TP 42 | KP01 | 5 | 1 | 18 | 2 | 打込み | |
| | － | TP 43 | KP01 | 8 | 2 | 21 | 5 | 打込み | |
| Ⅲ-25 | 26-3・4 | TP 44 | KP01 | 4 | 1 | 14 | 0 | 打込み | |
| | 26-5・6 | | KP02 | 5 | 2 | 21 | 0 | 打込み | |
| | － | TP 46 | KP01 | 4 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| | 26-9・10 | | KP02 | 8 | 2 | 20 | 2 | 打込み | |
| | | | KP03 | 4 | 1 | 10 | 20 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 7 | 1 | 19 | 18 | 打込み | |
| | 26-11・12 | | KP05 | 6 | 1 | 24 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-26 | 27-3・4 | TP 47 | KP03 | 6 | 1 | 20 | 3 | 打込み | |
| | 27-5・6 | | KP04 | 6 | 1 | 20 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-24 | 28-4・5 | TP 50 | KP01 | 7 | 1 | 30 | 0 | 打込み | |
| | 28-6・7 | | KP02 | 5 | 1 | 31 | 4 | 打込み | |
| | | | KP03 | 8 | 2 | 25 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 4 | 1 | 14 | 7 | 打込み | |
| | 28-8・9 | | KP05 | 6 | 1 | 28 | 0 | 打込み | |
| Ⅲ-27 | － | TP 51 | KP01 | 6 | 2 | 32 | 0 | 打込み | |
| | 29-1・2 | | KP02 | 4 | 1 | 18 | 0 | 打込み | |
| | 29-3・4 | | KP03 | 4 | 1 | 20 | 10 | 打込み | |
| | － | TP 52 | KP01 | 4 | 1 | 21 | 2 | 打込み | |
| | － | | KP02 | 4 | 1 | 18 | 4 | 打込み | |
| | － | | KP03 | 3 | 1 | 17 | 0 | 打込み | |
| | － | | KP04 | 4 | 1 | 22 | 4 | 打込み | |
| | 29-8・9 | | KP05 | 6 | 2 | 20 | 0 | 打込み | |
| | | | KP06 | 6 | 1 | 15 | 5 | 打込み | |

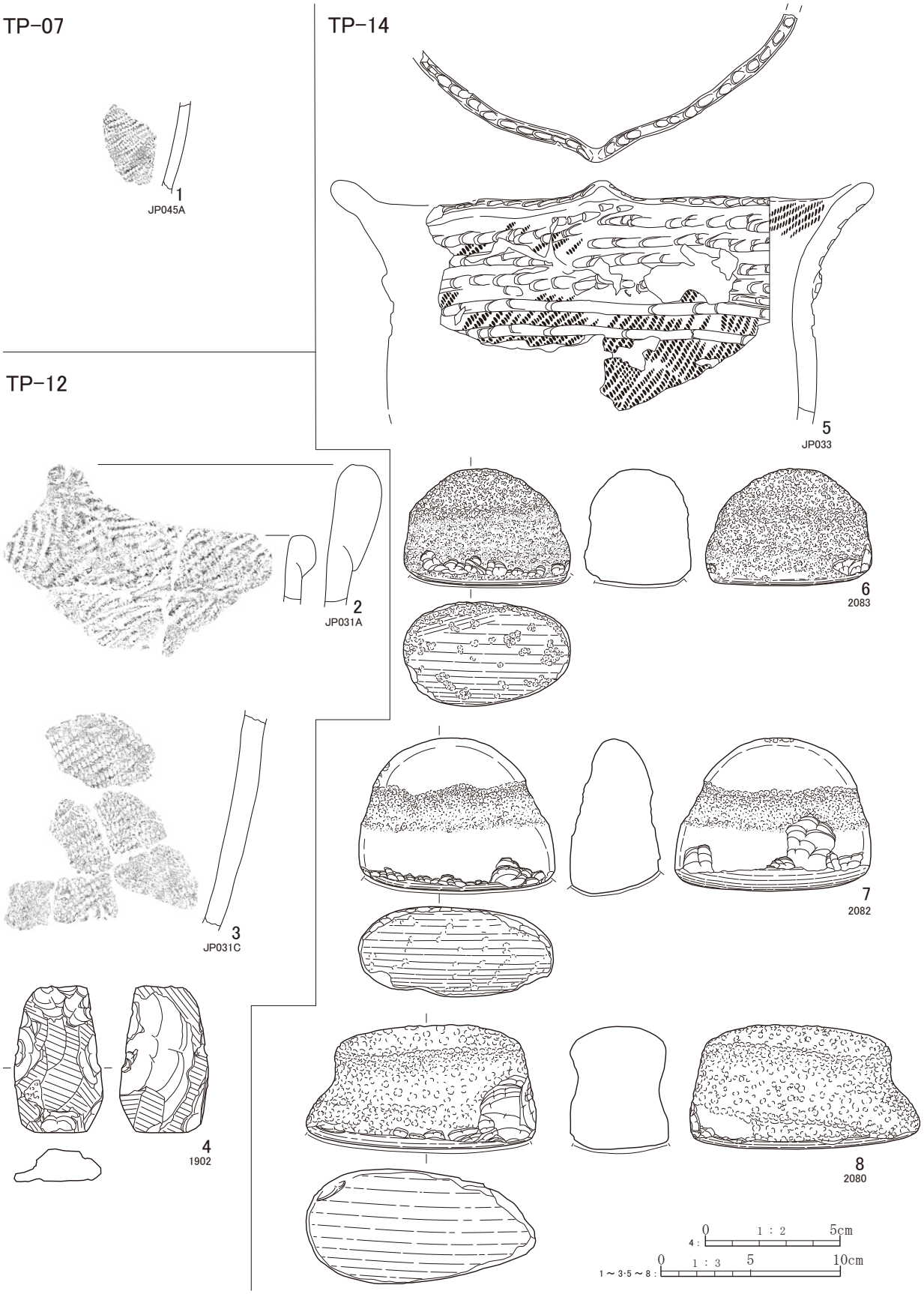
C1 型

TP-05（図Ⅲ－５　図版 8-1・2）C 型は少なく、わずかに 2 基（TP-05・TP-06）のみである。杭穴は無い。TP-05 の覆土には、TP-16 を供給元とする掘り上げ土が充填していた。

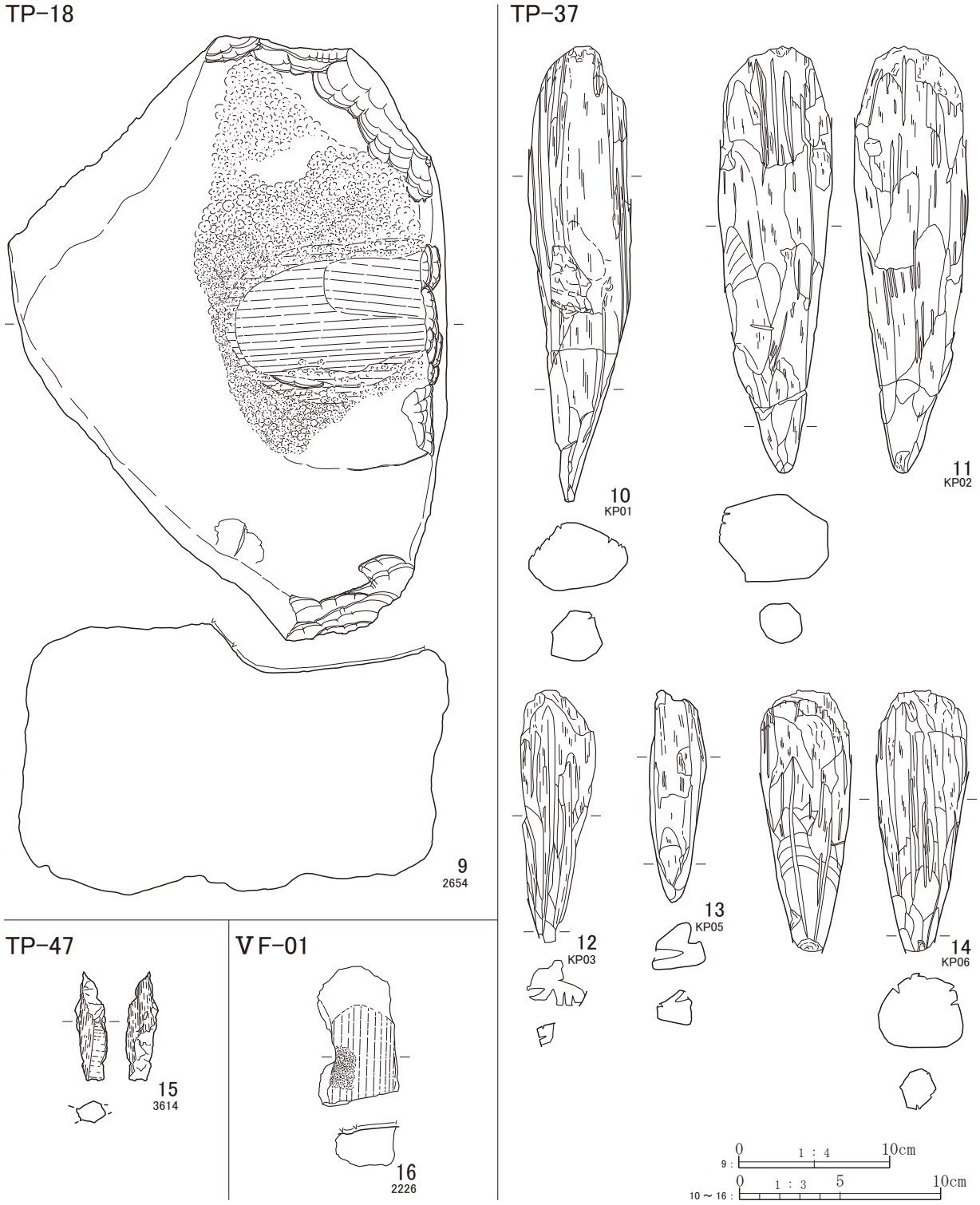
TP-05 は坑底がⅨ層（粘土層）を掘りこんで作られており、Ⅸ層上位のⅧ層以上は大きく崩落している。Ⅸ層上面での大きさは長軸長 245 ㎝×短軸長 45 ㎝、長短比 5.4 である。

プライマリーな Ta-d 層よりも上位に Ta-d が主体の覆土が見られ、壁の崩落土以外に掘り上げ土が投棄されたことが考えられるが、供給先は不明である。長軸方向の壁面が一部オーバーハングしている。他の遺跡の例でも、C 型は長軸方向がオーバーハングしている例が多い。

（松井・宮塚）




図Ⅲ-28　TP-07·12·14 出土遺物




図Ⅲ-29　TP-18･37･47･ⅤF-01 出土遺物

表Ⅲ-6　TP出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面 | 文　様<br>口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面 | 胎土(砂粒等) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-28-1 | 39-2-1 | JP045A | ⅠB3 | TP-07 | 1 | 1 | 胴部 | 外反 | LR斜行縄文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-28-2 | 39-2-2 | JP031A | ⅢB1 | AC-22 | ⅤbU | 1 | 口縁部～胴部 | 突起・やや外反-丸状/直立 | 肥厚帯・LR縄文-ミガキ/LR縄文-ミガキ | 砂粒・繊維微量混入 | |
| | | | | AC-22 | ⅤbM | 2 | | | | | |
| Ⅲ-28-3 | 39-2-3 | JP031C | ⅢB1 | TP-12 | 1 | 1 | 胴部 | やや内湾 | LR斜行縄文-ナデ | 砂粒・繊維微量混入 | |
| | | | | AD-22 | Ⅴa | 1 | | | | | |
| | | | | | ⅤbM | 1 | | | | | |
| | | | | | ⅤbL | 1 | | | | | |
| | | | | | Ⅴc | 1 | | | | | |
| Ⅲ-28-5 | 39-2-5 | JP033A | ⅢB2 | TP-14 | 1 | 8 | 口縁部～胴部 | 平縁・突起・やや外反-隅丸角状/やや内湾 | 押引文(内)-押引文(内)-ナデ/LR縄文・貼付帯(横)・押引文(内)・押引状沈線文(2段)-ナデ | 砂粒・繊維少量混入 | |
| | | | | AA-19 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | AA-20 | | 1 | | | | | |
| | | | | | ⅤbM | 1 | | | | | |

表Ⅲ-7　ⅤF・TP出土遺物属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 層位 | 遺構/グリッド | 規模(㎜)<br>長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-28-4 | 39-2-4 | - | 1902 | 石製品 | - | 1 | TP-12 | 54.6 | 32.4 | 12.5 | 30.0 | Tul. | 完・松前産？ |
| Ⅲ-28-6 | 39-2-6 | - | 2083 | すり石 | D | 1 | TP-14 | 93.8 | 64.8 | 57.3 | 578.0 | Ch-Gab. | 完 |
| Ⅲ-28-7 | 39-2-7 | - | 2082 | すり石 | D | 1 | TP-14 | 108.0 | 83.0 | 50.1 | 610.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-28-8 | 39-2-8 | - | 2080 | すり石 | D | 1 | TP-14 | 131.0 | 71.0 | 66.0 | 820.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-29-9 | 39-2-9 | - | 2654 | 石皿 | - | 1 | TP-18 | 391.0 | 290.0 | 200.0 | 25,640.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-29-10 | 40-1-10 | - | - | 逆茂木 | - | Ⅸ | TP-37KP01 | 226.5 | 51.0 | 33.9 | 109.6 | W. | ※保存処理、乾燥後の重量 |
| Ⅲ-29-11 | 40-1-11 | - | - | 逆茂木 | - | Ⅸ | TP-37KP02 | 212.7 | 55.8 | 42.9 | 143.3 | W. | |
| Ⅲ-29-12 | 40-1-12 | - | - | 逆茂木 | - | Ⅸ | TP-37KP03 | 125.7 | 37.5 | 22.5 | 22.1 | W. | |
| Ⅲ-29-13 | 40-1-13 | - | - | 逆茂木 | - | Ⅸ | TP-37KP05 | 105.6 | 29.1 | 22.8 | 15.4 | W. | |
| Ⅲ-29-14 | 40-1-14 | - | - | 逆茂木 | - | Ⅸ | TP-37KP06 | 130.4 | 45.3 | 36.6 | 60.7 | W. | |
| Ⅲ-29-15 | 40-1-15 | - | 3614 | 石斧擦り切り残片 | A | 1 | TP-47 | (54.1) | (11.8) | (12.3) | (8.2) | Ser. | 欠 |
| Ⅲ-29-16 | 40-1-16 | - | 2226 | 石皿片 | - | ⅤbL | ⅤF-01 | (66.7) | (39.8) | (21.1) | (69.4) | Sa. | 破・敲打痕有 |

## 第４節　遺物集中

### １．土器集中

**ⅤPB-01**（図Ⅲ-30　図版 31-1～3）

位置：AA・AB-21 区　規模：346×155cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　Ta-c 火山灰（Ⅳ層）除去中に、調査区西南側の厚真川浸食崖沿いに落ち込むように検出された。西側は道路によって浸食されているが、遺物の出土状態から見て、傾斜地に遺棄されていたようである。検出写真を撮影した後、範囲を記録し、遺物出土状態・完掘写真を撮影し遺物を取り上げた。

**出土遺物**（図Ⅲ-34-1～9　図版 40-2-1～9）１～3 は底部を除いてほぼ完形に復元された深鉢型土器である。口縁部から胴上半部にかけて貼付帯を三角形・逆三角形に配し、貼付帯上は絡条体による撚糸文、貼付帯の側縁に縄の圧痕を施している。胴部は LR 斜行縄文が施され、

底部近くでは横走する。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好。黄褐色を呈し他の土器とは異なり、大木 7 式に類似する様相を見せる。縄文時代中期前半に属する。4～6 は同一個体で、突起を持つ深鉢形土器。貼付帯上に縄の圧痕を施し貼付帯上とその間に縄の圧痕を施す。地文は結節羽状縄文、口縁部は横方向、胴部は縦回転で施文している。

7 は石斧。剥離によって整形された後、側縁部は敲打され全面研磨されている。8 はたたき石。表裏とも腹面のやや端に敲打痕が残されている。9 は北海道式石冠。くびれ部は敲打によって抉られており、表裏面に礫面を残す。表面に線条痕が見られる。擦り面は古い礫の折損面を利用しており僅かに使用痕が見られる。擦り面には敲打や剥離によって整形された痕跡は認められない。

**ⅤPB-02**（図Ⅲ-30　図版 31-4）

位置：AA-21･22 区　規模：213×157cm　検出層位：Ⅴc　平面形：不整形

**確認・調査**　ⅤPB-01 を調査中、北側から早期の土器片を発見し、ⅤPB-01 より下層のⅤc 層で検出されたので、ⅤPB-02 を付番した。遺物の出土状態から見て、ⅤPB-01 と同様に傾斜地に遺棄されていたようである。検出写真を撮影した後、範囲を記録し、遺物出土状態･完掘写真を撮影し遺物を取り上げた。

**出土遺物**（図Ⅲ-35-10･11　図版 41-10･11）10 は口縁が波状をなす深鉢形土器で口縁部は撚糸圧痕文、微隆起線文が、胴部は横位の羽状撚糸文が施される。石英・砂粒を中量含む富良野盆地系の土器である。11 は砥石の破片。

**ⅤPB-03**（図Ⅲ-31　図版 31-5～7）

位置：Z-20･21 区　規模：195×108cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　Ta-c 火山灰（Ⅳ層）除去中に、調査区中央部西側の厚真川浸食崖沿いから発見した。西側にⅤPB-04 が近接する。当初、同一の土器集中と考えたが、平面的に集中区域が分かれるため二つの土器集中として調査を進めることにした。厚真川浸食崖に向かって緩やかに傾斜しており、ⅤPB-01・02 同様、斜面に遺棄されたと思われる。

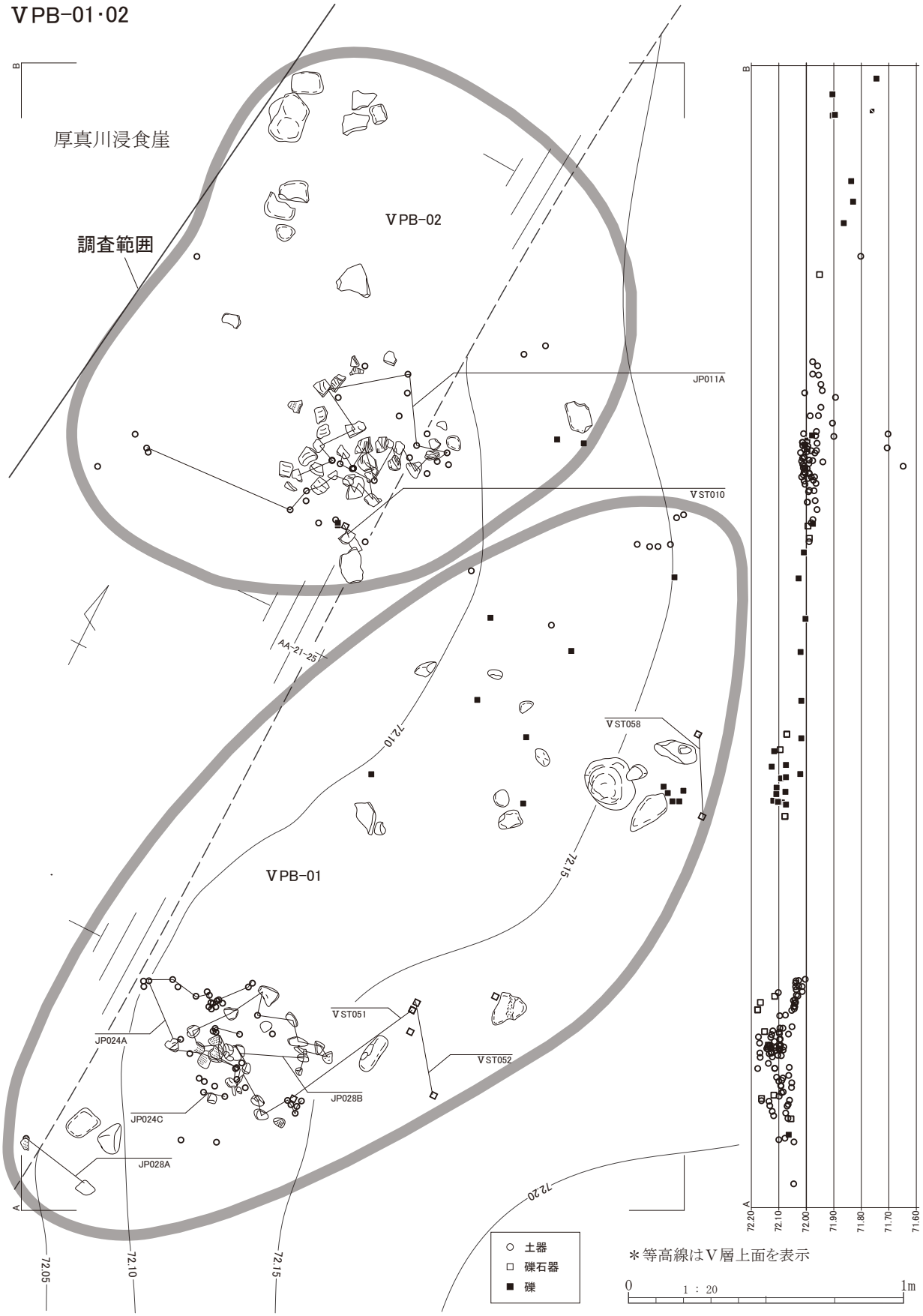
**出土遺物**（図Ⅲ-35-12～15　図版 41-12～15）12 は口唇に縄文を施文する深鉢形土器。胴部は口唇部と同じ縄文で全面施文されている。口縁部内面にも縄文が施文される。ⅤPB-04 から出土した資料とも接合している。13･14 は同一個体。口唇と口縁部に斜行縄文が施される。口縁部内面には縄文は施文されない。すべて縄文時代後期前半タプコプ式新段階に属する。15 は石鏃、赤井川産の黒曜石を使用している（第Ⅳ章第 1 節参照）。

**ⅤPB-04**（図Ⅲ-31　図版 31-5･8）

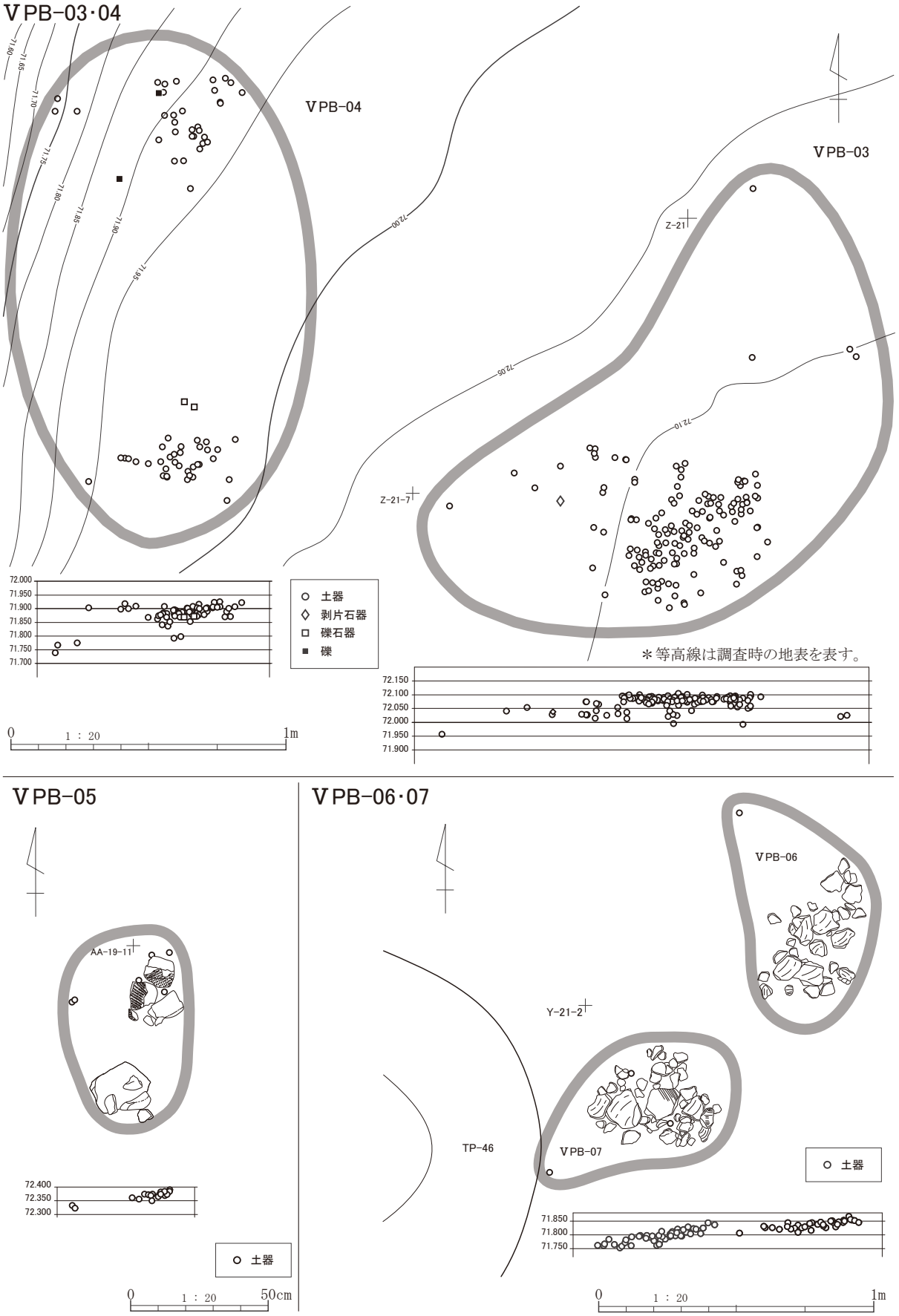
位置：Z･21 区　規模：186×107cm　検出層位：Ⅴc　平面形：不整形

**確認・調査**　Ta-c 火山灰（Ⅳ層）除去中に、ⅤPB-03 と共に検出した。厚真川浸食崖に向かって傾斜しており、Ⅴc 層上面で確認した。北と南に分かれた平面分布を見せるが、同一個体と思われる土器が出土しているので、一括して取り扱う。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-16　図版 41-16）　土器片は細片で細かく、また、一部の土器片はⅤPB-03 から出土した土器片に接合した。後期前葉のタプコプ式土器。16 はたたき石。表裏面に窪んだ敲打痕が見られる。

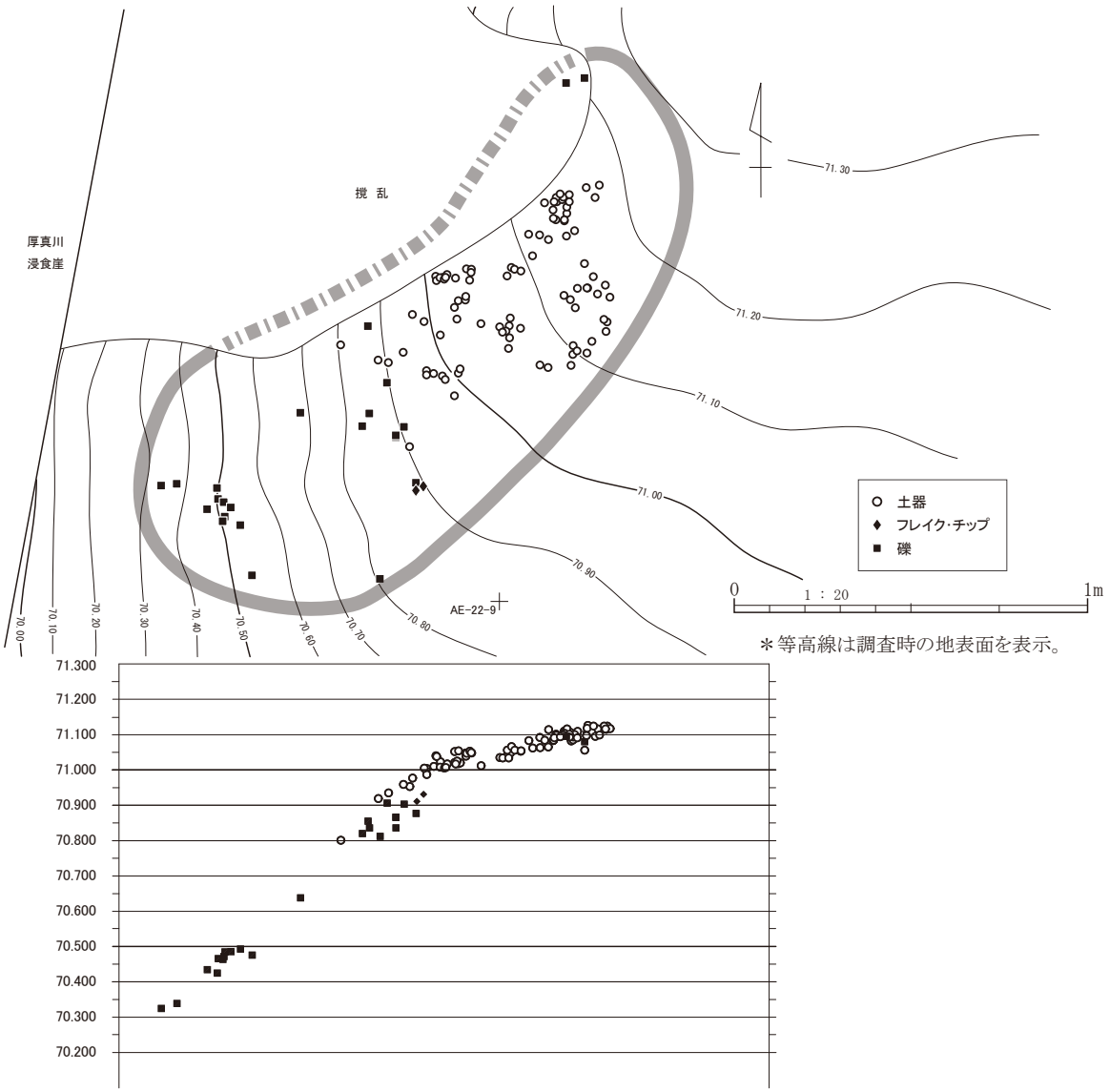



図Ⅲ-30　ⅤPB-01･02平面及び垂直分布図

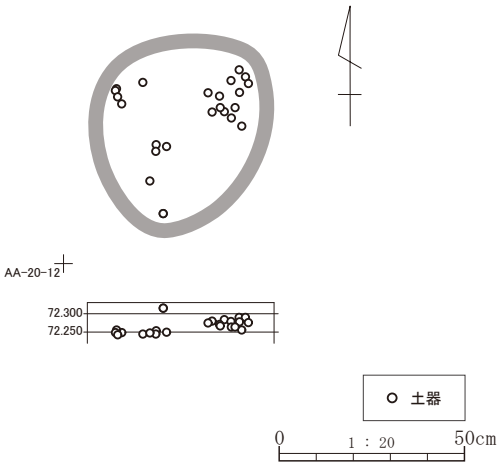



図Ⅲ-31　ⅤPB-03～07平面及び垂直分布図

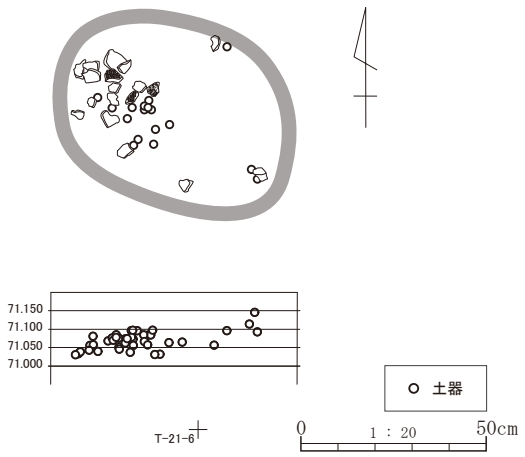
ⅤPB-08



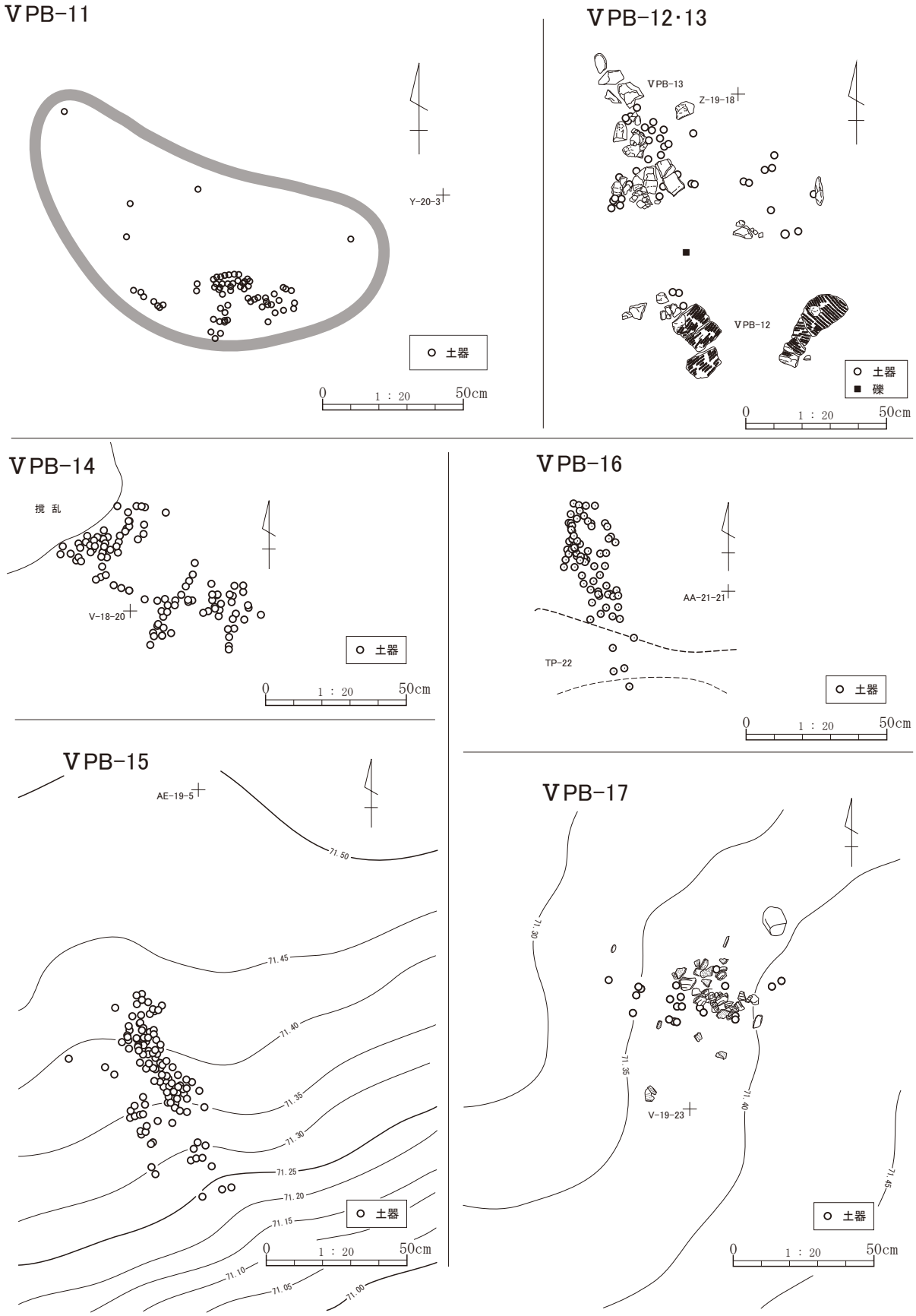

ⅤPB-09




ⅤPB-10

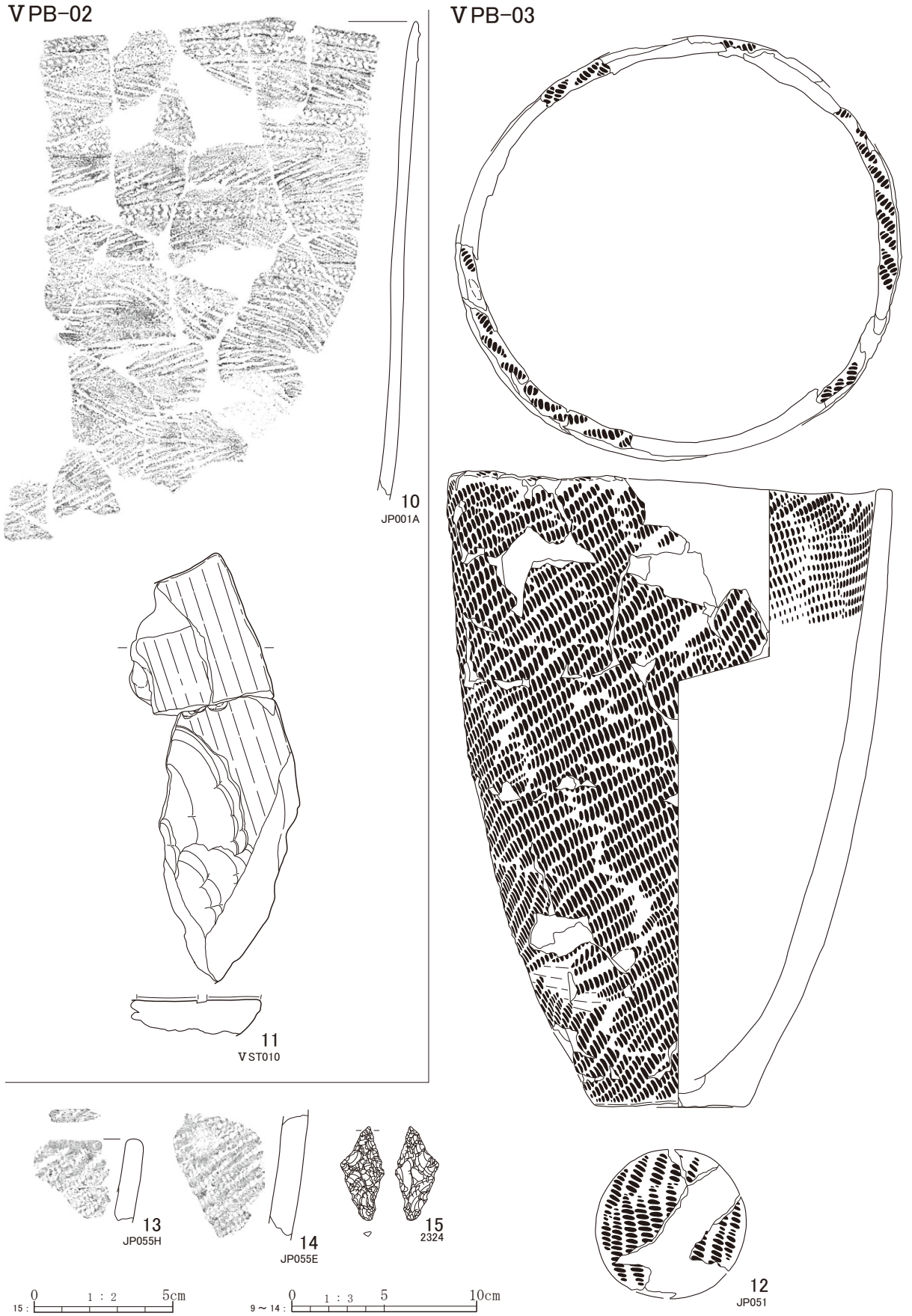



図Ⅲ-32　ⅤPB-08 ～ 10 平面及び垂直分布図

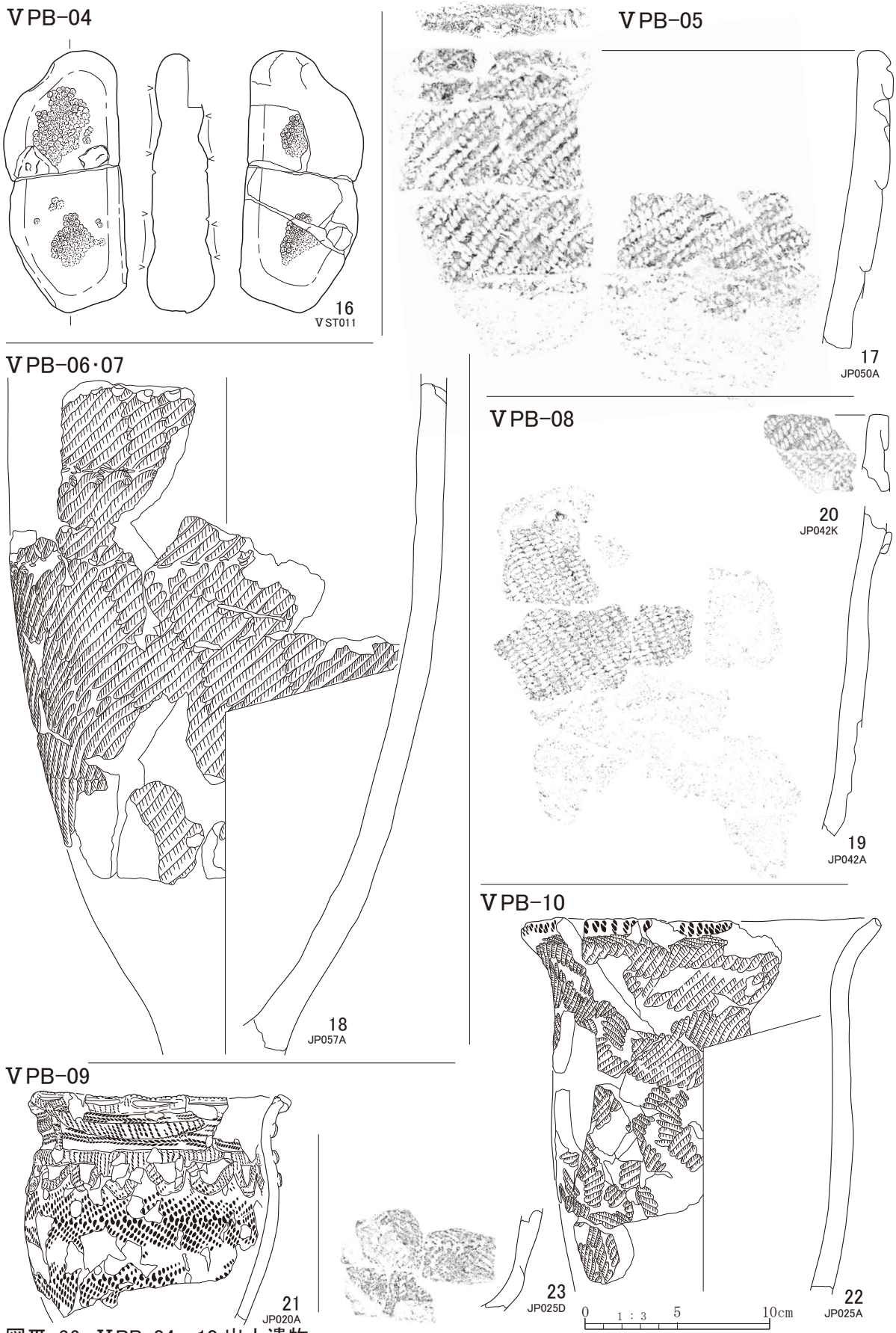



図Ⅲ-33　ⅤPB11 ～ 17 平面図

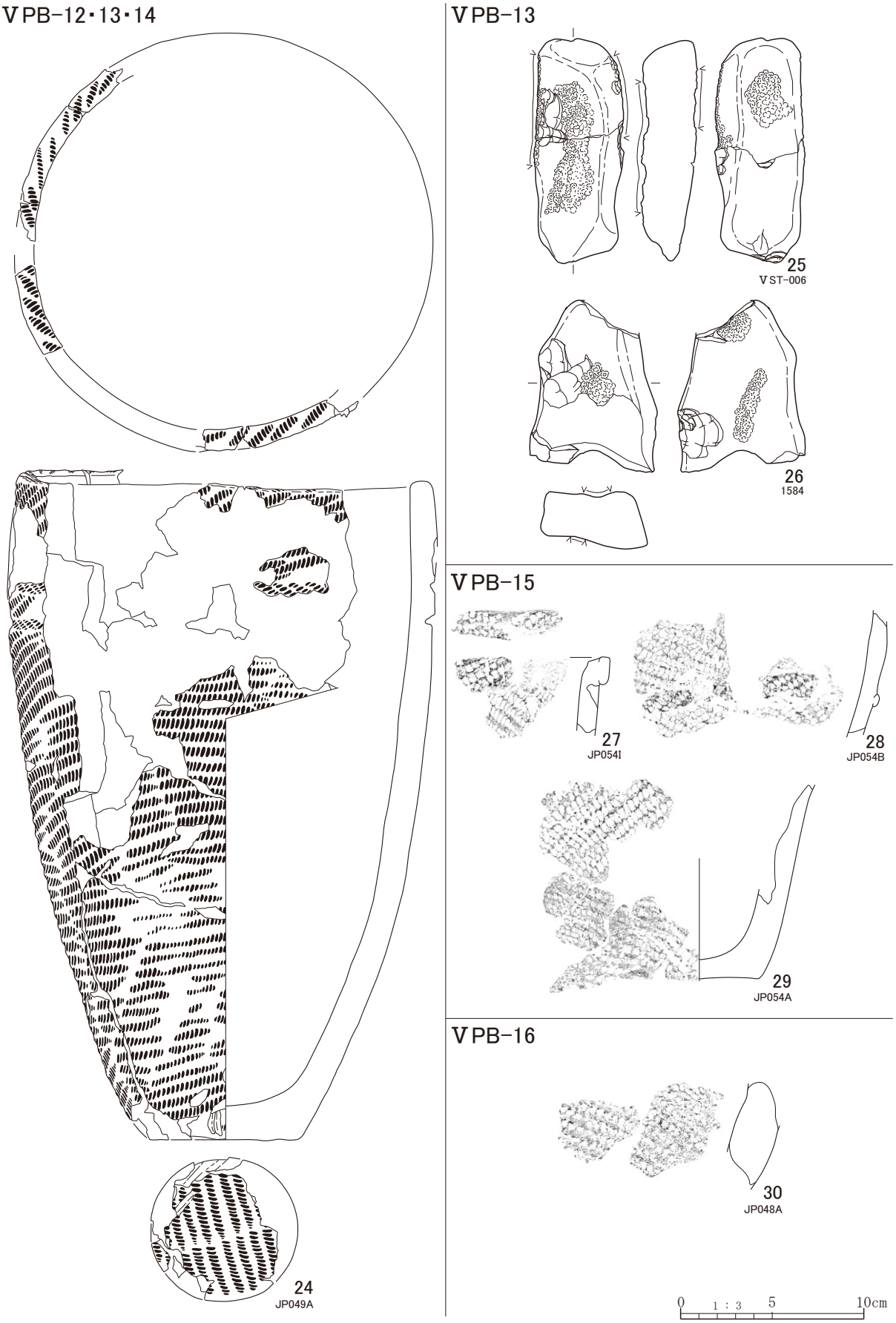
図Ⅲ-34　ⅤPB-01 出土遺物



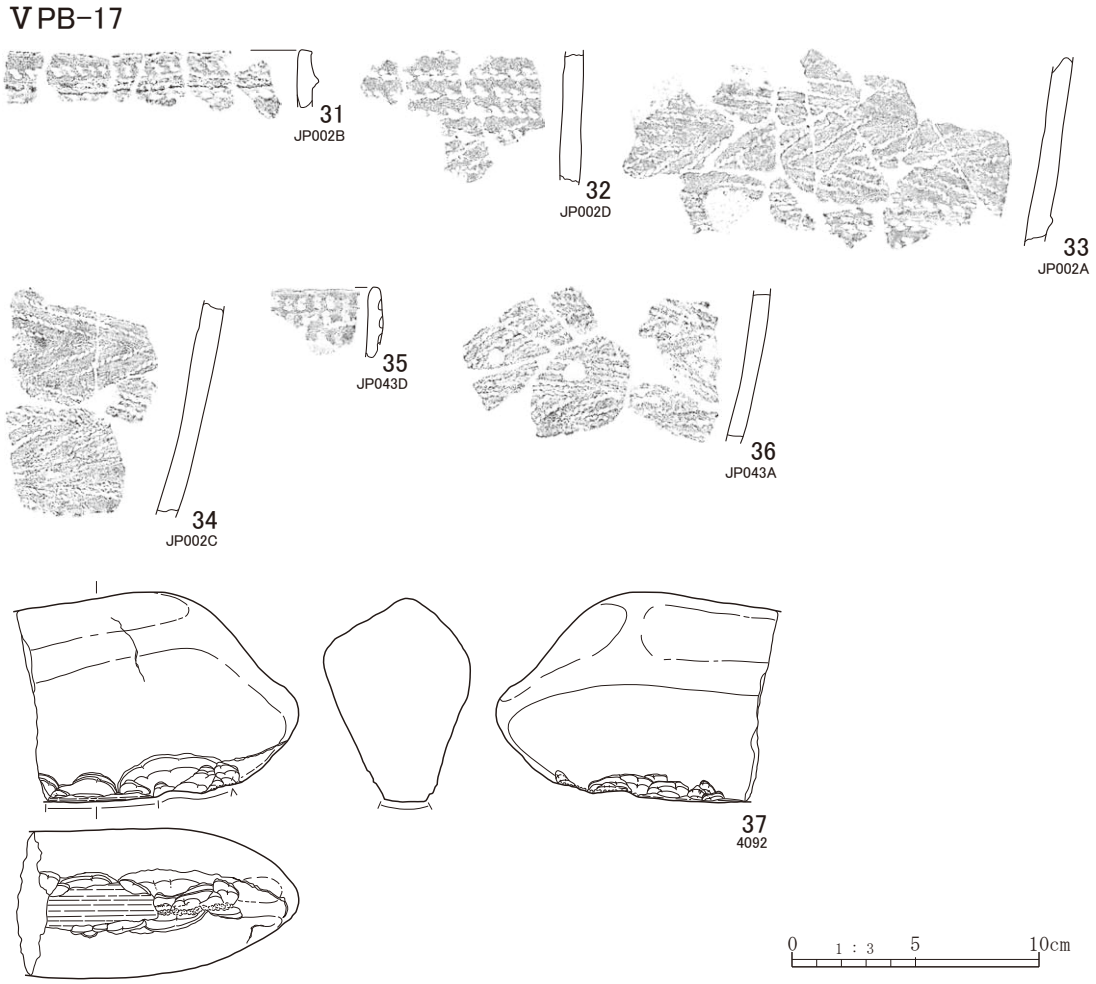

図Ⅲ-35　ⅤPB-02･03 出土遺物




図Ⅲ-36　ⅤPB-04～10 出土遺物




図Ⅲ-37 ⅤPB-12～16 出土遺物




**図Ⅲ-38　ⅤPB-17 出土遺物**

**ⅤPB-05**（図Ⅲ-31　図版 31-5･8）

位置：AA-18 区　規模：72×42cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区の中央、Ⅳ層除去中に発見した。比較的大形の破片が集中している。北西にⅤPB-12･13 が検出されたので接合する破片を検討したが接合する破片は見られない。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-17　図版 41-17）角状の口唇にも LR 斜行縄文を施し、口縁部は細く、胴部は幅広の貼付帯を 2 段巡らす。口縁部には縄線文を施文する。口縁部貼付帯下に縄端圧痕文を縦に施文している。口縁部・胴部共に地文は LR 斜行縄文。縄文時代後期前半タプコプ式に属する。

**ⅤPB-06**（図Ⅲ-31　図版 32-3･4）

位置：X-20･21 区　規模：87×49cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　ⅤPB-07 が近接しⅤPB-06･07 とも西に向かって傾斜しており、当初はⅤPB-06 のみ検出した。ⅤPB-06 の西端を掘り下げたところⅤPB-07 を発見したが、土器片の集中が大きく 2 ヵ所に分かれるため、異なった番号を付番した。両者から出土した土器は接合している。

表Ⅲ-8　ⅤPB・ⅤSB・ⅤFCB属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 遺構名 | グリッド | 層 位 | 平面形 | 規模(cm) | | 被熱の有 無 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸 | 短軸 | | |
| Ⅲ-30 | 31-1・2・3 | ⅤPB-01 | AA・AB-21 | ⅤbU | 不整形 | 346 | 155 | - | 石斧・北海道式石冠等伴出 |
| Ⅲ-30 | 31-1・4 | ⅤPB-02 | AA-21・22 | Ⅴc | 不整形 | 213 | 157 | - | |
| Ⅲ-31 | 31-5・6・7 | ⅤPB-03 | Z-20・21 | ⅤbU | 不整形 | 195 | 108 | - | |
| Ⅲ-31 | 31-5・8 | ⅤPB-04 | Z-21 | Ⅴc | 不整形 | 186 | 107 | - | |
| Ⅲ-31 | 32-1・2 | ⅤPB-05 | AA-18・19/Z-21 | ⅤbU | 不整形 | 72 | 42 | - | |
| Ⅲ-31 | 32-3・4 | ⅤPB-06 | X-20・21 | ⅤbU | 不整形 | 87 | 49 | - | |
| Ⅲ-31 | 32-5・6 | ⅤPB-07 | Y-20・21 | ⅤbM | 不整形 | 80 | 49 | - | |
| Ⅲ-32 | 32-7・8/33-1・2 | ⅤPB-08 | AE-22 | ⅤbU | 不整形 | 155 | (85) | - | |
| Ⅲ-32 | 33-3・4・5・6 | ⅤPB-09 | AA-20 | ⅤbM | 不整形 | 53 | 44 | - | |
| Ⅲ-32 | 33-7・8 | ⅤPB-10 | S・T-20・21 | ⅤbM | 不整形 | 67 | 48 | - | |
| Ⅲ-33 | 34-1・2 | ⅤPB-11 | Y-20 | ⅤbM | 不整形 | 132 | 63 | - | |
| Ⅲ-33 | 34-3・4・5 | ⅤPB-12 | Z-19 | ⅤbM | 不整形 | 80 | 33 | - | |
| Ⅲ-33 | 34-3・4・6・7・8 | ⅤPB-13 | Z-19 | ⅤbM | 不整形 | 95 | 50 | - | |
| Ⅲ-33 | 35-1・2・3・4 | ⅤPB-14 | V-18 | ⅤbU | 不整形 | 77 | 37 | - | |
| Ⅲ-33 | 35-5・6 | ⅤPB-15 | AE-19 | ⅤbU | 不整形 | 80 | 43 | - | |
| Ⅲ-33 | 35-7・8 | ⅤPB-16 | AA-20 | ⅤbL | 不整形 | 70 | 25 | - | |
| Ⅲ-33 | 36-1・2 | ⅤPB-17 | U-19 | Ⅴc | 不整形 | 65 | 57 | - | |
| Ⅲ-39 | 36-3・4 | ⅤSB-01 | AC・AD-22 | ⅤbU | 不整形 | 162 | 130 | - | 片岩製剥片出土 |
| Ⅲ-39 | 36-5・6 | ⅤSB-02 | AE-21 | ⅤbM | 不整形 | (170) | 125 | 有 | 被熱礫出土 |
| Ⅲ-39 | 36-7・8 | ⅤSB-03 | AA-16 | ⅤbM | 不整形 | 128 | 105 | 有 | 被熱礫出土 |
| Ⅲ-39 | 37-1・2 | ⅤSB-04 | AC・AD-22 | ⅤbL | 不整形 | 205 | 113 | - | ⅤSB-01の下層 |
| Ⅲ-41 | 37-3・4 | ⅤFCB-01 | AA-18 | ⅤbU | 不整形 | 46 | 27 | - | 赤井川黒曜石 |

**出土遺物**（図Ⅲ-36-18　図版 42-18）18 は口縁を欠く深鉢形土器。直立する胴部から内湾気味に外傾する底部に移行する。外側から内側に向かって施文された円形刺突文を巡らせ、L 無節縄文が全面に施され、胎土には石英結晶を多量に含む。縄文時代後期初頭余市式に属する。

**ⅤPB-07**（図Ⅲ-31　図版 32-5・6）

位置：Y-20・21 区　規模：80×49cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　ⅤPB-06 に近接し、西に向かって傾斜する。傾斜の度合いはⅤPB-06 と同様である。ⅤPB-06 と同一個体が出土し、接合した。

**ⅤPB-08**（図Ⅲ-32　図版 33-1～3）

位置：AE-22 区　規模：155×（85）cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区の南東端、厚真川浸食崖に沿いの傾斜地に位置する。北西側は大きく倒木痕によって撹乱されている。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-19・20　図版 42-19・20）同一個体で、20 は口縁部、19 は胴部の破片である。口縁部に貼付帯が 2 条みられる。貼付帯上は LR 斜行縄文、地文は RL 斜行縄文を施す。

**ⅤPB-09**（図Ⅲ-32　図版 33-4～6）

位置：AA-20 区　規模：53×44cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　試掘抗 12 の底面から検出した。同一期の土器片が、V-18、Z-17、AA･AB-21 区から出土しているが、接合するものはなかった。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-21　図版 42-21）口唇部に細い貼付帯、口縁部はやや太い貼付帯の上に縄の圧痕を付ける。口縁部、貼付帯の間は絡条体圧痕で埋められる。胴部は結節羽状縄文、内面は口縁部横方向、胴部縦方向のミガキ。

**ⅤPB-10**（図Ⅲ-32　図版 33-7･8）

位置：S･T-20･21 区　規模：67×48cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区北側、厚真川浸食崖の縁辺部から検出された。Ta-c（Ⅳ）層とⅤa･ⅤbU 層は薄く、撹乱も多い。ⅤbL 層よりやや上位であることからⅤbM 層として取り上げた。Ⅲc 層と同一レベルの撹乱層からも破片の一部は出土している。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-22･23　図版 42-22･23）22･23 は同一個体である。口唇部に縄の圧痕が見られる。口縁上部は結束羽状縄文（無節）が施文され、それ以下はＬ斜行（無節）縄文（一部羽状構成）、胴部近くで明瞭な結束羽状縄文（無節）が施される。

**ⅤPB-11**（図Ⅲ-33　図版 34-1･2）

位置：Y-20 区　規模：132×63cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　ⅤPB-06･07 の東側、厚真川浸食崖からやや東に入った位置から検出された。出土した土器片は小形で磨滅しているものが多く図示できるものは無い。

**ⅤPB-12**（図Ⅲ-33　図版 34-3～5）

位置：Z-19 区　規模：80×33cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　ⅤPB-13 と隣接して、調査区中央から検出された。供給元は判然としないが、掘り上げ土の上位から出土している。ⅤPB-13 と同一の土器集中かと思われたが、明確に 2 ブロックに分かれる出土状態であったので、それぞれに付番して調査を進めた。

**出土遺物**（図Ⅲ-37-24　図版 43-24）　24 はⅤPB-12･13 から出土したものが接合しているほか、直線距離で約 30m 北に離れたⅤPB-14 から出土した土器片も接合した。近隣のグリッド（Z-19･20 区）から出土した土器片も接合している。口唇に LR 縄文を施し、口縁部下に 2 条の縄線文が見られる。地文は LR 縄文で、同上半部までは斜行、同中央部以下は横走する。底面にも縄文が施される。内面はナデで、口縁部内面に縄文は見られない。縄文時代後期前半タプコプ式に比定される。

**ⅤPB-13**（図Ⅲ-33　図版 34-3･4･6～8）

位置：Z-19 区　規模：95×50cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　上述したⅤPB-12 と共に調査を進めた。ⅤPB-12 より小破片が多い。

**出土遺物**（図Ⅲ-36-25･26　図版 42-25･26）たたき石 2 点が出土している。25･26 ともに表裏の腹面に敲打痕が残る。図示した 25 の正面と、26 の裏面に残された敲打痕は長い。

**ⅤPB-14**（図Ⅲ-33　図版 35-1～4）

位置：V-18 区　規模：77×37cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区北側、V-18 区から検出された。大型の撹乱坑を調査中に発見した。一部は撹乱によって破壊されている。土器 1 点がＶPB-12･13 から出土した深鉢形土器に接合した。

**ＶPB-15**（図Ⅲ-33　図版 35-5･6）

位置：AE-19 区　規模：80×43cm　検出層位：ＶbU　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区南端、一里沢側の斜面から発見された。沢状の地形の底部に土器片が並んで出土し、小沢に沿って投棄されたものと思われる。

**出土遺物**（図Ⅲ-37-27～29　図版Ⅲ-43-27～29）27～29 は同一個体である。口縁上端と胴部に貼付帯をもち、貼付帯上は LR 斜行縄文、地文は RL 斜行縄文によって羽状構成をなす。口縁部貼付帯下に斜め下方からの刺突文が施される。胴下半部は撚りの異なる本の原体により羽状構成をなす。縄文時代後期前半余市式新段階に属する。

**ＶPB-16**（図Ⅲ-33　図版 35-7･8）

位置：AA-20 区　規模：70×25cm　検出層位：ＶbL　平面形：不整形

**確認・調査**　TP-22 調査中に発見された。TP-22 の覆土中に流れ込むように出土した。

**出土遺物**（図Ⅲ-37-30　図版 43-30）ほとんどが小破片で、器形がわかるくらいまで復元することはできなかった。29 は厚手の胴下半部破片で縄文時代後期前半タプコプ式に属する。

**ＶPB-17**（図Ⅲ-33　図版 36-1･2）

位置：U-19 区　規模：65×57cm　検出層位：Ｖc　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区北側、厚真川氾濫原から上ってくる道路下から発見された。出土地点は沢状地形の底部である。土器集中の上半は撹乱されており、わずかに残るＶc 層から発見された。

**出土遺物**（図Ⅲ-38-31～37　図版 43-31～37）31～34、35･36 は同一個体である。31 は口縁部破片。口唇部は磨かれ、口縁部に微隆起線を巡らし、微隆起線の両脇には絡条体圧痕文が施文される。口縁部は絡条体圧痕が現存部で 4 列施文され、下位はＬ撚糸文が羽状構成に施文される。さらにその下位に、絡条体圧痕文を脇にともなった微隆起線が巡る。胴下半部はＬ羽状撚糸文が 3 段以上施文される。35 は口縁部に絡条体原体の端を連続刺突した列点文が 2 段以上施文される。直径 3 ㎜前後の禾本科植物の茎を用いているようである。胴部はＬ羽状撚糸文が施される。

## ２．礫集中

**ＶSB-01**（図Ⅲ-39　図版 36-3･4）

位置：AC･AD-22 区　規模：162×130cm　検出層位：ＶbU　平面形：不整形

**確認・調査**　重機による樽前ｂ火山灰除去中に、調査区南西側の厚真川浸食崖にかかる斜面から発見した。板状の大形礫と緑色片岩の剥片（石斧石器群削片）が散乱する状態で発見された。調査を進める過程で緑色片岩の剥片は大型礫より 2～5 ㎝上位に位置し（図版 36-4 参照）、他の遺物も２層に分けられることから、上位の緑色片岩の剥片を含む礫集中をＶSB-01、下位の大型板状礫を含む礫集中をＶSB-04 に分けて付番した。範囲を記録し、写真撮影を行い、遺物を取り上げ、調査を終了した。

**出土遺物**（図Ⅲ-40-1･2　図版 44-1-1･2）1 はすり石破片。角柱状の素材の稜部分にすり面を残す。2 は台石破片。腹面に敲打痕を残す。深い敲打痕はなく、敲打痕は集中していない。

**ⅤSB-02**（図Ⅲ-39　図版 36-5･6）

位置：AE-21 区　規模：（170）×125cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　TP-06 の南側に発見された。TP-06 の覆土からは礫は検出されず、TP-06 の構築によって一部が削られたと思われる。

**出土遺物**（図Ⅲ-40-3･4　図版 44-1-3･4）3･4 は砥石。3 は全面擦られており、断面平行四辺形をなし、擦り面が窪んでいる。4 は表裏の腹面に敲打痕を残す。たたき石と併用している。

**ⅤSB-03**（図Ⅲ-39　図版 36-7･8）

位置：AA-16 区　規模：128×105cm　検出層位：ⅤbM　平面形：不整形

**確認・調査**　調査区中央東側Ｔピットの窪みと思われる箇所から発見された。下のＴピットとの層位的関係を把握するため、畦状のベルトを残して調査したが、下からはＴピットは検出できなかった。掘り上げ土の重複した窪みに堆積したようである。礫以外は出土しなかった。

**ⅤSB-04**（図Ⅲ-39　図版 36-3　37-1･2）

位置：AC･AD-22 区　規模：205×113cm　検出層位：ⅤbL　平面形：不整形

**確認・調査**　前述したⅤSB-01 の下位に位置する。大型の板状礫が斜面上部にあり、厚真川浸食崖に向かって傾斜した斜面に礫が検出された。

**出土遺物**（図Ⅲ-40-5　図版 44-1-5）5 は台石破片。腹面に敲打痕を残す。

### ３．剥片集中

**ⅤFCB-01**（図Ⅲ-41　図版 37-3･4）

位置：AA-18 区　規模：46×37cm　検出層位：ⅤbU　平面形：不整形

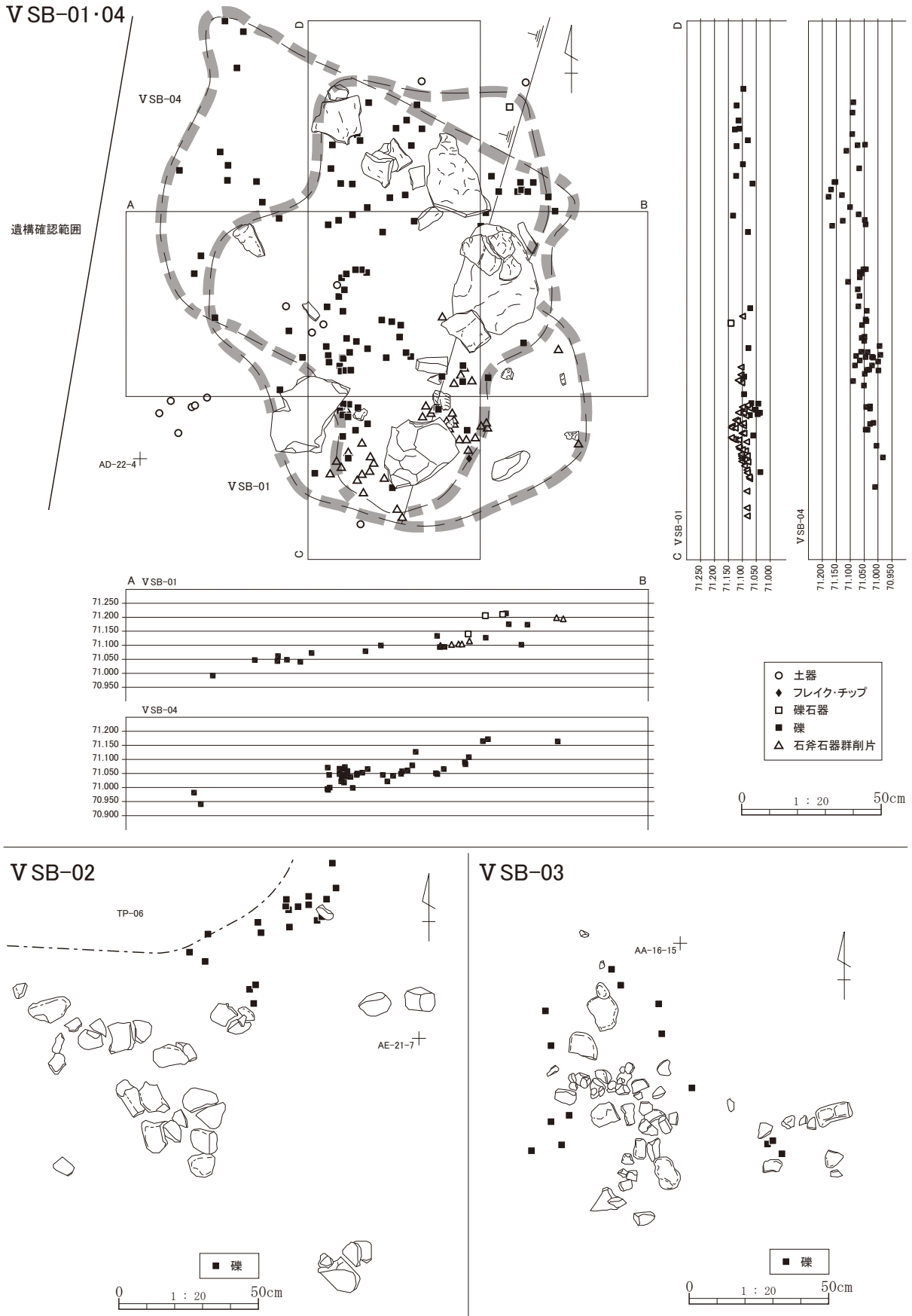
**確認・調査**　樽前ｃ火山灰除去中に、黒曜石剥片がまとまって検出された。ⅤFCB-01 と付番し調査を進めた。黒曜石片は 46×37 ㎝の狭い範囲に集中し、下位にピット状の遺構があるか確認したが明瞭な掘り込みは検出できなかった。範囲を記録し、写真撮影を行い、遺物を取り上げて調査を終了した。

**出土遺物**（図Ⅲ-41-1～4　図版 44-2-1･4）1 は岩砕面を残す使用痕のある剥片（U.F.）。2～4 は接合過程を表示した。図版には図Ⅲ-41-4 段階のもののみ掲載した。

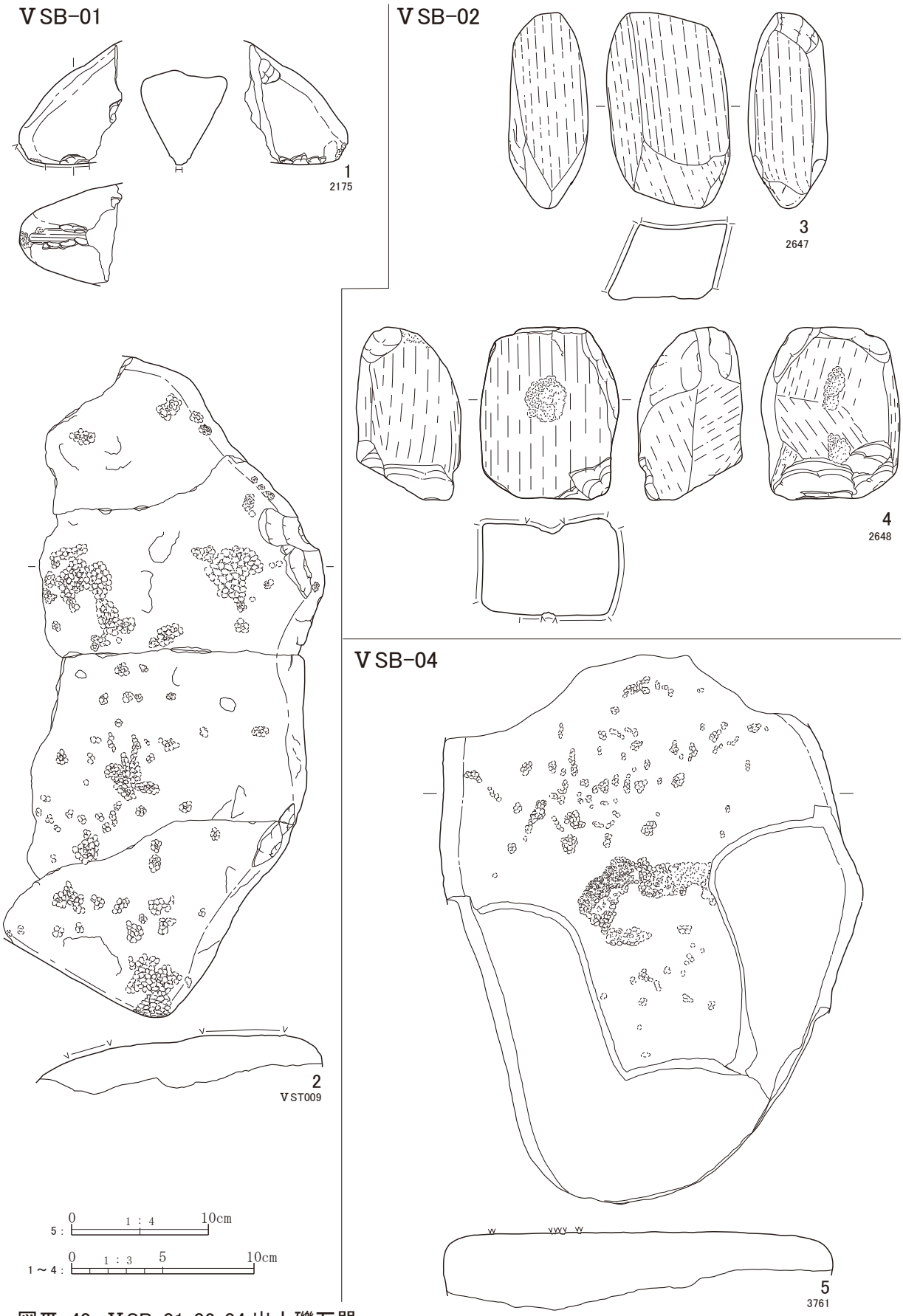
素材の石核は岩砕面を残す角礫が使用されており、初期の段階（4）では主剥離面に対して直交する角度で岩砕面を含む礫面を剥取し、主剥離面に稜を作り出している。次の段階（3）で稜部分の角をとるように剥離を繰り返している。剥離は主剥離面下端からも行われている。最終段階（2）での剥離は、上下の打面から比較的縦長の剥片を剥離している。残核は発見できなかった。

風化した岩砕面を含む礫面を横方向から剥離、主剥離面に稜を作る方法は、旧石器時代の石刃技法によく見られる方法で、北筒式土器を伴う石器群にも看取される（村本　2016）。

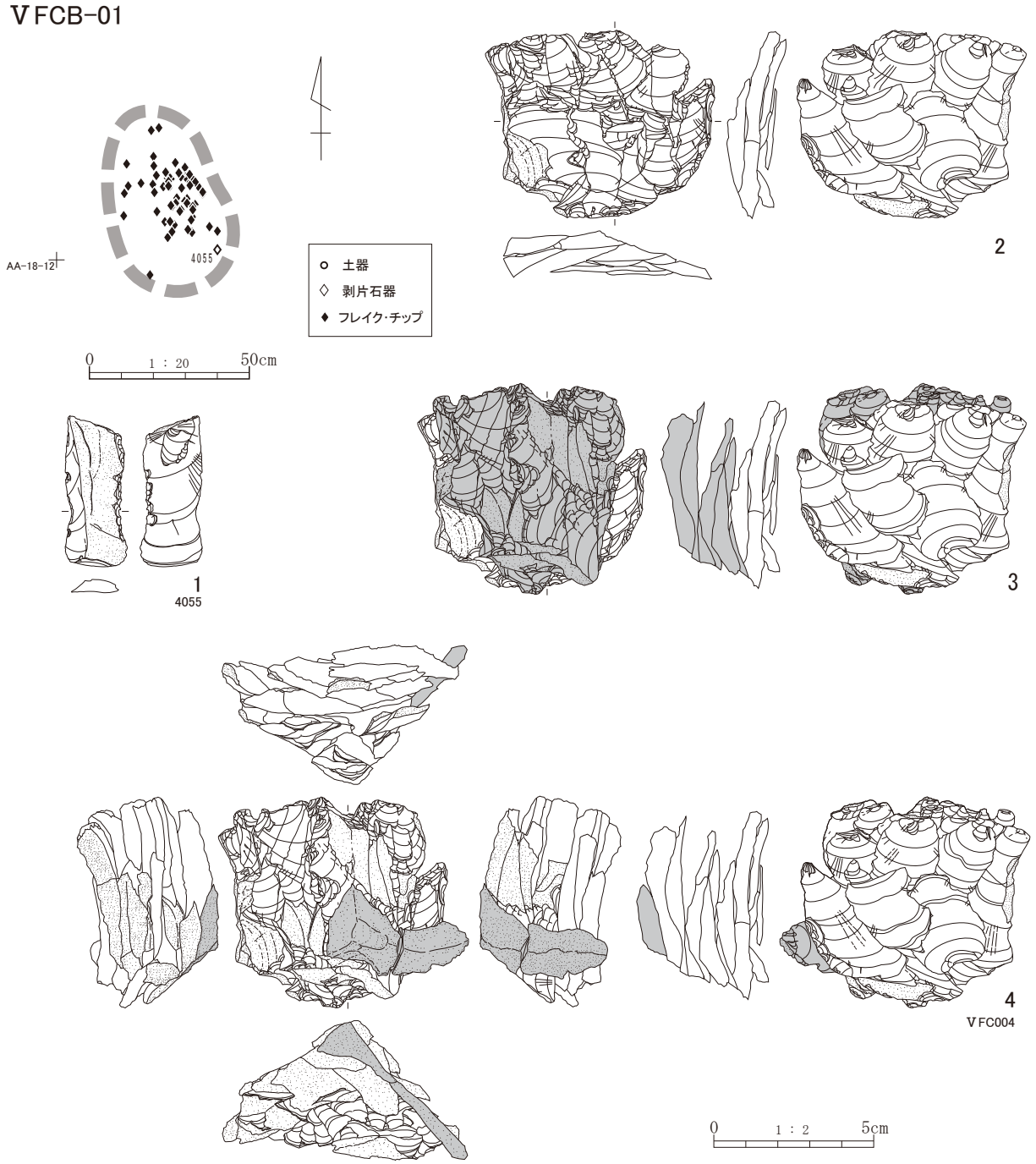
（松井・服部・宮塚）




図Ⅲ-39　ⅤSB-01 ～ 04 平面及び垂直分布図




図Ⅲ-40　ⅤSB-01･02･04 出土礫石器




図Ⅲ-41　ⅤFCB-01 平面図・出土遺物

## 表Ⅲ-9　ⅤPB出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面 | 文　様<br>口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面 | 胎土(砂粒等) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-34-1 | 40-2-1 | JP024 A | ⅢA1 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 52 | 口縁部～胴下半部 | 平縁・内湾気味に外傾-隅丸角状/直立～内湾 | 縄の圧痕-貼付帯＋R原体側面圧痕-ミガキ/貼付帯＋絡条体回転文・LR斜行縄文(一部羽状構成・下半部横走気味)-ミガキ | 砂粒少量混入 | 補修孔 |
| | | | | | Ⅴc | 1 | | | | | |
| | | | | AB-21 | | 1 | | | | | |
| | | | | | Ⅴa | 5 | | | | | |
| Ⅲ-34-2 | 40-2-2 | JP024 B | ⅢA1 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 11 | 胴部 | 内湾気味に外傾 | LR斜行縄文・結節部回転文-ミガキ | | 補修孔 |
| | | | | ⅤPB-10 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | T-20 | ⅤbM | 1 | | | | | |
| | | | | AB-21 | Ⅴa | 2 | | | | | |
| Ⅲ-34-3 | 40-2-6 | JP024 C | ⅢA1 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 1 | 底部 | 内湾-丸状-平底 | LR斜行縄文・ミガキ-ミガキ-ナデ | | |
| Ⅲ-34-4 | 40-2-4 | JP028 A | ⅢA1 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 2 | 口縁部～胴部 | 突起・外反-丸状/外傾 | L・R原体側面圧痕-貼付帯＋L原体側面圧痕-ミガキ/貼付帯＋縄の圧痕・第1種結束羽状縄文(縦回転)-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-34-5 | 40-2-5 | JP028 B | ⅢA1 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 2 | 口縁部～胴部 | | | | |
| Ⅲ-34-6 | 40-2-6 | JP028 D | ⅢA1 | TP-14 | 1 | 2 | 胴部 | 内湾気味に外傾 | 第1種結束羽状縄文-ミガキ | | |
| Ⅲ-35-10 | 41-10 | JP001 A | ⅠB4 | ⅤPB-02 | Ⅴc | 30 | 口縁部～胴部 | 波状・やや外傾-尖状/外傾 | 撚糸圧痕文・微隆起線文-ミガキ/撚糸圧痕文・横位撚糸文(羽状構成)-ミガキ | 砂粒・石英結晶中量混入 | 富良野盆地系 |
| Ⅲ-35-12 | 41-12 | JP051 A | ⅣB1 | ⅤPB-03 | ⅤbU | 3 | 口縁部～底部 | 平縁・直立-角状/やや内湾/角状-平底(やや上げ底) | LR斜行縄文-LR斜行縄文-LR斜行縄文/LR斜行縄文-ナデ/LR斜行縄文-LR斜行縄文-ナデ | 繊維・砂粒少量混入 | 口縁部～胴上半部器壁剥落 |
| | | | | | ⅤbM | 74 | | | | | |
| | | | | ⅤPB-04 | | 28 | | | | | |
| | | | | | ⅤbL | 1 | | | | | |
| | | | | Y-21 | | 1 | | | | | |
| | | | | | Ⅴc | 1 | | | | | |
| | | | | Z-21 | ⅤbM | 6 | | | | | |
| | | | | | Ⅴc | 3 | | | | | |
| Ⅲ-35-13 | 41-13 | JP055 H | ⅣB1 | Z-21 | Ⅴc | 1 | 口縁部 | 平縁・外傾-隅丸角状 | LR斜行縄文-LR斜行縄文-ナデ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-35-14 | 41-14 | JP055 E | ⅣB1 | ⅤPB-03 | ⅤbM | 1 | 胴部 | 外傾 | LR斜行縄文-ナデ-ナデ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-35-17 | 43-17 | JP050 A | ⅣB1 | ⅤPB-05 | ⅤbU | 5 | 口縁部～胴部 | 平縁・直立-角状/内湾気味に外傾 | LR斜行縄文-貼付帯＋縄線文・LR斜行縄文-ナデ/縄端圧痕文・階段状器表面・LR斜行縄文-ナデ | 砂粒中量混入 | 胴下半部剥落顕著 |
| Ⅲ-36-18 | 42-18 | JP057 A | ⅣA1a | ⅤPB-06 | ⅤbM | 16 | 口縁部～下半部 | 直立～内湾 | OI円形刺突文・L無節縄文-ナデ | 雲母微量・砂粒中量混入 | 富良野盆地系 |
| | | | | ⅤPB-07 | | 17 | | | | | |
| | | | | Y-21 | | 1 | | | | | |
| Ⅲ-36-19 | 42-19 | JP042 A | ⅣA1a | ⅤPB-08 | ⅤbU | 1 | 胴部 | 外傾 | 貼付帯＋LR斜行縄文・RL斜行縄文-ナデ | 砂粒中量混入 | 器壁剥落顕著 |
| | | | | | ⅤbM | 16 | | | | | |
| Ⅲ-36-20 | 42-20 | JP042 K | ⅣA1a | ⅤPB-08 | ⅤbM | 1 | 口縁部 | 平縁・直立-角状 | ミガキ-貼付帯＋LR斜行縄文-RL斜行縄文 | | |

## 表Ⅲ-9　ⅤPB出土土器属性表(続き)

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等 | 文様 | 胎土(砂粒等) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面 | 口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面 | | |
| Ⅲ-36-21 | 42-21 | JP020 A | ⅢA1 | ⅤPB-09 | ⅤbM | 16 | 口縁部～胴下半部 | 平縁・外反-外斜/内湾 | 細貼付帯・縦位貼付帯・刻み-ミガキ/絡条体圧痕文・貼付帯＋縄の圧痕・LR＋RL結節羽状縄文(2段以上)-ミガキ | 砂粒中量混入 | |
| | | | | Z-20 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | AA-20 | | 5 | | | | | |
| Ⅲ-36-22 | 42-22 | JP025 A | ⅢA2 | ⅤPB-10 | ⅤbU | 19 | 口縁部～胴下半部 | 平縁・外反-三角形状/やや内湾 | 縄の圧痕-第1種結束羽状縄文(無節)/第1種結束羽状縄文(無節)-ナデ | 繊維少量・砂粒微量混入 | |
| | | | | T-20 | Ⅲc(撹乱層) | 2 | | | | | |
| | | | | T-21 | | 2 | | | | | |
| | | | | | ⅤbM | 3 | | | | | |
| | | | | S-21 | Ⅲc(撹乱層) | 3 | | | | | |
| Ⅲ-36-23 | 42-23 | JP025 D | ⅢA2 | ⅤPB-10 | ⅤbU | 2 | 胴下半部 | 内湾 | 第1種結束羽状縄文(無節)/第1種結束羽状縄文(無節)-ナデ | | 底部との継ぎ目明瞭 |
| | | | | T-21 | ⅤbM | 1 | | | | | |
| | | | | | Ⅲc(撹乱層) | 1 | | | | | |
| | | | | S-20 | | 1 | | | | | |
| Ⅲ-37-24 | 43-2423 | JP049 A | ⅣB1 | ⅤPB-12 | ⅤbM | 10 | 口縁部～底部 | 平縁・直立-角状/やや内湾/角状-平底 | LR斜行縄文-LR斜行縄文-ナデ/LR斜行縄文-縄線文(2条)-ナデ/LR横走縄文・ナデ-ナデ/LR横走縄文-LR斜行縄文-ナデ | 砂粒少量混入 | 口縁部～胴上半部器壁剥落顕著 |
| | | | | ⅤPB-13 | | 24 | | | | | |
| | | | | ⅤPB-14 | ⅤbU | 1 | | | | | |
| | | | | Z-19 | | 1 | | | | | |
| | | | | | ⅤbM | 5 | | | | | |
| | | | | Z-20 | | 3 | | | | | |
| Ⅲ-37-27 | 43-27 | JP054 I | ⅣA2 | ⅤPB-15 | ⅤbU | 1 | 口縁部 | 平縁・外傾-切り出し状/外傾 | LR斜行縄文-貼付帯＋LR斜行縄文-ナデ/OI刺突文(斜め下方)・RL斜行縄文 | | 刺突は斜め下方から |
| | | | | | ⅤbM | 1 | | | | | |
| Ⅲ-37-28 | 43-28 | JP054 B | ⅣA2 | ⅤPB-15 | ⅤbM | 5 | 胴部 | 外傾 | 貼付帯＋LR斜行縄文・RL斜行縄文-ナデ | 砂粒・砂礫中量混入 | |
| Ⅲ-37-29 | 43-29 | JP054 A | ⅣA2 | ⅤPB-15 | ⅤbU | 4 | ～底部 | 外傾/外傾-角状-平底 | LR斜行縄文＋RL斜行縄文(羽状構成)-ミガキ-ナデ | | |
| | | | | | ⅤbM | 9 | | | | | |
| Ⅲ-37-30 | 43-30 | JP048 A | ⅣB1 | ⅤPB-16 | ⅤbL | 2 | 胴部 | 外傾 | RL斜行縄文・ナデ-ナデ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-38-31 | 43-31 | JP002 B | ⅠB4 | ⅤPB-17 | Ⅴc | 6 | 口縁部 | 平縁・直立-角状 | ミガキ-絡条体圧痕文・微隆起線文-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-38-32 | 43-32 | JP002 D | ⅠB4 | ⅤPB-17 | Ⅴc | 4 | 胴部 | 直立 | 絡条体圧痕文・R撚糸文(羽状？)-ミガキ | | |
| Ⅲ-38-33 | 43-33 | JP002 A | ⅠB4 | ⅤPB-17 | Ⅴc | 13 | 胴部 | 外傾 | R＋L羽状撚糸文・絡条体圧痕文・微隆起線文-ミガキ | | |
| Ⅲ-38-34 | 43-34 | JP002 C | ⅠB4 | ⅤPB-17 | Ⅴc | 4 | 胴部 | 外傾 | R＋L羽状撚糸文-ミガキ | | |
| Ⅲ-38-35 | 43-35 | JP043 D | ⅠB4 | AC-22 | Ⅴc | 2 | 口縁部 | 平縁・直立-尖状 | 刺突文(3列) | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-38-36 | 43-36 | JP043 A | ⅠB4 | ⅤPB-17 | Ⅴc | 6 | 胴部 | 内湾気味に外傾 | LR＋LR羽状撚糸文(一部菱形構成) | | |

表Ⅲ-10　ⅤPB・ⅤSB・ⅤFCB出土石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 遺構/グリッド | 層位 | 計測値(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-34-7 | 40-2-7 | - | 1645 | 石斧 | A2a | ⅤPB-01 | ⅤbM | 143.4 | 48.2 | 27.2 | 360.0 | Gr-Mud. | 完・敲打痕有 |
| Ⅲ-34-8 | 40-2-8 | - | 1648 | たたき石 | ⅡB3 | ⅤPB-01 | ⅤbM | 106.4 | 78.2 | 28.4 | 400.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-34-9 | 40-2-9 | - | 1646 | すり石 | D | ⅤPB-01 | ⅤbM | 122.0 | 103.0 | 42.0 | 555.0 | Sa. | 完・未使用 |
| Ⅲ-35-11 | 41-11 | VST 010 | 1668<br>1690<br>1691 | 砥石 | - | ⅤPB-02 | ⅤbM | (229.0) | (74.6) | (29.5) | (363.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-35-15 | 41-15 | - | 2324 | ポイント類 | A4 | ⅤPB-03 | ⅤbM | 33.7 | 15.6 | 5.5 | 1.9 | Obs. | 完・原産地分析<br>赤井川産 |
| Ⅲ-36-16 | 41-16 | VST 011 | 641-1<br>2318<br>2319-1 | たたき石 | ⅠA1 | Z-21<br>ⅤPB-04 | ⅤbM<br>ⅤbM | 138.8 | 61.2 | 36.3 | (370.0) | Sa. | 略完 |
| Ⅲ-37-25 | 43-25 | VST 006 | 1583<br>1588 | たたき石 | ⅠB3 | ⅤPB-13 | ⅤbM | 122.2 | 50.2 | 38.9 | 267.5 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-37-26 | 43-26 | - | 1584 | たたき石 | Ⅳ | ⅤPB-13 | ⅤbM | (93.9) | (65.2) | 29.2 | (188.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-38-37 | 43-37 | - | 4092 | すり石 | A | ⅤPB-17 | Ⅴc | (109.0) | 82.0 | 52.0 | (600.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-40-1 | 44-1 | - | 2175 | すり石 | A | ⅤSB-01 | ⅤbU | (70.0) | (52.5) | (54.0) | (130.0) | Sa. | 破 |
| Ⅲ-40-2 | 44-2 | VST 009 | 2167<br>2168<br>2170<br>2171 | 台石 | - | ⅤSB-01 | ⅤbU | 361.0 | (180.0) | (37.0) | (1,950.0) | Sa. | 破 |
| Ⅲ-40-3 | 44-3 | - | 2647 | 砥石 | - | ⅤSB-02 | ⅤbM | 113.0 | 67.0 | 45.0 | 370.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-40-4 | 44-4 | - | 2648 | 砥石 | - | ⅤSB-02 | ⅤbM | 97.0 | 76.0 | 56.0 | 575.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-40-5 | 44-5 | - | 3761 | 台石 | - | ⅤSB-04 | ⅤbL | (385.0) | 300.0 | (63.8) | (7,300.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-41-1 | 44-6 | - | 4055 | U.F | - | ⅤFCB-01 | Ⅴc | 47.1 | 18.1 | 5.6 | 5.7 | Obs. | 完・岩屑面有 |
| Ⅲ-41-2 | 44-7 | ⅤFC 004 | 392・393・2055・2056・2058・2059・2060・2061・2071・2072・2075・2076・3431・3436・3441・3451・3453・3455・3457・4792・4793・4795・4796・4797・4798・4800・4801・4802・4803・4804・4805・4806・4919 | 剥片接合資料①～⑨ | - | ⅤFCB-01 | ⅤbU | 77.7 | 62.5 | 43.4 | 97.8 | Obs. | 原産地分析<br>赤井川産 |
| Ⅲ-41-3 | | | | 剥片接合資料①～⑰ | | | | | | | | | |
| Ⅲ-41-4 | | | | 剥片接合資料①～⑲ | | | | | | | | | |

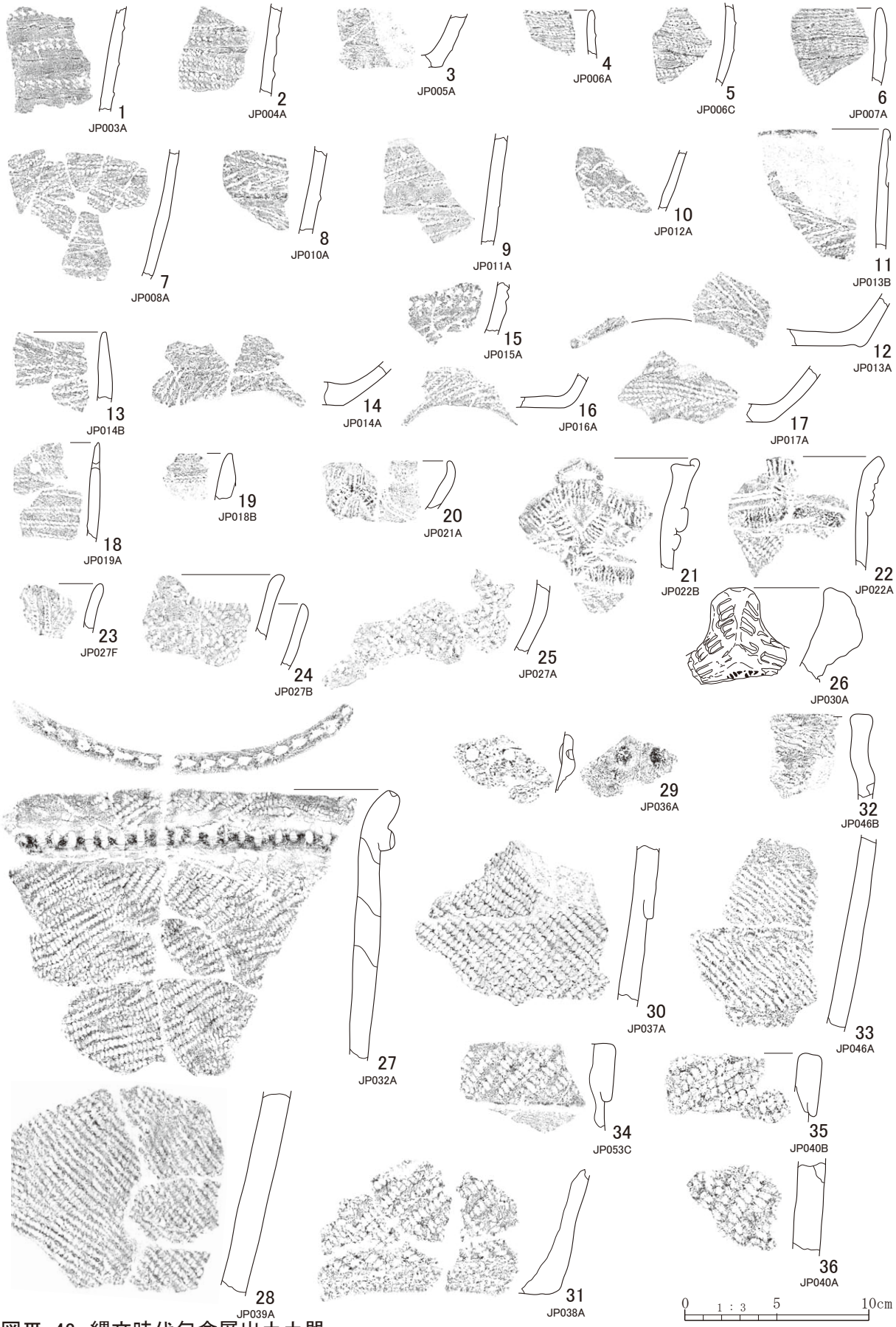
## 第５節　包含層出土遺物

### １．土器（図Ⅲ-42　図版 45）

1～6 はⅠ群 B3 類に属する。1・2 は横位の微隆起線の間に絡条体圧痕文を配する。3 は底部破片、ミガキが施されている。4・5 は同一個体で、口唇に刻み、口縁から胴部にかけて RR 撚糸文・絡条体圧痕文が施文される。6 は口縁部 R 撚糸文、微隆起線の間に絡条体圧痕文が施文される。

7～19 はⅠ群 B4 類に属する。7 は L+R 羽状撚糸文が施文され、一部に沈線文が見られる。8・9 は微隆起線文と撚糸文が施文される。撚糸文は羽状構成をなす。10 は結節回転文が施文される。

11・12 は同一個体、L+L 羽状撚糸文が施文される。底面はミガキ。13・14 は同一個体、R+L 羽状撚糸文が施文される。胎土に微量の石英を含む、富良野盆地系土器。




図Ⅲ-42 縄文時代包含層出土土器

## 表Ⅲ-11　縄文時代包含層出土土器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等<br>口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面 | 文　様<br>口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面 | 胎土(砂粒等) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-42-1 | 45-1 | JP003 A | ⅠB3 | S-20 | ⅤbL | 1 | 胴部 | 外傾 | 絡条体圧痕文-ミガキ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-42-2 | 45-2 | JP004 A | ⅠB3 | AD-18 | Ⅴc | 1 | 胴部 | 外傾 | 微隆起線文・絡条体圧痕文-ミガキ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-42-3 | 45-3 | JP005 A | ⅠB3 | W-21 | Ⅴc | 1 | 胴部～底部 | 外傾-角状-平底 | ナデ-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-4 | 45-4 | JP006 A | ⅠB3 | Z-20 | Ⅴc | 1 | 口縁部 | 波状・直立-尖状 | 絡条体圧痕文-LL撚糸文(羽状？)-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-5 | 45-5 | JP006 C | ⅠB3 | Z-20 | ⅤbM | 1 | 胴部 | 内湾気味に外傾 | LL撚糸文(羽状？)-ミガキ | | |
| Ⅲ-42-6 | 45-6 | JP007 A | ⅠB3 | X-16 | Ⅴc | 1 | 口縁部 | 波状・直立-尖状 | ミガキ-R撚糸文・絡条体撚糸文・微隆起線文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-7 | 45-7 | JP008 A | ⅠB4 | Z-20 | ⅤbL | 9 | 胴部 | 外傾 | L＋R羽状撚糸文(菱形構成)-ミガキ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-42-8 | 45-8 | JP010 A | ⅠB4 | U-18 | Ⅴc | 1 | 胴部 | 外傾 | R＋R撚糸文・微隆起線文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-9 | 45-9 | JP011 A | ⅠB4 | Z-16 | Ⅵ | 2 | 胴部 | 外傾 | L撚糸文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-10 | 45-10 | JP012 A | ⅠB4 | X-16 | ⅤbM | 1 | 胴部 | 外傾 | RL結節回転文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-11 | 45-11 | JP013 B | ⅠB4 | T-19 | Ⅴc | 2 | 口縁部～胴部 | 平縁・直立-尖状/直立 | L＋L 撚糸文-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-12 | 45-12 | JP013 A | ⅠB4 | U-19 | ⅤbL | 1 | 底部 | 外傾-角状-平底 | L＋L 撚糸文-ミガキ-ミガキ | | |
| | | | | | Ⅴc | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-13 | 45-13 | JP014 B | ⅠB4 | Z-21 | Ⅵ | 3 | 口縁部 | 波状・直立-尖状 | R＋L羽状撚糸文 | 砂粒・石英微量混入 | 富良野盆地系 |
| Ⅲ-42-14 | 45-14 | JP014 A | ⅠB4 | AA-21 | Ⅵ | 4 | 底部 | 外傾-角状-平底 | R＋L羽状 撚糸文-ミガキ -ミガキ | | |
| Ⅲ-42-15 | 45-15 | JP015 A | ⅠB4 | AA-17 | Ⅴc | 3 | 胴部 | 内湾気味に外傾 | 絡条体圧痕文・R 撚糸文-ミガキ | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-16 | 45-16 | JP016 A | ⅠB4 | AE-21 | ⅤbL | 1 | 底部 | 外傾-丸状-平底 | L＋L羽状撚糸文-ミガキ-ミガキ | 砂粒少量混入 | 内面炭化物付着 |
| Ⅲ-42-17 | 45-17 | JP017 A | ⅠB4 | U-18 | Ⅴc | 1 | 底部 | 内湾気味に外傾-丸状-平底 | R＋L羽状撚糸文-ミガキ-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-18 | 45-18 | JP019 A | ⅠB4 | U-19 | Ⅴc | 2 | 口縁部～胴部 | 平縁・直立-尖状/直立 | ナデ-L＋L 撚糸文-ミガキ | 砂粒中量混入 | 補修孔 |
| | | | | AD-22 | ⅤbM | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-19 | 45-19 | JP018 B | ⅠB4 | AA-16 | Ⅴc | 1 | 口縁部 | 平縁・直立-角状 | ナデ-ナデ・R＋L2条1対の撚糸文-ナデ | 砂粒微量混入 | 東釧路Ⅳ最新段階 |
| Ⅲ-42-20 | 45-20 | JP021 A | ⅢA1 | V-18 | ⅤbU | 1 | 口縁部 | 平縁・内湾-丸状/外傾 | 波状貼付帯＋縄の圧痕-貼付帯＋縄の圧痕・絡条体圧痕 | 砂粒中量混入 | |
| | | | | | KR | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-21 | 45-21 | JP022 B | ⅢA1 | Z-17 | Ⅵ | 2 | 口縁部～胴部 | 突起・外反-丸状/直立 | 縄の圧痕-貼付帯＋縄の圧痕・縄先端圧痕・絡条体圧痕文-ミガキ/RL斜行縄文-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| | | | | AB-21 | ⅤbL | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-22 | 45-22 | JP022 A | ⅢA1 | AA-21 | ⅤbL | 1 | 口縁部～胴部 | 突起・外反-丸状/直立 | 縄の圧痕-貼付帯＋縄の圧痕・絡条体圧痕文-ミガキ/RL斜行縄文-ミガキ | | |
| | | | | | KR | 1 | | | | | |
| | | | | AB-21 | Ⅴa | 1 | | | | | |
| | | | | | Ⅴc | 1 | | | | | |

表Ⅲ-11　縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 分類 | 遺構名/グリッド | 層位 | 点数 | 部位 | 器形等 | 文様 | 胎土(砂粒等) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面 | 口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面 | | |
| Ⅲ-42-23 | 45-23 | JP027 F | ⅢA2 | AC-18 | ⅤbM | 1 | 口縁部 | 突起・外反-切り出し状(外削ぎ) | 縄の圧痕-押引文(内)-ミガキ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-24 | 45-24 | JP027 B | ⅢA2 | AC-18 | ⅤbM | 2 | 口縁部～胴部 | 突起・外反-切り出し状(外削ぎ)/外傾 | 縄の圧痕-第1種結束羽状縄文・ナデ-ミガキ | | |
| | | | | | ⅤbL | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-25 | 45-25 | JP027 A | ⅢA2 | AC-17 | ⅤbU | 1 | 胴部 | 外傾～内湾 | 第1種結束羽状縄文-ミガキ | | |
| | | | | AC-18 | ⅤbM | 4 | | | | | |
| Ⅲ-42-26 | 45-26 | JP030 A | ⅢB1 | AF-22 | KR | 1 | 口縁部 | 突起・内湾-丸状 | 突引文(内)/LR斜行縄文 | 砂粒微量混入 | |
| Ⅲ-42-27 | 45-27 | JP032 A | ⅢB2 | AB-20 | ⅤbU | 7 | 口縁部～胴部 | 平縁・外反-丸状/直立 | 円形刺突文-LR斜行縄文-ミガキ/貼付帯＋刺突文・LR斜行縄文・ナデ(部分的)-ミガキ | 砂粒・繊維微量混入 | |
| | | | | | ⅤbM | 1 | | | | | |
| Ⅲ-42-28 | 45-28 | JP039 A | ⅣA1a | U-20 | ⅤbM | 3 | 胴部 | 外傾 | RL斜行縄文-ナデ | 砂粒少量混入 | 破損後被熱 |
| Ⅲ-42-29 | 45-29 | JP036 A | ⅣA1a | Z-20 | ⅤbU | 3 | 口縁部(口唇なし) | 外傾 | OI刺突文(表面剥落文様不明)-ナデ | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-30 | 45-30 | JP037 A | ⅣA1a | AD-17 | KR | 1 | 胴部 | 外傾 | 貼付帯＋RL斜行縄文・RL斜行縄文-ナデ | 砂粒・砂礫少量混入 | |
| Ⅲ-42-31 | 45-31 | JP038 A | ⅣA1a | V-19 | ⅤbU | 5 | 底部 | 外反-隅丸角状-平底 | LR＋RL羽状縄文・無文帯(ケズリ) | 砂粒中量混入 | 内面剥落 |
| Ⅲ-42-32 | 45-32 | JP046 B | ⅣA1a | AE-20 | ⅤbL | 1 | 口縁部 | 平縁・外反-丸状/直立 | ミガキ-L斜行縄文(無節)-ナデ | 石英・雲母・砂粒少量混入 | 富良野盆地系 |
| Ⅲ-42-33 | 45-33 | JP046 A | ⅣA1a | AE-20 | ⅤbM | 1 | 胴部 | 外傾 | L斜行縄文(無節)-ナデ | | |
| Ⅲ-42-34 | 45-34 | JP053 C | ⅣA1a | V-18 | ⅤbU | 2 | 口縁部 | 平縁・直立-角状 | ミガキ-貼付帯＋LR斜行縄文-不明(内面剥落) | 砂粒少量混入 | |
| Ⅲ-42-35 | 45-35 | JP040 B | ⅣA2 | Z-19 | ⅤbU | 1 | 口縁部 | 平縁・直立-隅丸角状 | 貼付帯＋LR斜行縄文-ナデ | 砂粒中量混入 | |
| Ⅲ-42-36 | 45-36 | JP040 A | ⅣA2 | Z-19 | ⅤbU | 1 | 胴部 | 外傾 | 縄端刺突文・LR斜行縄文-ナデ | | |

15 は絡条体圧痕文と R 撚糸文が施文される。絡条体圧痕文が施文される部位はやや肥厚している。16 は L+L 羽状撚糸文が施文される底部破片。内面に炭化物が付着している。17 は 16 と同様胴部から底部に移行する丸状の変換点を備え、R+L 羽状撚糸文が施文されている。18 はL+L撚糸文、19 は R+L 2 条 1 対の撚糸文が施文され、角状の口唇部を持つ。東釧路Ⅳ式で最も新しい段階のもの。

20～22 はⅢ群 A1 類に分類される。20 は内湾する口縁部に縄の圧痕を付けた貼付帯を波状に配する。貼付帯の内部は絡条体圧痕文で埋められる。21・22 は同一個体、突起を持ち外反する口縁部に縄の圧痕を付けた貼付帯。突起の下は、同様の貼付帯を「X」字状に配置する。口縁下部に縄の圧痕を付けた貼付帯を巡らせ、貼付帯間は絡条体圧痕を水平に、絡条体圧痕と口縁上部の貼付帯間に馬蹄形圧痕文が施文される。

23～25 はⅢ群 A2 類に分類される。23～25 は同一個体の小形土器。突起を持ち、1 ヵ所の突起には 2 本単位の押引き文が施される。口唇には突起部を除いて縄の圧痕が胴部には第 1 種結束羽状縄文が横位に施文される。

26 はⅢ群 B1 類に分類される。棒状突起を持ち突起側面・口唇部には突引文が施文される。27 はⅢ群 B2 類、口唇部に斜めに円形刺突による押引文が、口縁部下部には、貼付帯の上に刻みが付けられる。貼付帯は、地文縄文施文前にヘラ状工具で撫でつけられている。口縁部には間隔を置いて、胴部には隙間なく LR 斜行縄文が施される。

28～34 はⅣ群 A1 類 a 種に属する。28 は 0 段多条の密な RL 斜行縄文が施文されている。29 は表面が剥落した OI 円形刺突文を持つ。30 は幅広の貼付帯を持ち、RL 斜行縄文が施される。31 は隅丸角状の変換点を持つ胴下半部から底部破片。羽状縄文が施文される。32・33 は胎土に少量の石英を含む富良野盆地系土器の同一個体片。32 は外反する平縁で、34 は口縁部に貼付帯を持つ。32・33 は斜行縄文（無節）、34 は貼付帯上に LR 斜行縄文が施文されている。

35・36 は同一個体片でⅣ群 A2 類に分類される。35 の貼付帯上に LR 斜行縄文、36 には縄による刺突が施文される。

**２．剥片石器**（図Ⅲ-43　図版 46）

1～9 はポイント類、4cm の長さを基準にすれば、1～7 は石鏃、8・9 は石槍・石銛に分類される。1・2 は扁平な石鏃（A1 類）であり、明瞭な「関」を残すが、茎部との境界は判然としない。3・4 は A2a 類に分類される無茎の石鏃、基部は平らである。4 は表裏面に素材の剥離面を大きく残す。5 は鏃身部より茎部がやや長い。鏃身部が再加工され短くなったものである。6 は最大厚 6 ㎜を測る厚手の石鏃。7 は A4 類に分類される大型の石鏃、鏃身部・茎部とも錯交剥離によって整形されている。5 と同様に、鏃身部が再加工されていると思われ、石槍・石銛の小型化したものである。8 は茎部表面・側縁部が鏃身部に比べ磨滅しており、着柄されていたことが伺える。鏃身部の最終加工は図示した裏面からであり、上記の 5・7 同様、尖頭部のみ再加工されたことが伺える。9 も 8 同様茎部が磨滅しており、着柄されていたことが伺える。尖頭部・茎部とも図示した裏面からの剥離が最終加工である。

10・11 は石錐。10 は剥片の一部に機能部を作り出している。側縁が磨滅している。11 は両端に機能部を備えている。下端の側縁に僅かに磨滅痕が見られる。

12～20 はナイフ・スクレイパー類、12 はいわゆる「松原型」のつまみ付きナイフ、珪化岩製である。12 を除いて、図示したナイフ・スクレイパー類は全て黒曜石製である。13 は裏面に大きく素材の主剥離面を残している。14 はポイント類状の素材につまみ部を作出したもの、両側縁は錯交剥離で整形されている。15 は大型の剥片を素材としたスクレイパーで、、素材下端に表裏から刃部を作出している。剥離痕を観察すると、図示した裏面を打面とした剥離が正面を打面とした剥離に切られており、最初は裏面を正面として使用されたものが、反転して加工されたことがわかる。16 は素材の下端と側縁に刃部を作出している。17 は岩砕面を残す大型の剥片の側縁 3 分の 2 くらいに傾斜の低い剥離を加えたものである。18 は素材の主剥離面側に鋸歯状の抉りを入れた「ノッチド・スクレイパー」である。反対側にもわずかではあるが剥離痕が残されている。19・20 は「抉入石器」、抉入部は表裏から加工されている。

21 はポイント類未成品。尖頭部の一部に錯交剥離による調整痕が残るが、全体の調整は粗い。22 は両面調整石器。図示した正面の左側縁は一部細かく調整され、側面観は直線的であるが、右側縁は連続した屈曲をなす。分析から置戸町所山産の黒曜石であることが分かった。23 はアバタ状の転礫面を残す剥片の一部に使用痕を残す。原産地分析や転礫面の特徴から名寄市忠烈布川流域の黒曜石である（第Ⅳ章第 1 節参照）。名寄産の黒曜石としては最南端の出土例となる。24 はピエス・エスキーユ、下端に裁断部を持つ。25 は石英製の石核。節理面を表裏に残した板状の素材を用いている。

**３．礫石器**（図Ⅲ-44～52　図版 47～50）

26～34 は石斧・石斧未成品。26～28 は A2 類の石斧である。いずれも剥離・敲打により整形された後に研磨されている。刃先に細かな斜め方向の研磨痕が見られ、刃先を再調整していることがわかる。29 は擦り切り痕を残す石斧片。頭部に礫面を残す。30 は蛇紋岩製の石斧片。破断面に若干の敲打痕が見られ、たたき石として再利用された可能性が考えられる。31 は大型の石斧、素材の形状を大きく損ねることなく剥離された後、敲打・研磨によって整形されている。尖頭頂部に敲打痕を残す。刃部は表裏面とも再調整の研磨痕が見られる。

32～34 は未成品あるいは石斧素材。32 は素材の形状をほとんど変えていない。剥離は僅かに側縁部に沿って見られ、大半は敲打によって整形されている。33 は剥離・敲打痕は見られないが、表裏面に研磨痕が残る。34 は側縁の一部に剥離痕を残す。33･34 は蛇紋岩製である。

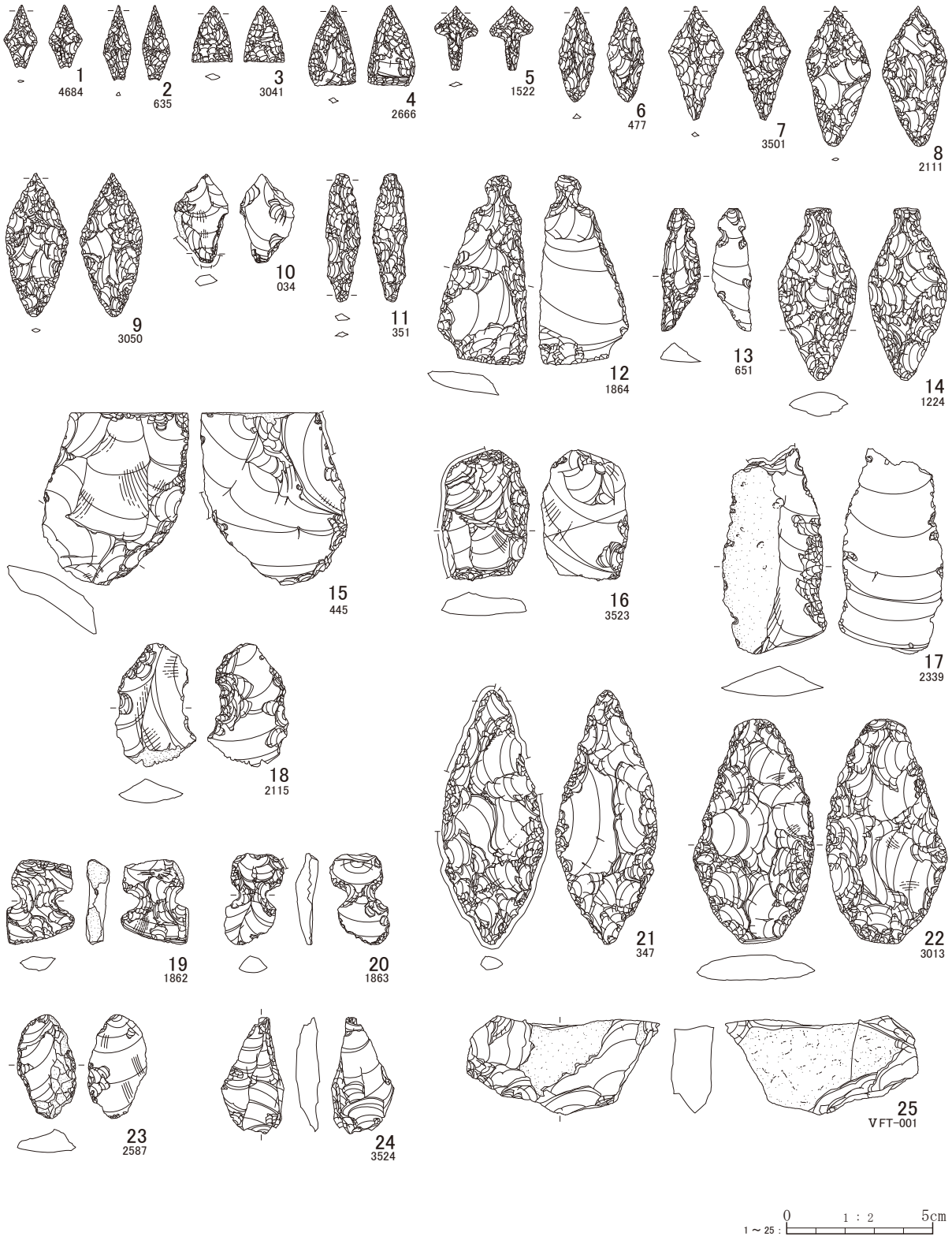
35～53 はたたき石。35～37 は縦長で扁平な礫の平坦面（腹面）に敲打痕を持つもの。35･37 に表裏面に敲打痕が見られる。38 は側縁部に、39 は平坦面と側面に、40 は表裏覆面に敲打痕を残す。41～46 は棒状･角柱状の素材を用いている。41･42 は表裏の平坦面に敲打痕を残す。43 は側縁部に、44･45 は平坦面と側縁部に敲打痕を残すが、45 は側縁部（素材の角部）に敲打痕が多い。46･47 は素材の平面形が不整形で、46 はやや平坦な面に、47 は平坦な面と側縁に敲打痕が見られる。47･51 は側縁部に細かな敲打痕を残す。47 の表裏平坦面にも側縁部よりは粗い敲打痕が見られる。48 は図示した下端の側縁部全面に細かな敲打痕が残されている。49 は表裏平坦面に、50 は角柱状素材の上下端に細かな敲打痕が残されている。図示した下端の敲打痕は半球状に残り、図Ⅲ-50－67・68 の石皿・台石の窪みによく符合する。52・53 は素材の平坦面一部に敲打痕が残されている。

54～58 はすり石。54･55 は断面三角形の角柱状の礫を素材とし、稜にすり面を残す。擦り面は敲打・剥離によって整形されている。両者とも平坦面に敲打痕を残す。56 は角柱状の礫の稜にすり面を残している。57･58 は扁平な礫の側縁にすり面を残している。58 にはすり面整形時の剥離痕が大きく残っている。

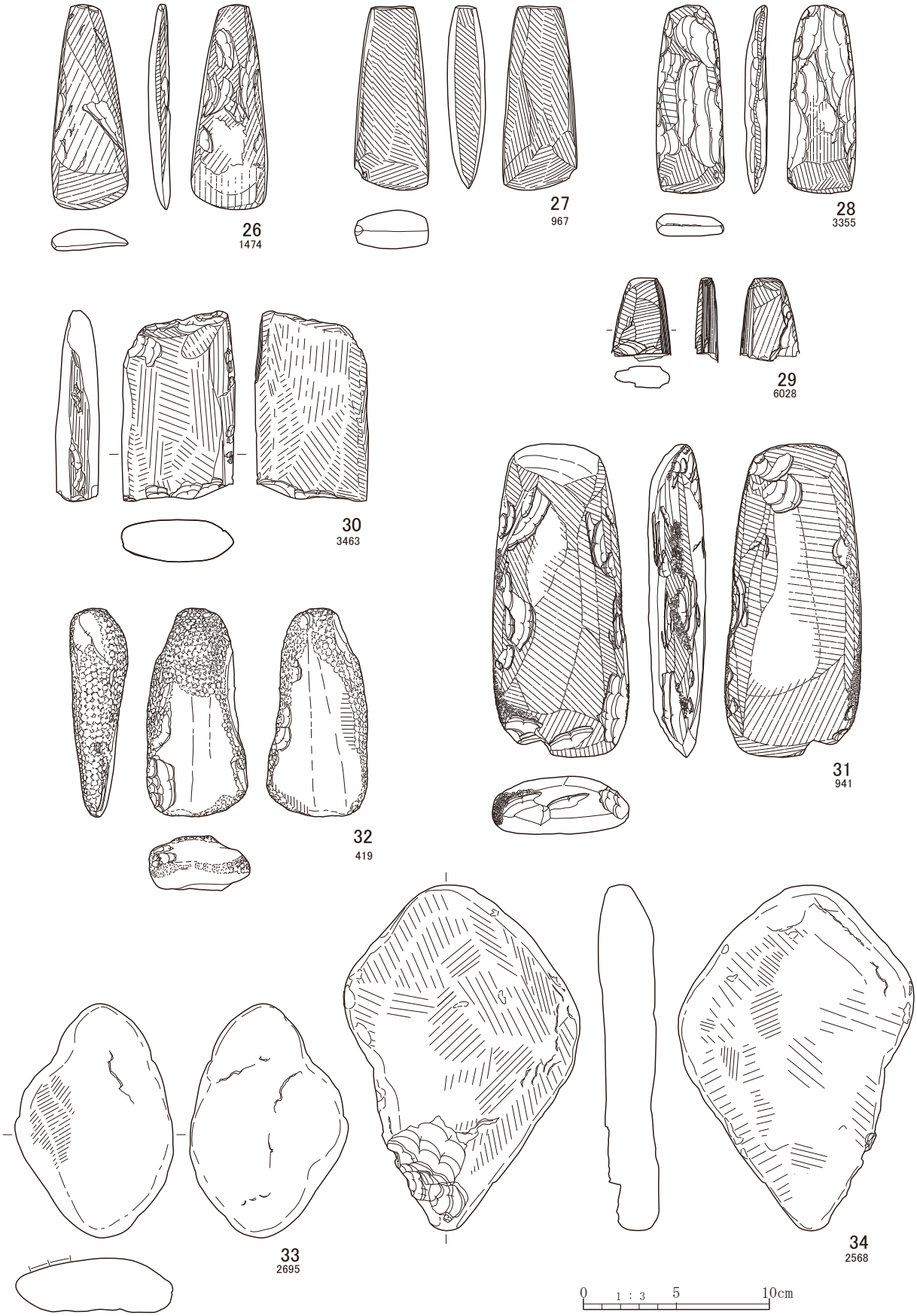
59 は石鋸。素材の下端を尖らせ、下端は丸く、右端は細くすり面が残る。60・61･63 は砥石。60 は手持ち砥石、砥面が窪んでいる。61 は平坦面と稜線上に砥面を作出し、明瞭な稜を残す。63 も窪んだ砥面を残す。

62･64～67 は石皿。62･64 は平坦なすり面が残されているが、65 はやや窪み、66・67 は丸く窪んだすり面が残されている。68～70 は台石。68 は稜線上に、69 は平坦面全面に、70 は平坦面の一部に敲打痕を残す。71・72 は滑択面のある礫。72 は角柱状の、71 は扁平な礫を素材としている。73・74 は線状痕のある礫。73 は平坦面にやや粗い線状痕が、74 は礫の角部に細かな線状痕が残されている。75～77 は加工痕のある礫。いずれも側縁に剥離痕が見られる。

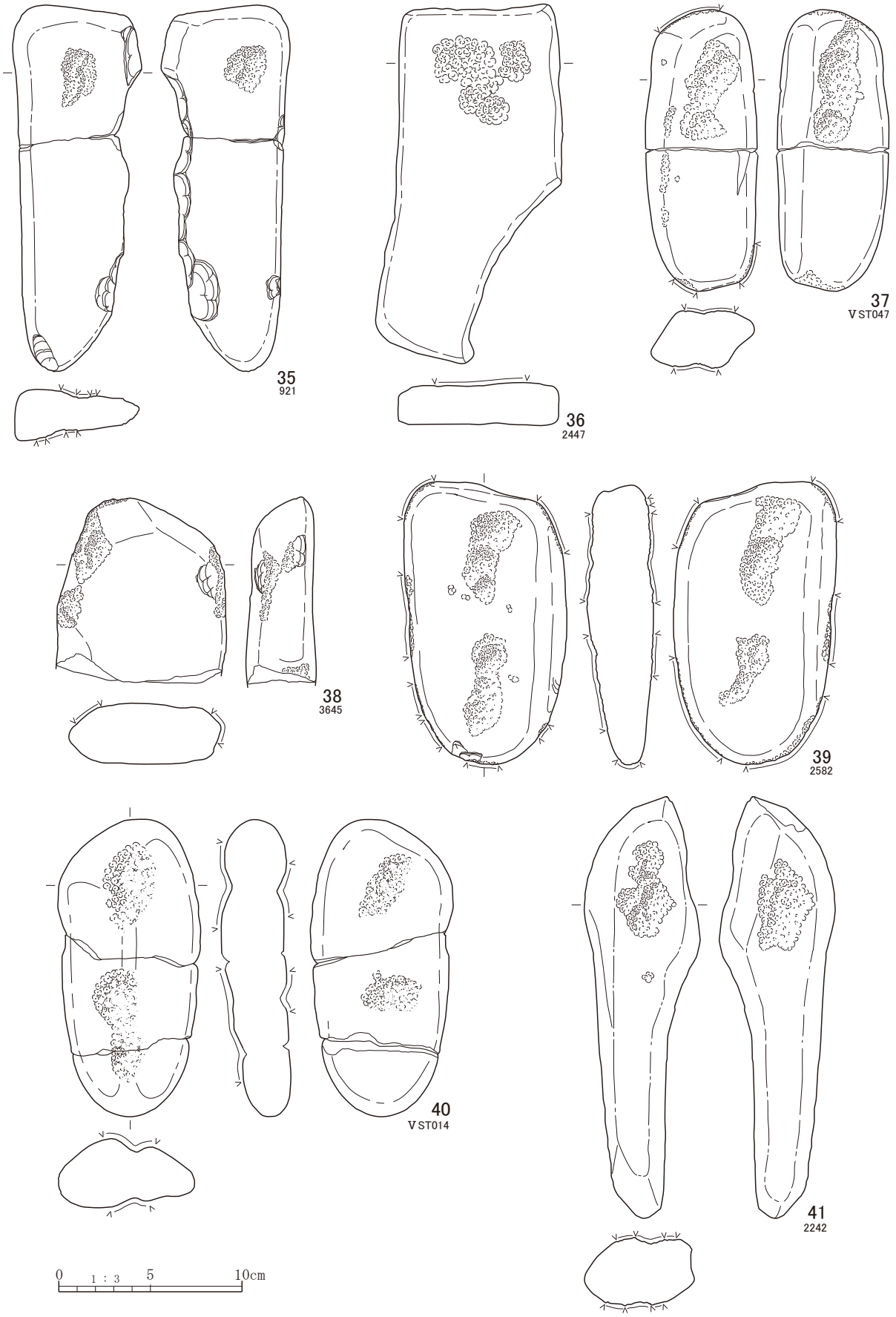
78～80 は凝灰質砂岩製の石製品。78 は平面形が紡錘形をなし、扁平な礫の図示した正面を中心に磨かれ、研磨によって稜が作られている。裏面には研磨痕が見られない。79 は窪んだ砥面多数で構成された石製品。丸い曲面を持つ、玉類あるいは石斧刃部を研磨する砥石と思われる。図示した裏面に 1 ヵ所、細い砥面と考えられる細い溝状の窪みを残す。80 は三角形に近い平面形をもち、弧状をなす面以外はやや窪んだ研磨面を残す。（松井・宮塚）



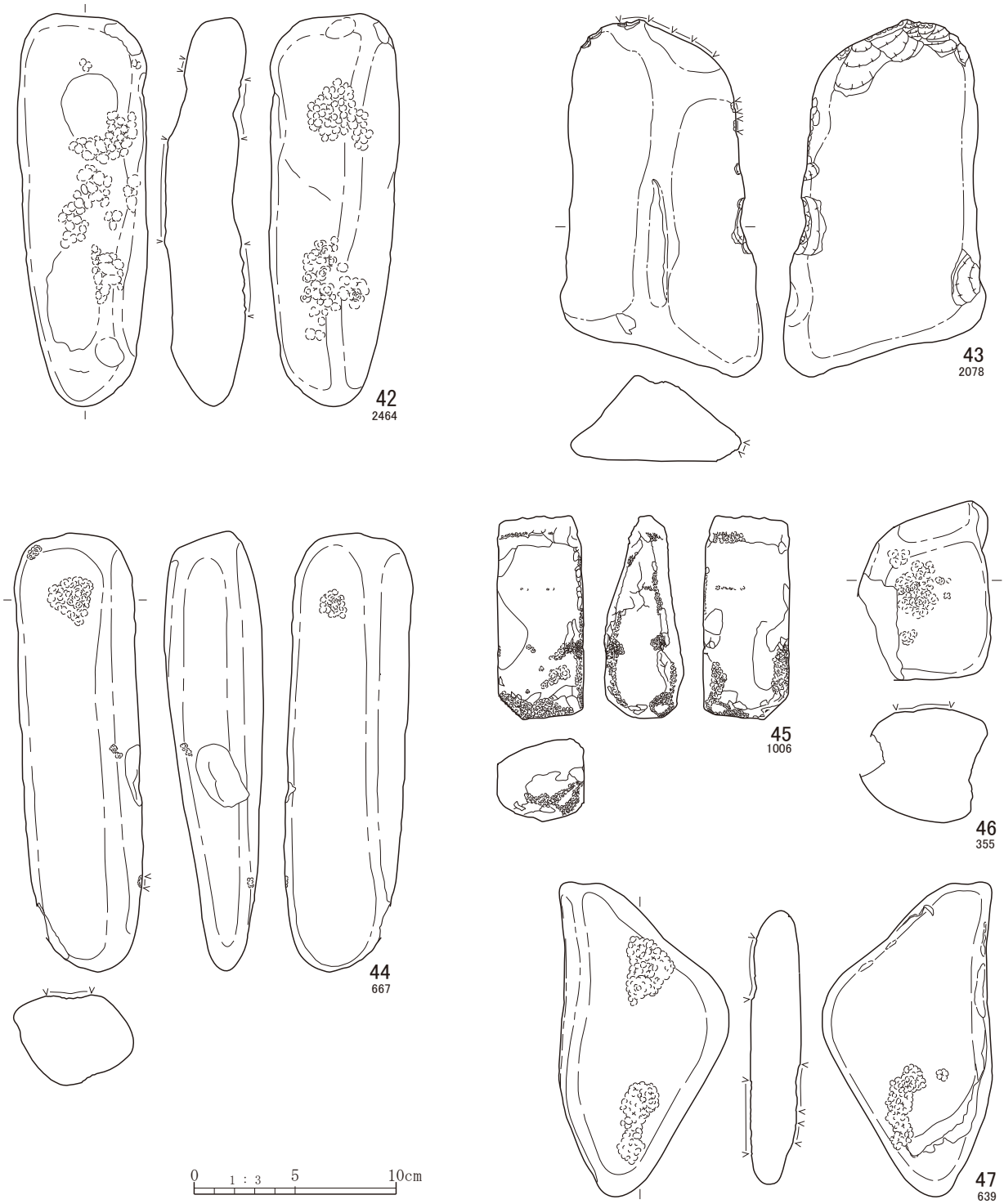

図Ⅲ-43　縄文時代包含層出土石器（1）




図Ⅲ-44 縄文時代包含層出土石器（2）

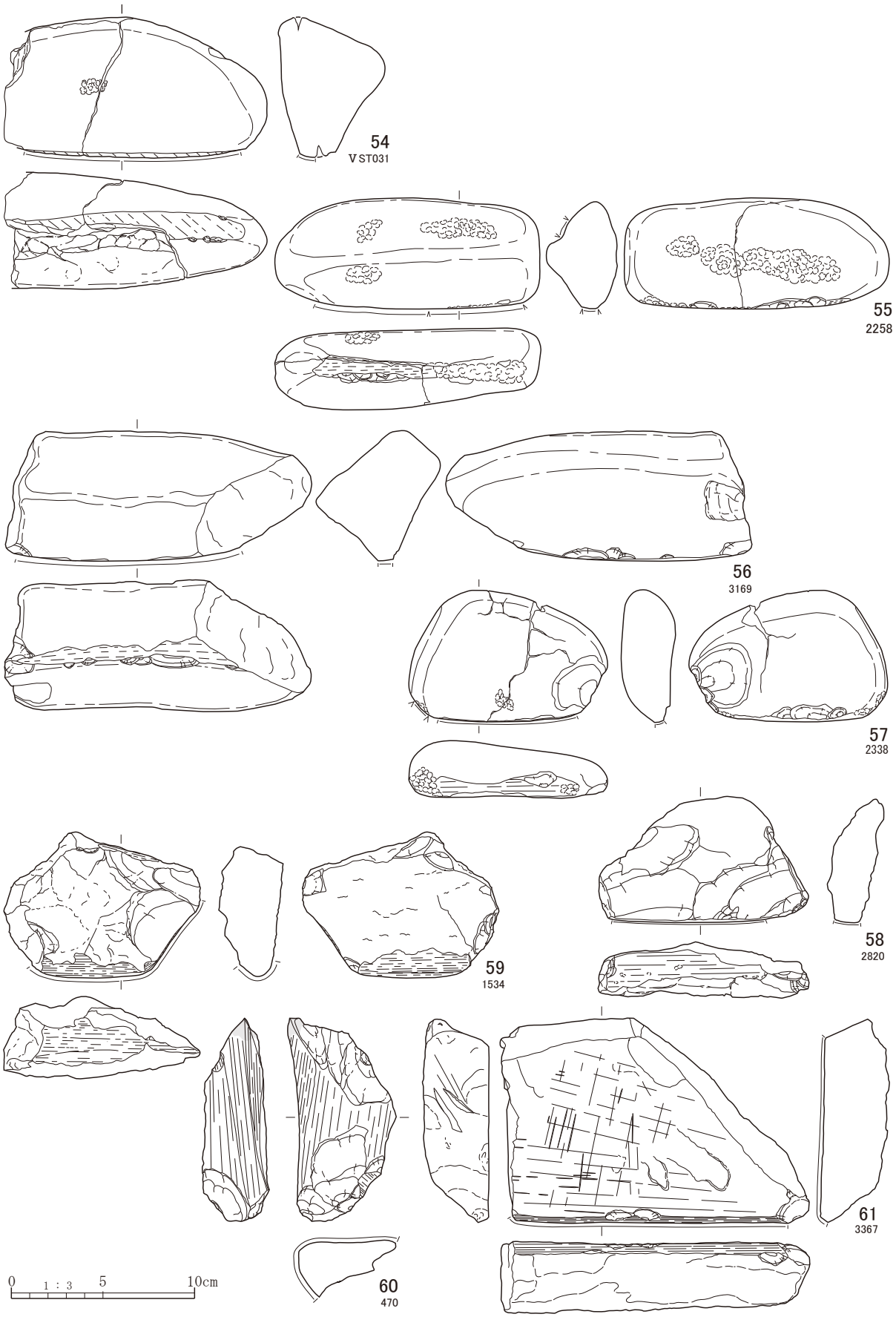



図Ⅲ-45　縄文時代包含層出土石器（3）




図Ⅲ-46 縄文時代包含層出土石器(4)

図Ⅲ-47　縄文時代包含層出土石器(5)

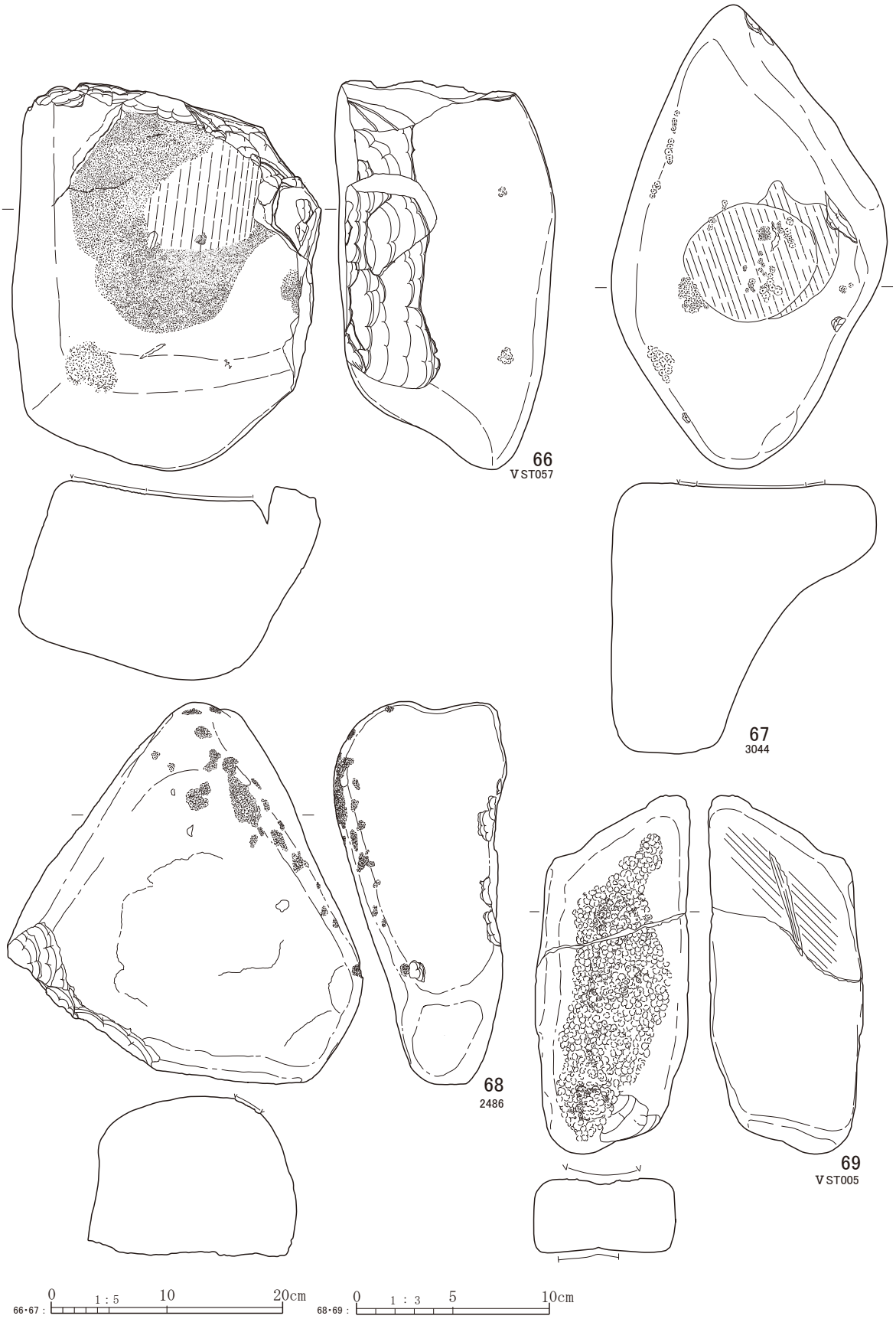



図Ⅲ-48　縄文時代包含層出土石器（6）

62・63：0　1：3　5　10cm

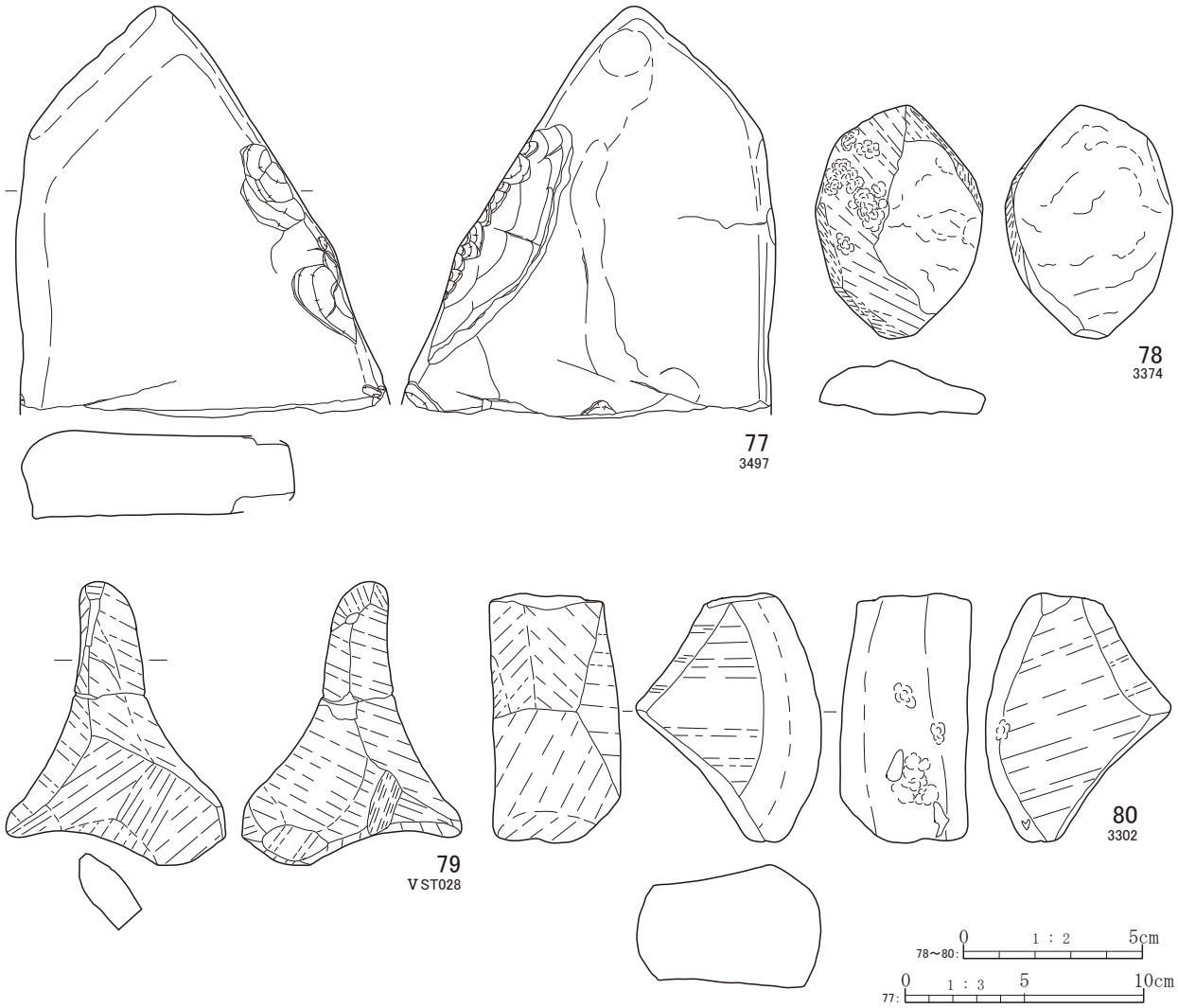
64・65：0　1：5　10　20cm

図Ⅲ-49 縄文時代包含層出土石器（7）




図Ⅲ-50　縄文時代包含層出土石器（8）

図Ⅲ-51　縄文時代包含層出土石器（9）




図Ⅲ-52 縄文時代包含層出土石器(10)

## 表Ⅲ-12 縄文時代包含層出土石器属性表

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 層位 | 遺構/グリッド | 規模(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-43-1 | 46-1 | - | 4684 | ポイント | A1 | Va | AC-19-1 | 21.8 | 11.4 | 2.7 | 0.4 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-2 | 46-2 | - | 635 | ポイント | A1 | Va | AB-21 | 25.7 | 9.5 | 2.8 | 0.5 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-3 | 46-3 | - | 3041 | ポイント | A2a | VbL | Z-20 | 19.1 | 13.8 | 2.5 | 0.6 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-4 | 46-4 | - | 2666 | ポイント | A2b | Ⅵ | AC-19 | 27.2 | 16.1 | 3.8 | 1.5 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-5 | 46-5 | - | 1522 | ポイント | A3a | VbU | S-19 | 22.3 | 14.7 | 3.7 | 0.6 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-6 | 46-6 | - | 477 | ポイント | A4 | VbU | AA-20 | 32.4 | 12.4 | 6.0 | 1.9 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-7 | 46-7 | - | 3501 | ポイント | A4 | VbU | X-19 | 39.1 | 18.7 | 5.3 | 2.3 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-8 | 46-8 | - | 2111 | ポイント | B2 | Va | AA-18 | 47.7 | 22.0 | 6.2 | 4.7 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-9 | 46-9 | - | 3050 | ポイント | B2 | VbU | AA-18 | 48.9 | 21.3 | 5.7 | 4.5 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-10 | 46-10 | - | 34 | 石錐 | A | VbU | S-20 | 30.3 | 18.1 | 6.1 | 2.8 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-11 | 46-11 | - | 351 | 石錐 | D | VbU | AB-19 | 43.7 | 11.8 | 6.0 | 2.7 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-12 | 46-12 | - | 1864 | ナイフ・スクレイパー類 | A2 | VbM | AC-19 | 63.8 | 30.7 | 6.9 | 13.7 | Si. | 完・松原型 |
| Ⅲ-43-13 | 46-13 | - | 651 | ナイフ・スクレイパー類 | A2 | VbM | Z-21 | 42.5 | 12.8 | 9.0 | 2.7 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-14 | 46-14 | - | 1224 | ナイフ・スクレイパー類 | A3 | VbM | Z-19 | 59.0 | 26.6 | 7.4 | 10.6 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-15 | 46-15 | - | 445 | ナイフ・スクレイパー類 | B1 | VbU | AC-19 | 66.0 | 45.2 | 19.0 | 47.3 | Obs. | 完・岩屑面有 |
| Ⅲ-43-16 | 46-16 | - | 3523 | ナイフ・スクレイパー類 | C1a | VbM | AB-21 | 44.3 | 29.7 | 8.2 | 11.9 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-17 | 46-17 | - | 2339 | ナイフ・スクレイパー類 | C1b | VbL | AC-16 | 71.5 | 36.0 | 10.6 | 22.9 | Obs. | 完・岩屑面有 |
| Ⅲ-43-18 | 46-18 | - | 2115 | ナイフ・スクレイパー類 | C2b | VbL | AA-21 | 42.0 | 27.0 | 8.3 | 8.7 | Obs. | 完・岩屑面有 |
| Ⅲ-43-19 | 46-19 | - | 1862 | ナイフ・スクレイパー類 | C3 | VbM | AC-19 | 27.9 | 22.8 | 6.9 | 4.8 | Obs. | 完・転礫面有 |
| Ⅲ-43-20 | 46-20 | - | 1863 | ナイフ・スクレイパー類 | C3 | VbM | AC-19 | 32.2 | 17.3 | 7.0 | 2.9 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-21 | 46-21 | - | 347 | ポイント | B3 | VbU | X-18 | 87.1 | 34.7 | 12.0 | 27.8 | Obs. | 完・稜傷痕ややあり・未成品 |
| Ⅲ-43-22 | 46-22 | - | 3013 | 両面調整石器 | - | VbU | X-18 | 76.2 | 39.6 | 8.1 | 29.3 | Obs. | 完・岩屑面有 原産地分析 |
| Ⅲ-43-23 | 46-23 | - | 2587 | U.F | - | Vc | AB-21 | 35.5 | 19.8 | 9.1 | 5.6 | Obs. | 完・アバタ状転礫面・原産地分析 |
| Ⅲ-43-24 | 46-24 | - | 3524 | ピエス・エスキーユ | - | VbM | AB-21 | 38.7 | 20.9 | 8.4 | 5.5 | Obs. | 完 |
| Ⅲ-43-25 | 46-25 | VFT 001 | 5<br>8 | 石核 | - | VbU | Z-20 | 67.0 | 30.7 | 14.2 | 41.2 | Qu. | 完 |
| Ⅲ-44-26 | 47-26 | - | 1474 | 石斧 | A2 | VbL | AD-21 | 109.8 | 40.2 | 11.3 | 72.5 | Gr-Mud. | 完 |
| Ⅲ-44-27 | 47-27 | - | 967 | 石斧 | A2 | VbM | AB-18 | 98.2 | 39.8 | 20.3 | 137.5 | Gr-Mud. | 完 |
| Ⅲ-44-28 | 47-28 | - | 3355 | 石斧 | A2 | Vc | X-18 | 101.2 | 35.9 | 12.1 | 78.0 | Bl-Sch. | 完 |
| Ⅲ-44-29 | 47-29 | - | 6028 | 石斧 | A1 | VbU | S-19 | (44.4) | (31.2) | (11.9) | (27.1) | Gr-Mud. | 欠 |
| Ⅲ-44-30 | 47-30 | | 3463 | 石斧 | A2 | VbM | X-19 | (102.4) | 60.7 | 23.8 | (250.0) | Ser. | 欠 |
| Ⅲ-44-31 | 47-31 | - | 941 | 石斧 | A2 | VbU | AC-20 | 168.0 | 72.1 | 29.8 | 665.0 | Gr-Mud. | 完 |
| Ⅲ-44-32 | 47-32 | - | 419 | 石斧 | B1 | VbU | AB-16 | 111.4 | 52.8 | 30.8 | 255.0 | Gr-Mud. | 完 |
| Ⅲ-44-33 | 47-33 | - | 2695 | 石斧 | B3 | Ⅵ | AC-18 | 125.8 | 83.4 | 29.6 | 390.0 | Ser. | 完 |
| Ⅲ-44-34 | 47-34 | - | 2568 | 石斧 | B3 | VbU | AC-20 | 163.0 | 128.4 | 32.3 | 851.0 | Ser. | 完 |
| Ⅲ-45-35 | 47-35 | - | 921 | たたき石 | ⅠA1 | VbU | AD-21 | 200.0 | 70.1 | 33.0 | 477.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-45-36 | 47-36 | - | 2447 | たたき石 | ⅠA1 | Vc | Z-21 | 198.0 | 89.8 | 24.8 | 680.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-45-37 | 47-37 | VST 047 | 3466<br>3530 | たたき石 | ⅠA1 | VbM<br>VbL | Z-19<br>AA-18 | 151.3 | 58.1 | 31.4 | 353.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-45-38 | 47-38 | - | 3645 | たたき石 | ⅠA2 | Ⅵ | AE-22 | (98.4) | 93.5 | 38.2 | (475.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-45-39 | 47-39 | - | 2582 | たたき石 | ⅠA3 | VbM | AB-21 | 154.0 | 86.8 | 37.6 | 694.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-45-40 | 47-40 | VST 014 | 371<br>652<br>3047 | たたき石 | ⅠA3 | VbU<br>Va<br>VbM | Y-20<br>Z-21<br>Z-19 | 160.5 | 73.5 | 37.4 | 525.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-45-41 | 47-41 | - | 2242 | たたき石 | ⅠB1 | VbU | AB-20 | 229.0 | 62.2 | 48.6 | 685.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-46-42 | 48-42 | - | 2464 | たたき石 | ⅠB1 | VbU | AA-19 | 195.0 | 61.3 | 39.9 | 620.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-46-43 | 48-43 | - | 2078 | たたき石 | ⅠB2 | VbL | AD-22 | 177.0 | 100.3 | 53.0 | 842.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-46-44 | 48-44 | - | 667 | たたき石 | ⅠB3 | VbM | Z-20 | 215.0 | 52.3 | 48.4 | 797.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-46-45 | 48-45 | - | 1006 | たたき石 | ⅠB3 | VbL | AB-18 | 98.6 | 45.1 | 38.0 | 280.0 | Gr-Mud. | 完 |
| Ⅲ-46-46 | 48-46 | - | 355 | たたき石 | ⅡA1 | Va | AA-19 | 87.0 | (70.2) | 55.3 | (345.0) | Sa. | 略完 |

## 表Ⅲ-12 縄文時代包含層出土石器属性表(続き)

| 挿図番号 | 図版番号 | 個体名称 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 層位 | 遺構/グリッド | 規模(mm) 長軸 | 短軸 | 厚さ | 重量(g) | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ-46-47 | 48-47 | - | 639 | たたき石 | ⅡA2 | VbM | Z-21 | 157.0 | 82.0 | 25.3 | 402.5 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-47-48 | 48-48 | - | 2503 | たたき石 | ⅡA3 | VbL | AC-21 | 119.1 | 104.6 | 34.2 | 528.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-47-49 | 48-49 | - | 2728 | たたき石 | ⅡB1 | Vc | Y-21 | 118.2 | (99.1) | 41.0 | (750.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-47-50 | 48-50 | - | 2599 | たたき石 | ⅡB2 | VbL | AB-19 | 162.0 | 94.9 | 64.0 | 1,420.0 | Che. | 完・黒色付着物 |
| Ⅲ-47-51 | 48-51 | - | 1487 | たたき石 | ⅢA | VbM | S-20 | 85.4 | 66.4 | 37.4 | 235.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-47-52 | 48-52 | VST 048 | 2332<br>2334 | たたき石 | Ⅳ | VbL | AD-17 | 154.0 | 79.1 | 33.7 | 465.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-47-53 | 48-53 | - | 648 | たたき石 | Ⅳ | VbM | Z-21 | 141.0 | 108.0 | 30.0 | 550.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-54 | 48-54 | VST 031 | 2663<br>2656 | すり石 | A | VbL | AC-18 | (142.0) | 70.0 | (68.0) | (695.0) | Sa. | 欠・たたき石併用 |
| Ⅲ-48-55 | 48-55 | - | 2258 | すり石 | A | Vc | AC-19 | 145.0 | 60.0 | 40.0 | 430.0 | Sa. | 完・たたき石併用 |
| Ⅲ-48-56 | 48-56 | - | 3169 | すり石 | B | VbL | U-19 | 166.5 | 68.0 | 57.0 | 820.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-57 | 48-57 | - | 2338 | すり石 | C2 | VbL | AC-16 | 106.2 | 70.4 | 30.6 | 280.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-58 | 48-58 | - | 2820 | すり石 | E | VbU | W-18 | 114.0 | 68.0 | 31.5 | 195.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-59 | 48-59 | - | 1534 | 石鋸 | - | VbU | V-19 | 107.7 | 84.0 | 41.0 | 320.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-60 | 48-60 | - | 470 | 砥石 | - | VbU | AC-17 | 112.0 | 54.0 | 38.0 | 179.3 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-48-61 | 48-61 | - | 3367 | 砥石 | - | VbM | W-19 | 165.0 | 111.5 | 37.5 | 815.0 | Sa. | 完　側面使用 |
| Ⅲ-49-62 | 49-62 | VST 021 | 2631<br>2456<br>2457 | 石皿 | - | VbM<br>VbU<br>VbU | AA-20 | 216.0 | (199.0) | (53.0) | (2,350.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-49-63 | 49-63 | - | 569 | 砥石 | - | Va | AB-20 | (125.0) | (79.0) | 38.0 | (350.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-49-64 | 49-64 | VST 054 | 3558<br>3611 | 石皿 | - | Ⅵ<br>VbL | X-20<br>X-19 | (265.0) | (167.0) | (36.0) | (1,300.0) | Sa. | 略完 |
| Ⅲ-49-65 | 49-65 | - | 3022 | 石皿 | - | Vc | Y-19 | 403.0 | 294.0 | 236.0 | 32,200.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-50-66 | 49-66 | VST 057 | 3003<br>3515 | 石皿 | - | VbL<br>Vc | Z-18<br>Z-17 | 330.0 | 241.0 | 183.0 | 21,400.0 | Sa. | 完・打ち欠きあり |
| Ⅲ-50-67 | 49-67 | - | 3044 | 石皿 | - | VbM | Z-18 | 350.0 | 220.0 | 201.0 | 18,000.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-50-68 | 49-68 | - | 2486 | 台石 | - | VbU | AA-16 | 318.0 | 315.0 | 156.0 | 14,600.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-50-69 | 49-69 | VST 005 | 3018<br>159 | 台石 | - | VbU<br>Ⅲc | W-18<br>V-18 | 186.0 | 78.6 | 41.3 | 960.0 | Con. | 完 |
| Ⅲ-51-70 | 50-70 | - | 3233 | 台石 | - | VbL | AE-20 | 184.0 | 138.5 | 34.5 | 1,273.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-51-71 | 50-71 | - | 1664 | 滑沢面のある礫 | - | VbM | AA-21 | 118.4 | 65.4 | 10.8 | 112.5 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-51-72 | 50-72 | - | 1112 | 滑沢面のある礫 | - | VbL | AE-21 | 230.0 | 104.6 | 72.1 | 3,050.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-51-73 | 50-73 | - | 2594 | 線条痕のある礫 | - | VbM | AB-20 | 262.0 | 173.0 | 95.3 | 4,150.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-51-74 | 50-74 | VST 050 | 405<br>1232 | 線条痕のある礫 | - | VbU | Y-18<br>Z-17 | 80.0 | 55.0 | 33.0 | 135.0 | Mud. | 完 |
| Ⅲ-51-75 | 50-75 | - | 1267 | 加工痕のある礫 | - | VbM | W-17 | 159.0 | 79.5 | 22.3 | 280.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-51-76 | 50-76 | - | 3350 | 加工痕のある礫 | - | VbU | X-17 | 174.0 | 56.1 | 25.1 | 370.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-52-77 | 50-77 | - | 3497 | 加工痕のある礫 | - | Vc | W-16 | (190.0) | 145.3 | 36.1 | (1,175.0) | Sa. | 欠 |
| Ⅲ-52-78 | 50-78 | - | 3374 | 紡錘形石製品 | - | VbL | W-19 | 65.9 | 46.5 | 15.9 | 35.0 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-52-79 | 50-79 | VST 028 | 876<br>883 | 石製品 | - | VbU | AD-22 | 74.0 | 59.6 | 25.6 | 65.7 | Sa. | 完 |
| Ⅲ-52-80 | 50-80 | - | 3302 | 石製品 | - | Vc | Y-19 | 68.6 | 51.1 | 36.3 | 132.0 | Sa. | 完 |

# 第Ⅳ章　自然科学分析

## 第１節　一里沢遺跡出土黒曜石原産地分析

（株）第四紀地質研究所

### １．実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子製ＪＳＸ-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（ＦＰ法）による自動定量計算システムが採用されており、６Ｃ～９２Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源(最大 30ｋV、4mA) の採用で微量試料～最大 290 ㎜φ×80 ㎜Ｈまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では１６試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクＦＰ法でおこなった。ＦＰ法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクＦＰ法（スタンダードレス方式)、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Ｒｈ、加速電圧＝30ｋV、管電流＝自動制御、分析時間＝200 秒（有効分析時間）である。

分析対象元素は Si，Ti，Al，Fe，Mn，Mg，Ca，Na，K，　P，　Rb，Sr，Y，Zr の 14 元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を 100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素の Rb，Sr，Y，Zr は重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）で $SiO_2$-$Al_2O_3$,$Fe_2O_3$-$TiO_2$,$K_2O$-CaO の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の４組の組み合わせで図を作成した。

### ２．分析結果

第１表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。第２表には原産地対比が記載してある。

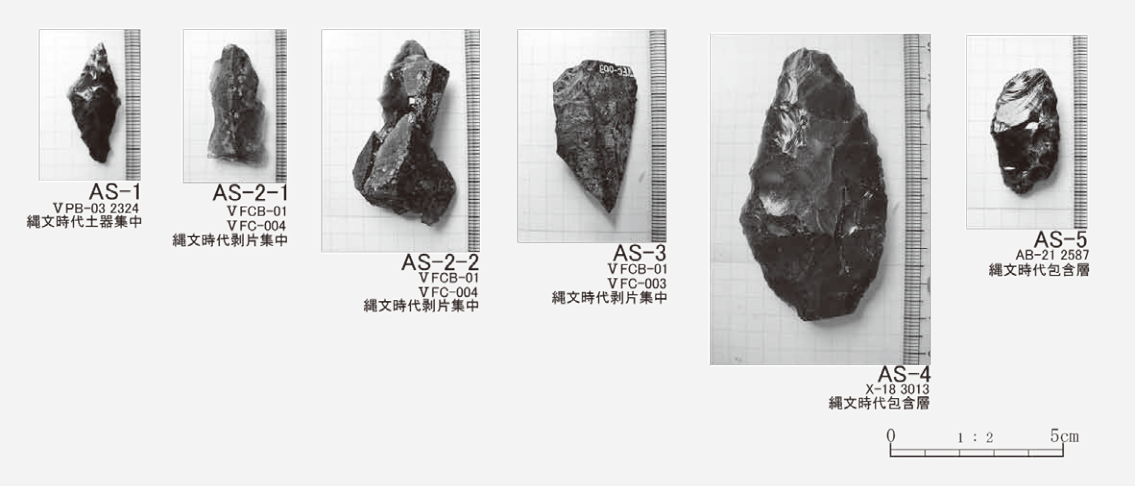
一里沢遺跡のＡｓ-１，２－１，２－２，３の４個は赤井川産、Ａｓ-４は所山、Ａｓ-５は名寄周辺である（図版１）。

**第1表　化学分析表**

| 試料名 | Na2O | MgO | Al2O3 | SiO2 | P2O5 | K2O | CaO | TiO2 | MnO | Fe2O3 | Rb2O | SrO | Y2O3 | ZrO2 | Total | Rb(I) | Sr(I) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| AS-1 | 3.8334 | 0.0000 | 12.7238 | 75.9828 | 0.4859 | 4.5518 | 0.7217 | 0.1199 | 0.0641 | 1.4592 | 0.0229 | 0.0055 | 0.0044 | 0.0248 | 100.0002 | 1160 | 272 |
| AS-2-1 | 2.8610 | 0.0000 | 11.9762 | 77.3492 | 0.4333 | 4.8502 | 0.8537 | 0.0934 | 0.0952 | 1.4401 | 0.0195 | 0.0061 | 0.0089 | 0.0133 | 100.0001 | 1053 | 323 |
| AS-2-2 | 3.0598 | 0.0000 | 12.0671 | 77.2449 | 0.3986 | 4.8792 | 0.7944 | 0.1018 | 0.0790 | 1.3269 | 0.0189 | 0.0110 | 0.0088 | 0.0096 | 100.0000 | 1143 | 650 |
| AS-3 | 3.4351 | 0.0000 | 11.6845 | 77.2045 | 0.3643 | 4.8417 | 0.8358 | 0.1122 | 0.0822 | 1.3772 | 0.0218 | 0.0144 | 0.0097 | 0.0166 | 100.0000 | 1230 | 797 |
| AS-4 | 3.4991 | 0.0000 | 12.2262 | 76.9817 | 0.4048 | 4.2664 | 0.9715 | 0.1836 | 0.0514 | 1.3604 | 0.0293 | 0.0055 | 0.0000 | 0.0202 | 100.0001 | 1746 | 320 |
| AS-5 | 3.3060 | 0.0000 | 12.5792 | 76.1831 | 0.4538 | 4.0162 | 1.3328 | 0.1895 | 0.0404 | 1.8445 | 0.0248 | 0.0142 | 0.0000 | 0.0155 | 100.0000 | 1412 | 793 |

第2表　原産地対比表

| 試料名 | 原産地 | 遺跡名 | 推定時期 | 器種 |
|---|---|---|---|---|
| AS-1 | 赤井川 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | ポイント類 |
| AS-2-1 | 赤井川 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | 接合資料 |
| AS-2-2 | 赤井川 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | 接合資料 |
| AS-3 | 赤井川 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | 接合資料 |
| AS-4 | 所山 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | 両面調整石器 |
| AS-5 | 名寄周辺 | 一里沢遺跡 | 縄文時代後期初頭 | ＵＦ |




図版1　黒曜石原産地分析試料

引用文献

井上　巖（2000）東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光Ｘ線分析（ＸＲＦ）
北越考古学、第１１号、23-38/

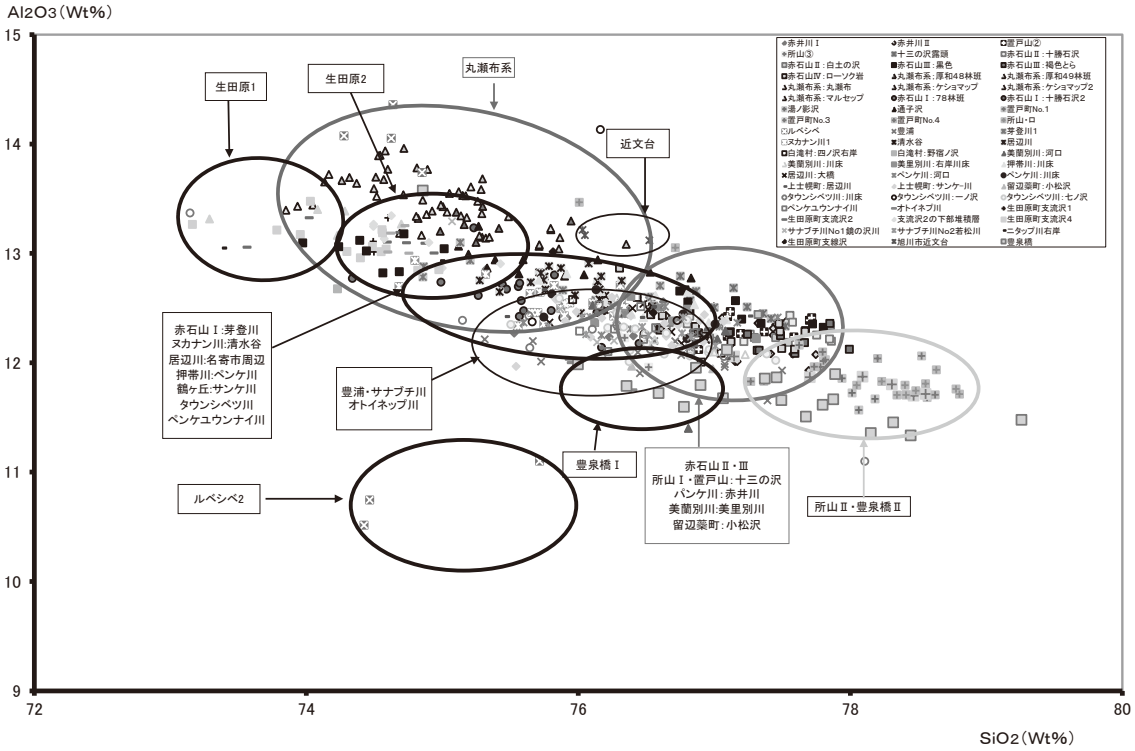
井上　巖（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、
軽石学雑誌、第７号　23-51.

井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編

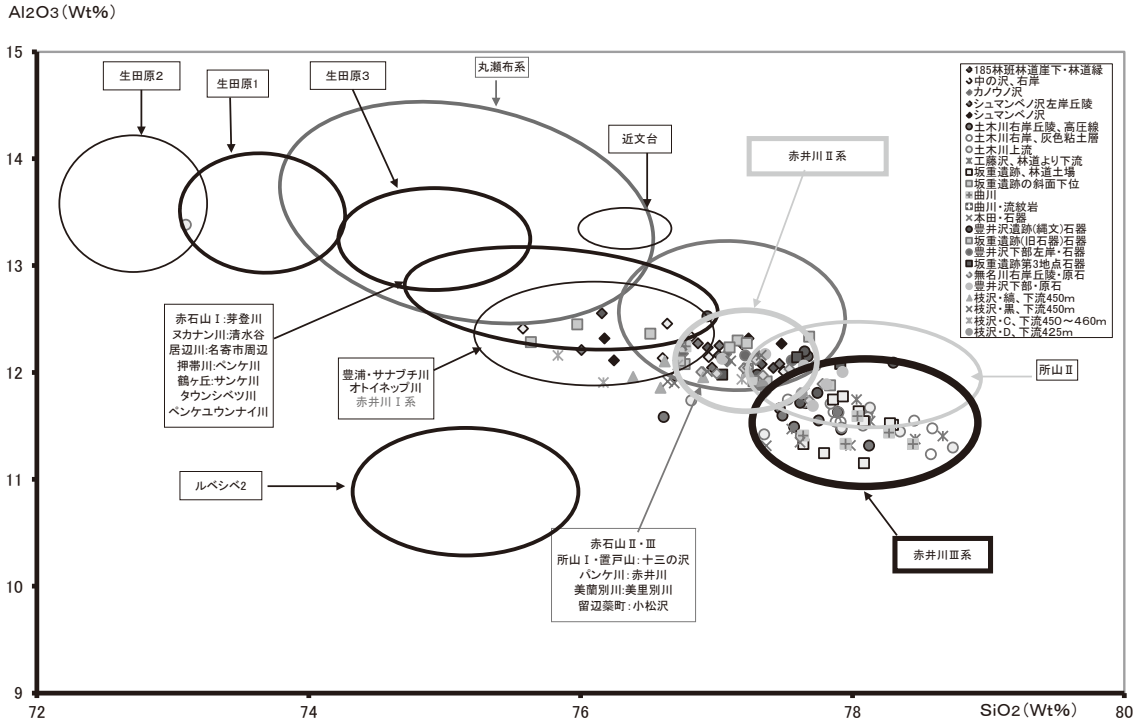
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編

井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　北海道編

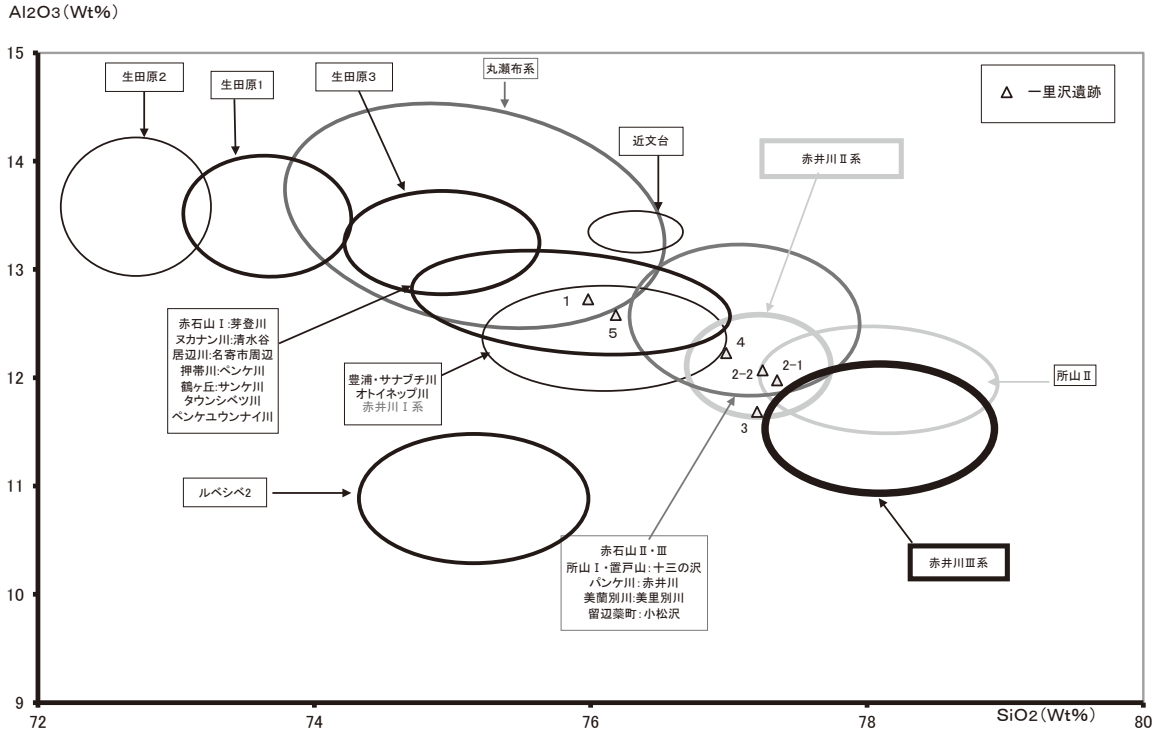
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石写真集



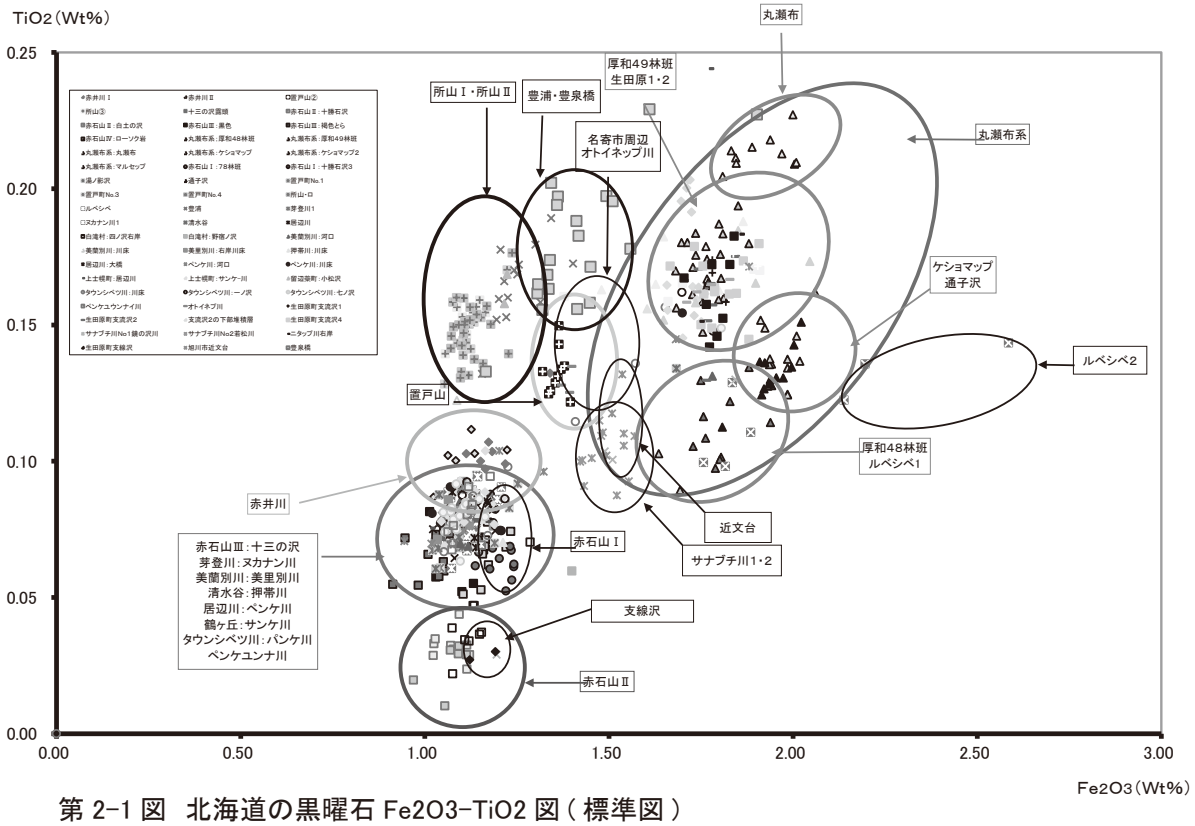

第 1-1 図　北海道の黒曜石 SiO2-AlO3 図（標準図）



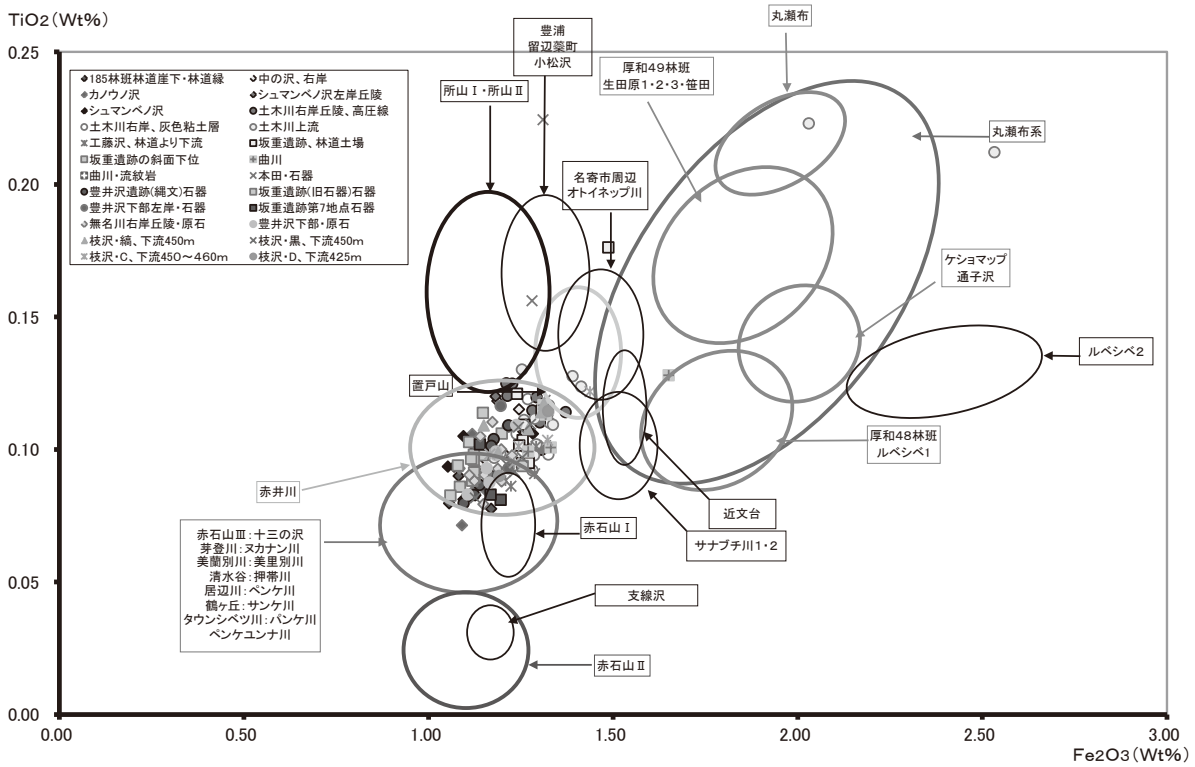

第 1-2 図　赤井川 SiO2-Al2O3 図（標準図）



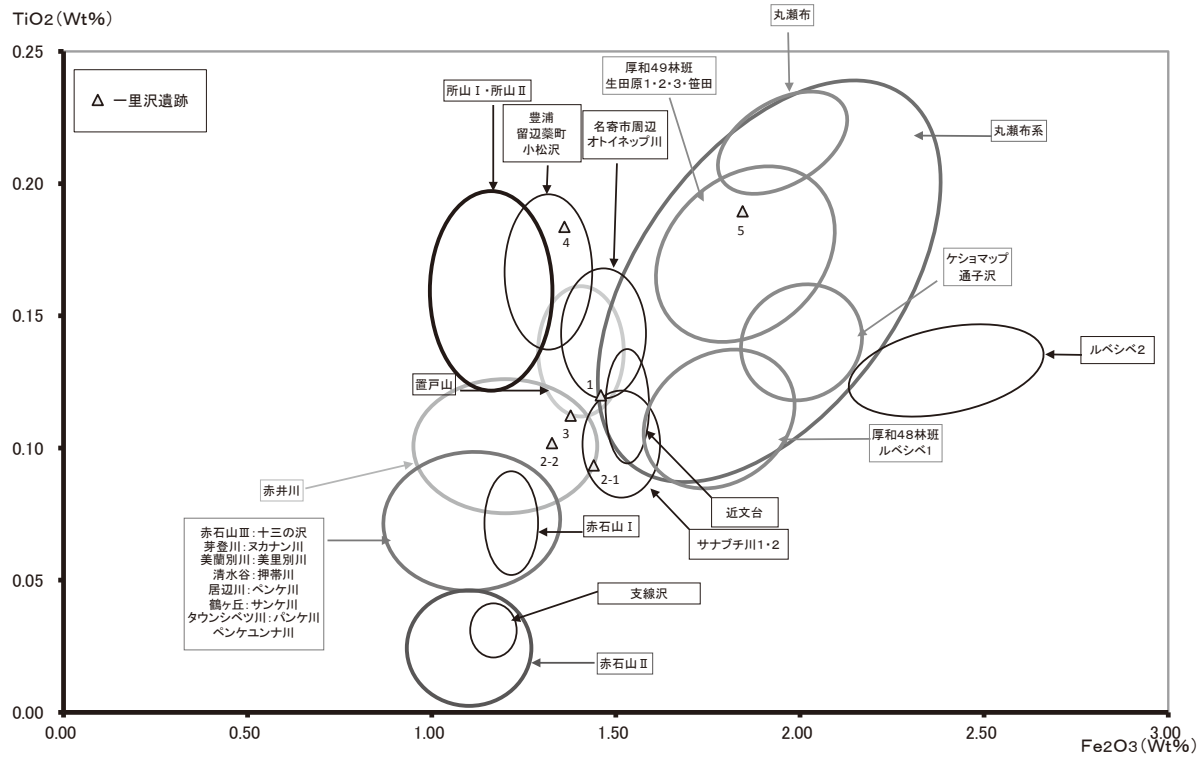

第 1-3 図　SiO2-AlO3 図



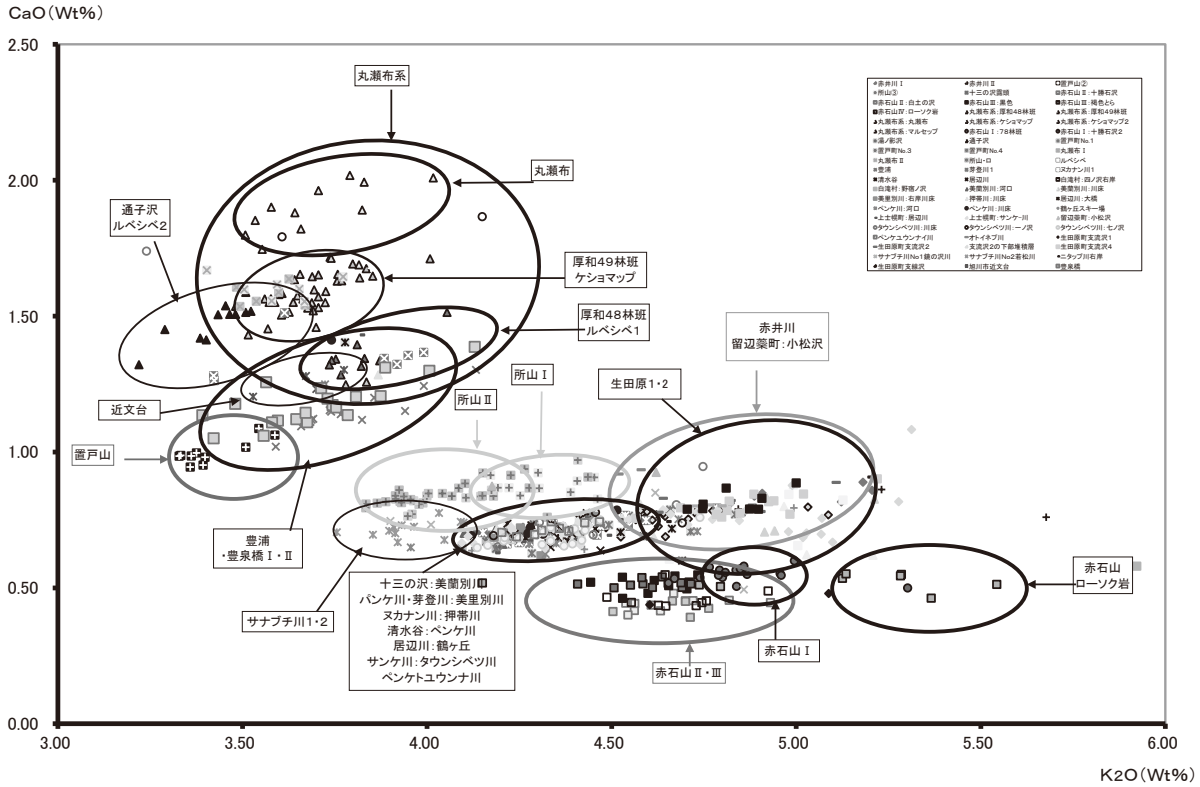

第 2-1 図　北海道の黒曜石 Fe2O3-TiO2 図（標準図）



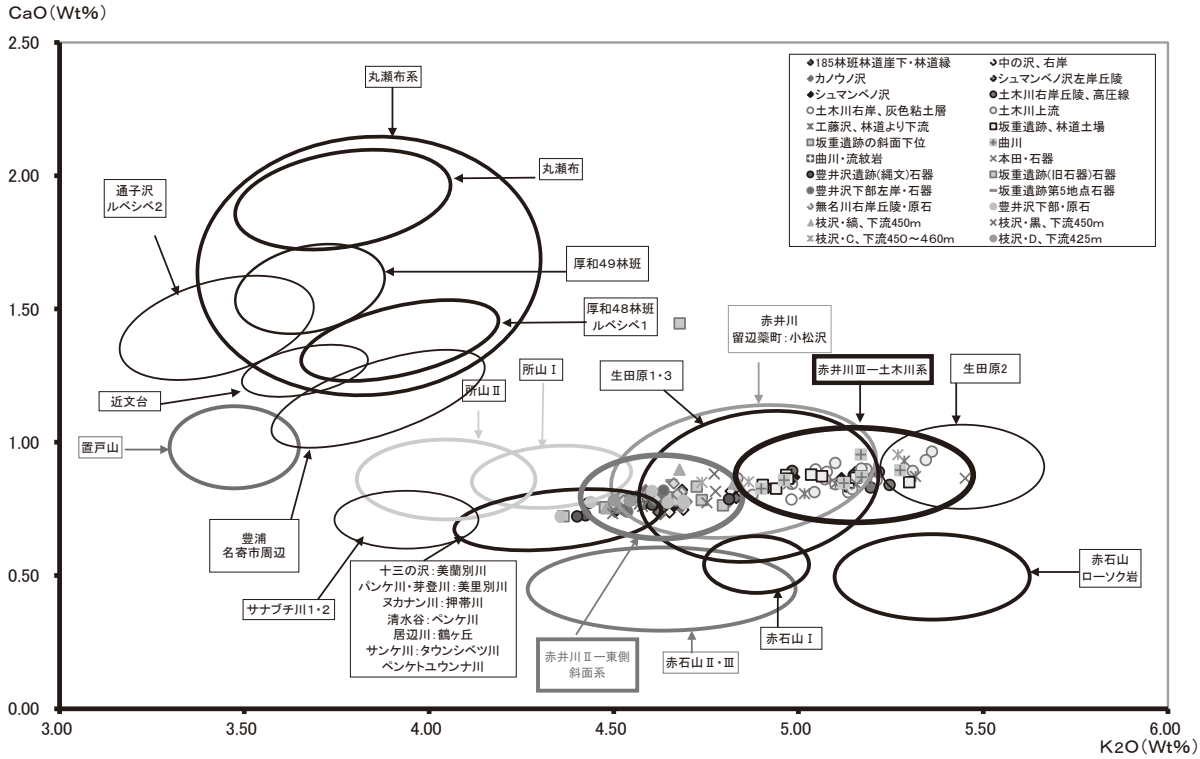

第 2-2 図 赤井川周辺 Fe2O3 図（標準図）



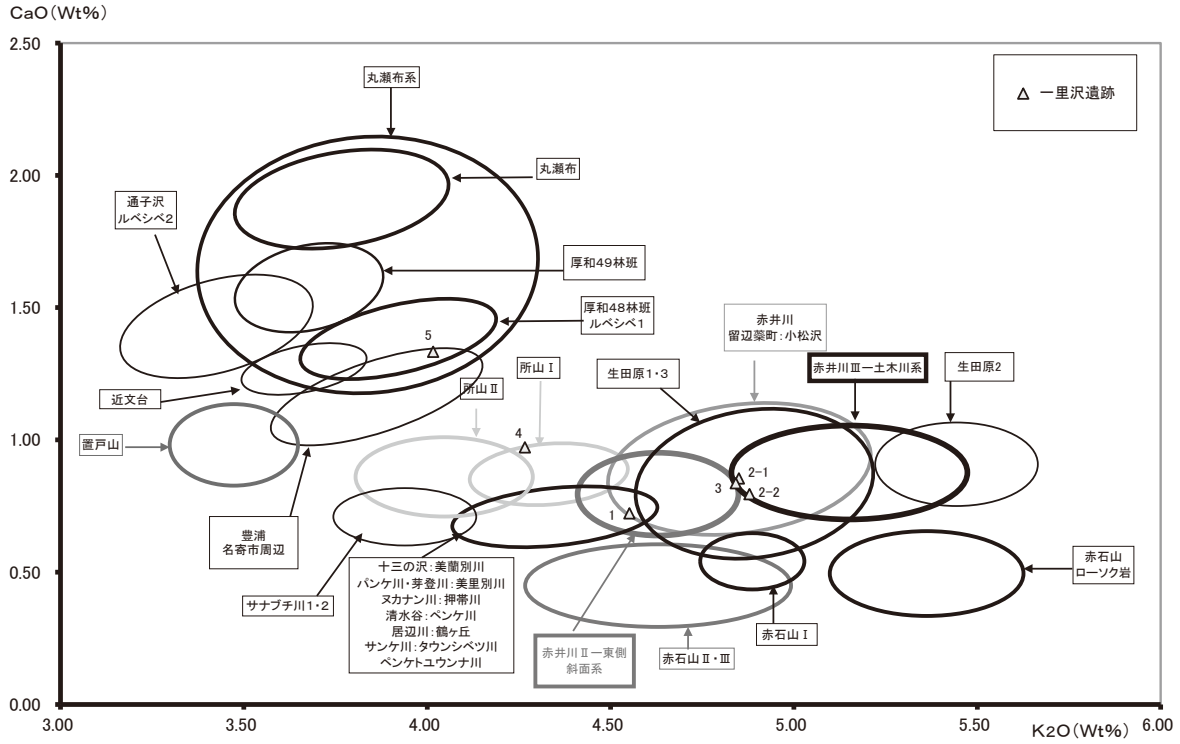

第 2-3 図　Fe2O3-TiO2 図



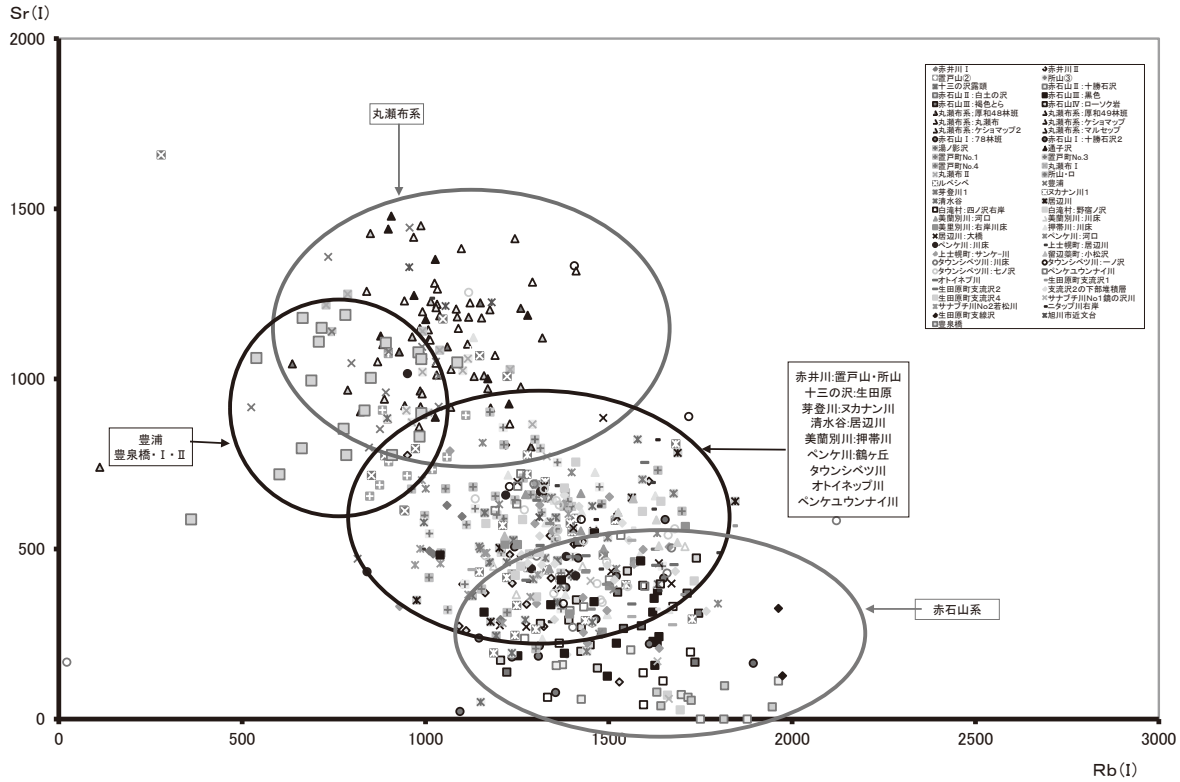

第 3-1 図　北海道地方の黒曜石 K2O-CaO 図（標準図）



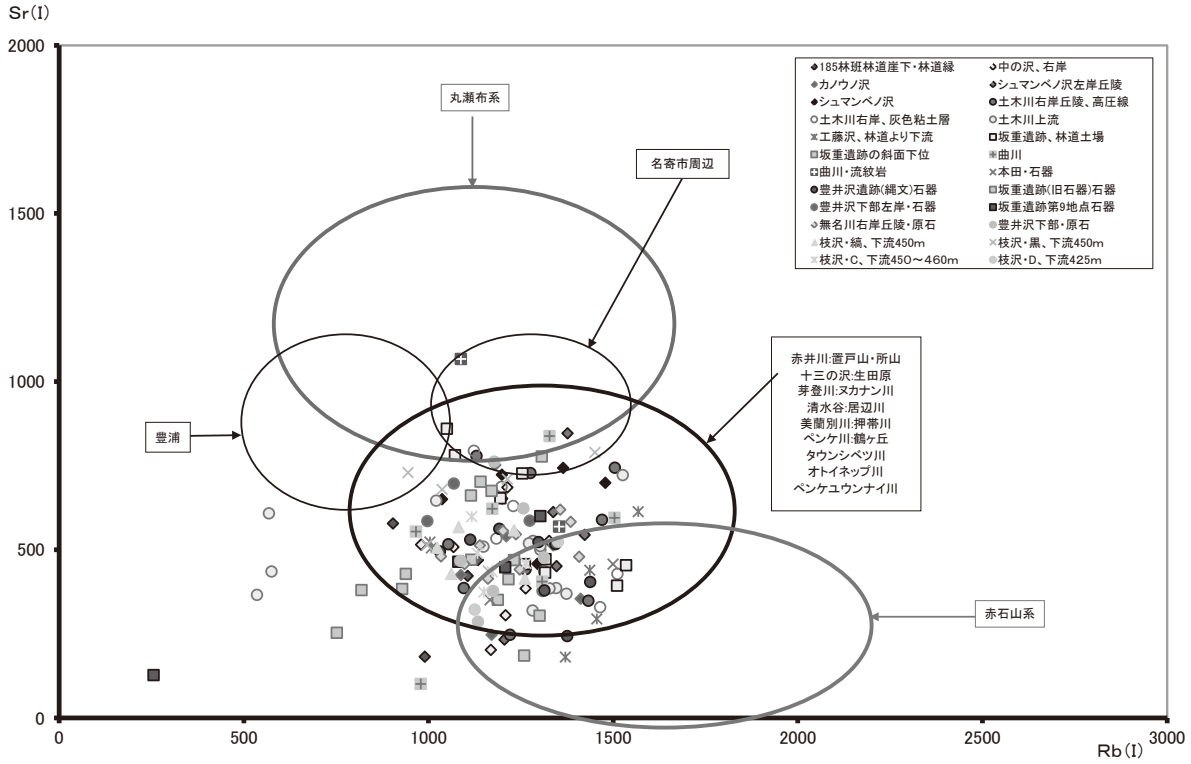

第 3-2 図　赤井川周辺 K2O-CaO 図（標準図）



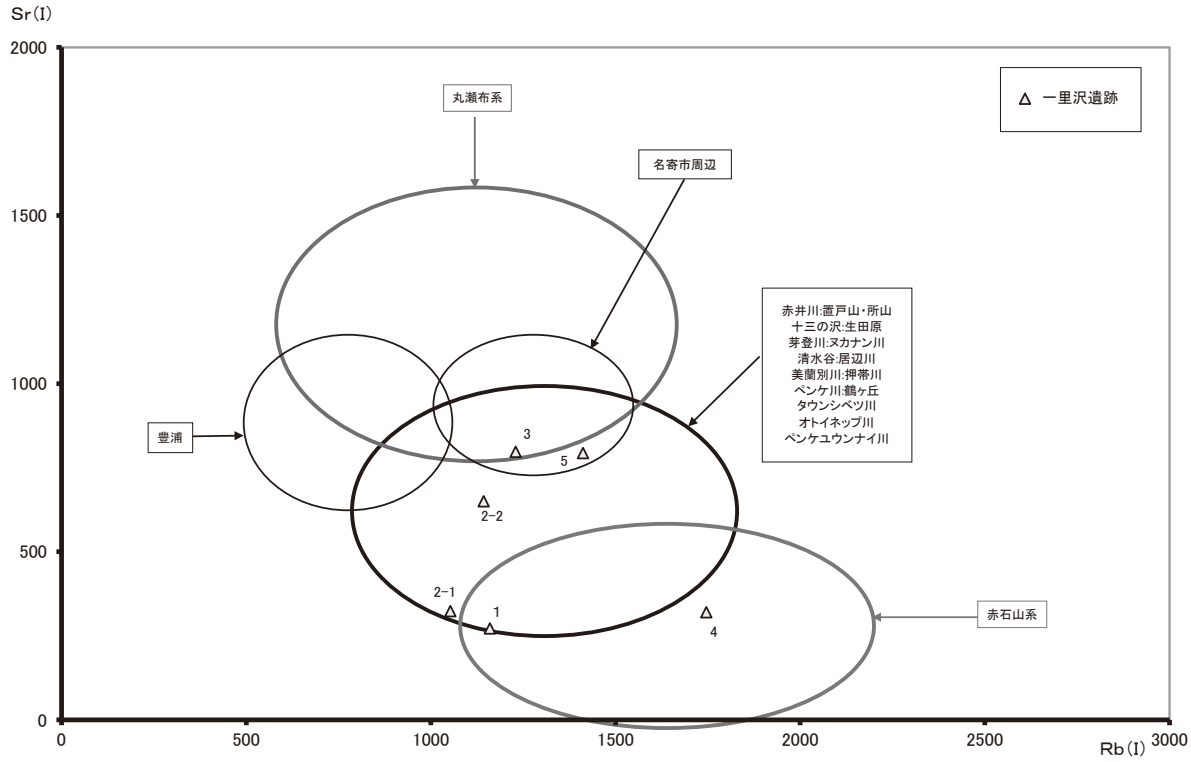

第 3-3 図 K2O-CaO 図




第 4-1 図 北海道地方の黒曜石 Rb-Sr 図（標準図）




第 4-2 図 赤井川周辺 Rb-Sr 図（標準図）




第 4-3 図 Rb-Sr 図

## 第2節　出土木材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

### １．はじめに

厚真川上流域の一里沢川の沢口の河岸段丘上に立地する一里沢遺跡から出土した木材について、樹種同定を行った。

### ２．試料と方法

一里沢遺跡の試料は、縄文時代中期～後期のＴピットである TP-37 の、KP-01、KP-02、KP-03、KP-05、KP-06 から出土した逆茂木が各 1 点の、計 5 点の出土木製品である。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定では、材の横断面（木口：a)、接線断面（板目：b)、放射断面（柾目：c）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

**表1　出土木材の樹種同定結果**

| | 遺跡名 | 一里沢遺跡 | |
|---|---|---|---|
| | 時期 | 縄文時代<br>中期～後期 | |
| 樹種 | 器種 | 逆茂木 | 合計 |
| エゴノキ属 | | 5 | 5 |
| | 合計 | 5 | 5 |

### ３．結果

同定の結果、広葉樹であるエゴノキ属の根材 5 点みられた。同定結果を表 1 に、一覧を表 2 に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1)エゴノキ属　*Styrax*　エゴノキ科　図版 1、2　1a-1c(No.1)、2a-2c(No.2)、3a-3c(No.3)、4a-4c(No.4)、5a-5c(No.5)

中型の道管が単独ないし 2～3 列複合し、やや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は線状となる。道管は 10～20 段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端 1 列が直立する異性で、1～4 列となる。

エゴノキ属は北海道から九州の低山地、原野に分布する、落葉小高木の広葉樹である。材はやや重くて靭性があるが、切削加工などは容易である。

### ４．考察

一里沢遺跡から出土した、縄文時代中期～後期の逆茂木は、いずれもエゴノキ属であった。試料はいずれも片端を尖らせる加工が施されていた。これらはいずれもＴピットである TP-37 から出土しており、狩猟の際の罠として利用されていたと考えられる。エゴノキ属はやや堅硬だが加工性が良いという材質を持つ（平井，1996)。同じ遺構内で出土しており、いずれもエゴノキ属の逆茂木であることから、一本のエゴノキ属を分割して加工し、逆茂木として利用していた可能性がある。

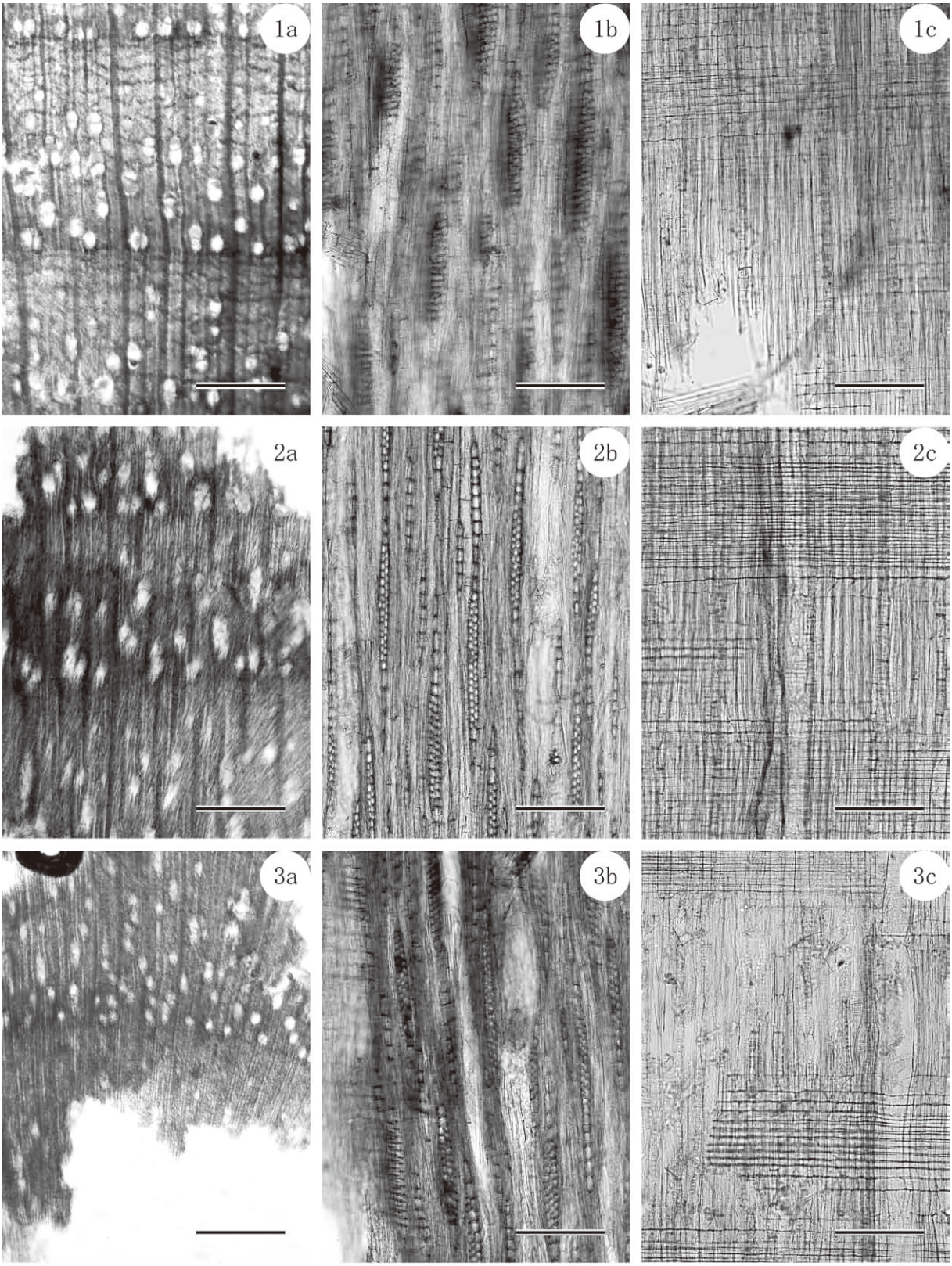
土坑内から出土した逆茂木は、秋田県横手市の富ヶ沢A窯跡の縄文時代の土坑内の逆茂木で樹種同定が行われており、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節と呼ぶ）が5点、トネリコ属が1点みられた（パリノ・サーヴェイ株式会社，1992）。コナラ節とトネリコ属は共に堅硬な樹種である。土坑内の逆茂木では、堅硬な樹種が利用される傾向がみられた。

引用文献

平井信二（1996）木の大百科－解説編－．642p，朝倉書房.
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社.
パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）「火山灰分析・材同定調査」「秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(第二分冊)」: 417-428p，秋田県埋蔵文化財センター編　秋田県教育委員会.

**表2　出土木材の樹種同定結果一覧**

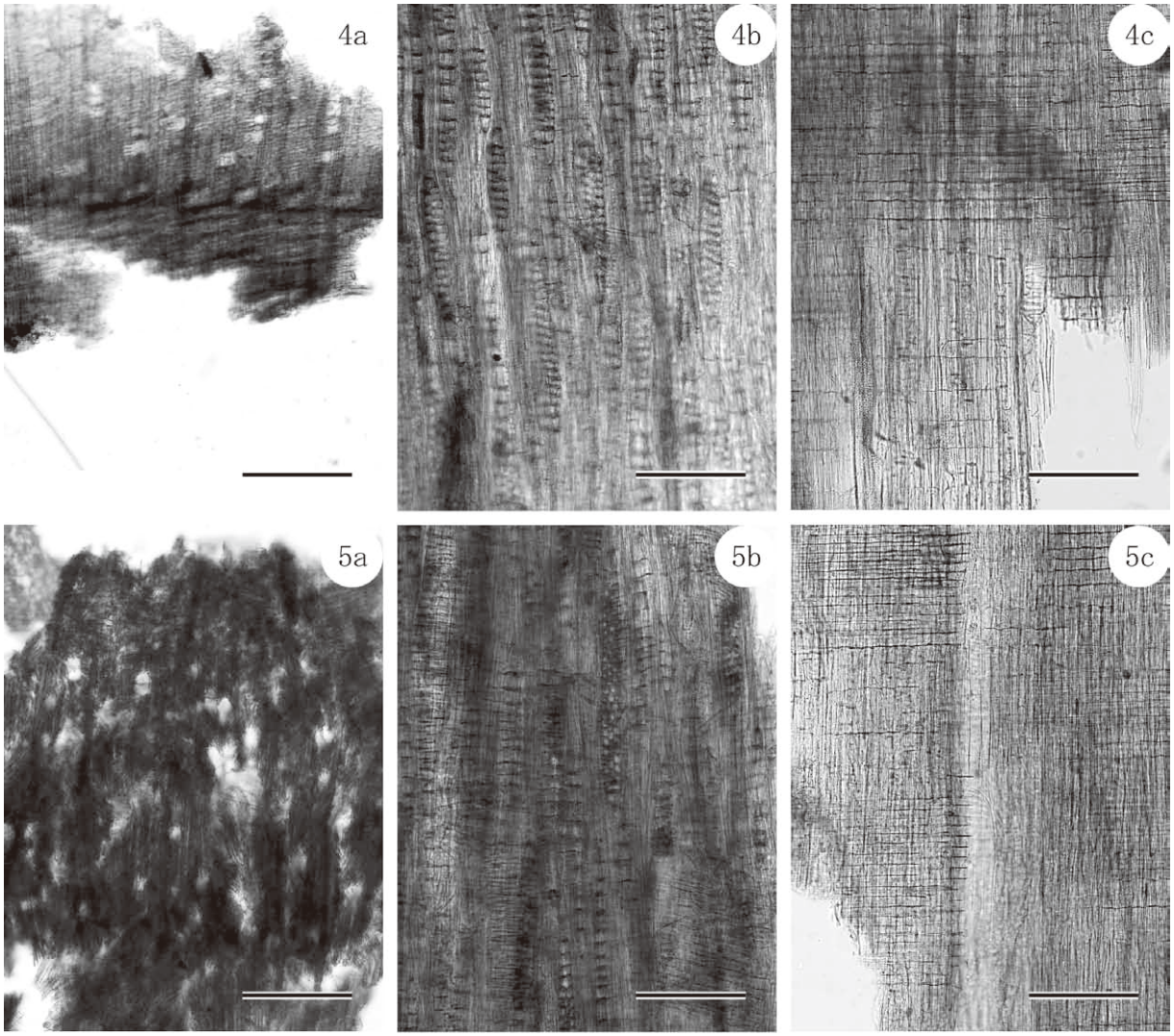
| 試料No. | 遺跡名 | 時期 | 出土遺構 | 器種 | 樹種 | 木取り | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 一里沢遺跡 | 縄文時代中期～後期 | TP-37 KP-01 | 逆茂木 | エゴノキ属 | 芯持丸木 | |
| 2 | | 縄文時代中期～後期 | TP-37 KP-02 | 逆茂木 | エゴノキ属 | 芯持丸木 | |
| 3 | | 縄文時代中期～後期 | TP-37 KP-03 | 逆茂木 | エゴノキ属 | 割れ | |
| 4 | | 縄文時代中期～後期 | TP-37 KP-05 | 逆茂木 | エゴノキ属 | 芯持丸木 | |
| 5 | | 縄文時代中期～後期 | TP-37 KP-06 | 逆茂木 | エゴノキ属 | 芯持丸木 | |




**図版1　出土木製品の光学顕微鏡写真(1)**

1a-1c. エゴノキ属(No. 1)、2a-2c. エゴノキ属(No. 2)、3a-3c. エゴノキ属(No. 3)

a:横断面(スケール=500μm)、b:接線断面(スケール=200μm)、c:放射断面(スケール=200μm)




**図版2　出土木製品の光学顕微鏡写真(2)**

4a-4c. エゴノキ属(No. 4)、5a-5c. エゴノキ属(No. 5)

a:横断面(スケール=500μm)、b:接線断面(スケール=200μm)、c:放射断面(スケール=200μm)

## 第３節　石材同定

アースサイエンス株式会社
加 藤 孝 幸
米 島 真 由 子

### １．石材同定観察・結果

石材を肉眼・ルーペ・簡易実体鏡・マグネットを併用して観察した。
結果を表１に示す。

### ２．火成岩類

今回岩種鑑定を行った試料で火成岩類は，花崗岩類・デイサイト・ひん岩・安山岩・閃緑岩・玄武岩ないしドレライト（緑色岩化するものとそうでない比較的新鮮なものがある）・はんれい岩・輝石岩・はんれい岩質ペグマタイト・かんらん岩（蛇紋岩化）がある。

花崗岩類は花崗岩そのものを含む。日高変成帯の花崗岩分布域に直接由来する可能性と新第三紀の礫岩や第四紀の段丘堆積物に含まれていたものに由来する可能性がある。

デイサイトは珪化している。石狩低地帯西方の山地などに分布する。近傍では中新世の川端層の礫岩の礫に含まれる可能性もある。

神居古潭帯の富良野市山部などで蛇紋岩体に貫入するトロニエム岩が分布している。これらの一部はひん岩となっている。あるいは，様似町には新第三紀の火山活動としてひん岩脈が多数知られている。その他，各地に安山岩質の岩脈があり，それらの一部は斑状の安山岩質半深成岩であるひん岩となっているであろう。

安山岩は輝石安山岩らしいが，珪化しており，熱水変質作用を受けた安山岩である。このような安山岩は石狩低地帯より西側の山地に広く分布している。また，川端層などの礫岩中に礫として含まれることもある。

閃緑岩は日高変成帯などに分布するが，神居古潭帯の蛇紋岩中の岩脈としても存在する。

玄武岩～ドレライトのうち，緑色岩化しているものは東方の神居古潭帯やイドンナップ帯に広く分布する。また，緑色岩化せず，比較的新鮮なものは紅葉山などで新第三紀の貫入岩として存在する。はんれい岩は日高変成帯やポロシリオフィオライト帯に広く分布し，その一部は輝石岩となっている可能性がある。はんれい岩質ペグマタイトは，日高変成帯のはんれい岩中に見られるほか，神居古潭帯の蛇紋岩に含まれることがある。

かんらん岩は鑑定したものはマイロナイト化が進んで片状の組織が発達し，半ば蛇紋岩化している。神居古潭帯のかんらん岩にはめったに見られない組織であり，日高変成帯のかんらん岩に由来する可能性が高い。

### ３．堆積岩類

1）正常堆積物に由来する堆積岩

礫岩，砂岩，泥岩，凝灰質泥岩，珪藻質泥岩が認められる。これらの供給源は近傍に分布する新第三紀層に求めることができる。

2）化学的沈澱岩

シリカシンター（珪華）は火山の熱水が地表に供給される場所に沼（湯沼）ができ，そ

こに熱水からシリカ（石英など）が沈澱し，元素の拡散を伴って縞状の組織が形成されたものである。近傍では支笏湖周辺の火山活動に関係して，漁川などに見られる。これに泥質分（あるいは微細な黄鉄鉱？）が混じって黒色を呈するものも，シリカシンター様岩として記載した。

チャートは赤色，暗灰色，帯緑暗灰色などを呈し，神居古潭帯やイドンナップ帯に分布する。

3）火山砕屑岩

凝灰岩は珪化し，帯緑灰色に変質したものがあり，神居古潭帯やイドンナップ帯に酸性凝灰岩として含まれていた可能性，川端層などの新第三紀層中の礫，あるいは西方の新第三紀の火山岩地帯にあって，熱水変質作用を受けたなど，さまざまの由来の可能性がある。

ハイアロクラスタイト（水冷破砕岩）は緑色岩化しており，神居古潭帯やイドンナップ帯に由来すると考えられる。

**4．変成岩・熱水変質岩**

角閃岩は日高変成帯・ポロシリオフィオライト帯・神居古潭帯に分布する。

黒色片岩・緑色片岩・石英片岩は神居古潭帯に分布する。

蛇紋岩やタルクは主として，神居古潭帯に分布する。

珪質頁岩は新第三紀層などの非変形の泥岩が火成岩の接触に伴う熱水変質作用を受けて珪酸分に富むようになったもので，剥片石器などに多用される。産地は道内各地の新第三紀の泥岩層分布域の火成岩が貫入する場所に存在する。

珪化岩は同様の熱水変質作用が極端に進んで，原岩が不明となったものである。

**5．その他**

赤鉄鉱岩は神居古潭帯やイドンナップ帯の緑色岩の一部が赤鉄鉱岩化したものである可能性がある。また，石狩低地帯西側山地の熱水変質帯にも存在する可能性がある。

珪質泥岩としたものは緑灰色で青黒色のフィルム状薄層があり，変形している。イドンナップ帯など付加体起源の可能性がある。

石英岩は，火山岩その他の孔隙（晶洞）中に熱水から石英が結晶したものである。同じ理屈で，オパールや微小石英が沈澱して縞模様をつくるものはめのうと呼ばれるが，今回は鑑定していない。

## 表1　一里沢遺跡　石材同定一覧表

| 番号 | グリッド／出土層位 | 遺物番号 | 同定結果 | 特　　徴 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Z-17/Ⅲc | 259 | 変形泥岩 | 暗灰色で細かい砕屑粒子を含む. |
| 2 | Y-21/ⅤbU | 846 | チャート | 母岩は暗灰色で, 灰白色の石英脈が発達. |
| 3 | AE-21/Ⅵ | 3632-2 | 玄武岩(緑色岩化) | 緑色岩化した無斑晶質の玄武岩. |
| 4 | AD-21/ⅤbM | 937-2 | 珪化岩 | 赤色珪化岩. 石英＋赤鉄鉱が生成. |
| 5 | AC-17/ⅤbU | 992 | 細粒砂岩 | 暗灰色, 塊状. 非変形. |
| 6 | Y-17/Ⅴc | 1428+1429 | 珪化岩 | チョコレート色～灰白色. 通常の珪質頁岩より, さらに珪化が進み, 透明感が強い. |
| 7 | U-18/ⅤbL | 3581 | ハイアロクラスタイト | 変形と熱水変質が進んだ緑色岩. |
| 8 | W-18/ⅤbU | 2819 | 細粒砂岩 | 灰色, 塊状. 非変形. 灰白色の細脈発達. |
| 9 | Z-19/ⅤbU | 400 | 花崗岩 | やや細粒. 灰白色, 灰色の斑状. 斜長石+石英+カリ長石+黒雲母などからなる. |
| 10 | AE-20/ⅤbU | 3252 | 閃緑岩 | 淡褐色, 黒色の斑状. 有色鉱物は角閃石など. |
| 11 | Z-16/ⅤbL | 2696 | 石英岩 | 白色. 石英脈. 石英が縞状に生成する. |
| 12 | W-20/ⅤbM | 1443 | 石英岩 | 白色. 石英脈. 一部は透明感の強いめのうで, 縞模様あり. 自形石英が少量生成. |
| 13 | AB-16/ⅤbL | 2274 | 石英岩 | 白色. 石英脈. 一部は透明感の強いめのう. 微細な晶洞あり. |
| 14 | T-20/ⅤbL | 2322 | 珪藻質泥岩 | 黄褐色. 吸水性顕著. |
| 15 | X-20/ⅤbU | 320 | 細粒砂岩 | 灰色. 細粒砂岩. やや吸水性がある. |
| 16 | AD-21/ⅤbL | 2033 | 玄武岩(緑色岩) | 帯紫暗灰色. 無斑晶質な玄武岩を原岩とする. 最大幅2.0mmの白色脈が多数生成. |
| 17 | AE-21/ⅤbM | 3293 | 玄武岩(緑色岩) | 帯赤暗褐灰色. 白色の細脈が生成. 枕状溶岩の可能性. |
| 18 | W-20/Ⅴa | 18 | 中粒砂岩 | 褐灰色. 中粒砂. 塊状無層理. |
| 19 | AD-21/ⅤbU | 918 | 細粒砂岩 | 暗灰色. 細粒砂. 一部に弱い堆積構造が認められる. |
| 20 | AA-18/ⅤbM | 3051 | 砂岩 | 暗灰～暗褐色. 粗粒砂. 基質少なく, 大部分は礫支持. 堆積構造(細粒部の挟み)あり. |
| 21 | AE-21/ⅤbM | 3274 | 粗粒砂岩 | 灰色. 花崗岩由来の粒子からなるアルコース質砂岩. 一部に水酸化鉄が沈殿. |
| 22 | Y-21/ⅤbM | 2723 | 玄武岩(緑色岩) | 暗緑灰色. 石基に微細な斜長石が散在. |
| 23 | Z-21/ⅤbM | 640 | 蛇紋岩 | 褐色. 白色脈が数条認められる. |

## 引用・参考文献


赤石慎三　1999　「苫小牧地方の円筒上層式について」
『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報』1
苫小牧市埋蔵文化財調査センター

旭川市教育委員会　1991　『旭川市末広７遺跡』

旭川市教育委員会　2005　『緑町１遺跡』

厚真町　1986　『厚真町史』

厚真町教育委員会　2001a　『豊川１遺跡』

厚真町教育委員会　2001b　『鯉沼２遺跡』

厚真町教育委員会　2004　『厚幌１遺跡』

厚真町教育委員会　2005　『鯉沼３遺跡』

厚真町教育委員会　2006b　『鯉沼３遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2006a　『上幌内モイ遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2007a　『上幌内モイ遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2007b　『鯉沼３遺跡 (3)』

厚真町教育委員会　2009a　『上幌内モイ遺跡(3)』

厚真町教育委員会　2009b　『ニタップナイ遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2010a　『厚幌１遺跡(2) 幌内７遺跡(1)』

厚真町教育委員会　2010b　『幌内５遺跡(1)富里２遺跡・
ニタップナイ遺跡(2)』

厚真町教育委員会　2011　『オニキシベ２遺跡』

厚真町教育委員会　2013a　『ヲチャラセナイチャシ跡・
ヲチャラセナイ遺跡』

厚真町教育委員会　2013b　『オニキシベ５遺跡』

厚真村　1956　『厚真村史』

厚真村郷土研究会　1962　『厚真村古代史』
厚真村郷土研究会

出穂雅実　2006　「第Ⅲ章第２節　ジオアーケオロジー」
『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会

浦河町教育委員会　1999『西舎５遺跡発掘調査概要報告書』

恵庭市教育委員会　1981　『柏木Ｂ遺跡』

恵庭市教育委員会　1997　『ユカンボシE4 遺跡』

小疇 尚・小野有五他 2003　『日本の地形２　北海道』
東京大学出版会

小樽市教育委員会　1993　『手宮公園下遺跡』

帯広市教育委員会　1985　『帯広・暁遺跡』

帯広市教育委員会　1986　『帯広・宮本遺跡』

帯広市教育委員会　2000　『帯広・三の沢１遺跡』

帯広市教育委員会　2004　『帯広・若葉の森遺跡』

亀井喜久太郎　1956　「厚真出土の土偶」『先史時代』3

亀井喜久太郎　1976　『厚真の旧地名を尋ねて』

北沢実・大鳥居千鶴　2009　『十勝地域の縄文土器概観』
「北海道百年記念館紀要」

釧路市埋蔵文化財調査センター　1987
『桜ヶ岡１・２遺跡調査報告書』

(財)北海道埋蔵文化財センター　1981　『社台１遺跡・虎杖
浜４遺跡・千歳４遺跡・富岸遺跡』北埋調報 1

(財)北海道埋蔵文化財センター　1986
『平取町　二風谷遺跡』北埋調報 26

(財)北海道埋蔵文化財センター　1989
『深川市　納内６丁目付近遺跡Ⅱ』北埋調報 63

(財)北海道埋蔵文化財センター　1991
『余市町　フゴッペ貝塚遺跡』北埋調報 72

(財)北海道埋蔵文化財センター　1992
『清水町　上清水２遺跡・共栄３遺跡(2)・東松沢２遺跡・
芽室町北明１遺跡』北埋調報 76

(財)北海道埋蔵文化財センター　1997
『滝里遺跡群Ⅶ』北埋調報 110

(財)北海道埋蔵文化財センター　2003
『厚真町浜厚真３遺跡』北埋調報 186

(財)北海道埋蔵文化財センター　2005
『オルイカ２遺跡(2)』北埋調報 221

佐藤訓敏　1987　「宮本式土器の編年に関する一考察」
『葭原』音更町教育委員会

清水町教育委員会　2012　『御影平和遺跡』

早田 勉　2006　「上幌内モイ遺跡後期更新統の層序と
テフラ」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会

滝川市教育委員会　1997　『朝日１遺跡』

田近 淳・大津 直・八幡正弘　2004　「厚幌１遺跡の地すべ
り堆積物」『厚幌１遺跡』厚真町教育委員会

千歳市教育委員会　1979
『ウサクマイ遺跡群における考古学的調査』

千歳市教育委員会　1995
『ウサクマイ N・蘭越７遺跡における考古学的調査』

千歳市教育委員会　2002

『梅川４遺跡における考古学的調査』
千歳市教育委員会　2002
『ユカンボシC2遺跡・オサツ２遺跡における考古学的調査』
苫小牧市教育委員会　1976　『植苗遺跡』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1987
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1990
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1992　『静川37遺跡』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1992
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　1995
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　2002
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅷ』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター　2002
『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ』
泊村教育委員会　2004　『堀株１遺跡』
野澤 謙庵　1692　「蝦夷記」『續々群書類從第九』
秦 昭繁　1991　「特殊な剥離技法をもつ東日本の石匙-松原型石匙の分布と製作時期について-」『考古学雑誌』第76号第４号
富良野市教育委員会　1986　『鳥沼遺跡』
益富 壽之助　1987　『原色岩石図鑑』(全改訂新版)　保育社
町田　洋・新井房夫　2003　『火山灰アトラス』東京大学出版会
松浦武四郎(吉田常吉編)　1962
『蝦夷日誌 上　東蝦夷日誌』時事通信社
松浦武四郎(高倉信一郎校訂)　1985　『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中　北海道出版企画センター
松野久也・石田正夫　1960
『1:50,000地質図幅説明書早来』北海道開発庁
皆川洋一　1991　「刺突文土器を含む特殊他胎土を有する土器群について」『滝里遺跡群』北埋調報71
(財)北海道埋蔵文化財センター
村本周三　2016　「北海道斜里平野における縄文時代中期～後期前半の石器群」　北海道考古学第52輯

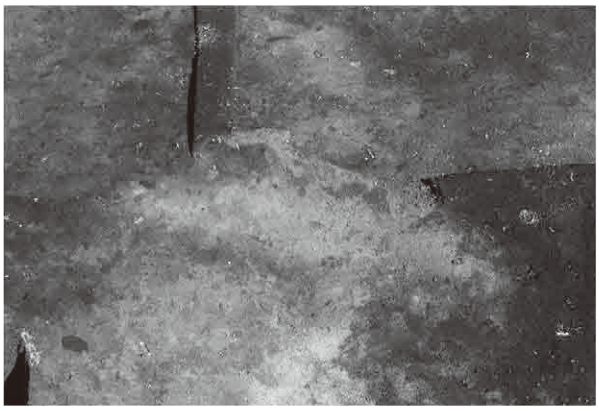
# 一里沢遺跡
# 写真図版

図版1

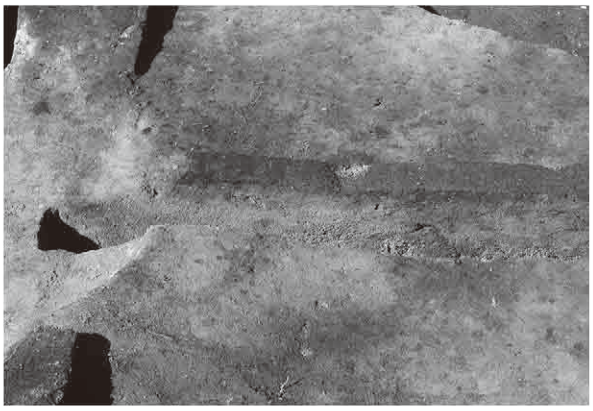
1．Ⅲ層検出　E→

2．Ⅲ層完掘（南側）　E→

## 図版2



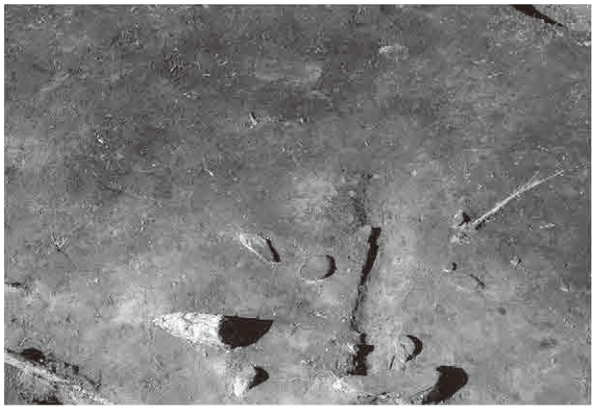
1．ⅢF-01検出　W→



2．ⅢF-01断面　S→

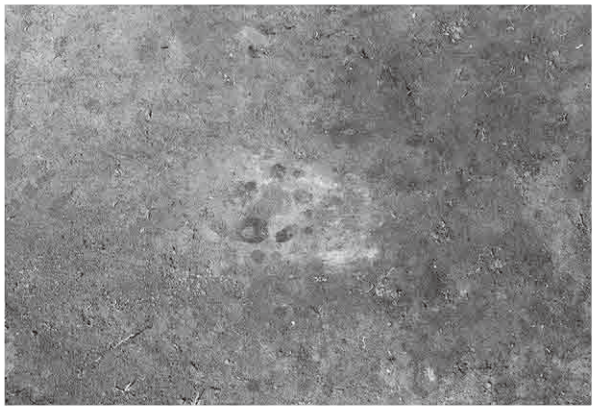
3．ⅢF-02検出　S→

4．ⅢF-02断面　W→



5．ⅢF-03検出　N→

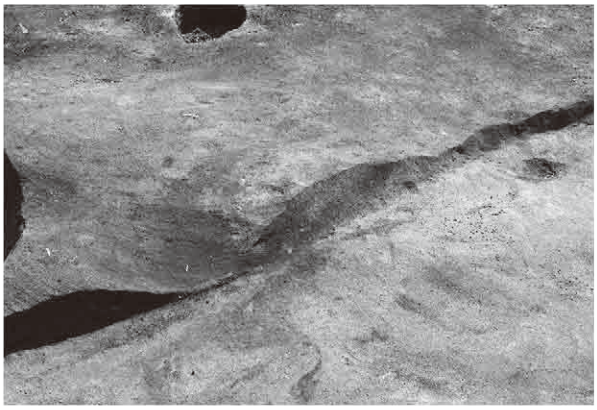
6．ⅢF-03断面　S→



7．ⅢF-04検出　S→

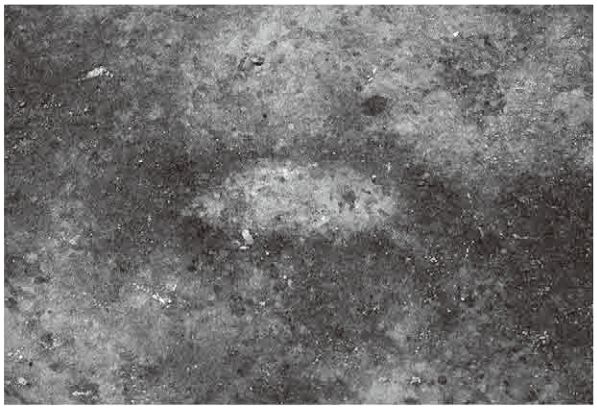
8．ⅢF-04断面　S→

図版3

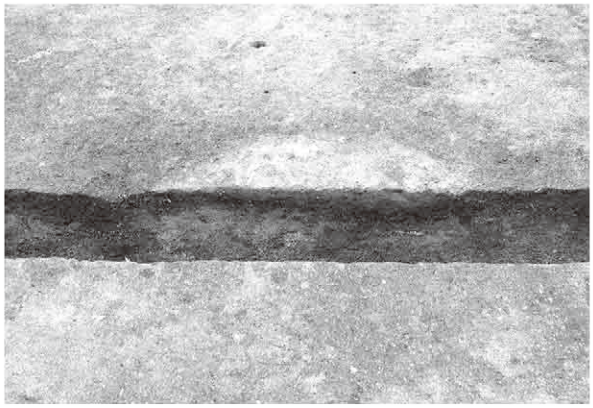


1．ⅢF-05検出　N→

2．ⅢF-05断面　NW→

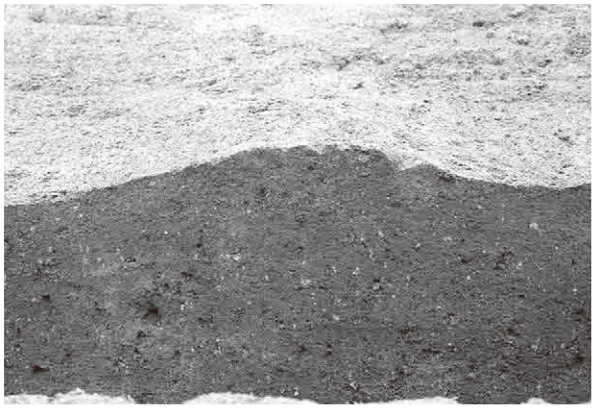


3．ⅢF-06検出　SE→

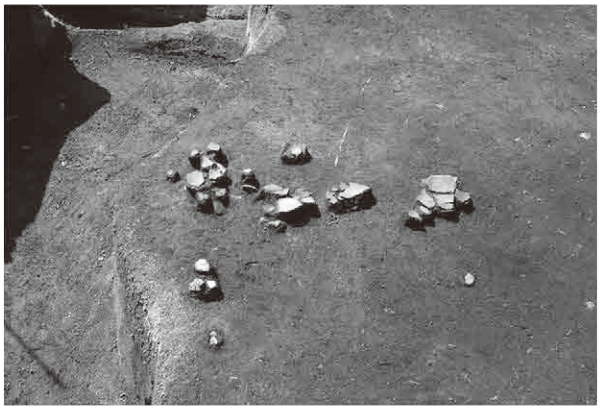


4．ⅢF-06断面　S→

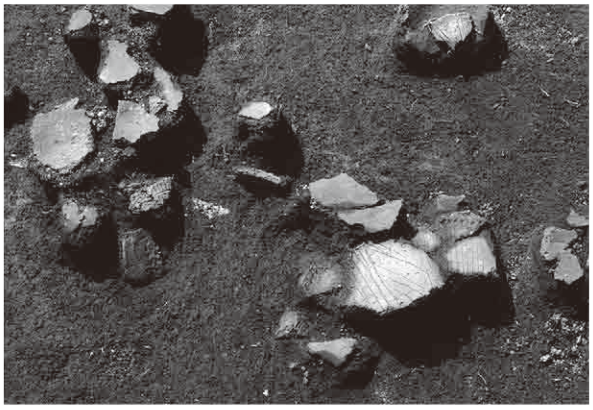
5．ⅢF-07検出　NE→



6．ⅢF-07断面　NE→



7．ⅢPB-01検出　S→



8．ⅢPB-01遺物出土状態　S→

## 図版4

1. ⅢPB-01断面　S→

2. ⅢPB-02検出　S→

3. ⅢPB-02遺物出土状態　W→

4. ⅢPB-02断面　S→

5. ⅢKP-01断面　W→

6. ⅢKP-01完掘　W→

7. ⅢSB-01検出　SW→

8. ⅢSB-01検出　SW→

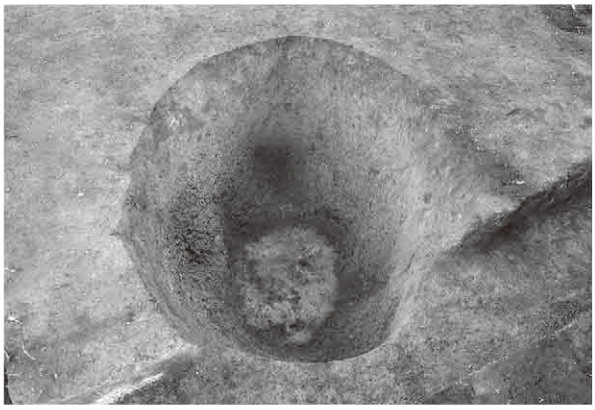
図版5

1．Ⅴ層検出　E→

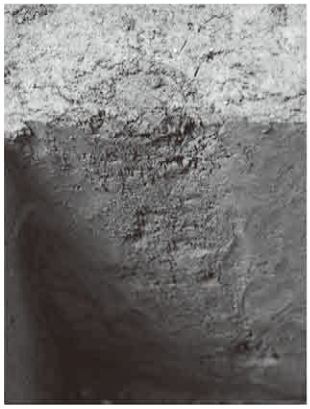
2．Ⅴ層完掘　S→

## 図版6

1. TP-01断面　NW→



2. TP-01完掘　NW→



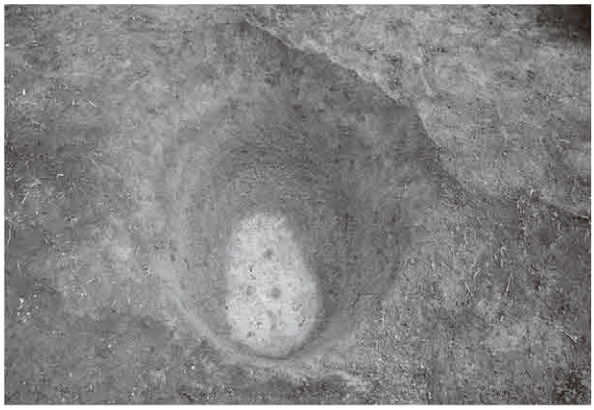
3. KP01断面　N→

4. KP01完掘　N→

5. KP04断面　SE→

6. KP04完掘　SE→

7. TP-02断面　W→



8. TP-02完掘　W→

9. KP01断面　SW→

10. KP01完掘　SW→

11. KP02断面　SW→

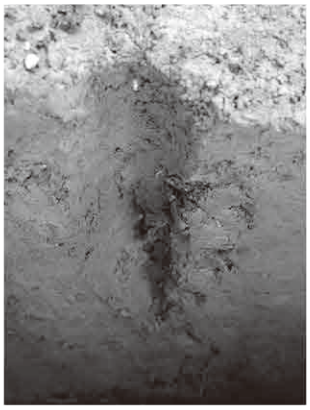
12. KP02完掘　SW→

## 図版7

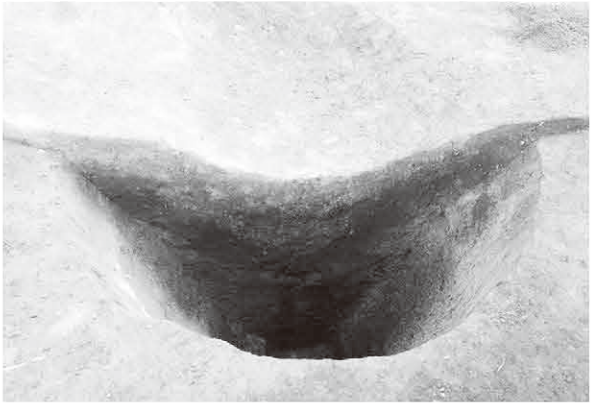
1. TP-03断面　N→

2. TP-03完掘　N→

3. KP03断面　N→

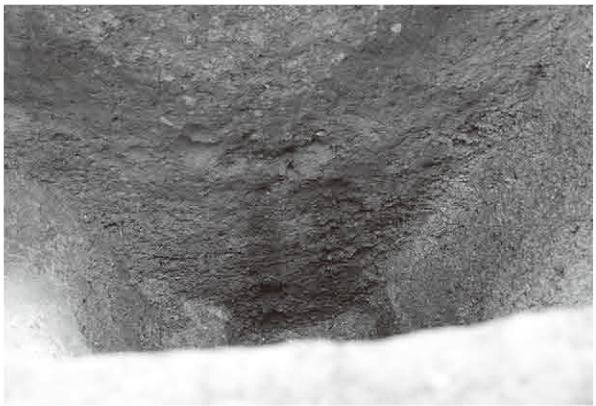


4. KP03完掘　N→



5. TP-04断面　W→

6. TP-04完掘　W→



7. TP-04杭跡断面　W→

8. KP01･02断面　W→

9. KP01･02完掘　W→

10. KP03･04断面　W→

11. KP03･04完掘　W→

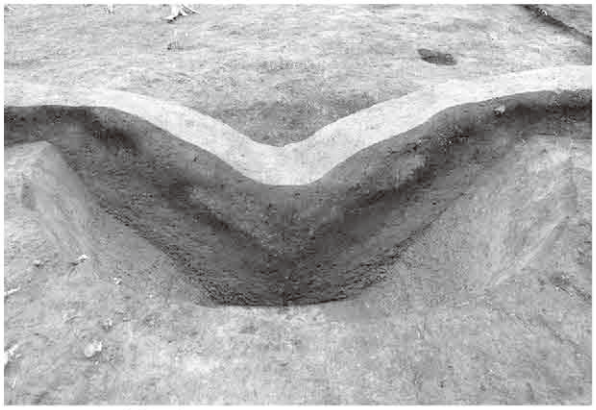
## 図版8

1. TP-05断面　E→

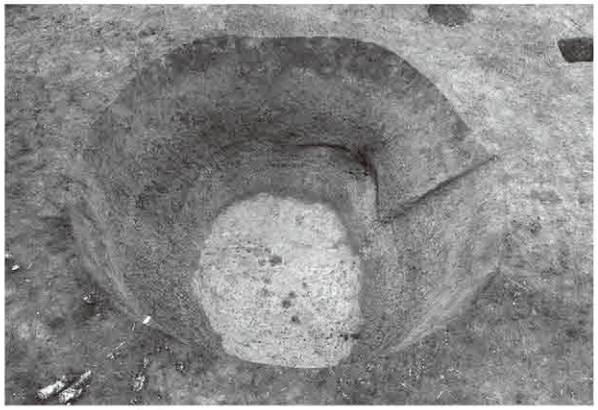
2. TP-05完掘　E→

3. TP-06断面　E→

4. TP-06･12･16完掘　E→



5. TP-07断面　SE→



6. TP-07完掘　NE→

7. KP03断面　NW→

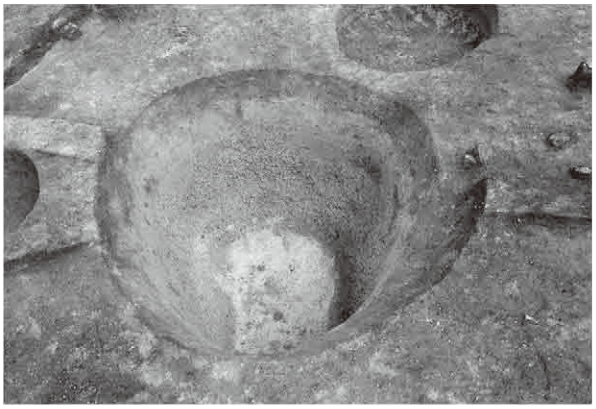
8. KP03完掘　NW→

9. KP09･10
断面　SE→

10. KP04･09･10
完掘　SE→

図版9

1. TP-08断面　SW→

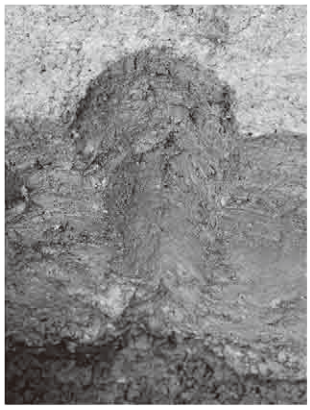


2. TP-08完掘　SW→

3. KP02断面　NE→

4. KP02完掘　NE→

5. KP04断面　NE→



6. KP04完掘　NE→

7. TP-09断面　SE→

8. TP-09完掘　SE→

9. KP01断面　SE→

10. KP01完掘　SE→

11. KP06断面　W→

12. KP06完掘　W→

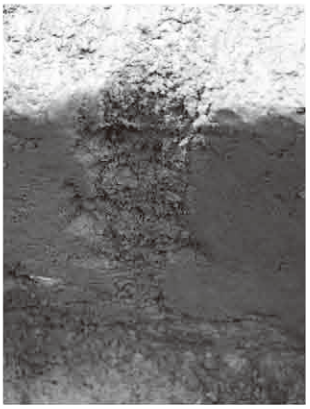
## 図版10

1. TP-10断面　SW→

2. TP-10完掘　SW→

3. KP01断面　NW→

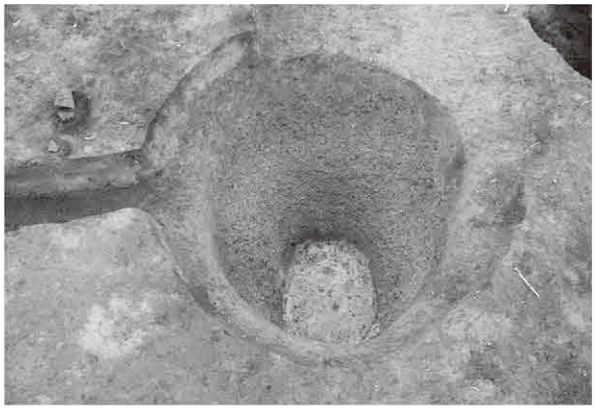
4. KP01完掘　NW→



5. KP02断面　SE→

6. KP02完掘　SE→

7. TP-11断面　NW→



8. TP-11完掘　NW→

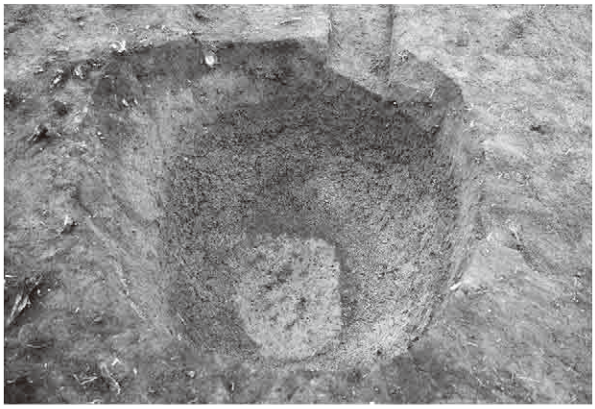
9. KP01完掘　SE→

10. KP02断面　NW→

11. KP02完掘　NW→

図版11

1. TP-12断面　NW→



2. TP-12完掘　NW→

3. KP01断面　NE→

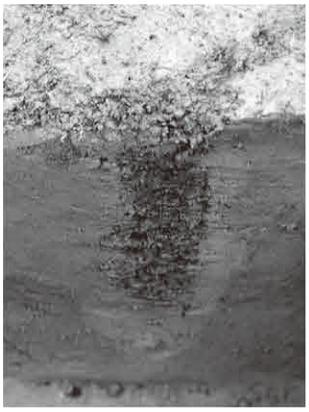
4. KP01完掘　NE→

5. KP02断面　SW→

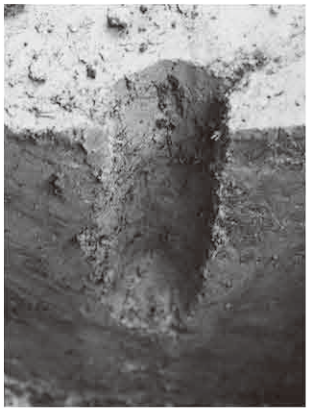
6. KP02完掘　SW→

7. TP-13断面　NW→

8. TP-13完掘　NW→

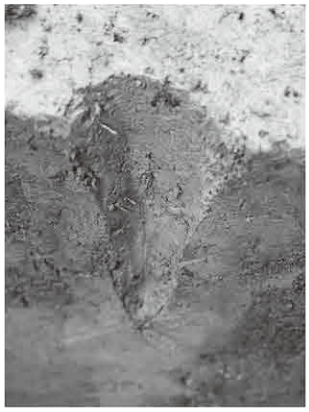


9. KP01断面　SE→



10. KP01完掘　SE→

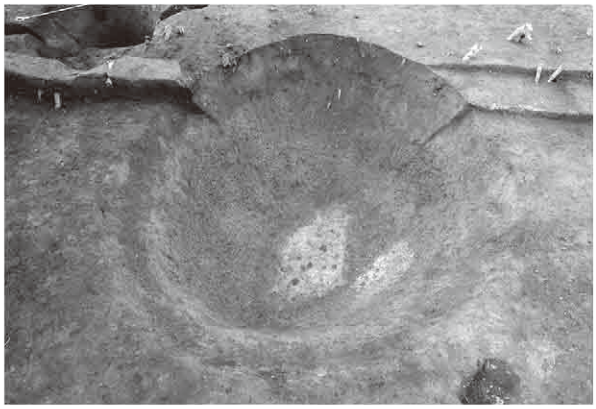
11. KP02断面　NW→



12. KP02完掘　NW→

## 図版12

1. TP-14断面　SE→

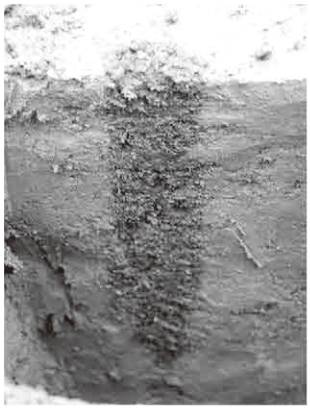


2. TP-14完掘　SE→

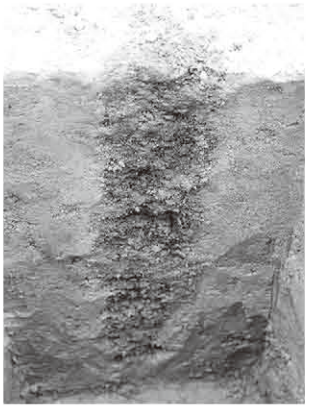
3. TP-14遺物出土状態　SE→

4. KP09･10断面　E→

5. KP09･10完掘　E→



6. KP06断面　N→



7. KP07断面　N→

8. KP06･07完掘　N→

9. KP14断面　SW→

10. KP14完掘　SW→

11. KP16･17断面　NW→

12. KP16･17完掘　NW→

図版13

1. TP-15掘り上げ土断面　NW→

2. TP-15完掘　NW→

3. TP-15・ⅤF-01遺物出土状態　NE→

4. KP03断面　E→

5. KP03完掘　E→

6. TP-16・06掘り上げ土断面　SE→

7. TP-16断面　SE→

8. TP-16完掘　SE→

9. KP03・08断面　NE→

10. KP03・08完掘　NE→

## 図版14

1. KP01断面　SW→

2. KP01完掘　SW→

3. KP02断面　SW→

4. KP02完掘　SW→

5. KP04断面　SW→

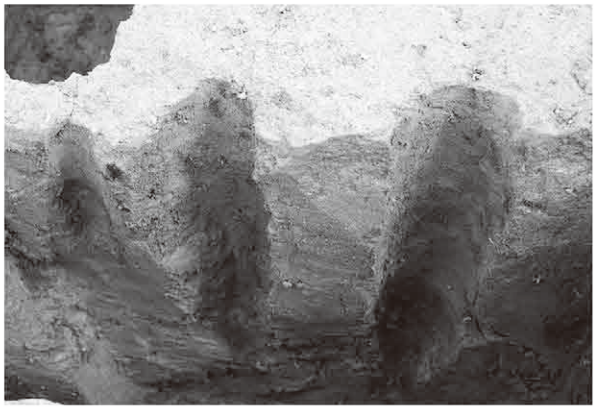
6. KP04完掘　SW→

7. KP05断面　SW→

8. KP05完掘　SW→

9. KP06･09断面　SW→

10. KP07断面　SW→


11. KP06･09･07完掘　SW→

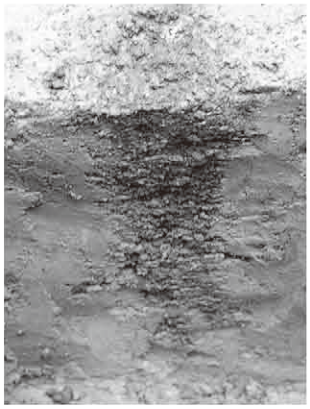
12. TP-17断面　W→

13. TP-17完掘　W→

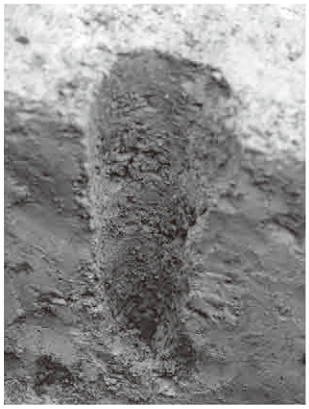
図版15

1. TP-18断面　NW→

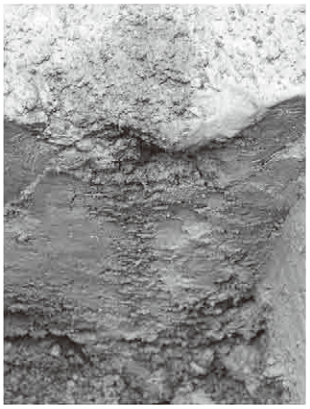
2. TP-18完掘　N→



3. KP01断面　S→



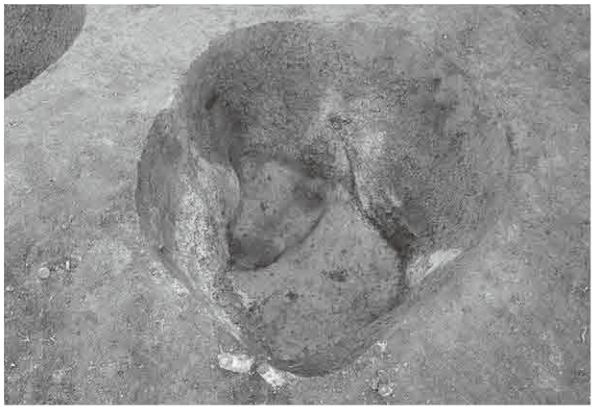
4. KP01完掘　S→



5. KP04断面　N→

6. KP04完掘　N→

7. TP-19断面　NW→

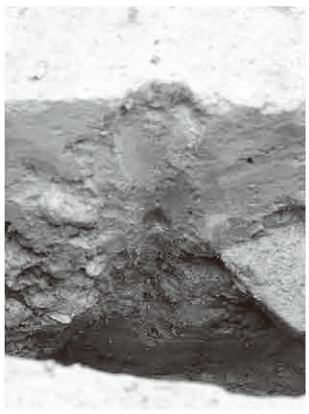


8. TP-19完掘　SW→

9. KP01断面　NE→

10. KP01完掘　NE→

11. KP02断面　NE→



12. KP02完掘　NE→

## 図版16

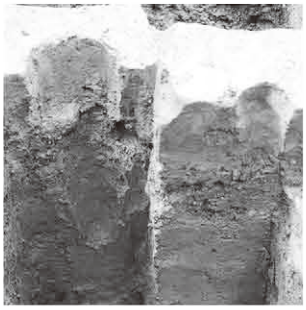
1. TP-20･21完掘　N→

2. TP-20掘り上げ土断面　W→

3. TP-20断面　NW→

4. TP-20完掘　NW→

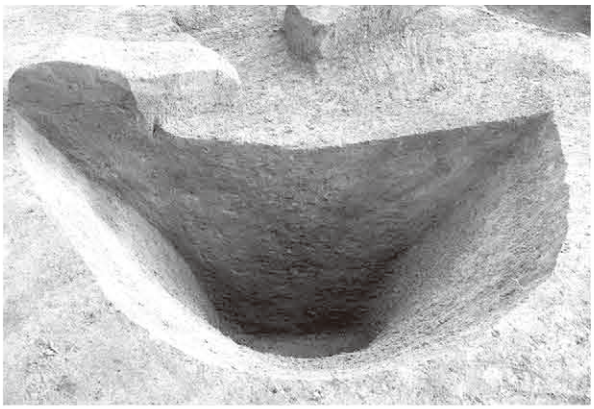
5. KP03･04断面　SE→



6. KP03･04完掘　SE→

7. KP05･06断面　W→

8. KP05･06完掘　W→

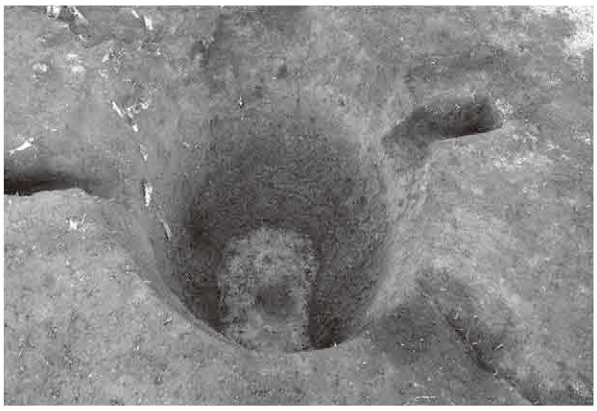


9. TP-21断面　NW→

10. TP-21完掘　NW→

図版17

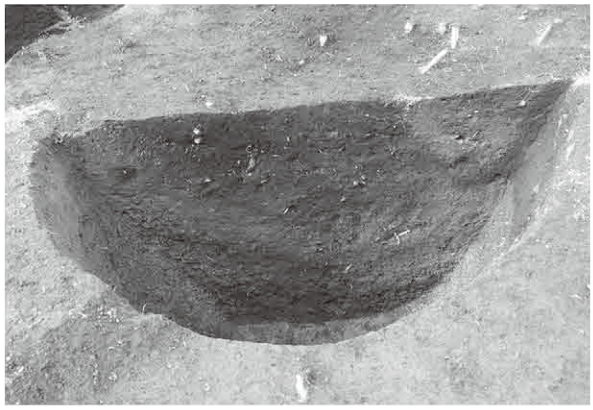
1. TP-22断面　W→



2. TP-22完掘　W→

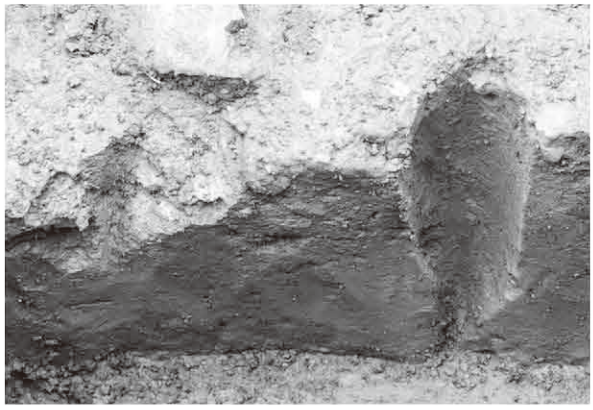
3. TP-23断面　S→

4. TP-23完掘　S→



5. TP-24断面　S→

6. TP-24完掘　S→



7. KP01･02完掘　E→

8. Tピット調査状況　E→

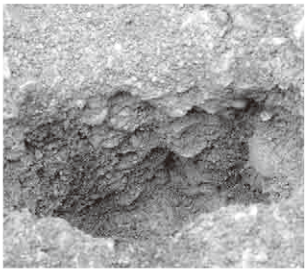
## 図版18

1. TP-25断面　W→

2. TP-25完掘　W→

3. KP04断面　W→

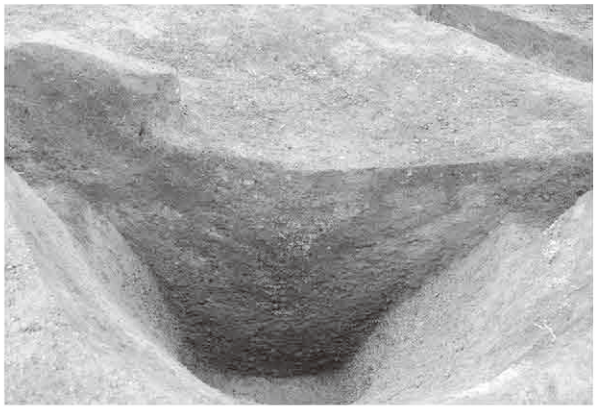
4. KP04完掘　W→



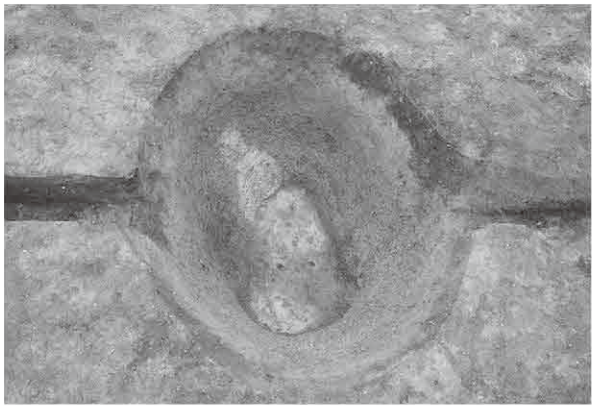
5. KP05･06断面　W→

6. KP05･06完掘　W→

7. TP-26検出　N→



8. TP-26断面　N→



9. TP-26完掘　N→

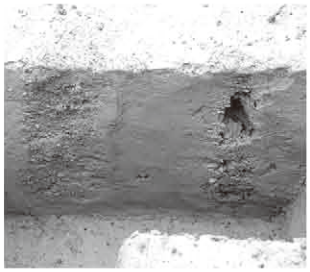
10. KP03･04断面　N→

11. KP03･04完掘　N→

図版19

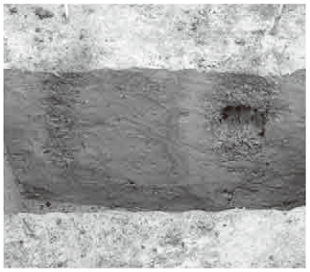
1. TP-28掘り上げ土断面　W→

2. TP-28完掘　W→



3. KP02･03断面　E→

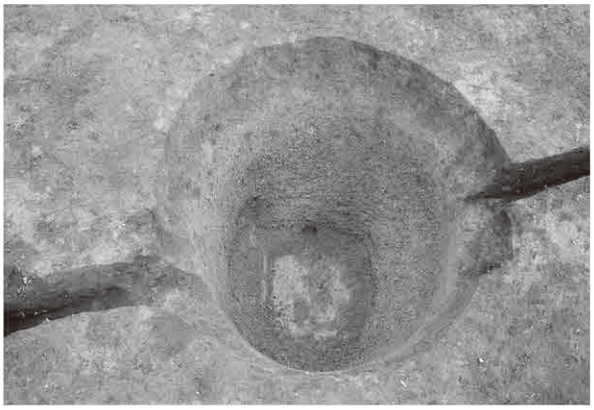
4. KP02･03完掘　E→



5. KP04･05断面　SW→

6. KP04･05完掘　SW→

7. TP-29断面　W→



8. TP-29完掘　W→

9. KP02断面　N→

10. KP02完掘　N→

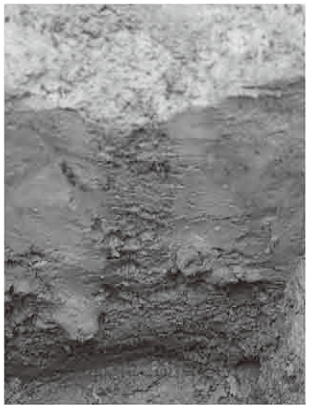
11. Tピット調査状況　E→

## 図版20

1. TP-30掘り上げ土断面　NW→

2. TP-30断面　NW→

3. TP-30完掘　NW→



4. KP02断面　SE→

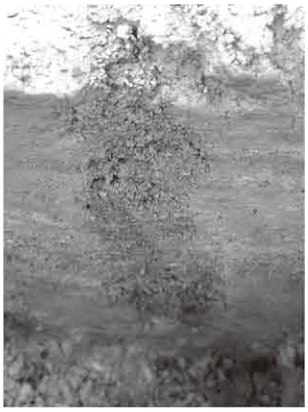
5. KP02完掘　SE→

6. TP-31断面　S→

7. TP-31完掘　SE→

8. KP02断面　SW→

9. KP02完掘　SW→



10. KP03断面　NE→

11. KP03完掘　NE→

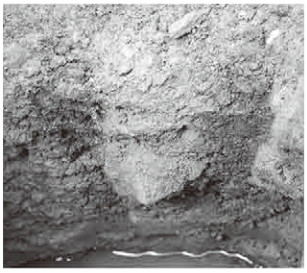
図版21

1. TP-32断面　W→

2. TP-32完掘　W→

3. KP01･02断面　W→

4. KP01･02完掘　W→

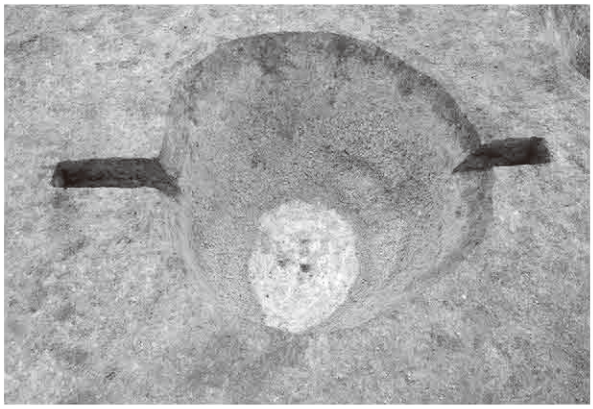


5. KP05･06断面　E→

6. KP05･06完掘　E→

7. TP-33掘り上げ土断面　W→

8. TP-33断面　W→

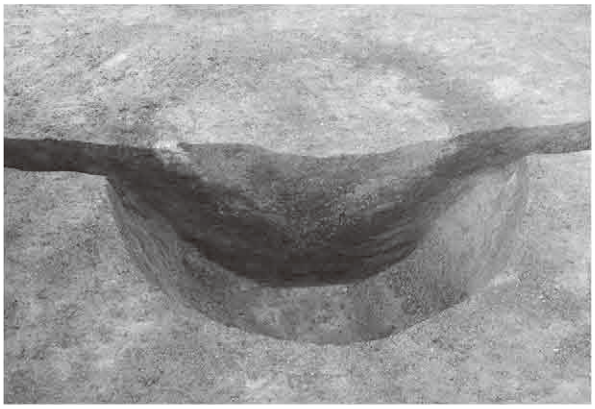


9. TP-33完掘　W→

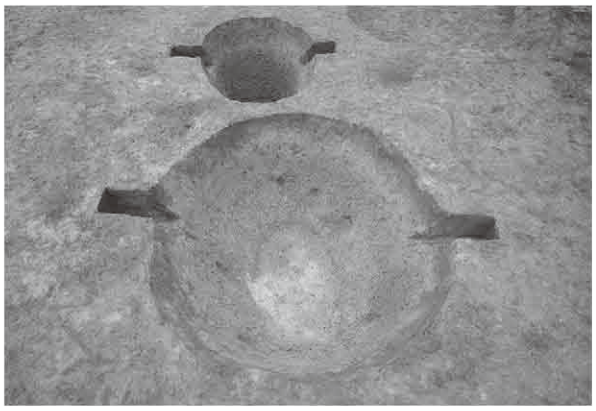
10. KP04断面　W→

11. KP04完掘　W→

## 図版22

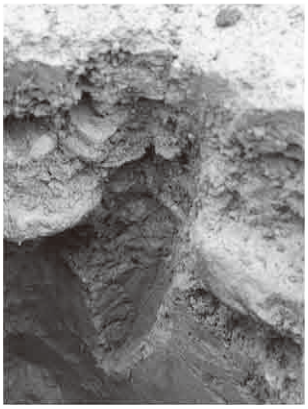


1. TP-34断面　S→



2. TP-34・35(奥)完掘　S→

3. KP06断面　S→

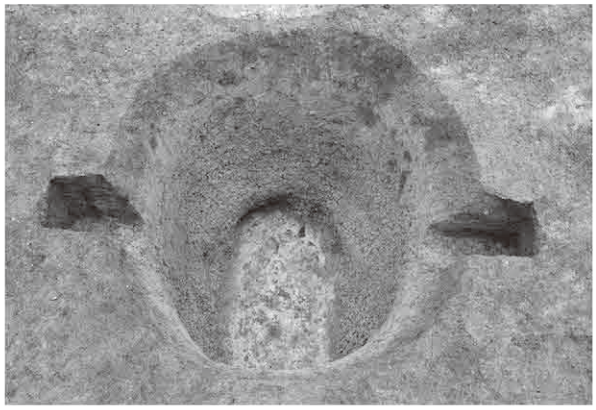


4. KP06完掘　S→

5. KP07・08・09・10
断面　N→

6. KP07・08・09・10
完掘　N→

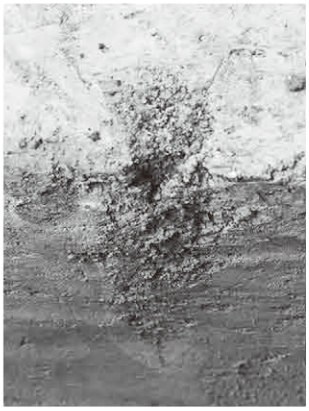
7. TP-35断面　N→



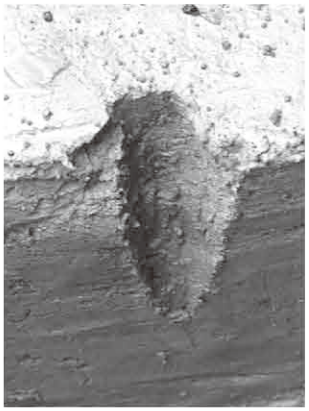
8. TP-35完掘　N→

9. KP02・04断面　E→

10. KP02・04完掘　E→



11. KP03断面　E→



12. KP03完掘　E→

図版23

1. TP-36断面　NW→

2. TP-36完掘　NW→

3. KP01断面　NW→

4. KP01完掘　NW→

5. KP02断面　NW→

6. KP02完掘　NW→

7. KP03断面　SW→

8. KP03完掘　SW→

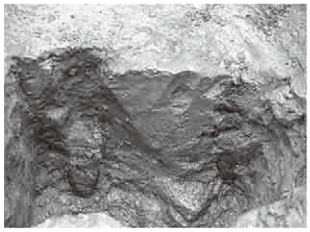
9. KP06断面　SE→

10. KP06完掘　SE→

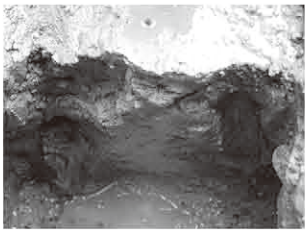
## 図版24

1. TP-37断面　W→

2. TP-37完掘　W→



3. KP01･02断面　W→



4. KP01･02完掘　W→

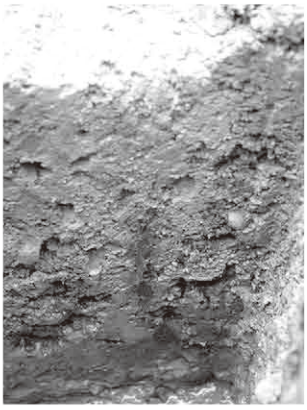
5. KP05･06断面　NE→

6. KP05･06完掘　NE→

7. TP-40･41掘り上げ土断面　NW→

8. TP-40断面　W→

9. TP-40完掘　NW→

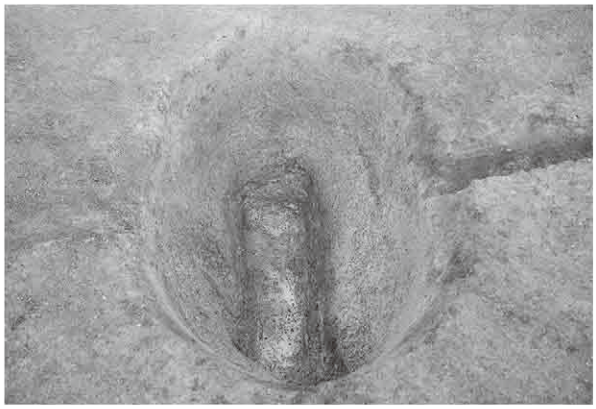


10. KP04断面　E→

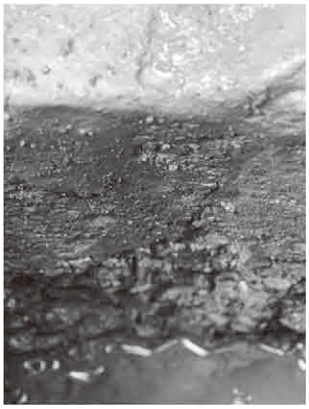
11. KP04完掘　E→

図版25

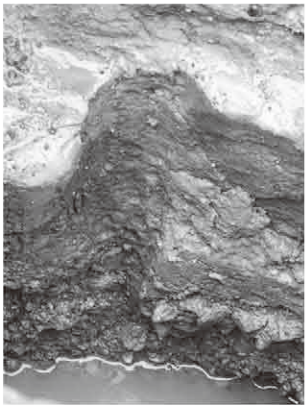
1. TP-41断面　SW→



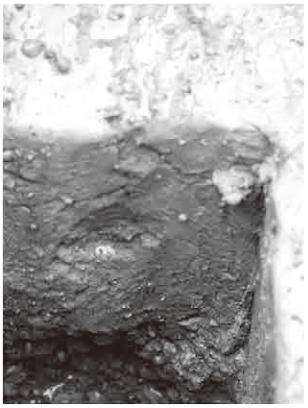
2. TP-41完掘　SW→



3. KP02断面　SE→

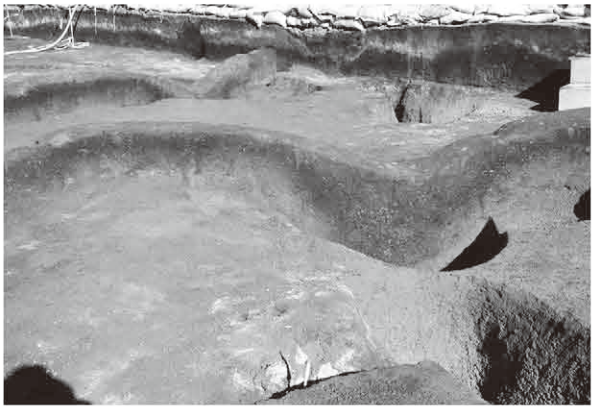


4. KP02完掘　SE→



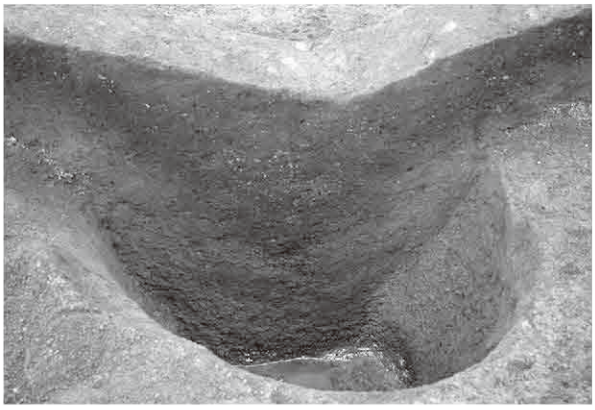
5. KP03断面　NE→

6. KP03完掘　NE→



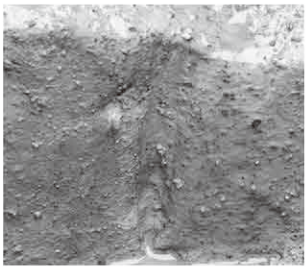
7. TP-42掘り上げ土断面　S→

9. TP-42・43(奥)完掘　N→



8. TP-42断面　SE→

10. KP01断面　S→

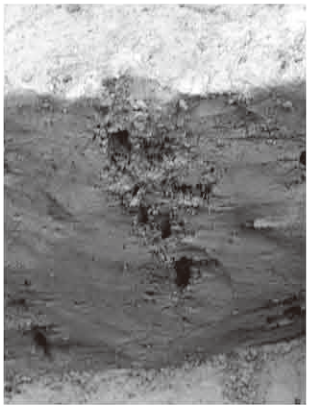


11. KP01完掘　S→

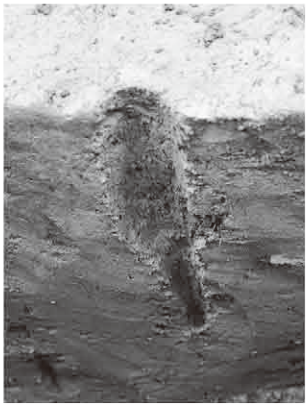
## 図版26

1. TP-44断面　S→

2. TP-44完掘　S→



3. KP01断面　SW→



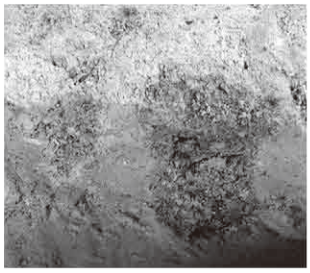
4. KP01完掘　SW→

5. KP02断面　NE→

6. KP02完掘　NE→

7. TP-46断面　W→

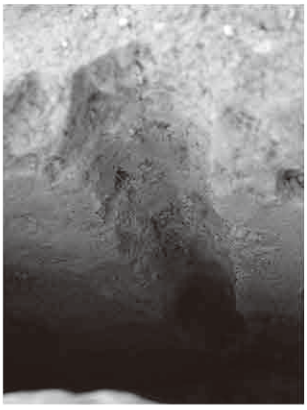
8. TP-46完掘　W→



9. KP02･03断面　N→

10. KP02･03完掘　N→

11. KP05断面　S→

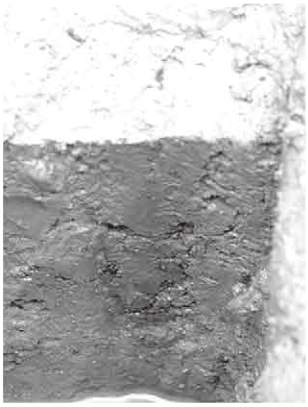


12. KP05完掘　S→

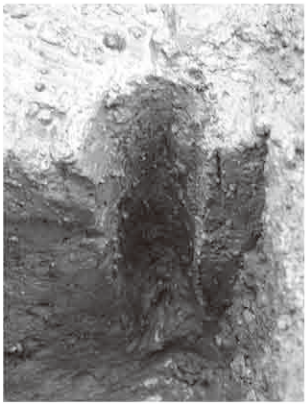
図版27

1. TP-47断面　S→

2. TP-47完掘　S→

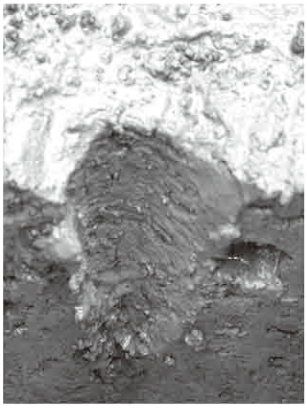


3. KP03断面　SE→

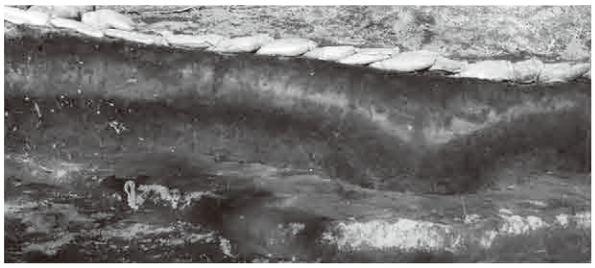


4. KP03完掘　SE→

5. KP04断面　SE→



6. KP04完掘　SE→



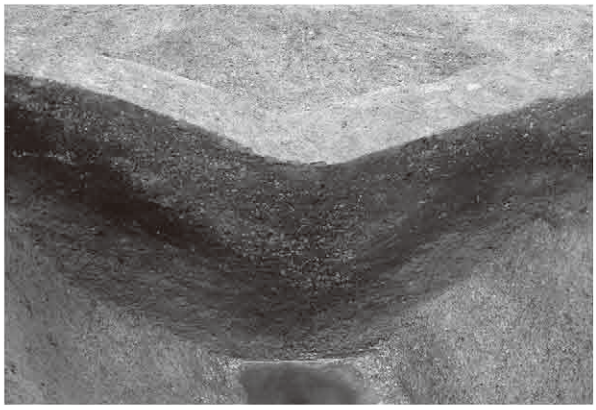
7. TP-49掘り上げ土断面　SW→

8. TP-49断面　SW→

9. TP-49完掘　SW→

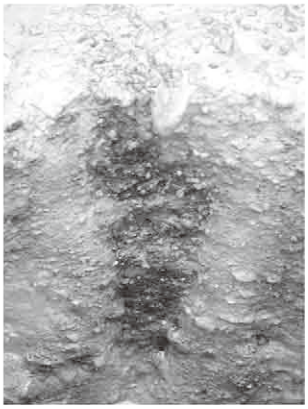
## 図版28

1. TP-50掘り上げ土断面　SE→



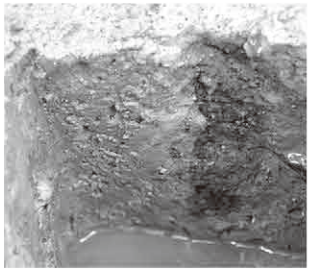
2. TP-50断面　SE→

3. TP-50完掘　W→



4. KP01断面　W→

5. KP01完掘　W→

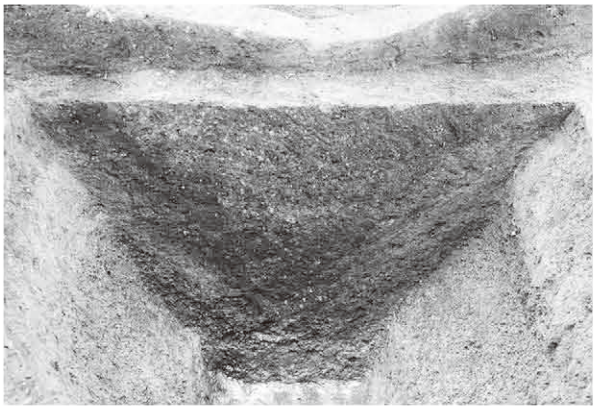


6. KP02･03断面　NE→

7. KP02･03完掘　NE→

8. KP05断面　W→

9. KP05完掘　W→



10. TP-51断面　SW→

11. TP-51完掘　SW→

図版29

1. KP02断面　NE→

2. KP02完掘　NE→

3. KP03断面　SW→

4. KP03完掘　SW→

5. TP-52検出　SW→

6. TP-52断面　SW→

7. TP-52完掘　SW→

8. KP05・06断面　SW→

9. KP05・06完掘　SW→

## 図版30

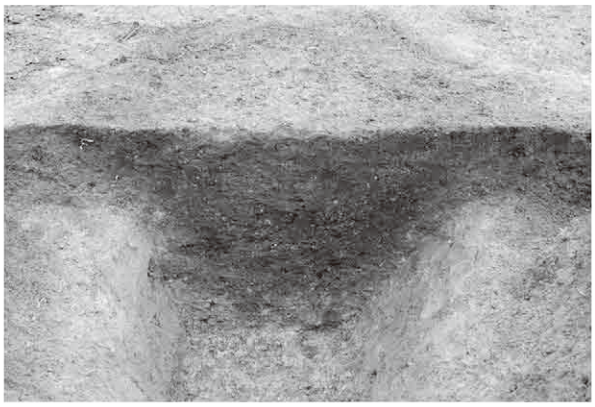
1．ⅤP-01断面　W→

2．ⅤP-01完掘　W→

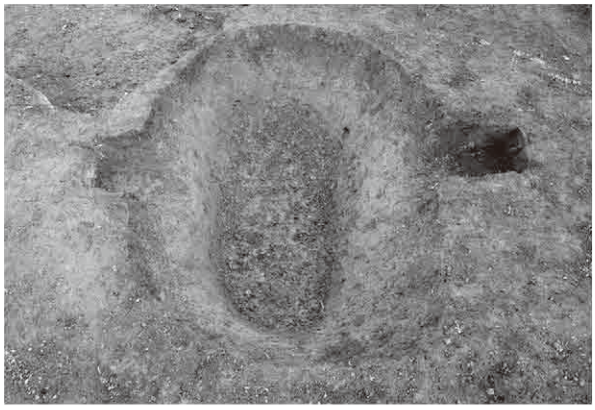
3．ⅤP-01杭跡断面　W→

4．ⅤP-04断面　NE→

5．ⅤP-04完掘　NE→



6．ⅤP-05断面　W→



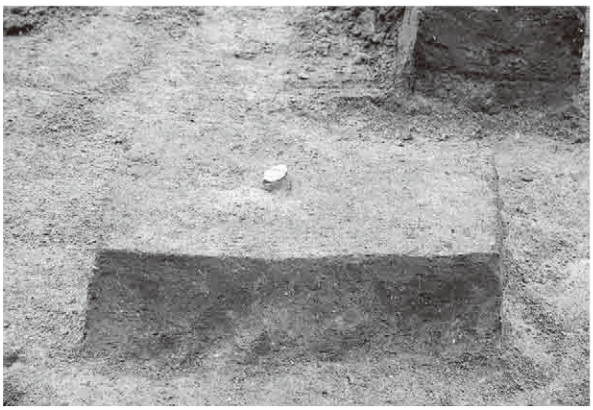
7．ⅤP-05完掘　W→

8．ⅤF-01検出　N→

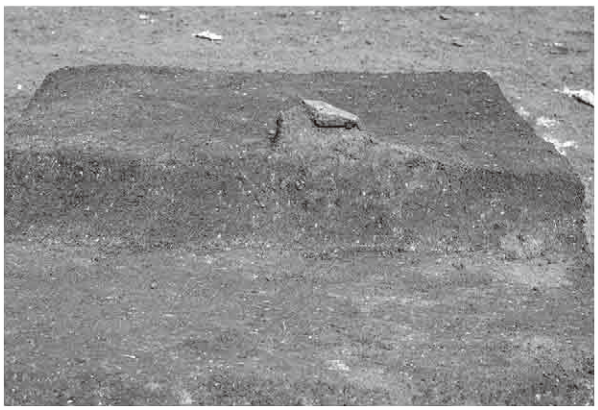
図版31

1．ⅤF-02検出　N→

2．ⅤF-02断面　S→



3．ⅤF-03検出　N→



4．ⅤF-03断面　S→

5．ⅤPB-01･02検出　N→

6．ⅤPB-01遺物出土状態(1)　N→

7．ⅤPB-01遺物出土状態(2)　E→

8．ⅤPB-02遺物出土状態　N→

## 図版32

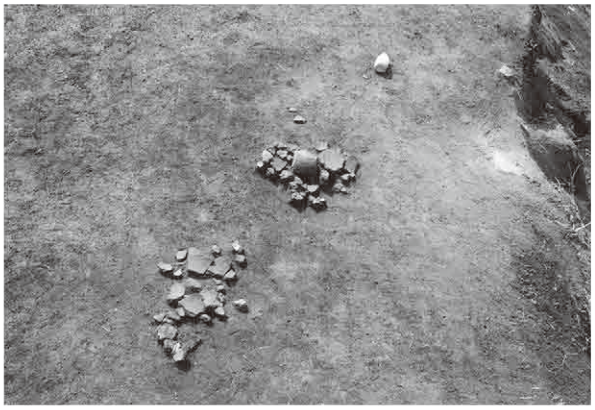
1．ⅤPB-03･04検出　S→

2．ⅤPB-03遺物出土状態　S→

3．ⅤPB-04遺物出土状態　E→

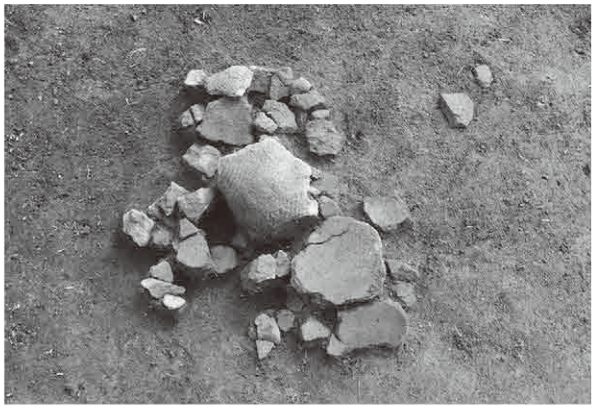
4．ⅤPB-05検出　S→

5．ⅤPB-05遺物出土状態　W→



6．ⅤPB-06･07検出　N→

7．ⅤPB-06遺物出土状態　NW→



8．ⅤPB-07遺物出土状態　NW→

図版33

1．ⅤPB-08検出　N→

2．ⅤPB-08遺物出土状態(1)　NW→

3．ⅤPB-08遺物出土状態(2)　W→

4．ⅤPB-09検出　N→

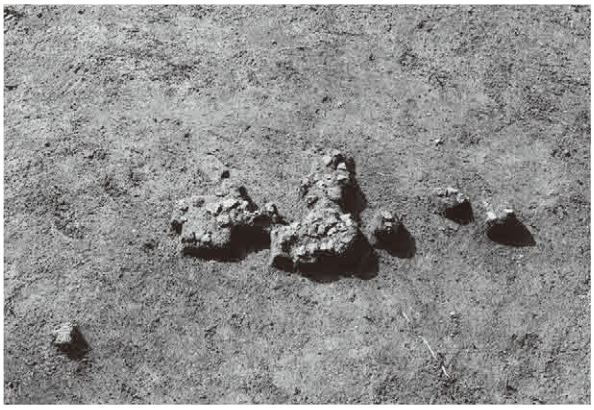
5．ⅤPB-09遺物出土状態(1)　W→

6．ⅤPB-09遺物出土状態(2)　N→

7．ⅤPB-10検出　E→

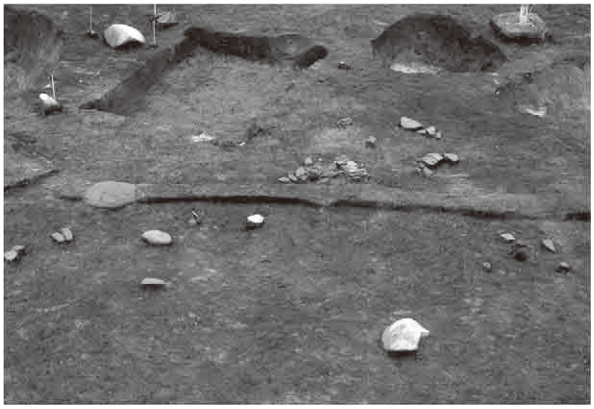
8．ⅤPB-10遺物出土状態　E→

## 図版34



1．ⅤPB-11検出　N→

2．ⅤPB-11遺物出土状態　W→



3．ⅤPB-12･13検出(1)　W→

4．ⅤPB-12･13検出(2)　E→

5．ⅤPB-12遺物出土状態　N→

6．ⅤPB-13遺物出土状態(1)　N→

7．ⅤPB-13遺物出土状態(2)　NE→

8．ⅤPB-13遺物出土状態(3)　SE→

図版35

1．ⅤPB-14検出　N→

2．ⅤPB-14遺物出土状態(1)　W→

3．ⅤPB-14遺物出土状態(2)　N→

4．ⅤPB-14遺物出土状態(3)　W→

5．ⅤPB-15検出　N→

6．ⅤPB-15遺物出土状態　W→

7．ⅤPB-16検出　NW→

8．ⅤPB-16遺物出土状態　NW→

## 図版36

1．ⅤPB-17検出　N→

2．ⅤPB-17遺物出土状態　E→

3．ⅤSB-01・04検出　E→

4．ⅤSB-01遺物出土状態　S→

5．ⅤSB-02検出　SE→

6．ⅤSB-02遺物出土状態　SE→

7．ⅤSB-03検出　N→

8．ⅤSB-03遺物出土状態　E→

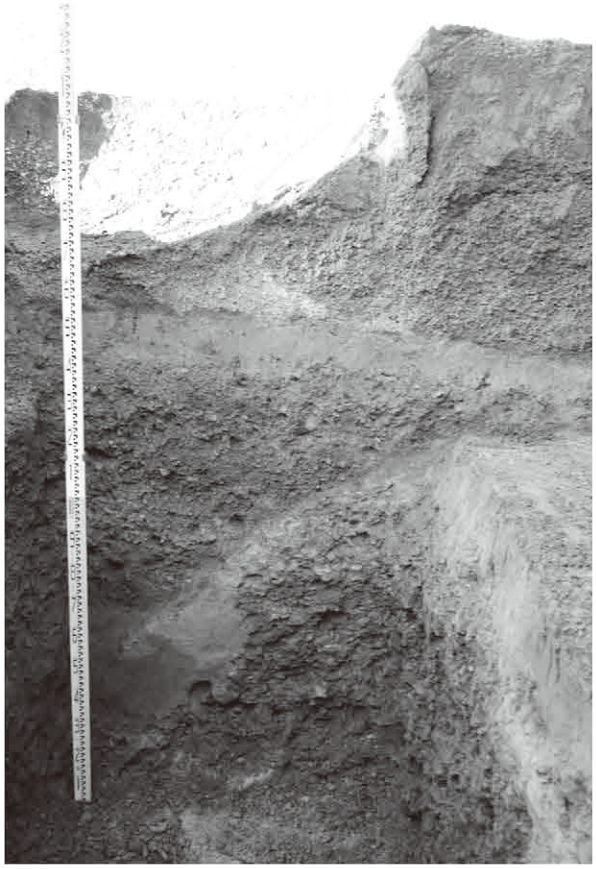
図版37

1．ⅤSB-04検出　S→

2．ⅤSB-04遺物出土状態　S→

3．ⅤFCB-01検出　N→

4．ⅤFCB-01遺物出土状態　N→



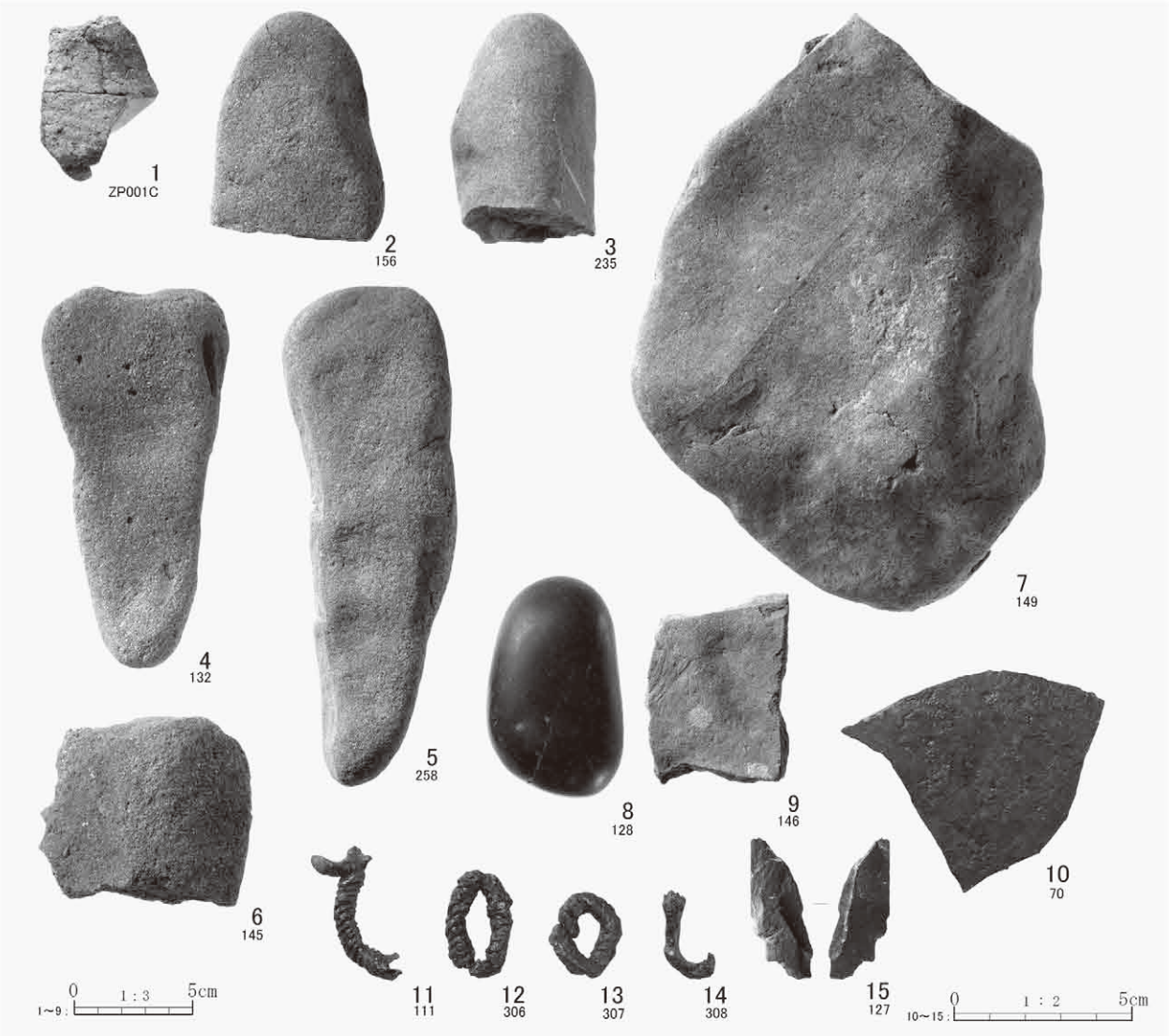
5．旧石器調査　トレンチ断面　S→

6．旧石器調査状況(1)

7．旧石器調査状況(2)　NW→

## 図版38

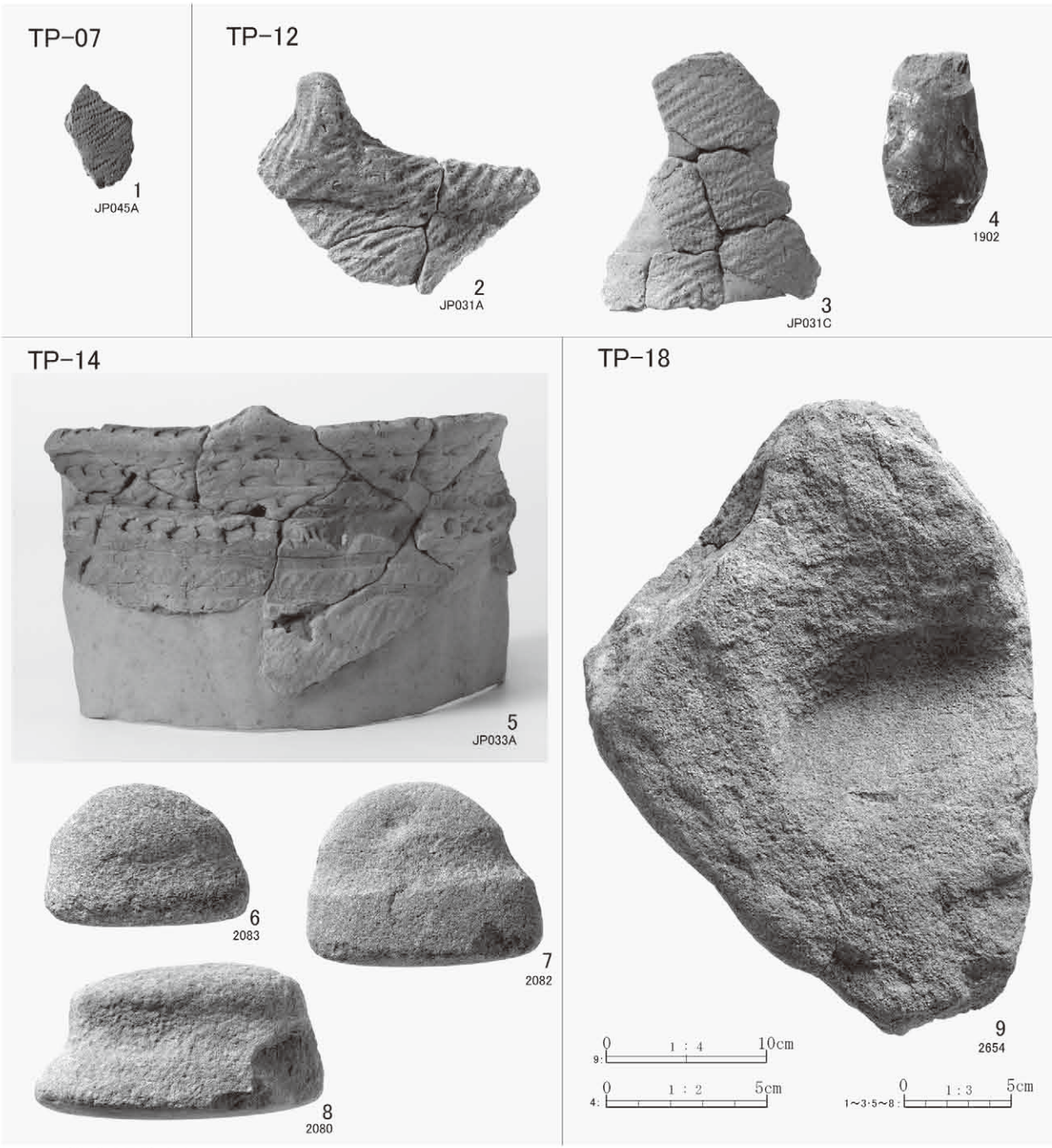
1. ⅢPB-01・02出土土器




2. Ⅲ層包含層出土遺物

# 図版39

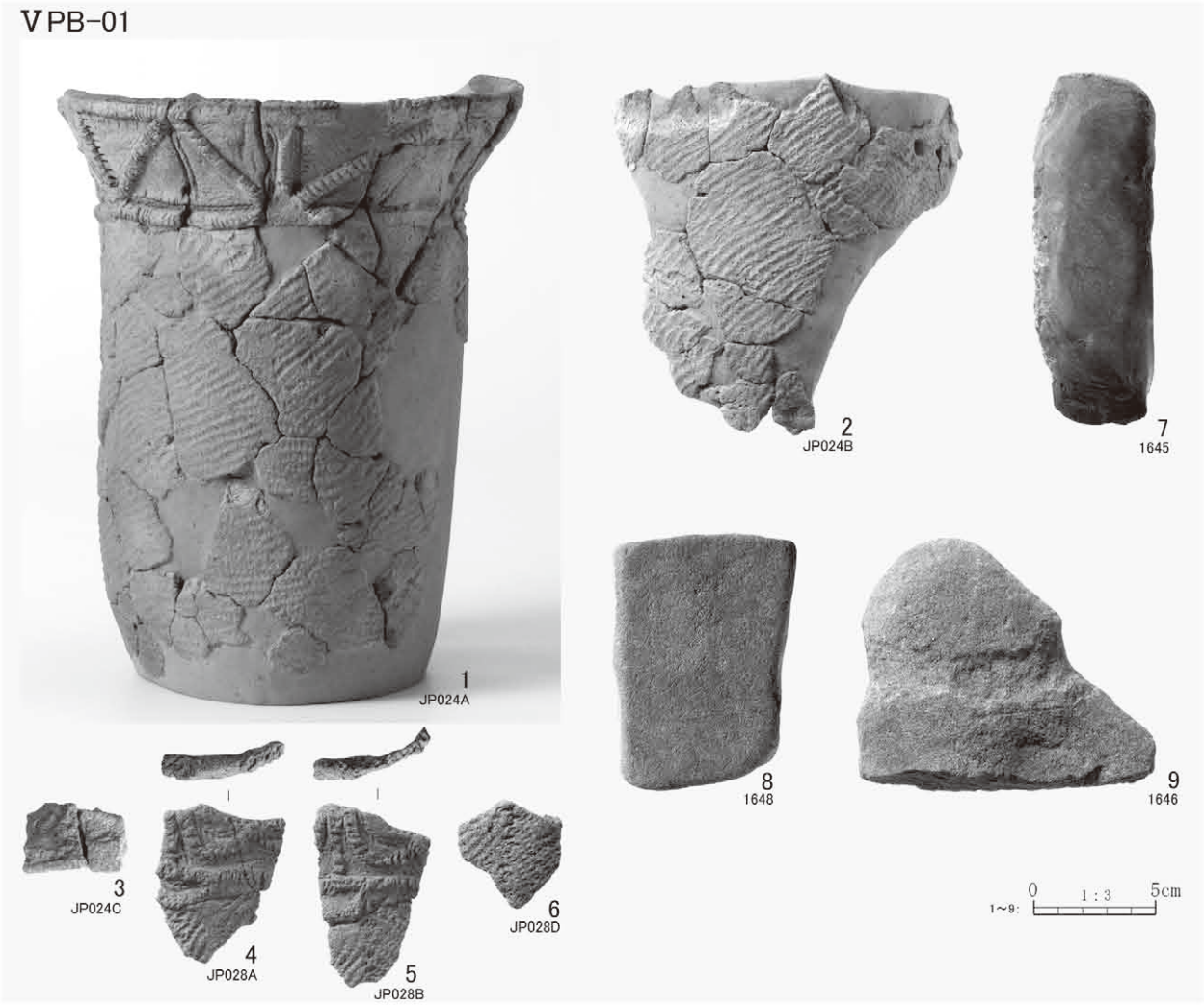
1．ⅢSB-01出土礫




2．TP出土遺物(1)

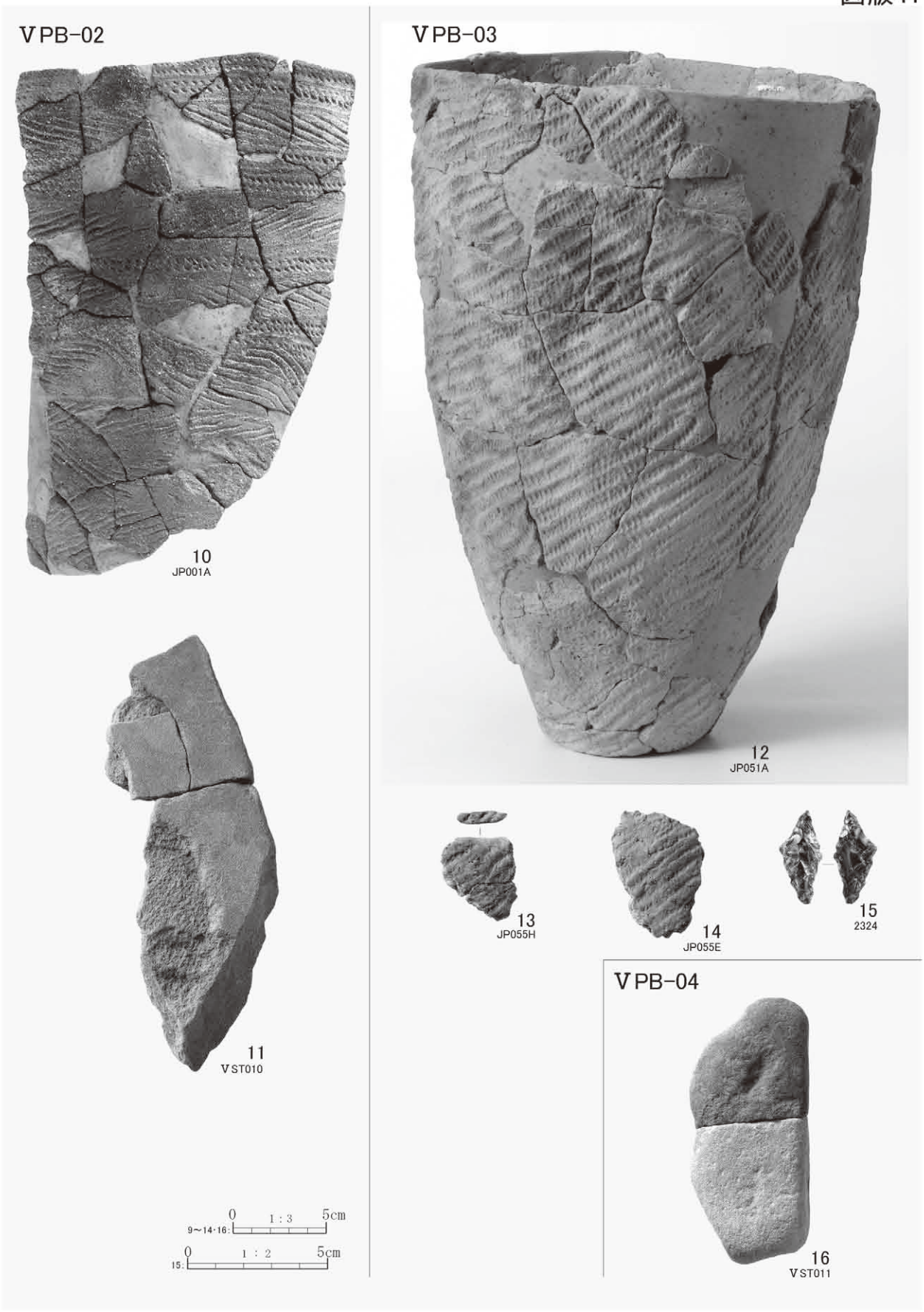
## 図版40

1. TP出土遺物(2)・VF出土遺物



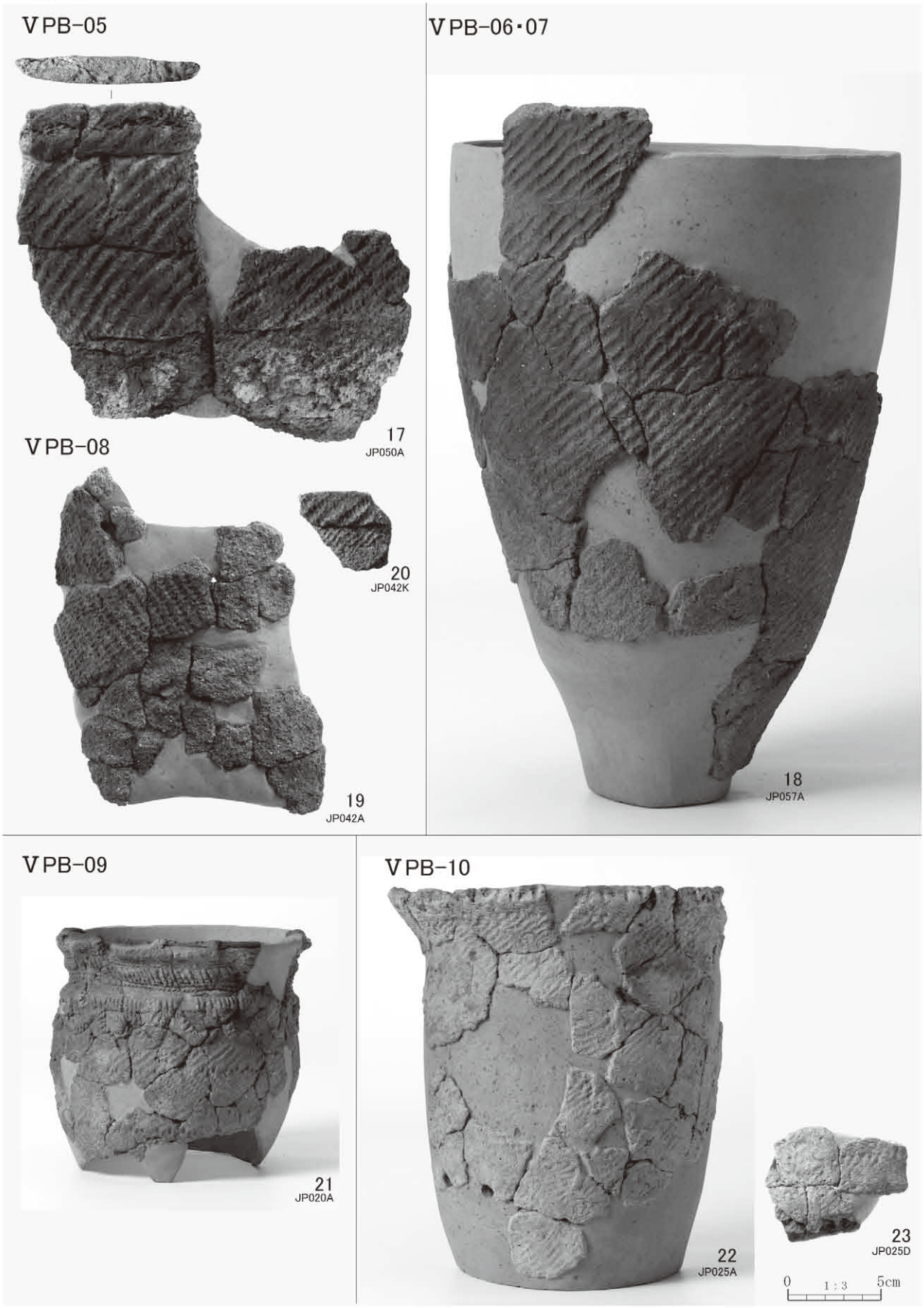

2. VPB出土遺物(1)

図版41



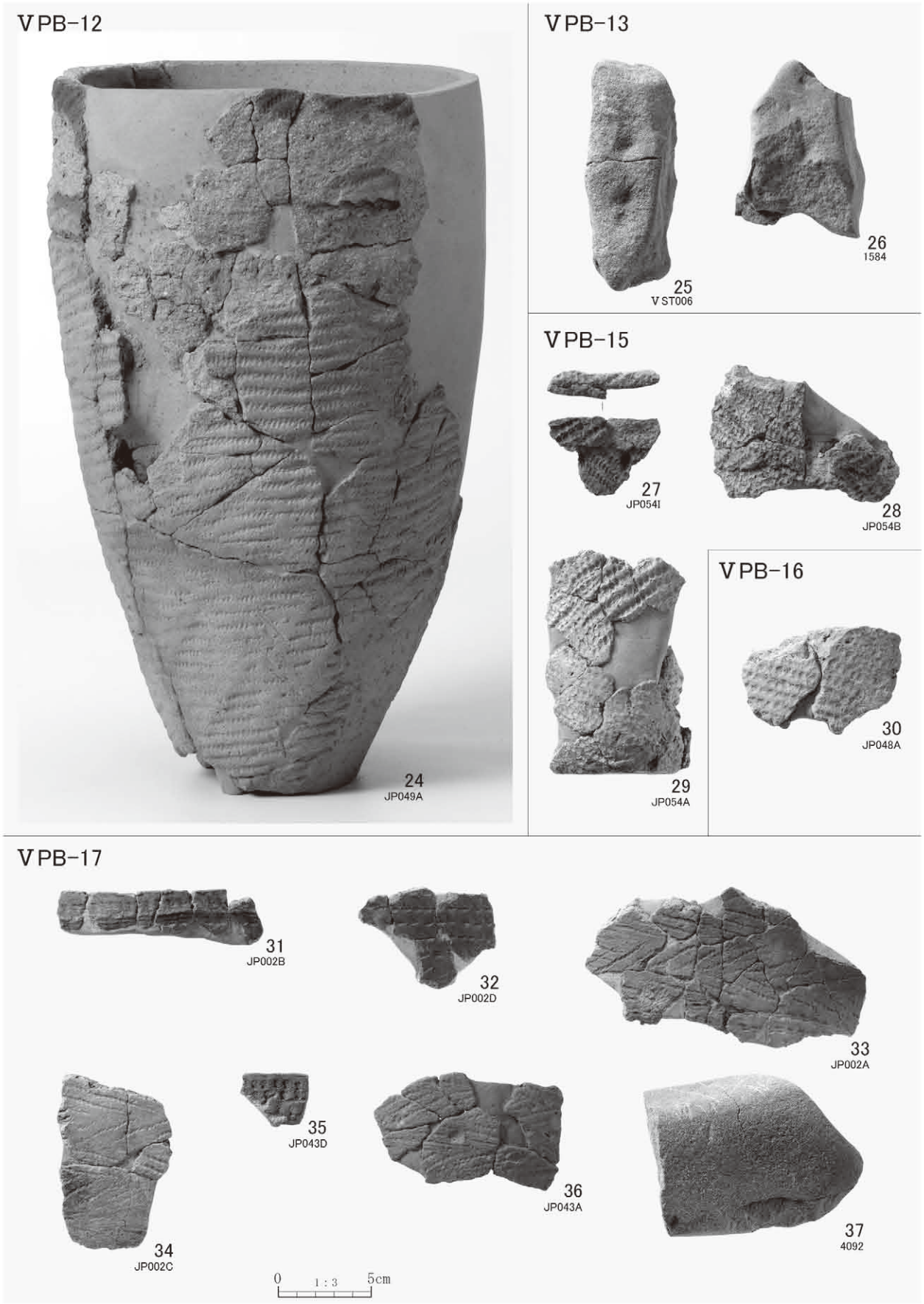

ⅤPB出土遺物(2)

## 図版42



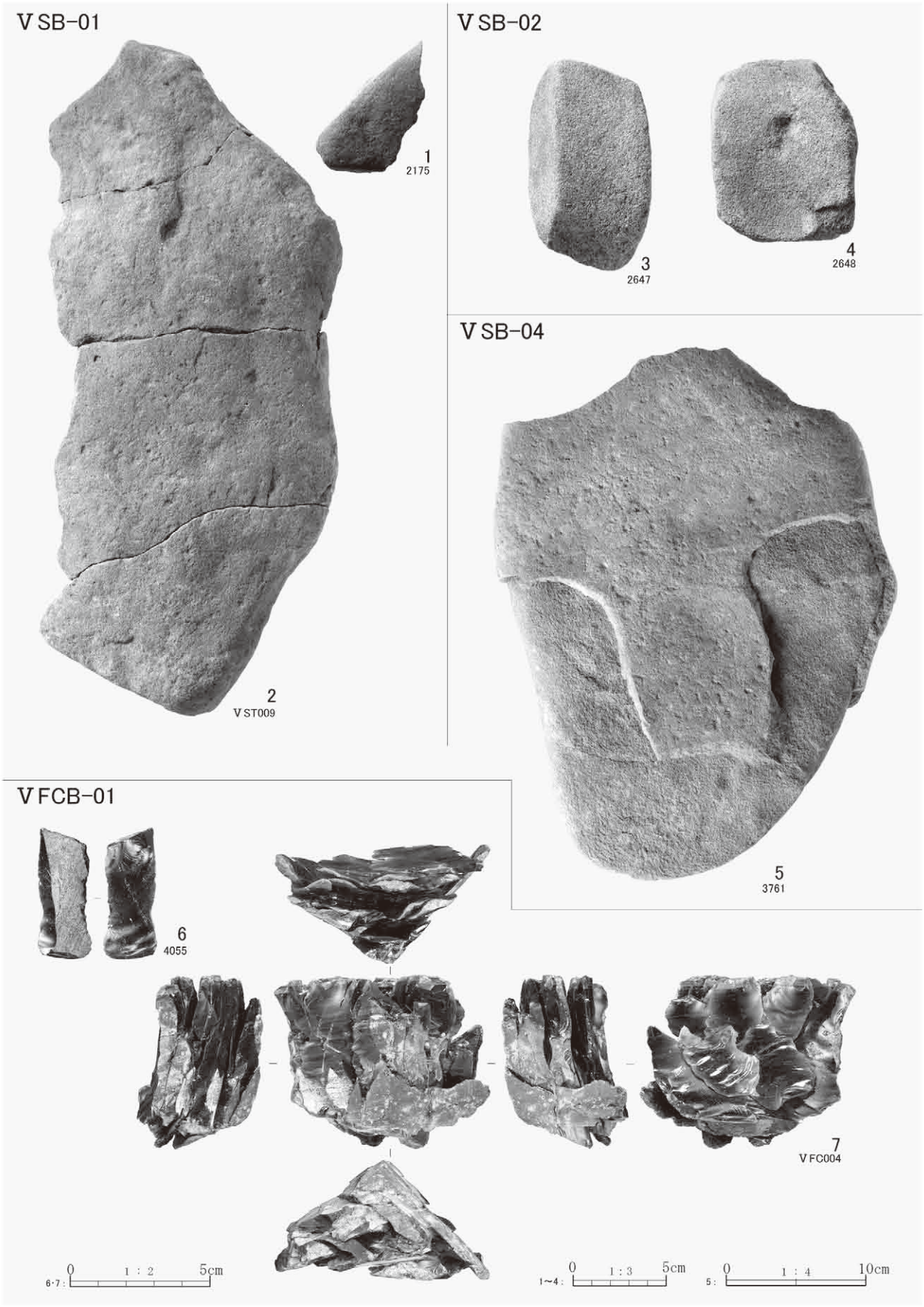

ⅤPB出土遺物(3)

図版43



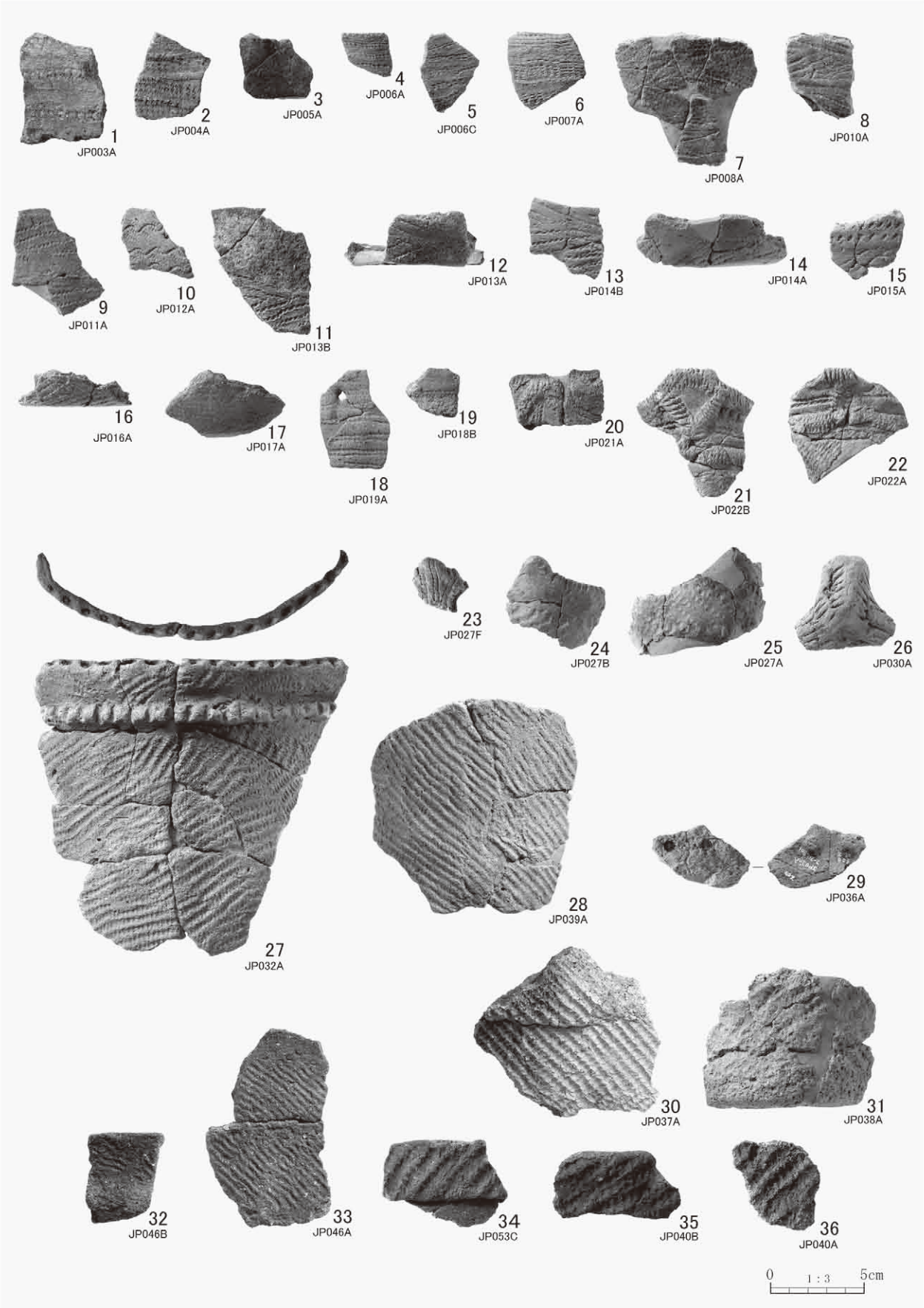

ⅤPB出土遺物(4)

## 図版44



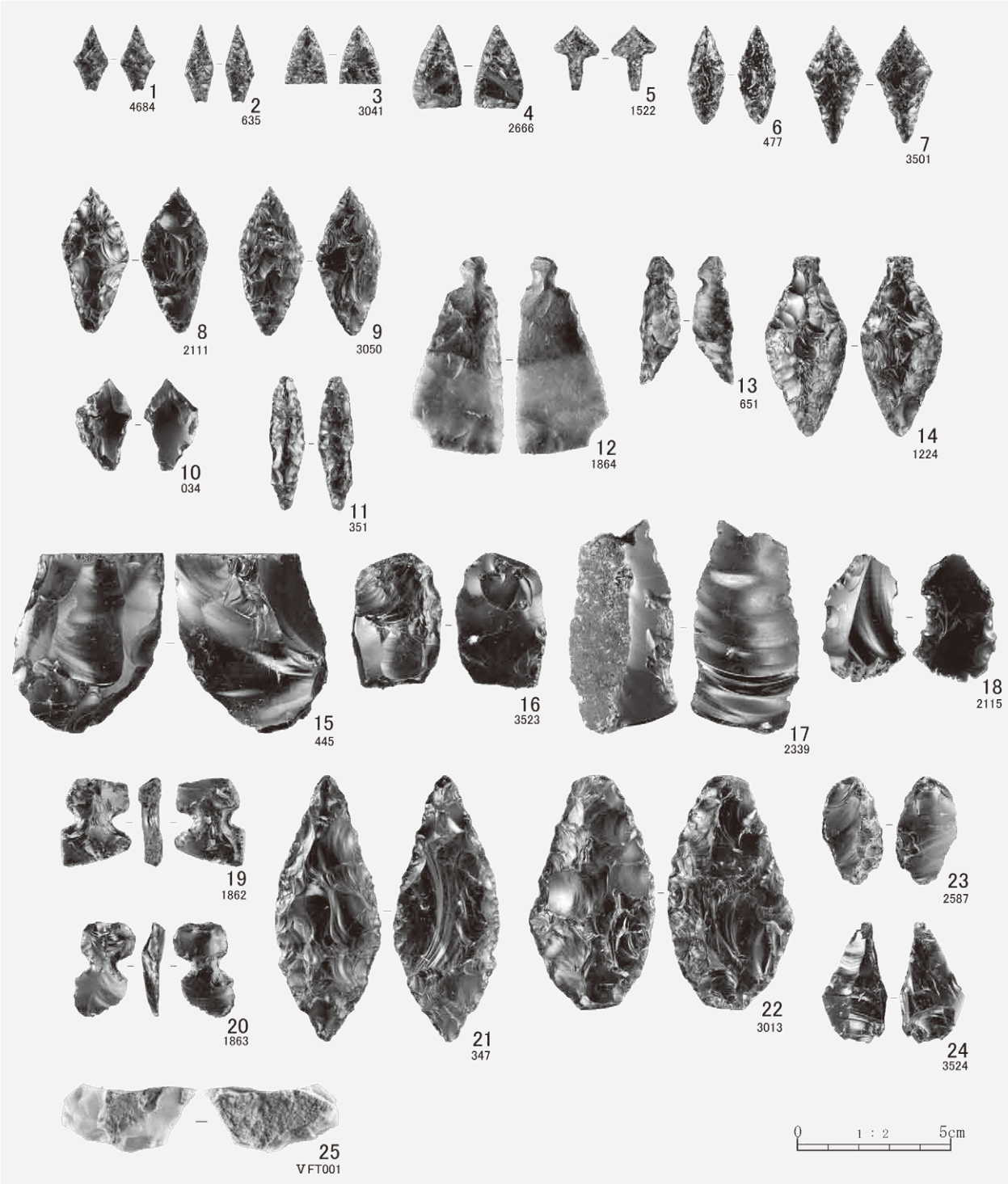

ⅤSB・ⅤFCB出土遺物

## 図版45



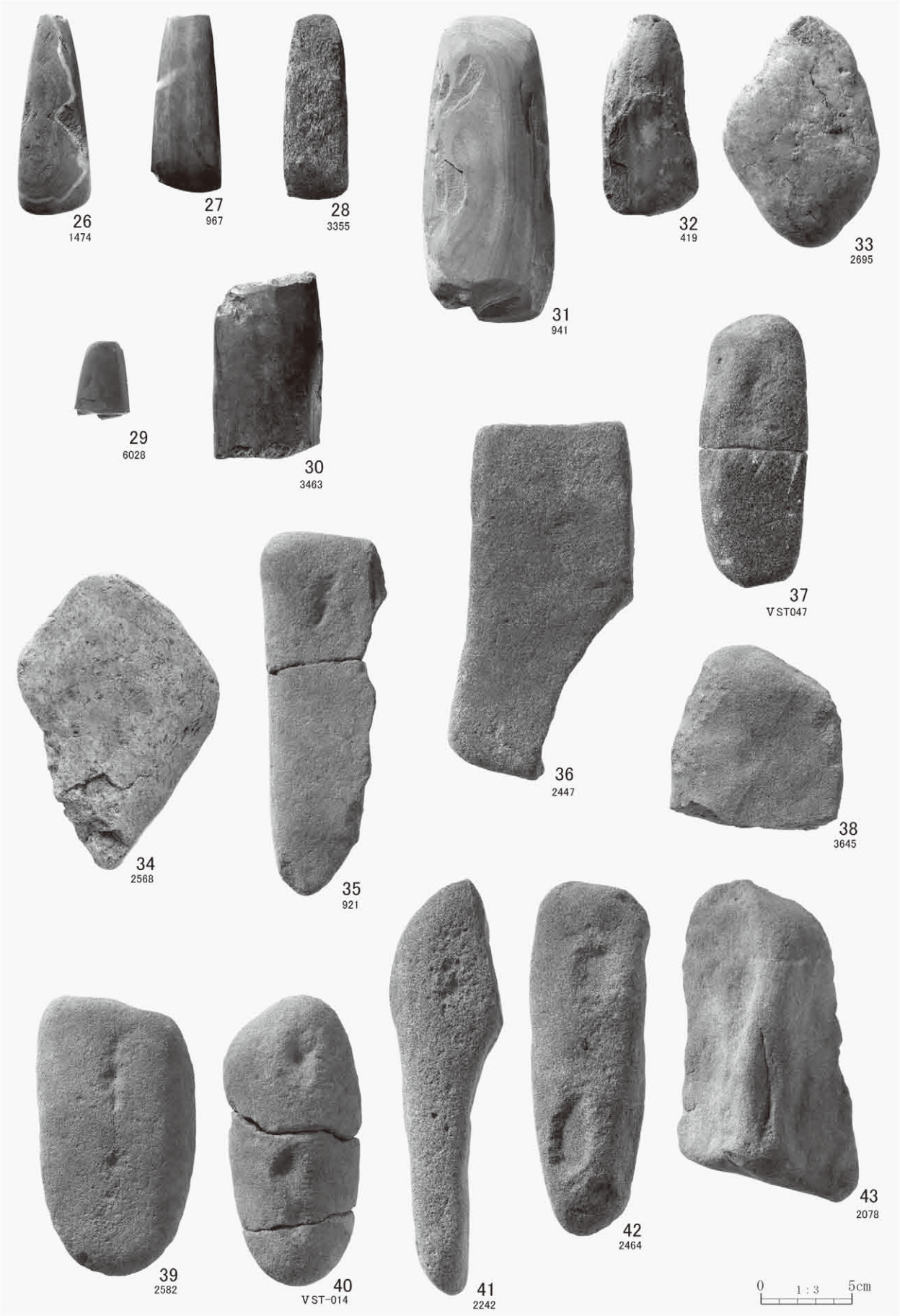

縄文時代包含層出土土器

## 図版46



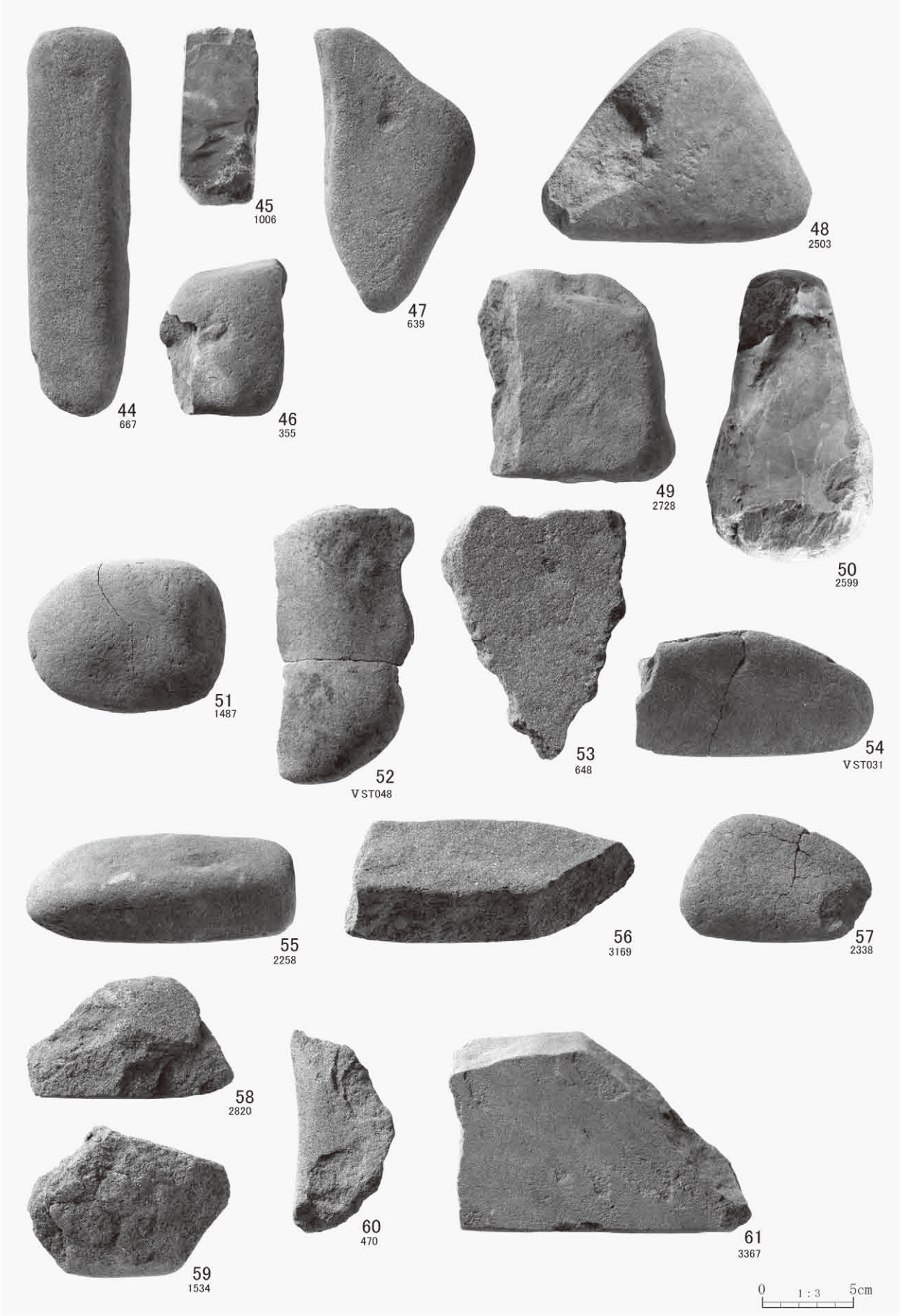

縄文時代包含層出土石器（1）

## 図版47



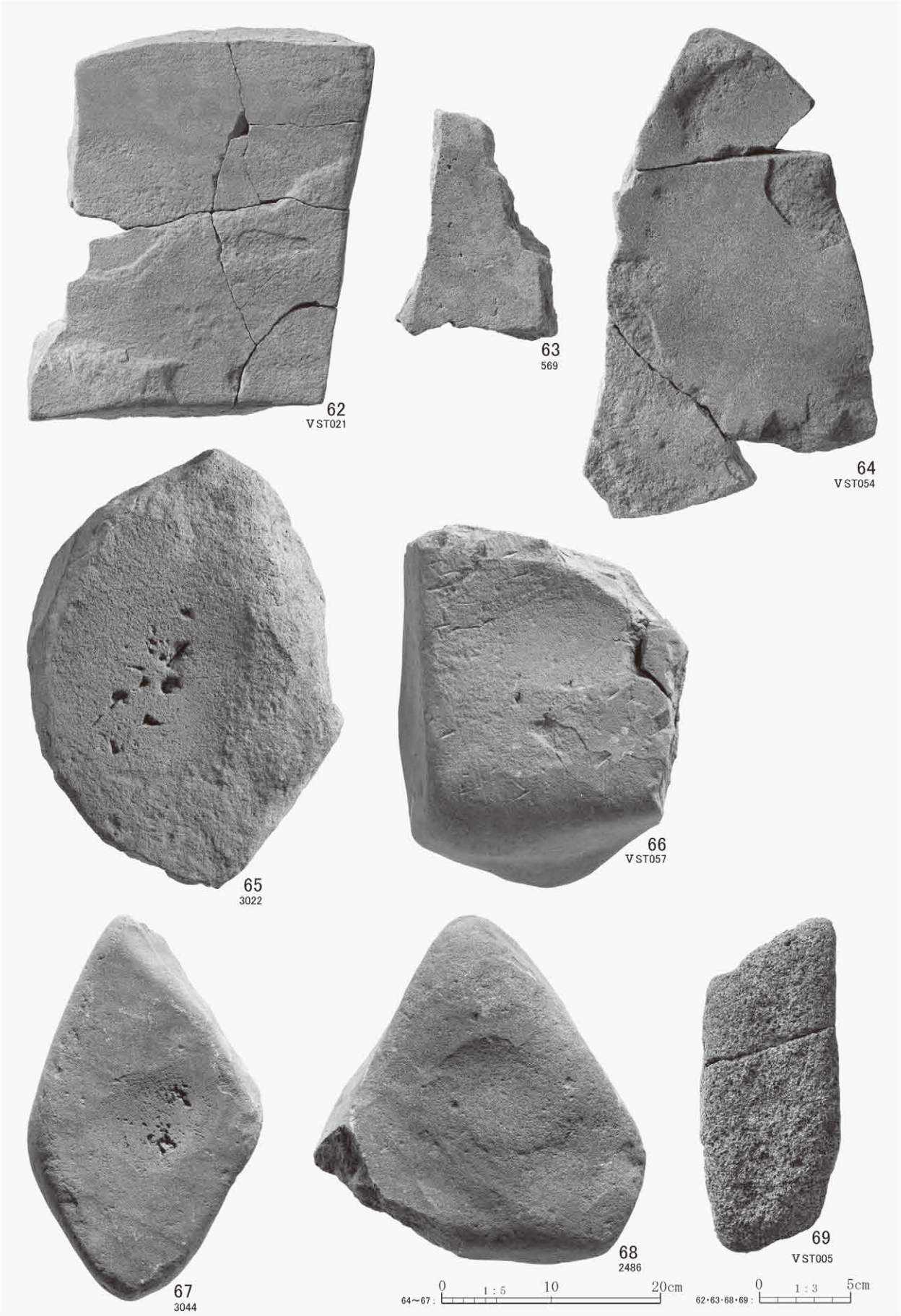

縄文時代包含層出土石器(2)

## 図版48



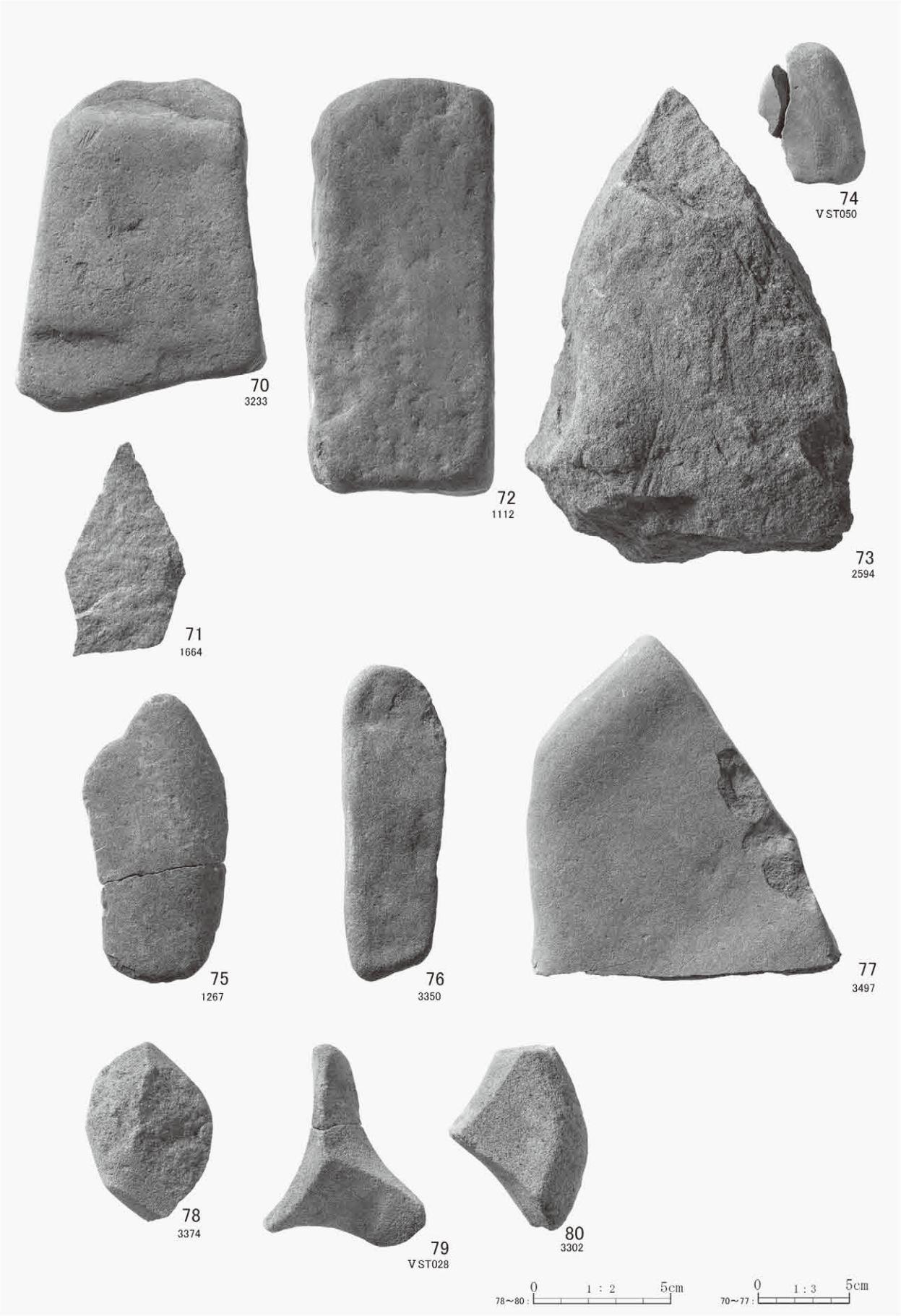

縄文時代包含層出土石器（3）

図版49




縄文時代包含層出土石器（4）

## 図版50




縄文時代包含層出土石器(5)

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | あつまちょう いちりざわ いせき |
| 書名 | 厚真町 一里沢遺跡 |
| 副書名 | 厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 |
| 巻次 | 16 |
| シリーズ名 | 厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 16 |
| 編著者名 | 宮塚義人・奈良智法・乾 哲也・松井 昭・服部一雄 |
| 編集機関 | 厚真町教育委員会 |
| 所在地 | 〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地の1 |
| 発行機関 | 厚真町教育委員会 |
| 発行年月日 | 2017年 3月 24日 |
| ふりがな | いちりざわいせき |
| 収録遺跡 | 一里沢遺跡 |
| 所在地 | 勇払郡厚真町字幌内388-4 |
| 市町村コード | 01581 |
| 遺跡番号 | 80 |
| 北緯 | 42° 46′ 7″ |
| 東経 | 142° 0′ 32″ |
| 調査期間 | 2014 年 5 月13日 ～ 2014 年 10月31 日 |
| 調査面積 | 1,412㎡ |
| 調査原因 | 厚幌ダム建設 |
| 種別 | 溝穴遺構 |
| 主な時代 | 中世アイヌ文化期、擦文文化期、縄文時代早期～後期。 |
| 主な遺構 | 中世アイヌ文化期、擦文文化期、続縄文文化期：焼土7ヵ所、遺物集中3ヶ所<br>縄文時代：土坑3基、焼土3ヵ所、Tピット47基、遺物集中21ヵ所 |
| 主な遺物 | Ⅲ層：刀子、鉄鍋、リング状鉄製品、擦文土器、石器、礫<br>Ⅴ層：土器（中茶路式、東釧路Ⅳ式、サイベ沢Ⅶ式、柏木川式、余市式、タプコプ式）、石器、礫、Tピット逆茂木ほか |

## 要約

調査範囲は厚真川左岸の河岸段丘面に立地し、擦文文化期後期からアイヌ文化期は焼土・遺物集中が検出された。遺物では鉄鍋片とリング状の鉄製品、擦文土器2個体が発見されている。

縄文時代の遺構は、土坑・焼土のほかTピット 47基等が発見された。Tピットは掘り上げ土を伴うものが多く、新旧関係を明らかにできる資料も確認された。また、溝状の平面形を持つTピットは僅かに2基であり、その他はすべて、楕円形の平面プランをもつものであった。

厚真町 一里沢遺跡

－厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書16－

発　行　日　　平成 29 年 3 月 24 日
編集・発行　　厚真町教育委員会
〒059-1601　北海道勇払郡厚真町京町 165 番地 1
電　話　　(0145)－ 27－ 2321(代)
印　刷　　ひまわり印刷株式会社
〒053-0815　苫小牧市永福町2丁目1番4号